

# 2024年度

## 教育学部 講義計画と内容

[目次]

基礎教育学専修 基礎教育学コース  
教育社会科学専修  
教育社会科学専修 比較教育社会学コース  
教育社会科学専修 教育実践・政策学コース  
心身発達科学専修  
心身発達科学専修 教育心理学コース  
心身発達科学専修 身体教育学コース  
教養学部 第2学年 A1、A2、A1A2 持出専門科目  
教職課程科目 (I) 本郷キャンパス  
教職課程科目 (II) 駒場キャンパス  
特設科目

※この資料は UTAS の簡易版です。

※UTAS と情報が食い違う場合は、UTAS を是としてください。

2024年度は UTAS のシラバス情報が随時更新される予定のため、注意してください。

時間割コード	09241101	担当教員	山名 淳		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 4
講義題目	教育哲学概説(教育思想論) Introduction to Philosophy of Education				

授業の目的・概要	<p>本授業では、教育哲学の基礎およびそれをもとにした議論の方法を学びます。教育哲学とは、教育について根本的に考察する学問です。ところで、教育を「根本的」に考察するとは、いったいどのようなことを言うのでしょうか。本授業では、教育について考えるためのおよそ 10 のテーマを設定し、そのテーマに関わる主要概念や問題構成を概説します。</p> <p>  本授業の目標は、(1) 教育哲学とは何かということの概略を示すことができる、(2)教育哲学の基礎知識を習得する、(3)そのような基礎知識をもとにして教育に関する基本的な議論を行うことができる、以上の 3 点にあります。</p>
授業計画	<p>1 本授業のキーワードと概要 2 教育としてのアーキテクチャ(1)――都市空間と人間形成の思想 3 教育としてのアーキテクチャ(2)――&lt;田園&gt;の創造と人間形成 4 アーキテクチャとたわむれる子どもたち(1)――&lt;タムロ&gt;問題から考える 5 アーキテクチャとたわむれる子どもたち(2)――電子空間の拡張と人間形成 6 アーキテクチャと学校教育(1)――学校空間の基本構造とその歴史 7 アーキテクチャと学校教育(2)――開放型学校空間のバリエーション 8 アーキテクチャと学校教育(3)――今日の学校における空間・身体・教育 9 アーキテクチャとしての教育(1)――授業における構造的なるもの 10 アーキテクチャとしての教育(2)――構造をくずす(「命の教育」) 11 アーキテクチャとしての教育(3)――構造と暴力(教育的関係論) 12 アーキテクチャとしての教育(4)――構造と暴力(いじめ) 13 アーキテクチャと人間形成――想起文化論における空間問題と教育 14 アーキテクチャ消失と人間形成――「野生の少年」を再考する 15 本授業のまとめ </p>
授業の方法	<p>教育に関する多様な事例をとりあげて、人間と文化との力動的な関係性とそこに介入する試みとしての教育の問題について考える。各授業時間における導入部分では、授業担当者がその回のテーマおよび問題視角を提示する(30分)。具体的な事例が紹介された後(30分)、再び授業担当者が解説を試みる(30分)。授業の内容について受講生はリアクションペーパーを作成する(15分)。次回の授業冒頭で受講生の感想が紹介され、そして次のテーマへの導入へと続く。</p>
成績評価方法	<p>平常点(毎時のリアクションペーパー、授業時の参加姿勢)と期末レポートの総合的評価(前者 5 割、後者 5 割)とする。</p>
教科書	<p>授業時にレジュメを配布します。</p>
参考書	<p>山名淳『都市とアーキテクチャの教育思想』勁草書房、2015年  その他、授業中に適宜提示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>教育哲学概説(教育思想論)</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照 ※A 参照</p>

時間割コード	09241102	担当教員	小玉 重夫		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 3
講義題目	教育人間学概説 Introduction to Educational Thought and Anthropology				

授業の目的・概要	近代教育を規定してきたマジョリティ／マイノリティの境界線を脱構築し、奪われた声を取り戻すための理論的視座を共に考えていきたいと思えます。エージェンシーに関する理論的な到達点であり、ポストヒューマン教育学の典拠ともなっているバラッドの『宇宙の途上で出会う』のエッセンスを読み解きつつ、2023年に上映され、マイノリティの表象と学校教育のとらえ方をめぐって議論になった坂元裕二『怪物』をもとに、現代におけるエージェンシーと時空の再構成の可能性を議論していきます。
授業計画	今のところ予定している授業計画(シラバス)は以下の通りであるが、一部変更する可能性もある。  第1回ガイダンス   第2回～第5回 坂元裕二『怪物』シナリオブック、KADOKAWA、の検討と視聴   第6回～第9回 バラッド『宇宙の途上で出会う』人文書院、第1章   第10回～第14回 バラッド『宇宙の途上で出会う』人文書院、第6章   第15回 まとめ 
授業の方法	講義とグループによる討論を主とし、論文作成支援を兼ねたレポート作成と授業中の学生によるプレゼンを、随時導入する。各人の感心に応じて、論文の準備にも資するようにしたい。
成績評価方法	レポート・発表と平壤点によって行う。授業中にプレゼン、発表が求められる。
教科書	関連する資料、教材をウェブサイトにアップして、受講者がダウンロードできるようにする。
参考書	関連する資料、教材をウェブサイトにアップして、受講者がダウンロードできるようにする。
履修上の注意・備考	教育人間学概説 本授業は原則、教室での対面で行う予定であるが、一定の条件で、希望者のオンラインでの受講も認める。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)哲学(公)哲学

時間割コード	09241103	担当教員	小国 喜弘、渡邊 真之		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 4
講義題目	日本教育史概説 Introduction to Japanese Educational History				

授業の目的・概要	<p>明治期における近代教育制度の発足と整備の過程で、学校は徐々に日本社会に定着していき、日本の教育と子どものあり様を大きく変容させていった。もっとも、学校の受容の仕方は地域差や性差を伴った複雑なもので、学校に代表される近代的な教育からは離れた領域も根強く存在していた。また戦後においては、教育は人権を軸としてつられ、学校が人々にとって大きな影響力をもつようになる。教育や子どものあり様は、その時々政策・社会によって規定されてもいた一方で、学校を経由しない教育への私的な関心も無視することができなくなっていく。 本講義では、従来の教育史が重視してきた学校や教育制度だけでなく、学校に非ざる領域と学校の領域を架橋する子どもの「生き方」への視点をふまえて、歴史的な観点から日本の教育と子どもを振り返る。</p>
授業計画	<p>第1回：イントロダクションー自身の被教育体験を振り返るー 第2回：江戸時代の「教育」と子どもー子どもはどのように「一人前」になったかー 第3回：近代教育制度のはじまりと整備ー「学校打ち壊し」騒動はなぜ起きたかー 第4回：天皇制教育体制の展開ー近代教育制度の確立過程における学校と子どもー 第5回：「国民教育」確立とその裏面史ー児童労働・児童福祉と方言詩教育ー 第6回：多様な教育運動の展開と挫折ー子どもへの関心の高まりと新しい学校づくりの模索ー 第7回：戦時下の学校教育と子ども社会ー「少国民」の戦争体験ー 第8回：戦後教育改革の理想と教育実践ー「民主主義」を実践する子どもー 第9回：教育の五十五年体制の形成と教育政策・教育運動ー身近な政治とかわる子どもー 第10回：経済成長下の学校と子ども社会ー「現代っ子」とはどのような子どもかー 第11回：就職・進学問題と高等教育の変化ー「二つの青年期」論を手がかりとしてー 第12回：1970年代における教育の問い直し運動の展開ー「障害」の問い直しの拡がりからー 第13回：社会問題化する学校と教育ー非行・校内暴力・いじめと生活指導ー 第14回：教育改革のなかの学校と子どもー教育と市場の関係性からー 第15回：授業のまとめ  </p>
授業の方法	基本的には講義形式ですが、史資料を読んだり、映像資料を視聴する機会も設けます。
成績評価方法	毎授業後のミニ・レポート：30% 期末レポート：70%
教科書	片桐芳雄・木村元編『教育から見る日本の社会と歴史 第2版』八千代出版、2017年
参考書	・小国喜弘『戦後教育史 貧困・校内暴力・いじめから、不登校・発達障害問題まで』中公新書、2023年 ・山本正身『日本教育史 教育の「今」を歴史から考える』慶應義塾大学出版会、2014年 ・小針誠『教育と子どもの社会史』梓出版社、2007年 ・天野正子・石谷二郎・木村涼子『モノと子どもの戦後史』吉川弘文館、2007年
履修上の注意・備考	日本教育史概説
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)日本史(地)日本史

時間割コード	09241104	担当教員	大塚 類		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 5
講義題目	教育臨床学概説 Introduction to Clinical Approach to Education				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>臨床現象学では、私たちが日常生活において体験するさまざまな出来事を「事例」として、現象学や哲学の観点から考察することを試みます。事例に基づく質的研究の一種だと言えるでしょう。 本講義では毎回、若者・家族・教育にまつわる個別具体的な事例を取り上げます。講義者が体験したり見聞きたりした出来事だけではなく、マンガ、エッセイなども事例として取り上げる予定です(参考資料参照)。人間の普遍的な経験構造を明らかにしようとする学問である現象学には、「個別は普遍に通じる」という言葉があります。個別具体的な事例を深く考察できれば、「私にも思い当たる節がある」、「そういうこともありうるかもしれない」という形で、普遍的な人間理解へと繋がられるはず。受講者のみなさんが、自分事として当事者性をもって臨めるような身近なトピックを、深く考察することを通して、みなさんの物事を見る観点や、自己／他者理解が深まることを目指します。 Clinical phenomenology attempts to examine various events that we experience in our daily lives as 'cases' from a phenomenological and philosophical perspective. It is a type of case-based qualitative research. Each lecture in this course will focus on a specific case study related to youth&amp;comma; family and education. Not only events experienced&amp;comma; seen or heard by the lecturer&amp;comma; but also comics&amp;comma; essays&amp;comma; etc. will be taken up as case studies (see references). Phenomenology&amp;comma; the study that seeks to clarify the structure of universal human experience&amp;comma; has a saying that 'the individual leads to the universal'. If we can deeply examine individual concrete cases&amp;comma; we can connect them to a universal understanding of human beings in the form of &amp;quot;I can think of something like that too&amp;quot; or &amp;quot;it might be possible that something like that could happen&amp;quot;. The aim is to deepen participants' perspectives on things and their understanding of themselves and others through in-depth discussion of familiar topics that they can relate to as their own personal experiences.</p>
<b>授業計画</b>	<p>1 オリエンテーション 2 私たちが囚われている「あたりまえ」の枠組み:フッサール「間主観性」とハイデガー「世間」 3 自分の可能性を選びほぐす:ハイデガー「可能性」 4 当事者性の問題について考える:当事者研究とピアアプローチ 5 当事者性の問題について考える:胎内被爆者と 2 種類の原爆の絵 6 現代家族と過保護:「毒親」と「心の穴」 7 虐待親が語る虐待:ナラティブ・アプローチ 8 他者は理解できるのか①:フッサール「感情移入」 9 他者は理解できるのか②:空気を読む・雰囲気に基づく他者理解 10 つながり孤独:現象学における「他者」 11 愛するとはどういうことか:模図かずおから学ぶ 12 場面緘黙と学校の規範が生み出すリズム 13 語ることの功罪①:社会的養護のケアリーバーとケアワーカーの語り 14 語ることの功罪②:語りを強要することと癒し  1 Orientation 2 The 'natural' framework in which we are trapped: Husserl 'intersubjectivity' and Heidegger 'the world' 3 Choosing and unwinding our possibilities: Heidegger 'possibilities' 4 Thinking about the issue of tojishasei: research by tojisha and peer approaches 5 Thinking on the issue of tojishasei: in utero hibakusha and two kinds of atomic bomb pictures 6 Modern families and overprotection: 'toxic parents' and 'holes in the heart' 7 Abuse by abusive parents: narrative approach 8 Can others be understood (i): Husserl 'empathy' 9 Can others be understood (2): understanding others based on air-reading and atmosphere 10 Connection and loneliness: the 'other' in phenomenology 11 What does it mean to love: learning from Kazuo Umezu 12 Rhythms created by place-holding and school norms 13 The merits and demerits of storytelling (1): Narratives of care leavers and care workers in social care 14 The merits of storytelling (2): forcing storytelling and healing </p>
<b>授業の方法</b>	<p>・受講者の人数にもよるが、講義形式で行なう。 ・毎授業の導入では、前回の授業における受講者からのリアクションペーパーへの回答を行う。 ・そのうえで、当該授業のテーマと具体的事例ならびに考察を提示する。 ・テーマによっては、授業中に受講者同士のディスカッションの時間を設ける。 ・授業中に出席確認を実施する。 ・授業後受講者はオンラインリアクションペーパーを提出する。  The number of students depends on the number of lectures.  The introduction</p>

	to each lesson is a response to the students' reaction papers from the previous lesson.  Themes&comma; specific examples and discussions are then presented.  Attendance checks are conducted in class. The course is designed to be a &quot;lecture-style&quot; course&comma; with the number of students depending on the number of students in the class.
<b>成績評価方法</b>	平常点(登録人数が 100 名を超えた場合毎授業後のリアクションペーパーで出席を管理する)と期末レポート Ordinary marks (attendance is controlled by a reaction paper after each class when the number of registered students exceeds 100) and a final report.
<b>教科書</b>	特に指定しない。 Not specified.
<b>参考書</b>	W.ブランケンブルク 1978『自明性の喪失』みすず書房 遠藤野ゆり・大塚類 2014『あたりまえを疑え！』新曜社 M.ハイデガー2003『存在と時間』中央公論新社 穂村弘 2009『世界音痴』小学館 E.フッサール 2001『デカルト的省察』岩波書店 村上春樹 2007『東京奇譚集』新潮社 村上靖彦 2017『母親の孤独を回復する』講談社 野口裕二 2002『物語としてのケア』医学書院 榎岡かずお 1995『おろち』秋田書店
<b>履修上の注意・備考</b>	教育臨床学概説
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09241301	担当教員	山名 淳
単位数	2.0	学期	S1S2
		時限	木 4
講義題目	教育と人間形成の哲学 Seminar in Philosophy of Education and Building		

授業の目的・概要	「記憶」をキーワードに設定した教育哲学の共同研究の成果が刊行された(山名 2022)。本書は「記憶の教育学」の基本的性質を示していると同時に、その具体的な諸考察を展開している。本授業では、このテキストの読解を中心にしてつ、教育哲学の立場から「記憶と教育」を論じることの意義と課題を探る。また、本授業では記憶メディアとしてのアートという観点も重視したい。  本授業を通じて、西洋の教育学において用いられる諸概念や問題構成を基盤として、教育や人間形成の問題を歴史的かつ体系的に論じることができる。より具体的に言えば、本授業を通じて、受講生は(1)「記憶と教育」について論じるための基礎概念および問題構成を習得することができる。(2)「記憶と教育」という主題との関連で、現代社会における教育について批判的に論じる基本的な構えを身につけることができる。(3)以上のことを前提として、各受講生の個人研究を批判的に再検討する一視点を獲得することができる。以上のことを踏まえて上記のポイントについてより専門的な研究レベルに深化させることができる。
授業計画	4月11日 1回目 ガイダンス(本授業の概要説明) 4月18日 2回目 「記憶と教育」(授業者によるレクチャー) 4月25日 3回目 ゲスト・スピーカーによるレクチャー 5月2日 4回目 (オンデマンド講義) 5月9日 5回目 報告① 5月16日 6回目 報告② 5月23日 7回目 報告③ 5月30日 8回目 報告④ 6月6日 9回目 報告⑤ 6月13日 10回目 報告⑥ 6月20日 11回目 報告⑦ 6月27日 12回目 報告⑧ 7月4日 13回目 報告⑨ 7月11日 14回目 総括
授業の方法	教科書として選定した論集の各章の担当を受講生で割り振る。各担当受講生が報告を行った後、グループディスカッションを行い、それを全体討議に繋ぎ、最後に授業者(もしくはゲストスピーカー)がコメントする。授業後、受講生はリアクションペーパーを作成して提出する。
成績評価方法	平常点(60パーセント)と期末レポート(40パーセント)の総合的評価を行う。
教科書	山名淳編『記憶と想起の教育学』勁草書房、2022年。
参考書	今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009年。 その他、授業時に指示する。
履修上の注意・備考	教育と人間形成の哲学 ・教科書の購入はまだなさらなくてください。最初の授業時に指示します。 ・授業者が5月半ばから約2カ月間の海外調査出張を行うため、原則として5月中旬まで対面授業、それ以降はオンライン授業とさせていただきます。論集の各執筆者を招待予定ですが、交渉中です。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09241302	担当教員	小国 喜弘、森 和宏		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 4
講義題目	近現代日本教育史演習 Seminar in History of Modern Japanese Education				

授業の目的・概要	日本教育史研究に必要な研究能力、基礎的教養を獲得することを目指している。 インクルーシブ教育が問われている現在において、改めて戦後の障害児教育の実践記録を読み直すところから、日本における包摂と排除の教育史について検討してみたい。さらにそれらの歴史的な思索を手掛かりとして、改めて、現代の教育において求められていることは何なのかを検討しなおしてみたい。
授業計画	第 1 回:オリエンテーション:ゼミの参加の仕方、教育史研究の意義 第 2 回:ゼミでの文献の調べ方について 第 3 回:改めてインクルーシブ教育とは何か—当事者の体験を踏まえて 第 4 回:文献購読1 第 5 回:文献購読2 第 6 回:文献購読3 第 7 回:文献購読4 第 8 回:文献購読5 第 9 回:文献購読6 第 10 回:文献購読7 第 11 回:文献購読8 第 12 回:文献購読9 第 13 回 まとめ
授業の方法	基本的に対面で開講します。
成績評価方法	基本的に発表の質によって評価する。 1文献を十分に読み込み論点を整理できているか 2周辺の文献、先行研究を踏まえているか 3自分自身の考えをよく言語化しているか* 単位の取り方:講義の毎回終わりに、コメントペーパーを書いていただきます。その提出をもって出席とみなし、3 分の 2 以上の参加と小レポートによって単位を認定します(第 11~13 回目に発表する小レポートで成績を付けます)。
教科書	共通文献については、前週までに原則として PDF ファイルにて共有する。
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	近現代日本教育史演習
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09241303	担当教員	片山 勝茂		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 2
講義題目	価値と教育Ⅴ Seminar in Values and Education Ⅴ				

授業の目的・概要	2023 年度の「価値と教育 IV」に引き続き、「アリストテレスと現代の人格教育」をテーマに、以下の英語文献と日本語文献(教科書)を講読することで、英語文献と日本語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、現代社会における人格教育に関する問題について、(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目標とする。
授業計画	奇数回が対面、偶数回がオンライン授業の予定です。初回は対面で実施します。2回目以降、変更が生じた際には、ICT-LMS でお知らせします。 1. オリエンテーション 2. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 2.3.1 How might a literature-based intervention designed to develop character and virtue be embedded and susstained in a school curriculum? 精読 3. クリスチャンソン「第5章 アリストテレスの人格教育は劣悪な生い立ちの影響を取り除くことができるか？」講読 4. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 2.3.2 How might the partnership between teachers and parents on matters of character education be developed? 精読 5. クリスチャンソン「第6章 方法に向けて:対話とアリストテレスの人格教育」講読 6. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 2.3.3 Can the impact of character education interventions feasibly be measure? 精読 7. クリスチャンソン「第7章 教育者を教育する—教師とアリストテレスの人格教育」講読 8. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 3.1 Rationale 精読 9. クリスチャンソン「第8章 結語」講読 10. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 3.2 Research Design and instruments 精読 11. カー「コールバーグ以後—徳倫理学が道德教育と道德的発達の理論へ与えるインプリケーション」講読 12. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 3.3 Data analysis 精読 13. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 3.4 Limitations 精読 14. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 3.5 Ethical considerations 精読 15. まとめ
授業の方法	文献講読を基本とする。英語文献については、訳読による精読と内容についてのディスカッションを行う。日本語文献については、報告者が概要と(疑問点や討論の論点を提示する)コメントを発表し、討論を行う。 対面とオンラインを隔週で組み合わせる予定。 授業で使用する教材やレジュメは ICT-LMS やメールを通じて電子的に配布します。
成績評価方法	試験は行わない。毎回の授業で提出するコメントシートと期末レポート、ゼミでの報告および討論を合わせて総合的に評価する。期末レポートは「アリストテレスと現代の人格教育」をテーマに 2&comma;000 字程度で論じたものとする予定である。
教科書	Jubilee Centre for Character and Virtues (2014) Knightly Virtues: Enhancing Virtue Literacy Through Stories Research Report (Birmingham: Jubilee Centre for Character and Virtues). クリスチャン・クリスチャンソン(2018)『子どもを開花させるモラル教育—21 世紀のアリストテレスの人格教育』中山理監訳(麗澤大学出版会)。 デイヴィッド・カー(2023)「コールバーグ以後—徳倫理学が道德教育と道德的発達 of 理論へ与えるインプリケーション」片山勝茂監訳、中西亮太・古舘充斗訳、『研究室紀要』東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室、第 49 号。
参考書	Jubilee Centre for Character and Virtues (2017) A Framework for Character Education in Schools (Birmingham: Jubilee Centre for Character and Virtues). アリストテレス(2002)『ニコマコス倫理学』朴一功訳(京都大学学術出版会)。 片山勝茂(2017)「イギリスの道德教育改革からみる日本の道德『教科化』」明治図書「教育 ZINE」 <a href="https://www.meijitosh.co.jp/eduzine/opinion/?id=20170108">https://www.meijitosh.co.jp/eduzine/opinion/?id=20170108</a>  酒井喜八郎(2019)「イギリス・ジュリービーセンターにおけるキャラクター教育の特質—わが国の社会科と道德科の関連に示唆するもの」『南九州大学人間発達研究』第 9 巻。 その他、授業中に紹介する。
履修上の注意・備考	価値と教育Ⅴ
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09241304	担当教員	小玉 重夫		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 3
講義題目	教育の公共性を考える Seminar in Publicness of Education				

授業の目的・概要	学校の民主主義を活性化させる条件は何か。本演習ではこの問題を考える切り口として、学校が「主体を集める場所」から、「エージェンシーが自発的に集まる場所」へと転換する条件を考えたいと思います。そのための素材として、2023年に放映された生方美久「いちばんすきな花」を通して、二者性の問題を多声性へと開いていく条件、他者の声を聞きつつ自らの声を取り戻していく可能性を考えます。さらに、エージェンシー問題のひとつの理論的到達点であり、かつポストヒューマン教育学の典拠としての意味をもつバラッド『宇宙の途上で出会う』のエッセンスを検討します。
授業計画	今のところ予定している授業計画(シラバス)は以下の通りであるが、一部変更する可能性もある。  第1回ガイダンス 第2回～第4回 『いちばんすきな花』(上)シナリオブック、扶桑社、の検討と視聴 第5回～第7回 『いちばんすきな花』(下)シナリオブック、扶桑社、の検討と視聴 第8回～第10回 バラッド『宇宙の途上で出会う』人文書院、第1章 第11回～第14回 バラッド『宇宙の途上で出会う』人文書院、第4章 第15回 まとめ
授業の方法	講義とグループによる討論を主とし、論文作成支援を兼ねたレポート作成と授業中の学生によるプレゼンを、随時導入する。各人の感心に応じて、論文の準備にも資するようにしたい。
成績評価方法	レポート・発表と平壤点によって行う。授業中にプレゼン、発表が求められる。
教科書	関連する資料、教材をウェブサイトにアップして、受講者がダウンロードできるようにする。
参考書	関連する資料、教材をウェブサイトにアップして、受講者がダウンロードできるようにする。
履修上の注意・備考	教育の公共性を考える  本授業は原則、教室での対面で行う予定であるが、一定の条件で、希望者のオンラインでの受講も認める。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09241305	担当教員	大塚 類		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 5
講義題目	教育臨床問題について考える Seminar in Clinical Phenomenology of Education				

授業の目的・概要	<p>臨床現象学では、私たちが日常生活において体験するさまざまな出来事を「事例」として、現象学や哲学の観点から考察することを試みます。事例に基づく質的研究の一種だと言えるでしょう。 本講義ではまず、講義者の自己紹介も兼ねて、臨床現象学的事例研究の論文を数本読み、その形式を学びます。そのうえで、若者・家族・教育にまつわる個別具体的なトピックを取り上げている『さらにあたりまえを疑え！』を教科書として、皆で対話を重ねます。 人間の普遍的な経験構造を明らかにしようとする学問である現象学には、「個別は普遍に通じる」という言葉があります。個別具体的な事例を深く考察できれば、「私にも思い当たる節がある」、「そういうこともありうるかもしれない」という形で、普遍的な人間理解へと繋げられるはずで。受講者のみなさんが、自分事として当事者性をもって臨めるような身近なトピックを、深く考察することを通して、みなさんの物事を見る観点や、自己／他者理解が深まることを目指します。 Clinical phenomenology attempts to examine various events that we experience in our daily lives as 'cases' from a phenomenological and philosophical perspective. It is a type of qualitative research based on cases. In this lecture&amp;comma; the lecturers will first read several papers on clinical phenomenological case studies and learn about their format&amp;comma; as well as introducing themselves. Then&amp;comma; using the textbook &amp;quot;さらにあたりまえを疑え！ Question the obvious even more!&amp;quot;&amp;comma; which covers individual and specific topics related to youth&amp;comma; family and education&amp;comma; the lecturers will engage in a dialogue. as a textbook&amp;comma; which covers specific topics related to youth&amp;comma; family and education&amp;comma; and we will engage in dialogue together. In phenomenology&amp;comma; the study of the universal structure of human experience&amp;comma; there is a saying that &amp;quot;the individual leads to the universal&amp;quot;. If we can deeply examine individual concrete cases&amp;comma; we will be able to connect them to a universal understanding of human beings in the form of &amp;quot;I have an idea of what that could be like&amp;quot; or &amp;quot;That could happen to me too&amp;quot;. The aim is to deepen participants' perspectives on things and their understanding of themselves and others through in-depth discussion of familiar topics that they can relate to as their own personal experiences.</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション 2 臨床現象学に関する論文講読① 3 臨床現象学に関する論文講読② 4 序章：みんなと普通に生きられること+第一章：家族の形 5 第二章：児童虐待 6 第三章：発達障害 7 第四章：生きられる時空間 8 第五章：いじめ 9 第六章：自閉症スペクトラム障害 10 第七章：カウンセリング 11 第八章：不登校 12 第九章：非行 13 第十章：キャリア教育 14 終章：みんなと普通に生き続けること  1 Orientation 2 Reading of papers on clinical phenomenology (1) 3 Reading of papers on clinical phenomenology (2) 4 Introduction: living normally with everyone + Chapter 1: Family forms 5 Chapter 2: Child abuse 6 Chapter 3: Developmental disabilities 7 Chapter 4: Time and Space for Living 8 Chapter 5: Bullying 9 Chapter 6: Autism Spectrum Disorders 10 Chapter 7: Counselling 11 Chapter 8: Truancy 12 Chapter 9: Delinquency 13 Chapter 10: Career education 14 Concluding chapter: continuing to live normally with everyone else </p>
授業の方法	<p>毎回グループワークのため対面実施 ・少人数のゼミ形式で行う。 ・受講者は事前に教科書の該当章を読み、質問(任意)とグループワークで話したいテーマ(必須)を、LMS にて提出 ・授業冒頭は、前回のリアクションペーパーへの回答、事前質問への回答を講義者より行う。(約 10 分) ・メンバーを変えて 2 回グループワークを行う(25 分と 30 分) ・残りの時間は全体討論。テーマへの考察を深める。(約 30 分) Face-to-face classes are envisaged  The course will be conducted in a small-group seminar format. At the beginning of the class&amp;comma; the lecturer will give answers to the previous reaction paper and to the preliminary questions. (At the beginning of the class&amp;comma; the lecturer will give answers to the previous reaction paper and preliminary questions (approx. 10 minutes) – Two group work sessions will be held with different members (25 and 30 minutes) – The remaining time is for general discussion. The remaining time</p>

	is used for general discussion to deepen reflection on the theme. (approx. 30 mins)
成績評価方法	平常点(毎回の出席状況と予習課題・オンラインリアクションペーパーの提出状況) Ordinary marks (attendance at each session and submission of preparatory assignments and online reaction papers)
教科書	遠藤野ゆり・大塚類 2020『さらにあたりまえを疑え!』新曜社
参考書	授業中に適宜指示します Instructions will be given in class as appropriate.
履修上の注意・備考	教育臨床問題について考える
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09241306	担当教員	隠岐 さや香		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 4
講義題目	科学・技術の思想史 Intellectual history of science and technology				

授業の目的・概要	<p>無知学／アグノトロジー（agnotology）とは「私たちは何を知らないのか」を問う営みであり、科学史や科学社会学の分野で探究されてきた。無知学の考え方を使うと、科学的な発見が積み重ねられる対象とそうでない対象とで偏りがあることや、何らかの意図で学習や研究が阻害された事例があることなど、様々なことがわかってくる。また、その一方で社会には「知らない方がいいこと」も存在するとされている。この授業ではまず、無知学を論じた論文や、関連する事例を分析した文献を講読することを通じて、無知学の考え方を理解することを目指す。次に、無知学の考え方は教育にどのような示唆を与えるかをディスカッションなどを通じて考察する。</p>
授業計画	<p>暫定的に以下を示す。受講生との相談の結果変えることもある。4回目以後は基本的に文献講読を想定している。 1 イントロダクション 無知学とは何か 2 無知学と科学史・科学論 3 教育史にとっての無知学 4 知識と無知(1) 5 知識と無知(2) 6 軽視もしくは見落とし(1)エスニック・マイノリティ 7 軽視もしくは見落とし(2)女性 8 軽視もしくは見落とし(3)性的少数者、障害者 9 戦略的な無知の創出(1)軍事技術 10 戦略的な無知の創出(2)健康 11 戦略的な無知の創出(3)環境 12 有徳な無知 13 総合討論 </p>
授業の方法	<p>講義の回と発表の回で構成される。発表の回においては、担当者が教科書および参考文献等の内容を踏まえて発表し、その後全体でディスカッションを行う。詳細は授業の初回に説明する。</p>
成績評価方法	<p>平常点(毎時授業の出席状況および議論への貢献度)および担当報告の総合評価とする(前者 50%、後者 50%)。発表を行わなかった者はレポート課題を課す。</p>
教科書	<p>開講時に課題文献を適宜配布する</p>
参考書	<p>『現代思想』特集＝無知学／アグノトロジーとは何か－科学・権力・社会－、2023年6月号 鶴田想人・岡本江里菜・大野康晴・中屋敷優・岡井ひかる「無知学―その展開と最新の事例」『科学史研究』61巻、2022年、281–287頁。 ロバート・N・プロクター『がんをつくる社会』平澤正夫訳、共同通信社、2000年 ロンダ・シービンガー『植物と帝国―抹殺された中絶薬とジェンダー』工作舎、2007年 ヤーデン・カツツ『AIと白人至上主義 人工知能をめぐるイデオロギー』庭田よう子訳、左右社、2023年 Robert N Proctor&amp;comma; Londa Schiebinger eds&amp;comma; Agnotology: The Making and Unmaking of Ignorance&amp;comma; Stanford University Press&amp;comma; 2008.   その他受講時に適宜紹介する </p>
履修上の注意・備考	<p>科学・技術の思想史 重要事項は適宜 ITC-LMS で告知する</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09241401	担当教員	片山 勝茂		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 2
講義題目	道徳と教育 Morality and Education				

授業の目的・概要	「道徳と教育」をテーマに、道徳教育に関する近年の動向及び理論・歴史・実践についての知識・理解や、人間の道徳性についての近年の研究への知識・理解を得るとともに、アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)の視点から多様な道徳教育の授業を実践し、批評する能力を身につけ、現代の道徳と教育に関わる問題について(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目的とする。
授業計画	1. オリエンテーション、道徳科の学習指導案の実例と作成のポイント 2. 道徳の原義と本質、道徳と道徳を教えることへの疑い 3. 日常生活における道徳、道徳教育の目的—道徳教育及び道徳科の目標としての道徳性 4. 道徳教育の基本とよくある指導法の問題点、「考え合うことができる」発問 5. 道徳授業の経験のふりかえり、オリジナルな道徳授業の作成—教材の開発と活用 6. 道徳の「特別の教科」化と「考え、議論する道徳」①学習指導要領改訂の経緯と道徳科の主な内容 7. 道徳の「特別の教科」化と「考え、議論する道徳」②指導計画の作成と道徳科の評価 8. いじめについて—いじめの定義の変遷とその背景、いじめの理解 9. いじめの未然防止、ケアの共同体としての学校 10. 道徳(性)はいかにして変化するのか、情報モラル 11. 戦前のモラルと道徳教育の歴史①戦前・戦後 20 年のモラル、修身科、教育ニ関スル勅語 12. 戦前のモラルと道徳教育の歴史①国定修身教科書、国民学校と太平洋戦争下の教育 13. モラルジレンマ授業と道徳的判断の理由づけの発達(模擬授業の実施) 14. 問題解決型の道徳授業、モラルスキルを育成する道徳授業(模擬授業の実施) 15. エンカウンターと価値の明確化による道徳教育(模擬授業の実施)、まとめと解説
授業の方法	講義による。ただし、(新型コロナウイルスの感染状況によるが)できる限りワークショップ形式を取り入れ、(アイスブレイクなどを活用した)参加体験型学習を体験してもらう予定である。また、模擬授業を実施し、相互批評を行うことも予定している。
成績評価方法	試験は行わない。毎回の授業で提出するワークシート、期末レポート及び授業中の発表を合わせて総合的に評価する。期末レポートは二つをまとめた形での提出を求める予定である。一つは授業で扱った事柄をテーマに2&comma;000 字程度で論じたものとする。もう一つは、道徳の学習指導案を提出してもらう予定である。
教科書	文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳編』教育出版(文部科学省のウェブサイトからダウンロード可能)。
参考書	荒木紀幸編(2017)『考える道徳を創る 中学校 新モラルジレンマ教材と授業展開』明治図書。 尾高正浩(2006)『「価値の明確化」の授業実践』明治図書。 柏木智子(2020)『子どもの貧困と「ケアする学校」づくり—カリキュラム・学習環境・地域との連携から考える』明石書店。 永田繁雄編(2017)『「道徳科」評価の考え方・進め方』教育開発研究所。 中戸義雄・岡部美香編著(2005)『道徳教育の可能性—その理論と実践』ナカニシヤ出版。 ジョナサン・ハイト(2014)『社会はなぜ左と右にわかれるのか—対立を超えるための道徳心理学』紀伊国屋書店。 林泰成編(2011)『中学校 道徳授業で仲間づくり・クラスづくり モラルスキルトレーニングプログラム』明治図書。 ポール・ブルーム(2015)『ジャスト・ベイビー—赤ちゃんが教えてくれる善悪の起源』NTT 出版。 桃崎剛寿(2008)『「中学生を変えた」奇跡の道徳授業づくり』日本標準。 桃崎剛寿(2016)『スペシャリスト直伝 中学校道徳授業成功の極意』明治図書。 諸富祥彦編(2014)『ほんもののエンカウンターで道徳授業 中学校編』明治図書。 柳沼良太編(2017)『子どもが考え、議論する問題解決型の道徳授業 事例集 中学校』明治図書。 ヨーロッパ評議会(2006)『人権教育のためのコンパス[羅針盤]—学校教育・生涯学習で使える総合マニュアル』明石書店。 ヨーロッパ評議会(2009)『コンパス[羅針盤]—子どもを対象とする人権教育総合マニュアル』人権教育啓発推進センター。 渡邊満他編(2016)『シリーズ「特別の教科 道徳」を考える 1「特別の教科 道徳」が担うグローバル化時代の道徳教育』北大路書房。 その他、講義において指示する。
履修上の注意・備考	道徳と教育



時間割コード	09241402	担当教員	星加 良司、能智 正博、野崎 大地、熊谷 晋一郎、近藤 武夫、額賀 美紗子、小国 喜弘、東郷 史治、飯野 由里子、大塚 類		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	ダイバーシティ・インクルージョン概論 Introduction to the Theories of Diversity and Inclusion				

授業の目的・概要	<p>障害者・女性・性的マイノリティ・外国にルーツを持つ人々等、多様な背景や特性を持つ人々の包摂(ダイバーシティ・インクルージョン)の必要性が社会的な関心事となっている。一方で、現実を目を向ければ、多様性の包摂は道半ばであるばかりでなく、ヘイトやバックラッシュ等、差異や多様性をめぐる分断や格差が先鋭化する状況すら顕在化している。こうした「理念」と「現実」とのギャップを的確に分析し、それを架橋するための方略を探究する知性が、多様性を包摂する社会に生きる私たちには求められている。本授業では、マジョリティ中心に形成された環境・制度・規範等がマイノリティを周縁化するメカニズムに着目しつつ、様々な専門性を有する教員の講義を通じて、多様性が生きる社会を実現するための視点や実践的知見を提供する。</p>
授業計画	<p>第1回(4/5) ガイダンス 第2回(4/19) インクルーシブ教育とは(小国) 第3回(4/26) インクルーシブ教育とICT(近藤) 第4回(5/10) 多様性社会実現のためのパラリンピックの意義(河合(野崎)) 第5回(5/24) 身体機能の障害に立ち向かう科学技術(野崎) 第6回(5/31) 思春期の多様な自己実現を可能にする心の健康とメンタルヘルスリテラシー(東郷) 第7回(6/7) ナラティブと障害(能智) 第8回(6/14) 解釈的正義と当事者研究(熊谷) 第9回(6/21) 移民の子どもから考える日本社会の多様性(額賀) 第10回(6/28) DIと障害学(星加) 第11回(7/5) DIとクイア・アクティヴィズム(飯野) 第12回(7/12) クイア理論と障害学を架橋する(飯野) 第13回(7/19) 「多様性理解」とは何か(星加)</p>
授業の方法	<p>この授業は、ガイダンスも含めてオンラインで行います。初回から、時間までに zoom にアクセスするようにしてください。 zoom には氏名を記入して入室してください。途中で接続できなくなったときなどは再度接続するようにしてください。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行います。リアクションペーパーについては、オンライン講義の最後の10分に、ITC-LMSを用いて入力して貰う予定です。あまりに短い文章(例えば30字以内)は、0点とすることがあります。およそ200字前後を目安として、自らの考えをしっかりとまとめる機会として用いてください。提出は、当日内に御願います。</p>
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	ダイバーシティ・インクルージョン概論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09241501	担当教員	片山 勝茂、山名 淳、小国 喜弘、小玉 重夫、大塚 類、隠岐 さや香		
単位数	2.0	学期	通年	時限	月 1
講義題目	基礎教育学研究指導 Tutorial in Basic Theories of Education				

授業の目的・概要	基礎教育学コースの卒業論文の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。山名が教育哲学、小国が日本教育史、隠岐が西洋教育史、小玉と片山が教育人間学・教育思想、大塚が教育臨床学・教育実践論を担当し、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
授業計画	この授業は集中形態の授業である。履修者は複数回にわたり、自分の卒業論文の研究主題についての報告を行う。その報告のために、履修者は事前に自分の研究テーマに関連する教員から資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等についての指導を受け、十分な準備をしなければならない。報告においては、自分の研究内容についての系統的なプレゼンテーションをしなければならない。その報告を受けて、担当教員全員ならびに当日の参加者との間で質疑応答を行う。 第1回 基礎教育学研究指導 オリエンテーション 第2回 卒業論文作成における留意点 第3回 卒業論文作成のためのガイドライン 第4回 卒業論文作成のための主題選択(個別指導)1 第5回 卒業論文作成のための主題選択(個別指導)2 第6回 卒業論文作成の方法(個別指導)1 第7回 論文作成の方法(個別指導)2 第8回 個別の報告・全体の指導1 第9回 個別の報告・全体の指導2 第10回 個別の報告・全体の指導3 第11回 個別の報告・全体の指導4 第12回 中間報告1 第13回 中間報告2 第14回 中間報告3 第15回 中間報告4 第16回 秋季報告1 第17回 秋季報告2 第18回 秋季報告3 第19回 秋季報告4 第20回 最終報告1 第21回 最終報告2 第22回 最終報告3 第23回 最終報告4 第24回 直前指導1 第25回 直前指導2 第26回 直前指導3 第27回 直前指導4 第28回 概要作成1 第29回 概要作成2 第30回 研究指導のまとめ
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2023)『信頼される論文を書くために 第4版』
参考書	必要な文献について、各自のテーマに即して指示する。
履修上の注意・備考	基礎教育学研究指導
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242301	担当教員	卯月 由佳		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 3
講義題目	教育の計量社会科学 Quantitative Social Sciences in Education				

授業の目的・概要	教育、社会、経済の関連について把握し、説明するための社会科学の理論を学び、その理論に基づいて量的データ分析を行うための、多変量解析の基礎的な考え方とモデルについて理解することが本授業の目標です。パソコンを用いたデータ分析実習も行います。なお、本授業は、社会調査士カリキュラムの E 科目(多変量解析の方法に関する科目)に対応しています。
授業計画	1.教育の社会科学(人間開発、不平等、世代間移動、政策) 2.社会・経済が教育に与える影響に関する理論とデータ分析 3.教育が社会・経済にもたらす効果に関する理論とデータ分析 4.線形回帰(単回帰):相関係数、共分散、最小二乗法とその前提条件 5.データ分析実習(1):単回帰 6.線形回帰(重回帰):統制変数、モデル適合度の評価、パス解析 7.データ分析実習(2):重回帰 8.非線形回帰(1):二乗項、対数項、交互作用項 9.非線形回帰(2):ロジスティック回帰 10.データ分析実習(3):ロジスティック回帰 11.教育政策立案・評価に必要なデータと分析 12.データ分析実習(4):データ分析結果の発表(重回帰、ロジスティック回帰) 13.教育の社会科学に関する多変量解析の総括テストと解説
授業の方法	講義形式及び演習形式で授業を行います。また、理解度を確認するための数回の小テスト、最後に総括テストを行います。なお、進行状況に応じて授業計画を変更する場合があります。
成績評価方法	総括テストの結果に基づいて成績を評価します。授業に積極的に参加した場合は、その参加状況を成績に加味する場合があります。
教科書	指定しません。
参考書	松井秀俊(2023)『多変量解析』学術図書出版社。 そのほか、各回の授業で参考文献を提示します。
履修上の注意・備考	教育の計量社会科学
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242302	担当教員	本田 由紀		
単位数	2.0	学期	S1	時限	火 4&comma; 金 4
講義題目	日本社会の変容と課題 Change and Problems of Japanese Society				

授業の目的・概要	日本社会の変容と課題について、様々な文献やデータを読み取ることを通じて、現在の日本社会の特徴と求められる対策について認識を深める。  一般的・抽象的なレベルでは、ある社会の構造とその変動を俯瞰的に捉える見方、国際比較により社会間の体制の相違を知り特定の社会状況を相対化する見方、図表を読み取りながらデータが意味している事柄を解釈する力、ある社会で支配的な言説や規範を批判的にとらえ返す力などをつけることを目標とする。
授業計画	授業計画 第1回:オリエンテーションと講義(「日本の教育の現状」) 第2回:講義(「日本における少子化の背景と課題について」) 第3回:教育格差 第4回:子どもの困難と支援 第5回:教育とジェンダー 第6回:大学の意味 第7回:労働市場 第8回:ひきこもりと家族 第9回:家事・ケア 第10回:政治・社会運動 第11回:貧困に関する社会意識 第12回:自己責任・市民社会・共生 第13回:ふりかえりと期末課題構想発表
授業の方法	文献を講読し、履修者間で議論することにより、現代日本社会の現実と問題点について知り、その中で個人がいかなる役割を果たしてゆけるかについての認識を形成する。 授業で得た知識をふまえ、中間課題・期末課題を課す。
成績評価方法	授業時に提出する講読票、中間課題、期末課題を5:2:3の比率で評価する。
教科書	文献等は本授業の初回で提示する。
参考書	本田由紀『「日本」ってどんな国?』ちくまプリマー新書、2021年 本田由紀『教育は何を評価してきたのか』岩波新書、2020年 本田由紀『社会を結びなおす』岩波ブックレット、2014年 本田由紀『教育の職業的意義』ちくま新書、2009年
履修上の注意・備考	日本社会の変容と課題 対面(オンラインも併用)
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242303	担当教員	本田 由紀		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	教育社会学理論演習 Seminar on Theories of the Sociology of Education				

授業の目的・概要	この授業では、(教育)社会学に関わる主な社会学理論についての基本文献を講読することを通じて、(教育)社会的な「ものの考え方」とは何か、それは時代や社会によってどのような拘束性を帯びているか、理論と現実を照らし合わせることによってどのように双方に対して示唆が得られるかを学ぶことを目的とする。
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:奥村隆『社会学の歴史Ⅱ』はじめに 第3回: " 第9章 第4回: " 第10章 第5回: " 第11章 第6回: " 第12章 第7回: " 第13章 第8回: " 第14章 第9回: " 第15章 第10回:佐藤俊樹『社会学の新地平』序章・第1章 第11回: " 第2章 第12回: " 第3章・終章 第13回:期末レポート構想発表
授業の方法	各回の指定文献について出席者はあらかじめ講読票を書いて提出する。その内容について全員で議論を行う。学期末には特定の理論や概念を取り上げて検討するレポートを執筆する。
成績評価方法	各回の講読票およびレジュメと期末レポートを 7:3 の比で評価する。
教科書	筒井淳也『社会を知るためには』ちくまプリマー新書、2020年 奥村隆『社会学の歴史Ⅱ』有斐閣、2023年 筒井淳也『社会学―「非サイエンス」的な知の居場所』岩波書店、2021年
参考書	佐藤俊樹『社会学の方法―その歴史と構造』ミネルヴァ書房、2011年 奥村隆『社会学の歴史Ⅰ』有斐閣アルマ、2014年 富永健一『思想としての社会学―産業主義から社会システム理論まで』新曜社、2008年 那須壽『クロニクル社会学―人と理論の魅力を語る』有斐閣アルマ、1997年 野口雅弘『マックス・ウェーバー 近代と格闘した思想家』中公新書、2020年 今野元『マックス・ヴェーバー 主体的人間の悲喜劇』岩波新書、2020年 中野敏男『ヴェーバー入門 理解社会学の射程』ちくま新書、2020年 ケン・プラマー著、赤川学監訳『21世紀を生きるための社会学の教科書』ちくま学芸文庫、2016=2021年 など
履修上の注意・備考	教育社会学理論演習 対面(教室で Zoom 使用)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09242304	担当教員	阿曾沼 明裕、両角 亜希子、福留 東土		
単位数	2.0	学期	S2	時限	木 3&comma; 木 4
講義題目	大学論 University Studies				

授業の目的・概要	<p>本授業では大学の教育に焦点を当てる。大学を含めた高等教育段階の教育研究は、伝統的な教育学において主要な研究対象ではなかったが、ここ 30 年ほどで大きく研究が進展した分野である。本授業の担当教員は、普段、大学院の「大学経営・政策コース」の教育を担当しているが、その知見を学部教育に反映させ、学部生向けに編成した授業を行う。  本授業の主要な目標は、受講生各自の大学生生活の経験に立脚しながら、各自が自分の視点から、大学での学習や大学生生活の意義を捉えることができるようになることである。各自の学習や学生生活を考える材料として、それらを支える教育とカリキュラム、学生支援、歴史的・比較的視点を取り上げる。  もうひとつ、この授業で重視するのは、大学院生・大学職員と学部生との対話である。相互にとって学びの機会になると思う。</p>
授業計画	<p>1. 大学教育を巡る論点 2. データから見る大学と大学教育 3. 大学教育のカリキュラム 3. 国際比較の視野から見た大学教育 4. 歴史的視野から見た大学教育 5. 学生生活と大学生の経験 6. 学部・専攻の決定過程 7. 学生の経済支援: 授業料と奨学金 8. コロナ禍の大学と大学教育 9. 大学院生・職員の目から見た学部教育  ★受講生の関心等を見つつ、修正する可能性もある。</p>
授業の方法	講義、学生間のグループディスカッション、大学院生、受講生の発表と意見交換を中心に行う。
成績評価方法	授業への参加と貢献、期末レポートによる。
教科書	授業時に配布する。
参考書	大学経営・政策コース編『大学経営・政策入門』東信堂、2018 年。 小方直幸編『大学マネジメント論』放送大学、2020 年。 橋本鉦市・阿曾沼明裕編『よくわかる高等教育論』ミネルヴァ書房、2021 年。 他、授業時に提示する。
履修上の注意・備考	大学論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242305	担当教員	勝野 正章、橋野 晶寛、村上 祐介		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 3
講義題目	<b>教育行政調査演習Ⅲ</b> Seminar in Field Research on Educational Administration Ⅲ				

<b>授業の目的・概要</b>	自治体や学校をフィールドとした調査および実証分析の方法の基礎を学び、教育政策の課題、教育行政や学校の改革動態について理解を深めることを目標とする。テーマや調査対象は参加者の討議により自主的に決定し、演習Ⅳ(A1・A2)での調査に向けて計画を立てる。教育行政調査演習Ⅳと併せて履修することが望ましい。
<b>授業計画</b>	質的・量的な調査および分析手法の基礎を学んだ上で、演習Ⅱでの調査に向けてテーマ設定・調査の企画を行う。授業の実施形態については原則としてオンラインで実施する。ただし、いずれかの回(1回)で対面授業を取り入れる。   第1回 オリエンテーション 第2回 政策リサーチの方法 第3~6回 量的研究法の基礎 第7~10回 質的研究法の基礎 第11回 実証研究の検討 第12回 研究倫理 第13回 授業のまとめ
<b>授業の方法</b>	文献講読・発表、討議を組み合わせで行う。
<b>成績評価方法</b>	平常点と期末レポートによる。
<b>教科書</b>	特に指定しない。文献は都度配布する。
<b>参考書</b>	・伊藤修一郎(2022)『政策リサーチ入門 増補版』東京大学出版会。 ・佐藤郁哉(2008)『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社。 ・佐藤郁哉(2015)『社会調査の考え方(上)(下)』東京大学出版会。 ・佐藤郁哉(2021)『ビジネス・リサーチ』東洋経済新報社。 ・畑農鋭矢・水落 正明(2022)『データ分析をマスターする12のレッスン 新版』有斐閣。 ・藤原文雄・露口健司・武井敦史編著(2010)『学校組織調査法』学事出版。
<b>履修上の注意・備考</b>	教育行政調査演習Ⅲ
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09242306	担当教員	勝野 正章、橋野 晶寛、村上 祐介		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 3
講義題目	<b>教育行政調査演習IV</b> Seminar in Field Research on Educational Administration IV				

<b>授業の目的・概要</b>	自治体や学校をフィールドとして実際の調査を通じて教育政策の課題、教育行政や学校の改革動態について理解を深めることを目標とする。調査結果を報告書にまとめる。
<b>授業計画</b>	テーマの設定、先行研究の検討、調査の計画・実施、データ分析、報告書の作成を小グループを単位として行う。原則として対面で授業を実施する。  第1回 オリエンテーション 第2～3回 班・テーマ設定 第4回 量的調査・研究例の検討 第5回 質的調査・研究例の検討 第6～9回 班での作業 第10回 中間発表 第11回 班での作業 第12回 班での作業 第13回 最終発表
<b>授業の方法</b>	グループで計画を立て、調査・分析を行う。時間割上に設定された時間以外に調査を行う場合も生じることに留意してほしい。
<b>成績評価方法</b>	出席状況と報告書による。
<b>教科書</b>	特に指定しない。
<b>参考書</b>	設定したテーマにあわせて授業で指示する。
<b>履修上の注意・備考</b>	教育行政調査演習IV
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242307	担当教員	勝野 正章		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 4
講義題目	<b>教育行政・学校経営演習Ⅲ</b> Seminar in Educational Administration and School Management Ⅲ				

<b>授業の目的・概要</b>	教育行政・学校経営の現代的課題に関する理解を深め、それに関わる政策や実践の学術的分析や評価が行えるよう、そのために必要となる理論や方法を学ぶ。
<b>授業計画</b>	本授業では教育行政・学校経営にかかわる現代的課題をとりあげる。たとえば、以下の事項をとりあげることを予定しているが、受講者の問題関心に基づいて変更もありうる。 児童・生徒の「データフィケーション(datafication)」、公教育の市場化・民営化・商品化、コミュニティ・スクール(学校と地域の連携)、放課後学習支援(「子どもの貧困対策」)、外国籍児童・生徒に対する支援、教員とスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携(「チーム学校」)、教員の働き方改革、ICT教育
<b>授業の方法</b>	文献・資料の輪読に加えて、可能な範囲で調査を実施したい。また、可能な範囲でできる限り、英語での発表と議論を取り入れる。
<b>成績評価方法</b>	授業中の発表並びにディスカッションへの参加に加え、最終レポートで評価する。
<b>教科書</b>	特になし。
<b>参考書</b>	授業中に必要なものを指示する。
<b>履修上の注意・備考</b>	教育行政・学校経営演習Ⅲ
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09242308	担当教員	藤江 康彦、浅井 幸子		
単位数	2.0	学期	S1	時限	火 1&comma; 火 2
講義題目	教育方法学演習 I Seminar of Research on Teaching and Curriculum I				

授業の目的・概要	<p>[授業の目標]この授業では、教育実践の研究課題や実践上の課題の概要を理解するとともに、教育方法学領域の研究方法の基礎のなかでも主に観察法を身につける。具体的には、以下の通りである。 1. 授業、カリキュラム、教師、教育内容(リテラシー)、教育評価に関する、研究上、実践上の今日的課題について概要を理解する。 2. 授業、カリキュラム、教師、教育内容(リテラシー)、教育評価に関して、研究課題を設定し、探究する。 3. 課題を探究する過程で、記録の採取の仕方、フィールドワークの仕方、文献収集の方法等を身につける。 4. 採取した記録のまとめ方やプレゼンテーションの仕方を身につける。 5. 教育方法学とはどのような学問か、自分なりの説明ができるようになる。  </p> <p>[授業の概要]教育方法学は、特定の親学問をもたず、教育事象に対する臨床性やアプローチの学際性を特徴とする。教育実践に関するあらゆる事柄が研究対象となっているが、主として研究が進められてきたのは、授業研究、カリキュラム研究、教師研究、教育内容研究、教育評価研究、である。この授業では、授業、カリキュラム、教師、教育内容(リテラシー)、評価などのトピックごとに、近年の課題状況を概観したうえで、授業観察を中心としたフィールドワークや、文献調査、インタビュー調査等を行う。教育実践への課題意識や興味関心を基盤としたグループに分かれて探究し、報告会を行う。</p>
授業計画	<p>第1回 教育実践の課題 授業・教師・カリキュラム・教育内容・教育評価 第2回 教育実践の研究(1) フィールドワークと質的研究法(観察法、面接法) 第3回 教育実践の研究(1)フィールドワーク 第4回 教育実践の研究(2)報告会① 第5回 教育実践の研究(2) 歴史研究・ナラティブ研究 第6回 教育実践の研究(3)文献調査 第7回 教育実践の研究(4)報告会②</p>
授業の方法	<p>第1回は、主として講義と文献購読による情報の共有を行う。 第2回～第7回は、主として教育研究の方法を学び、調査とその報告を行う。</p>
成績評価方法	<p>授業への参加状況とレポートの提出状況によって総合的に評価する。 用意された活動のすべてに参加した者を成績評価の対象とする。 </p>
教科書	<p>指定しない。</p>
参考書	<p>秋田喜代美・藤江康彦(編)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』東京図書 秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの質的研究法:15の事例にみる学校教育実践研究』東京図書 秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの教師研究:20の事例にみる教師研究方法論』東京図書 浅井幸子ほか(編)『教師の声を聴く:教職のジェンダー研究からフェミニズム教育学へ』学文社  秋田喜代美・藤江康彦(編)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』東京図書 秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学(共編)『教育研究のメソドロジー:学校参加型マインドへのいざない』東京大学出版会 佐藤学『教育方法学』岩波書店 秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会  このほか、授業中に紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>教育方法学演習 I</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242309	担当教員	李 正連		
単位数	2.0	学 期	A1	時 限	火 3&comma; 火 4
講義題目	社会教育学演習Ⅱ Seminar in Adult and Lifelong Education Ⅱ				

授業の目的・概要	本授業のテーマは、「教育福祉と社会教育・生涯学習」とする。近年拡大しつつある社会格差やさまざまな社会的排除の問題を受け、それらの問題を教育の側面からとらえ、生涯学習を基盤とした教育福祉による社会的包摂の可能性を考える。
授業計画	第1回 オリエンテーション&教育福祉について考える。 第2回 問題の所在(第1章～第4章) 第3回 実践の諸相(第5章～第8章) 第4回 実践から学ぶ①ゲストスピーカーによる特別講義 第5回 課題と展望(第9章～第12章) 第6回 実践から学ぶ②実践現場の見学 第7回 全体のまとめ(第13章)
授業の方法	指定文献の輪読(発表と討論)を基本とするが、演習内でゲストスピーカーにも適宜参加していただく。また、実践現場にも出向き、見学する予定である。 なお、履修者は発表以外にも、各回の指定文献についてあらかじめ講読票を書いて提出する。
成績評価方法	演習への参加度、課題(発表と講読票、ワーキングペーパー等)への取組状況を総合的に評価する。
教科書	岩槻知也編著『社会的困難を生きる若者と学習支援—リテラシーを育む基礎教育の保障に向けて』明石書店、2016年  その他、授業で随時提示する。
参考書	授業で随時紹介する。
履修上の注意・備考	社会教育学演習Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242310	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	1.0	学期	通年	時限	木 6
講義題目	博物館学特別研究 Special Studies in Museum Activities				

授業の目的・概要	博物館実習について、事前および事後の指導を行う。
授業計画	【3月23日追記:日程変更】  実習は、事前のガイダンス、博物館現場での実習および実習記録の作成と実習報告の執筆、発表によって行われる。  4月11日にガイダンスを行うので(オンラインで実施予定)、履修希望者は必ず参加すること。近年参加せず履修する学生が増えているため、正当な理由なく参加しなかった場合は評価を下げる。  ガイダンスは4月18日とお伝えしましたが、11日に行います。何度も変更をしまい申し訳ありません。
授業の方法	実習先については、「関連ホームページ」に掲載された館については紹介可能だが、それ以外は自身で探すものとする。実習期間だけではなく、学内で行う事前事後の指導も合わせて出席することが求められる。
成績評価方法	実習、事後指導への出席、実習後の報告、レポートをもとに総合的に評価する。
教科書	使用しないが、以下の「博物館実習ガイドライン」を参照。   <a href="https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/014/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/06/15/1270180_01_1.pdf">https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/014/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/06/15/1270180_01_1.pdf</a>
参考書	使用しない
履修上の注意・備考	博物館学特別研究 ・不明点等はメールにて問い合わせること。 ・感染症の状況により、実習先を見つけることや実習の遂行が以前よりも困難になっている。実習が確定したあと中止になる場合も出ているため、実習先探しは早めに行うこと。 ・実習の際は、感染症対策に十分留意し、実習先の指示に従うこと。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242311	担当教員	宮田 玲
単位数	2.0	学期	S1S2
講義題目	教育と言語処理 Education and Language Processing		
		時限	月 4

授業の目的・概要	<p>言語処理の基本的な技術を演習形式で学びながら、教育場面への応用やその課題について理解する。前半では、文字列処理・言語処理の要素技術について、個別に解説した上で、具体的な教育実践・教育研究を想定しながら、実際のテキストに対する分析を行う。後半では、教育場面における生成 AI サービスの利用に関する最近の動向を概観した上で、基盤となる大規模言語モデルの仕組みや挙動を解説する。 本授業では、言語処理技術でできること・できないことを把握した上で、その応用について検討できるようになることが目標である。また、言語処理の技術的側面を扱いつつ、知識の伝達を可能にする記号・言語・文書のあり方とはどのようなものか、という基本的な問いに随時立ち戻りながら授業を進める。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション 2 テキストの基本操作(文字エンコーディング、ファイル操作、正規表現) 3 テキストの整備(文書、コーパス、アノテーション、著作権) 4 文の解析(形態素解析、構文解析、意味解析) 5 概念の分析(固有表現抽出、専門用語抽出) 6 「難しさ」の測定(リーダビリティ指標、文書分類) 7 教育と生成 AI(概要、事例、課題) 8 ニューラルネットワークの基礎(学習の仕組み、テキストのベクトル表現) 9 ニューラルネットワークの応用(Transformer、BERT、大規模言語モデル、生成 AI) 10 特別支援教育とアシスティブテクノロジー 11 言語教育と機械翻訳 12 教育研究と言語処理 13 総合演習  以上はあくまで目安であり、参加者の関心・背景知識に応じて、適宜内容を組み替える。</p>
授業の方法	講義と演習を組み合わせる。レジュメやベースとなるソースコードを配布する。
成績評価方法	授業参加、演習課題、レポートによって総合的に評価する。
教科書	使用しない。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意・備考	教育と言語処理
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242312	担当教員	山田 翔平		
単位数	2.0	学期	S2	時限	金 1&comma; 金 2
講義題目	情報組織論演習 Seminar in Information Organization				

授業の目的・概要	<p>伝統的な図書館の世界では、目録と分類が資料組織化の2つの中心であった。21世紀、文字、画像、動画、音声、ソフトウェアなどあらゆる形式の情報・知識がデジタル化され、コンピュータ・ネットワーク上に膨大かつ半永久的に蓄積される時代になって、目録、分類を初めとする情報組織化の理論と実践は発展し、ますます重要になっている。  本授業のテーマは、分類やインデクシング(索引語付与)など、主題分析に基づいた情報組織化である。本授業の目的は、主題分析に基づいた情報組織化についての基礎的理論と実践的技法を学び、さらに学習・研究を続ける契機となる問題意識を獲得することにある。授業は、(1)情報組織化および主題分析の社会的な意義・機能と、その歴史的な変化について学ぶパート、(2)印刷資料をモデルとして確立した主題目録法(分類法・件名法)の理論と技法を学ぶパート、(3)あらゆる情報メディアを対象として構築されつつあるインデクシングの理論と技法を学ぶパートから構成される。(3)では、分類・インデクシングという行為の形式化の問題や技術的な動向、理論的境界の問題も取り上げる。また(2)と(3)では、授業中および授業時間外の実習を行う予定である。</p>
授業計画	<p>1. 情報組織化と図書館 2. 分類(1):区分則 [実習を含む] 3. 分類(2):生物と知識の分類 4. 分類(3):日本十進分類法(NDC)の概要 1 [実習を含む] 5. 分類(4):NDCの概要 2 6. 分類(5):NDCの詳細 1 [実習を含む] 7. 分類(6):NDCの詳細 2 8. 分類(7):NDLC・DDC・UDC・CC [実習を含む] 9. 索引(1):語彙統制 10. 索引(2):基本件名標目表(BSH)[実習を含む] 11. 索引(3):件名・シソーラス 12. 索引(4):インデクシング 13. 分類・索引の自動化 14. まとめ[実習を含む]</p>
授業の方法	<p>基本的に講義形式で行うが、必要に応じて実習を行う。また講義の際には、個別に指名して質問に回答してもらう。毎回授業資料を配布する予定である。</p>
成績評価方法	<p>授業中に行う数回の発表、小課題、小テストおよび授業への参加度により総合的に評価する。</p>
教科書	<p>使用しない。毎回オリジナルの資料を配付する。</p>
参考書	<p>・根本彰著『文献世界の構造』勁草書房&amp;comma; 1998。 ・根本彰・岸田和明編『情報資源の組織化と提供』東大出版会&amp;comma; 2013。 これらのほかは授業中に随時紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>情報組織論演習</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242401	担当教員	河野 銀子		
単位数	2.0	学期	S2	時限	集中
講義題目	ジェンダーと教育 Gender and Education				

授業の目的・概要	<p>私たちが教育を受ける学校という空間は、多くの国民が「男女平等」と認識する場である。しかし、本当にそうだろうか。もし平等であるなら、日本社会のジェンダー平等が遅々として進まないのはなぜなのか。 本授業ではこうした問題意識をベースに、幼児教育から高等教育までの各教育段階に存在するジェンダー問題を把握するとともに、それらが見えにくいカラクリを探ることを目的とする。 同時に、教員養成・育成や研究者・科学者育成等、教育を与える側にもジェンダー視点でアプローチする。その際、欧米を中心に行われてきた政策や実践上の取組みを紹介し、日本で適用することの是非を議論したい。  </p>
授業計画	<p>第1回: イントロダクション(授業内容と進め方について) 第2回: 子ども世界とジェンダー 第3回: カリキュラムとジェンダー 第4回: スポーツとジェンダー 第5回: 進路選択とジェンダー 第6回: 高大接続とジェンダー 第7回: 前半の振り返り 第8回: 教員世界とジェンダー 第9回: 教育改革と女性校長(1) 第10回: 教育改革と女性校長(2) 第11回: 科学技術とジェンダー(1) 第12回: 科学技術とジェンダー(2) 第13回: 全体の振り返り  </p>
授業の方法	<p>授業は、担当者による講義を中心に学生間の議論も織り交ぜて行う。事前に指定された文献(テキスト内の該当章)や資料(政策文書等)にもとづいて展開することも予定している。</p>
成績評価方法	<p>授業への貢献度(2割)、コメントシート(3割)、最終レポート(5割)</p>
教科書	<p>・第2～6回: 河野銀子・藤田由美子編著『新版 教育社会とジェンダー』学文社、2023 ・第9、10回: 河野銀子編著『女性校長はなぜ増えないのか』勁草書房、2017 ・第11、12回: 河野銀子: 小川眞里子編著『女性研究者支援政策の国際比較』明石書店、2021  ※授業では各著書から複数の章を抜粋して使用する。 </p>
参考書	<p>・高橋裕子・河野銀子編著『女性学長はどうすれば増えるか』東信堂、2022 ・藤田由美子『保育の中のジェンダー』チャイルド本社、2023</p>
履修上の注意・備考	<p>ジェンダーと教育</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242402	担当教員	藤原 翔		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	水 3
講義題目	教育調査分析法 Quantitative Educational Research Methodology				

授業の目的・概要	教育の社会科学的研究に用いられる社会調査データを分析する際に、必要となる統計学に関して入門的な講義を行う。具体的には、分布と統計量、相関係数、確率論の基礎、サンプリング、推定と検定、クロス集計、回帰分析について概説する。それによって、既存の分析結果の意味を正確に理解し、自分で新たに意味のある計量分析を行うための初歩的な知識を獲得することを目標とする。「教育社会学調査実習」の履修者は、この講義を併修すること。
授業計画	・イントロダクション ・度数分布表 ・基本統計量 ・相関係数 ・確率モデルと統計的推定 ・統計的検定 ・平均値の差の検定 ・クロス集計と独立性の検定 ・多重クロス集計とエラボレーション ・回帰分析 ・偏相関と重回帰分析 ・回帰モデルの説明力と検定 ・回帰分析の応用 (以上はあくまで予定のため、変更になる場合がある。)
授業の方法	教科書の主要部分を用いて講義を行う。また SSJ データ・アーカイブで公開されているデータ(あるいは教員が独自に収集したパネルデータ)を用いた R による実習も行う。毎回、R を用いた課題を提出することが必要となる。
成績評価方法	課題レポート(60%)と最終レポート(40%)によって評価を行う。
教科書	杉野勇『入門・社会統計学——2ステップで基礎から[Rで]学ぶ』(法律文化社、2017年)
参考書	轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法[第3版]——2ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社、2017年)
履修上の注意・備考	教育調査分析法  この授業科目は、社会調査士資格取得のための「D. 社会調査に必要な統計学に関する科目」、教職課程の「教科に関する科目(社会学)」にそれぞれ該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09242403	担当教員	額賀 美紗子		
単位数	2.0	学期	S2	時限	火 3&comma; 火 4
講義題目	フィールドワークの理論と実践 Theory and Practice of Fieldwork				

授業の目的・概要	エスノグラフィーとは、ある出来事が起こっている現場に入り込み、そこに参加している人々と関わりあいながら、かれらの日常世界の成り立ちを、かれらの視点に立って内側から理解する調査方法のことを指す。参与観察(フィールドワーク)やインタビューが中心となり、質的調査法ともいわれる。この授業ではエスノグラフィーの理論とプロセスについて学び、実際にインタビューや現場のフィールドワークを演習形式で行いながら、さまざまな質的調査の方法論を習得することをめざす。
授業計画	第一回  ①質的調査とはなにか:目的、意義、プロセス ②参与観察を行う:現場のメモからフィールドノートへ  第二回  ①フィールドノートを書く:何をどう描写するか ②フィールドにアクセスする:研究者のポジショナリティと研究倫理   第三回  ①質的テキストを分析する:コーディングとグラウンデッド・セオリー・アプローチ実践 ②研究計画をたてる:先行研究・リサーチ・クエスションの設定・フィールド/対象の選定  第四回  ①話を聴く:インタビュー、生活史調査、ライフストーリー研究 ②《グループ・プロジェクト》テーマを設定し、インタビュー・ガイドラインの検討  第五回 ① インタビューの技法と授業内ミニ実践 ②《グループ・プロジェクト》データ収集の進捗状況確認、コーディングの検討  第六回  ①質的研究方法を使って論文を書く:良い質的研究論文の条件 ②《グループ・プロジェクト》次週の発表準備:コードから仮説生成へ  第七回  プロジェクトのグループ発表
授業の方法	講義と演習を組み合わせる
成績評価方法	出席 20%、課題 80%
教科書	小田博志 2010 『エスノグラフィー入門—〈現場〉を質的研究する』春秋社。 佐藤郁也 2007 『フィールドワーク増訂版—書を持って街へ出よう』新曜社。
参考書	エマーソン&comma; R. 1998. 『方法としてのフィールドノート—現地取材から物語作成まで』新曜社。 佐藤郁也 2002『フィールドワークの技法—問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社。 藤田結子・北村文編 2013 『現代エスノグラフィー:新しいフィールドワークの理論と実践』新曜社。
履修上の注意・備考	フィールドワークの理論と実践
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)地理学(地誌を含む)(公)社会学

時間割コード	09242404	担当教員	多喜 弘文
単位数	2.0	学期	S1S2
		時限	火 2
講義題目	比較社会学の方法 Methods and Approaches in Comparative Sociology		

授業の目的・概要	社会学は、もし異なった社会的・歴史的環境に置かれていたら、今の自分とは異なる価値判断をしていたかもしれないという想像力を比較によって喚起する。この比較には様々な単位がありうるが、本講義では国民国家を単位とした比較における日本社会の特徴に焦点をおき、その理論化と実証のための方法を先行研究から学んでいく。根拠のない特殊性論や文化還元主義的トートロジー、あるいは自覚なく欧米中心主義や計量帝国主義に依拠することの問題点を理解できるようになることが目標である。
授業計画	第1回: イントロダクション: 何のために比較するのか   第2回: 日本社会は特殊か   第3回: 欧米の研究者からみた日本の教育   第4回: 国内の研究者からみた日本の教育   第5回: 欧米の研究者からみた日本の労働   第6回: 国内の研究者からみた日本の労働   第7回: 教育・労働の日本的特徴にかんする先行研究の問題点   第8回: 制度的相補性について   第9回: 日本特殊性論に対する批判   第10回: 計量的な比較研究の紹介   第11回: オリエンタリズムを乗り越える   第12回: 比較社会学の方法: 理論と実証   第13回: まとめと期末課題について
授業の方法	授業は、教員による講義を中心にしつつ、受講学生による議論を組み合わせた形式でおこなう。いくつかの回では、事前に指定された文献を読み、講読票を提出したうえで授業に参加してもらう。また、いくつかの回では、講義内容と授業での議論を踏まえて感想を提出してもらう。
成績評価方法	上述の①講読票、②コメントシートに加え、③期末レポートの提出を課す。また、④授業への積極的な参加についても一定程度加味する。以上4点の評価のウェイトは、①3割、②3割、③3割、④1割である。
教科書	授業で用いる文献は、授業内に指示する。
参考書	授業で中心的に取り上げる文献のうち、書籍として出版されているものを以下に挙げる(おそらく手に入りにくいものもある)。 エミール・デュルケーム, 1897=1985, 『自殺論』中公文庫。 ルース・ベネディクト, 1946=1948, 『菊と刀: 日本文化の型』講談社学術文庫。 ジェームズ・アベグレン, 1958=2004, 『日本の経営<新訳版>』日本経済新聞社。 中根千枝, 1967, 『タテ社会の人間関係: 単一社会の理論』講談社現代新書。 ウォルター・ワラス, 1971=2018, 『科学論理の社会学: 「ワラスの輪」というモデル』ミネルヴァ書房。 ロナルド・ドーア, 1973=1993, 『イギリスの工場・日本の工場: 労使関係の比較社会学(上・下)』ちくま学芸文庫。 ウィリアム・カミングス, 1980=1981, 『ニッポンの学校: 観察してわかったその優秀性』サイマル出版会。 杉本良夫・ロス・マオア, 1982, 『日本人は「日本的」か?』東洋経済新報社。 トーマス・ローレン, 1983=1988, 『日本の高校: 成功と代償』サイマル出版会。 中村高康・藤田武志・有田伸編, 2002, 『学歴・選抜・学校の比較社会学: 教育からみる日本と韓国』東洋館出版社。 陳光興, 2010=2011, 『脱帝国: 方法としてのアジア』以文社。 多喜弘文, 2020, 『学校教育と不平等の比較社会学』ミネルヴァ書房。 メアリー・ブリントン, 2022, 『縛られる日本人——人口減少をもたらす「規範」を打ち破れるか』中公新書。
履修上の注意・備考	比較社会学の方法
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242405	担当教員	萩巣 崇世
単位数	2.0	学期	A1A2
		時限	火 2
講義題目	国際教育開発論 International Education Development		

授業の目的・概要	<p>本講義では、教育と社会の関係を多角的に捉え、国際教育開発の持つ様々な意味を、理論と実践の両面から考えていく。特に、現代のグローバル化する世界において、教育はどのような課題に直面しているのか、同時に、教育にはどんな役割が期待されているのかを、具体的な事例に基づいて検討していく。 本講義は前半・後半の二部構成で展開する。第一部では、広い意味で「教育」という営みを理解した上で、教育と社会の関係を捉えていく。教育学、経済学、社会学、哲学など多方面から、「教育」を「開発」することの意味について考えるとともに、国際教育開発の歴史と潮流を整理する。 第二部では、グローバル化する世界において教育が抱える様々な課題を取り上げ、これらの課題に対してこれまでどのような国際協力・国際開発が行われてきたのか、また、教育開発が現地の人々にどのような影響を及ぼしてきたのかについて、途上国に限らず日本の事例なども取り上げて具体的に見ていく。参加者の興味関心に基づき、可能な場合には各分野の専門家の話を聞く機会も設ける。  本講義では、知識、批判的思考、コミュニケーション、態度・行動の 4 つの領域においてそれぞれ以下のような知識とスキルを身につけることを目指す。 知識:教育と社会の関係を多角的に捉え、国際教育開発の持つ様々な意味をふまえて、国際教育開発の歴史と潮流、実践上の課題や難しさを理解する。 批判的思考:世界が直面している教育課題に関心を持ち、自分自身の経験や身近な現実と結びつけて考えて説明することができる。 コミュニケーション:他者の意見を聞きながら自分のスタンスを明確にし、資料やデータを使って効果的に意見を表明できる(口頭およびレポート)。 態度・行動:授業で扱うトピックについて理解を深めたり、新しい意見や見方を学んだりするため、多様な意見を持つクラスメイトと対話し協力することができる。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション、シラバスと評価方法の説明 第2回:「教育」とは何か?:教育学の考察 第3回:「教育」と「社会」:社会学的考察 第4回:「教育」と「経済発展」:経済学的考察 第5回:「教育」と「開発」:教育開発の歴史と潮流 第6回:「国際」と「教育」と「開発」:哲学的考察 第7回:第一部振り返り 第8回:現代の教育課題①:教育の格差 第9回:現代の教育課題②:教育の質と学び 第10回:現代の教育課題③:教育の内容と方法 第11回:現代の教育課題④:人の移動と教育 第12回:現代の教育課題⑤:SDGsと教育 第13回:現代の教育課題⑥:教育のグローバル化 第14回:第二部の振り返り 第15回:ワークショップ </p>
授業の方法	<p>本講義は学生の主体的な学びを中心に進める。そのため、各自が授業前に内容をある程度理解し、自分なりの問いや考えを持って授業に臨むことが欠かせない。授業は、それぞれが持ち寄った問いや意見を共有し、受講者同士が学び合う場となるよう、ディスカッションやグループワークを中心に進めていく。 基本的には、毎回の講義に参加する前に指定された文献を読み、簡単なコメントペーパーを講義のグループサイトにアップする。コメントの内容は読んだ文献の筆者への質問や疑問でも良いし、文献の内容を身近な例に引きつけて考えたことでも良く、200字程度にまとめる。毎回、重要な問いやコメントを選び講義の中で取り上げて議論する。90~120分程度の準備が必要になる。</p>
成績評価方法	<p>授業への参加・貢献度:20% コメントペーパー:30% レポート:50% </p>
教科書	<p>各回の課題文献については講義の中で提示するが、以下を本講義の主なテキストとして使用する。 萩巣崇世・橋本憲幸・川口純編『国際教育開発への挑戦—これからの教育・社会・理論』、2021年、東信堂   </p>
参考書	<p>黒田一雄・横関祐見子編『国際教育開発論—理論と実践』、2005年、有斐閣 北村友人・佐藤真久・佐藤学編『SDGs時代の教育:すべての人に質の高い学びの機会を』、2019年、学文社 </p>
履修上の注意・備考	<p>国際教育開発論</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 (社)地理学(地誌を含む)(公)社会学</p>

時間割コード	09242406	担当教員	小島 優生		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	火 2
講義題目	比較教育行政論 Comparative Study of Educational Administration				

授業の目的・概要	韓国における教育制度・政策について学び、その背景や日本との異同について考察することにより、日本の政策について他面的な理解ができるようになることを目的とする。
授業計画	以下の内容をそれぞれ2回ずつの講義で実施する。(最後の高等教育は1回のみ) 1. 韓国教育の歴史と伝統では、韓国の教育熱の源泉としてしばしば言及される儒教教育や、科挙、その後の近代化以降と植民地支配、米軍政、軍事独裁政権、民主化の時代のそれぞれ教育について概観する。 2. 教育行財政制度では、大統領制度を中心として教育政策決定の関与者、地方教育制度、それらに関わる保護者たちなどのステークホルダーについて扱う。 3. 修学前から高校までの教育では、学校の仕組みやカリキュラム、90年代以降増加する多様な高校について検討する。 4. 学校生活・文化の所では、高校生の生活やそれを取り巻く学校暴力や生徒たちの人権に関わっての動きを扱う。具体的には学校暴力予防法や、神保教育館らが制定した生徒人権条例等を扱う。 5. 教師では、教職の世界的な状況や働き方改革などまた、キャリアアップ等について検討する。 6. 学びの機会の保障では、①特別なニーズへの対応や、②学校の多文化、③オルタナティブスクールなどが検討される 7. 最後の高等教育では 変化しつつある大学入試や私教育等について扱う。
授業の方法	上の授業計画にも記載してあるが、1つのテーマを2回の講義で完結する形で実施する。 1回目:講義の後、リアクションペーパーに質問・意見 2回目:リアクションペーパーの紹介・補足、短時間の講義、数名の学生から「話題提供」・討論
成績評価方法	話題提供 30%(1回は必須)、レポート 60%、リアクションペーパー・積極的な発言など授業への貢献 10%
教科書	『現代韓国の教育を知る一隣国から未来を学ぶ』明石書店
参考書	随時提示する予定
履修上の注意・備考	比較教育行政論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242407	担当教員	淵上 孝		
単位数	2.0	学 期	A1A2	時 限	月 1
講義題目	教育法 Educational Law				

授業の目的・概要	我が国の教育関係法令の体系を理解しつつ、教育基本法・学校教育法をはじめとする主要な法律の構造や内容、最近の改正の動向などを学ぶことによって、今後の教育政策のあり方や教育現場が直面する重要課題への対応策について考察する上での基礎を培うことを目標とします。  なお、授業では初等中等教育に関する法令を中心に学びますが、高等教育に関する法令等も取り上げます。
授業計画	授業は全て対面で実施します。  第1回 ガイダンス、教育法規の基礎 第2回 我が国の学校教育制度の歴史 第3回 義務教育に関する法令 第4回 高等学校教育に関する法令 第5回 教育行政に関する法令 第6回 教育財政に関する法令 第7回 教職員に関する法令 第8回 教育課程・学習内容に関する法令 第9回 生徒指導(いじめ、不登校等)に関する法令 第10回 幼児教育・保育に関する法令 第11回 特別支援教育に関する法令 第12回 高等教育に関する法令(1) 第13回 高等教育に関する法令(2) 第14回 修了試験
授業の方法	講義形式(対面)
成績評価方法	対面授業の場合  ①筆記試験(60%)、②授業における議論への貢献度・出席状況・課題提出(40%)に基づいて評価します。
教科書	講師が最新の情報も含めた資料を用意します。
参考書	授業では直接使用しませんが、授業内容の理解を深める上での参考図書として、以下の文献を挙げておきます。  「逐条解説 改正教育基本法」(教育基本法研究会、第一法規)  「逐条 学校教育法」(鈴木勲、学陽書房)  「逐条解説 地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(木田宏、教育行政研究会、第一法規)  「教員・教員志望者のための教育法の基礎」(樋口修資、明星大学出版部)  「新訂第5版 やさしい教育法規の読み方」(菱村幸彦、教育開発研究所)
履修上の注意・備考	教育法 講師は現役の国家公務員(文部科学省職員)であるため、受講生の中に公務員志望者がいる場合は、必要に応じ、中央官庁における行政実務や勤務の様子などについても触れたり、文部科学省の若手職員を授業に招いて懇談する機会を設けたりする予定です。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)法律学(公)法律学(国際法を含む)

時間割コード	09242408	担当教員	神林 寿幸		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	教育政策の計量分析入門 Introduction to Quantitative Analysis of Education Policy				

授業の目的・概要	<p>教育政策研究の方法の一つに、計量分析があります。国内外の教育行政学では教育政策に関する計量分析の発展がめざましいです。さらに、近年エビデンスに基づく教育政策が重視されています。このことから、研究の場面のみならず、教育の実務や日常生活でも、的確に教育政策の計量分析を行うこと、分析結果を的確に解釈できるようになることが重要になっています。  本授業ではフリーの統計解析パッケージである R を用いて、教育に関するデータのハンドリングと基礎的なデータ分析の方法を学びます。自身が設定したリサーチ・クエスチョンに答えるために必要な教育データを構築し、構築したデータを的確に分析を行い、その結果を解釈し考察できるようになる。これを本授業の目標とします。  Quantitative analysis is a scientific method of education policy research. It has developed remarkably in Japan and abroad. Furthermore, evidence-based education policy has been emphasized in recent years. This makes it even more critical to conduct an accurate quantitative analysis of education policy and to interpret the analysis results accurately; not only in research but also in educational practice and daily life. In this class, students will learn how to handle data on education and conduct fundamental data analysis using R; a free statistical analysis package. We can construct the educational data necessary to answer our research questions; accurately analyze the constructed data; and interpret and discuss the results. These are the goals of this class.</p>
授業計画	<p>1 イントロダクション 2 R のインストール、R の基本操作、データの読み込み 3 データハンドリングと記述統計量の確認 4 t 検定—2 群の平均値の差を比較する 5 分散分析—3 群以上の平均値の差を比較する 6 相関と偏相関 7 単回帰分析 8 重回帰分析 9 クロス集計 10 ロジスティック回帰分析 11 因子分析 12 主成分分析 13 クラスター分析  1 Introduction 2 Installing R; Calculations using R; and Reading data into R 3 Data handling and Calculating descriptive statistics 4 t-test 5 Analysis of Variance (ANOVA) 6 Correlation and Partial Correlation 7 Single Linear Regression 8 Multiple Linear Regression 9 Crosstabulation 10 Logistic Regression Analysis 11 Factor Analysis 12 Principal Component Analysis (PCA) 13 Cluster Analysis</p>
授業の方法	<p>本授業は講義と演習から構成されます。まず、各単元の内容を担当教員より解説します。次に、解説を踏まえて、実際に統計解析パッケージ R を使って、各自もしくはペア・グループで演習問題に取り組みます。  This class will consist of lectures and exercises. First, the instructor will explain the contents of each unit. Next, based on the lecture, we will work on exercises by themselves, in pairs, or in groups using the statistical analysis package R.</p>
成績評価方法	<p>単元別課題(50%)、最終レポート(50%) Assignments (50%); Report (50%)</p>
教科書	<p>川端一光・岩間徳兼・鈴木雅之(2018)『R による多変量解析入門—データ分析の実践と理論』オーム社(定価: 3,740 円、ISBN:978-4-274-22236-8)</p>
参考書	<p>平井明代・岡秀亮・草薙邦広編著(2022)『教育・心理系研究のための R によるデータ分析』東京図書(定価: 3300 円、ISBN: 978-4-489-02377-4) 小林雄一郎・濱田彰・水本篤(2020)『R による教育データ分析入門』オーム社(定価: 3080 円、ISBN: 978-4-274-22591-8) 林賢一著・下平英寿編(2020)『R で学ぶ統計的データ解析』講談社(定価: 3300 円、ISBN: 978-4-06-518619-0)</p>
履修上の注意・備考	<p>教育政策の計量分析入門</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242409	担当教員	奥 聡一郎
単位数	2.0	学期	S2
講義題目	英語教授法・学習法概論 An Introduction to Methodologies for Teaching and Learning English		
		時 限	集中

授業の目的・概要	<p>・言語教育・人文科教育学などの流れの中で英語教育がどのような位置付けがなされているのか、理解する。 ・英語教育に必要な基礎知識(母語・第二言語習得, 外国語教授法, 4 技能 5 領域、学習者理論等)を概観し、これらの理解を深める ・各自の外国語教育・学習歴を振り返り、英語教育・英語学習に対する認識を深める ・効果的な英語教授法・学習法について歴史を踏まえて考察し、これからの英語教授法・学習法を展望する 以上の目標達成を目指して、状況に応じながら、双方向的な授業を行います。</p>
授業計画	<p>第 1 回: イントロダクション 第 2 回: 言語教育概論 国語科教育学、日本語教育との比較研究 第 3 回: 国語科教育学と教授法 第 4 回: 日本語教育学と教授法 第 5 回: 外国語教授法と英語教育学 第 6 回: 聞くことの指導と学習 第 7 回: 読むことの指導と学習 文法教育 第 8 回: 読むことの指導と学習 読解と解釈、批評 第 9 回: 話すことの指導と学習 第 10 回: 書くことの指導と学習 第 11 回: これからの英語教授法 第 12 回: これからの英語学習法 第 13 回: 授業のまとめ  ※注意: 上記計画は、受講者の状況等に伴って、変更の可能性があります。変更等の連絡は、必要に応じて LMS で行います。 </p>
授業の方法	<p>・検定教科書等に掲載されている教材分析の他、これらと関連する資料を使用しながら授業を行います。 ・講義と演習・受講者のプレゼンテーションを組み合わせた授業形態です。 ・受講者同士のグループワークを随時取り入れます。 ・LMS での教材配布、ZOOM での授業を組み合わせる予定です。 </p>
成績評価方法	<p>・課題 70%、最終レポート 30% ・上記にグループワークの成果、発表、最終レポート等も踏まえて、総合的に評価します。</p>
教科書	<p>・教材を配布します </p>
参考書	<p>・Jim Scrivener (2011) Learning Teaching. Macmillan Education. ・伊村元道『日本の英語教育 200 年』大修館書店 ・田崎清忠編『現代英語教授法総覧』大修館書店 ・月刊「英語教育」大修館書店 その他は授業中に紹介します</p>
履修上の注意・備考	<p>英語教授法・学習法概論 ・本講義は、以下の日程の予定で行う集中講義です: 8 月 23 日(金)1~4 限、8 月 26 日(月)2~4 限、8 月 27 日(火)2~4 限、8 月 26 日(水)1~4 限  ・初回授業(8 月 23 日 1-4 限)は対面で行います。 ・ZOOM のアドレス、ZOOM 授業の実施日時等は授業開始 1 か月前をめどに LMS に記します。 ・授業運営や内容についてお知らせがある際、ITC-LMS で行います。 ・配布教材に基づいて学習し、問題意識を持って授業に臨んでください。 ・授業に関する情報は、LMS のお知らせ欄で周知します。定期的にお知らせを見</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242410	担当教員	小川 義和		
単位数	2.0	学 期	A1A2	時 限	月 5
講義題目	博物館教育論 Museum Education				

授業の目的・概要	博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得させ、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。  博物館教育について、博物館を利用する人々、博物館、それを取り巻く社会との関係性から考察する。博物館教育の発達とその社会的背景を紹介し、博物館教育の現代的意義を論じていく。特に従来の教育普及にとどまらない博物館教育の範囲、その独自性と学習理論、生涯学習の観点から人材養成の必要性等を概説する。これらの基礎的な知識と理論を踏まえ、変化する社会における博物館教育のあり方について実際に即して考察を深める。さらに具体的な目標論を持って博物館教育活動を企画し、評価するスキルについて演習を通じて身につけさせる。
授業計画	第 1 回 博物館教育の意義と理念(1)学びの意義 第 2 回 博物館教育の意義と理念(2)博物館教育の範囲 第 3 回 博物館教育の意義と理念(3)博物館教育の特徴 第 4 回 博物館教育の意義と理念(4)博物館教育の歴史 第 5 回 博物館教育の意義と理念(5)生涯学習の場としての博物館 第 6 回 博物館教育の意義と理念(6)人材養成の場としての博物館 第 7 回 博物館教育の意義と理念(7)博物館における学びの特性と学習理論 第 8 回 博物館教育の意義と理念(8)ミュージアムリテラシーの理念と構成 第 9 回 変化する社会における博物館教育(1)コミュニケーションとしての博物館教育 第 10 回 変化する社会における博物館教育(2)博物館の利用実態と利用者の博物館体験 第 11 回 変化する社会における博物館教育(3)博物館教育の方針と評価 第 12 回 博物館教育の実際(1)博物館教育活動の企画と実際 第 13 回 博物館教育の実際(2)博物館教育と学校教育
授業の方法	各回、前半は適宜資料を提示しつつ、テーマに基づく概説を行う。後半は受講生からのテーマに関する質問と議論を行い、教員がまとめる。受講生は問題を整理してテーマに関する報告を提出する。 受講生は最終回に課題を提出する。
成績評価方法	講義の出席・各回の提出報告書(6割)及び最終課題(4割)で判断する。
教科書	使用しない。
参考書	ジョージハイン著、鷹野光行監訳「博物館で学ぶ」(同成社、2010) 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編「新時代の博物館学」(芙蓉書房出版、2012) 小川義和・五月女賢司編著「挑戦する博物館 今、博物館がオモシロイ!!」(ジダイ社、2018) 小川義和編著「協働する博物館 博学連携の充実に向けて」(ジダイ社、2019) 小川義和・五月女賢司編著「発信する博物館 持続可能な社会に向けて」(ジダイ社、2021)
履修上の注意・備考	博物館教育論 <a href="https://www.river-museum.jp/">https://www.river-museum.jp/</a>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242411	担当教員	山内 祐平		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	水 2
講義題目	学習環境のデザイン Design of Learning Environment				

授業の目的・概要	学習環境のデザインについてデジタル教材、オンライン学習、ワークショップなどの事例研究を通じて検討する。  知識目標:「理解や問題解決の支援」を教材として実装する方法を知る 技能目標:教材のポイントを発表し、本質を議論する技能を身につける
授業計画	2024/04/10 オリエンテーション 授業の概説 2024/04/17 デジタル教材概論 領域の概論 2024/04/24 ゲストトーク  2024/05/08 初等中等教育での展開 Khan Academy 2024/05/15 高等教育での展開 Minerva Schools 2024/05/22 幼児教育での展開 Kits 2024/05/29 企業内教育での展開 Sakidori Pocket OJT 2024/06/05 オープンエデュケーシ ョン Coursera 2024/06/12 シリアスゲーム Minecraft 2024/06/19 GIGA スクール Google for Education 2024/06/26 AIの活用 Academic Term Converter 2024/07/03 ゲストトーク 2024/07/10 ワークショップ CAMP 2024/07/17 カフェ での学び UTalk (ゲストとの調整で一部変更の可能性があります)
授業の方法	1)担当グループが事例研究を行い発表する 2)事例についてグループで議論し、デザインの特徴と課題について検討する 3)議論から出た疑問を報告グループに投げかけ、問いを深める 4)教育・学習研究の概念との接続について教員が解説する
成績評価方法	毎回の小レポート評価(50%) グループの事例研究報告の評価(25%) グループ議論における貢献と発見(25%)
教科書	山内祐平「学習環境のイノベーション」東京大学出版会、2020
参考書	山内祐平・池尻良平・澄川靖信「EdTech で創る未来の探究学習」明治図書、2024 堀田龍也・山内祐平監修「クラウドで育てる 次世代型情報活用能力」小学館、2021 山内祐平・森玲奈・安斎勇樹「ワークショップデザイン論」慶応大学出版会、2013
履修上の注意・備考	学習環境のデザイン 本授業は対面での参加を原則とし、特別な事情がある場合のみオンライン参加を認めるハイブリッド形式で行う。 各種資料の提供およびレポート提出は ITC-LMS で行うため、そちらも履修登録を行うこと。  4月10日(水)10:30より対面でオリエンテーションを行いません。 (赤門横情報学環・福武ホール B2 福武ラーニングスタジオ 1)
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242412	担当教員	北垣 憲仁		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	博物館概論 Introduction to Museum Studies				

授業の目的・概要	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。現代社会では、地球規模の環境問題や格差の拡大などに伴い博物館の定義の見直しも議論されている。そこで、ミュージアムの歴史を辿りながら博物館とはいかなる、何のための施設なのかについて、定義、歴史、国際比較等の多面的な視点から理解することを目標とする。博物館という場所を通じて、博物館ではなぜ具体的なモノを扱うのか、人はなぜものを集めるのか、ものを見るとはどういうことか、といった博物館の原理的な問いについても考える。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 博物館の定義・コレクションとは 3. 博物館の起源と「驚異の部屋」 4. 前駆的ミュージアムの出現と博物学の発展 5. 近代市民社会の成立と公共博物館 6. 産業革命と博覧会、アメリカにおける博物館の展開 7. 日本における博物館・博覧会の受容と近代化 8. 殖産興業から宝物の殿堂へ 9. 現代社会と博物館 10. 地域博物館とは何か 11. 命あるものを展示する 12. 広がる博物館の概念・「記憶」する場としての博物館 13. まとめ
授業の方法	基本はオンライン講義とする予定だが、感染症等の動向をみつつ対面で実施する場合は事前に授業時に指示する。
成績評価方法	授業時のリアクションペーパー(評価比率 30%)、最終レポート(同 50%)および授業中に出す課題(同 20%)による。
教科書	特に使用しない。
参考書	中小路久美代・新藤浩伸・岡田猛・山本泰裕編『触発するミュージアム』あいり出版、2016 ミハエル・パーモンティエ著、眞壁宏幹訳『ミュージアム・エデュケーション 感性と知性を拓く想起空間』慶應義塾大学出版会、2012年 その他授業中に指示する。
履修上の注意・備考	博物館概論 ICOM: The International Council of Museums  <a href="http://icom.museum/">http://icom.museum/</a>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242413	担当教員	福島 幸宏		
単位数	2.0	学期	A2	時限	木 1&comma; 木 2
講義題目	図書館・博物館情報メディア論 Information Media in Library and Museum				

授業の目的・概要	図書館・博物館等における情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。その際、現場の実態を提示するとともに、情報を活用するための前提となる知的財産権や情報倫理についても言及する。また、情報メディアをその歴史性から検討する視野を持てることも目標とする。 Developing Fundamental Skills for Providing and Utilizing Information in Libraries&comma; Museums&comma; and Similar Institutions. This includes presenting the practical aspects of the field&comma; addressing intellectual property rights and information ethics as foundational elements for information utilization. Additionally&comma; the goal is to cultivate a perspective that considers information media from its historical context.
授業計画	1. 資料と情報-その過去と現在 2. 資料と情報-その未来 3. 文化資源をめぐる関係制度・法制 4. 図書館・博物館等の資料管理システムとweb サイト 5. 図書館・博物館等の情報の流通と連携 6. 文化資源を拓く 7. 施設見学
授業の方法	講師による講義を基本とするが、随時受講者からの発言を求めるとともに、各回ごとに意見等の提出を求める。 While the primary mode of instruction is through lectures by the instructor&comma; active participation from participants is encouraged&comma; with regular opportunities for them to contribute their thoughts and submit opinions after each session.
成績評価方法	授業中の発言等を通じての授業への参加(10%)、レポート(90%)を総合的に評価する。 The overall evaluation will be based on active participation during class discussions (10%) and comprehensive assessment of reports (90%).
教科書	指定しない。 Unspecified.
参考書	岡田一祐 2019『ネット文化資源の読み方・作り方』(文学通信) 数藤雅彦責任編集 2022『知識インフラの再設計』(勉誠出版) 長尾真 1994『電子図書館』(岩波書店)(新装版は2010) 日本図書館情報学会編 2023『図書館情報学事典』(丸善出版) 庭田杏珠・渡邊英徳 2020『AI とカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争』(光文社) 蛭田廣一 2019『地域資料サービスの実践(日本図書館協会) 福島幸宏責任編集 2023『ひらかれる公共資料:「デジタル公共文書」という問題提起』(勉誠社) 柳与志夫監修・福島幸宏・前沢克俊・井関貴博編 2022『デジタルアーカイブ概論』(丸善雄松堂) 柳与志夫監修・加藤諭・宮本隆史編 2022『デジタル時代のアーカイブ系譜学』(みすず書房)
履修上の注意・備考	図書館・博物館情報メディア論 講義内容は進行状況によって前後する場合がある。 また、状況によってはゲスト講師を依頼することもある。 The lecture content may vary in sequence depending on the progress&comma; and there might be instances where guest speakers are invited based on the situation.
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242414	担当教員	望月 禎、牧野 篤、李 正連		
単位数	2.0	学期	S2	時限	集中
講義題目	生涯学習政策論 Study on Lifelong Learning Policy				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>人生 100 年時代、Society5.0 の到来等、急速な変化を続ける社会においては、生涯学習・社会教育の役割も、従来の枠にとどまらず、時代・社会の変化に見合ったものに変化していくことが求められている。経済先進諸国においては、経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える「ウェルビーイング (Well-being)」の考え方が重視されてきており、我が国においても、教育を通じて日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図っていくことが求められている。  令和の時代の羅針盤ともなる、第4期の教育振興基本計画は、予測困難な時代において、2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手を育成し、日本社会に根差したウェルビーイングを向上させることをコンセプトとして、昨年5月に閣議決定された。本計画における5つの基本的方針のなかでも、「地域や学校で共に学び支えあう社会の実現に向けた教育の推進」と「誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進」は、我が国が培ってきた地域コミュニティを基盤とした地域での教育力や様々な体験を通じた人間力の向上、コロナ禍を経て改めてその大切さに気付かされた人と人とのつながりや、支えあいや学びあいと相まって、障害者や今後一層の増加が予想される外国人を含めて多様な教育ニーズに対応する社会的包摂の考えに立った教育政策を進めていくことが重要であることを示している。  本講義では、現在の我が国を取り巻く社会環境の変化を踏まえつつ、生涯学習や社会教育等について、地域レベル、国レベルでの現状と施策の全体像を把握するとともに、今後の展望を考察する。  文部科学省や地方公共団体において、生涯学習施策、社会教育施策、教育行政等を担当する、あるいは担当した経験のある文部科学省職員による講義も設けたい。また、文部科学省職員と受講者との対話や意見交換の場も設け、行政担当者が何を考え感じながら、施策の立案・推進に当たっているか語りつつ、今後の政策についてともに考える「開かれ、つながる」講義としたい。 Our society is continuously facing rapid changes&amp;comma; such as the coming era of the 100-year lifespan&amp;comma; the advent of Society 5.0&amp;comma; and so on. In such a society&amp;comma; the role of lifelong learning and social education will be required to go beyond traditional frameworks and adapt to these rapid social changes. In economically advanced countries&amp;comma; greater focus is being given to the concept of “well-being&amp;comma;” which is not confined to economic prosperity only but centers on happiness and purpose of life&amp;comma; from good health to spiritual richness. In Japan as well&amp;comma; there is a pressing need to improve well-being that is rooted in Japanese society through education.  The Fourth Basic Plan for the Promotion of Education&amp;comma; which will serve as the compass for education policy in the Reiwa era&amp;comma; was approved by the Cabinet as the underlying concept In our unpredictable times for fostering the creators of a sustainable society in anticipation of society from 2040 and beyond and for enhancing the well-being that is rooted in Japanese society through education. The 4th Basic Plan was approved in May last year. Among the five basic policies in the new Basic Plan&amp;comma; two goals stand out: “Promoting education to realize a society where people learn from and support each other in the community and at school&amp;comma;” and “Promoting education to realize an inclusive society where no one is left behind and everyone can realize his or her potential.” These goals show the importance of promoting education policies that are based on the idea of social inclusion&amp;comma; which&amp;comma; together with the aim of supporting and learning from each other&amp;comma; responds to diverse educational needs&amp;comma; including those of people with disabilities and foreign nationals&amp;comma; whose number is expected to increase in the future. They also emphasize the importance of improving human capabilities by taking advantage of the educational abilities and experience of people in local communities that Japan has long cultivated and of making the most of ties among people&amp;comma; the importance of which we have been reminded after the COVID pandemic.  These lectures will provide an overview of the current situation and policies regarding lifelong learning and social education at the regional and</p>
-----------------	---

	national levels&comma; as well as consider future prospects for education in this area based on the changes in the social environment surrounding Japan. The lectures will be given by an officer of the Ministry of Education&comma; Culture&comma; Sports&comma; Science and Technology (MEXT) responsible for lifelong learning policy&comma; social education policy&comma; and education administration at MEXT and local governments&comma; or by a MEXT officer with past experience in this area. Moreover&comma; opportunities will be provided for discussion and exchanges of views with the MEXT official. The lectures will be “open and relevant” and enable participants to consider together with the lecturer future policy while revealing what administrative officials think and feel when formulating and administering policy measures.
<b>授業計画</b>	(若干変更する可能性あり) 1. 教育政策の全体像と方向性 2. 社会教育と社会教育行政の現状と課題 3. 生涯学習と生涯学習行政の現状と課題 4. 学校・地域の連携・協働、大学と地域との連携 5. 共生社会に関する学習の現状と課題(男女共同参画、外国人児童生徒への教育、日本語教育等) 6. 文部科学省総合教育政策局職員との対話、意見交換 (may be revised slightly) 1.Overview and direction of education policy 2.Current situation and issues regarding social education and social education administration 3.Current situation and issues regarding lifelong learning and lifelong learning administration 4.School and community coordination/collaboration&comma; university and community coordination/collaboration 5.Current situation and issues regarding learning for an inclusive society 6.Discussion/exchange of views with official from the Education Policy Bureau at MEXT
<b>授業の方法</b>	講義、討議等 Lecture&comma; discussion&comma; etc.
<b>成績評価方法</b>	出席状況や討議への貢献、レポート等を通じた総合評価とする。 Overall evaluation based on attendance&comma; contribution to discussion&comma; report&comma; etc.
<b>教科書</b>	特になし None in particular
<b>参考書</b>	講師が講義の中で必要な資料を配付予定。 Lecturer scheduled to distribute necessary materials during class.
<b>履修上の注意・備考</b>	生涯学習政策論 集中講義の授業日程及び教室は、ホームページを参照のこと。 学生支援チームホームページ > 時間割 > 学部(集中講義)  <a href="https://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.html">https://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.html</a>   *See website for schedule and classroom of lectures Student support team website&comma; timetable&comma; undergraduate faculty (intensive lecture)
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09242415	担当教員	田所 祐史		
単位数	2.0	学期	W	時限	集中
講義題目	社会教育経営論 Management of Adult and Lifelong Learning				

授業の目的・概要	社会教育概念、法制、行政、機関・施設等の概要について基礎的な理解をした上で、地域社会を舞台に住民主体で学ぶ環境・条件と、学びの実践についてつかむことを目標とする。  現代社会教育の現状と課題の理解、日本社会教育史(主に 20 世紀前半)の理解を通じて、理論と実践、歴史から「社会教育経営」をとらえる視座と力量を獲得することを目指す。  また、受講生の興味関心や問題意識にもできる限り応じた、柔軟な授業展開に努める。
授業計画	1. ガイダンス 社会教育概念 2. 社会教育法制・社会教育行政 3. 社会教育機関・施設(社会教育事業・経営の実際——公民館を中心に) 4. 社会教育実践の現状と課題①(社会教育機関・施設の見学等のフィールドワークまたは理論・歴史・実践検討) 5. 社会教育実践の現状と課題②(同上) 6. 社会教育実践の現状と課題③(同上) 7. 社会教育実践の現状と課題④(同上) 8. 社会教育実践の現状と課題⑤(同上) 9. 日本社会教育史① 日露戦後～戦間期 10. 日本社会教育史② 戦間期～戦時期 11. 日本社会教育史③ 占領期 12. 日本社会教育史④ 高度経済成長期 13. 連携・協働 地域社会と社会教育 14. 連携・協働 教育福祉 15. 連携・協働 地域づくり
授業の方法	・対面のみで開催予定。 ・レジュメと資料プリント、教科書で講義する。適宜、映画・ドキュメンタリーなども視聴。 ・受講生と検討の上で、社会教育施設・機関や社会教育史関連の見学など、フィールドワーク実施を予定。 (第 2 日目の終日を予定。参加人数規模、見学先の状況等を勘案し、代替等の選択も相談の上で検討)
成績評価方法	期末レポート 60%、主体的な授業参加や指定課題など 40%
教科書	【必携】 大串隆吉・田所祐史 『日本社会教育史』[改訂版]有信堂高文社、2024 年 3 月(本体 2&comma;000 円+税) ISBN 978-4-8420-8531-9 ※ 2021 年刊行の初版は使わない。[改訂版]を予め必ず入手のこと。レポート等で必要。
参考書	講義中に紹介する。 ・『月刊社会教育』(旬報社)などで社会教育の現状や課題をつかむこと。 ・『社会教育・生涯学習事典』朝倉書店、2012 年 ・社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』第 9 版、エイデル研究所、2017 年
履修上の注意・備考	社会教育経営論 ・対面以外での連絡先・方法は、特に指示のない限りは、以下に示すアドレス宛のメールに限定する。 ・履修登録学生へ 2025 年 1 月末～2 月上旬ごろに、メールまたは UTAS・LMS の機能等を通じて、フィールドワークなど講義内容の参考意見等を募る予定。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242416	担当教員	齋藤 泰則		
単位数	2.0	学期	A1	時限	木 1&comma; 木 2
講義題目	情報サービス論 Information Service				

授業の目的・概要	図書館で提供される情報サービスの種類と内容, レファレンス資料の種類, 情報探索と情報要求の特徴, 情報検索に関する理論について取り上げる。特に, 情報サービスの中心となるレファレンスサービスについて, 具体的なレファレンスプロセスの事例をもとに, 質問の特性, レファレンスインタビュー, 検索戦略の各側面について解説していく。
授業計画	1. 図書館の情報サービスの特徴とレファレンスサービス 2. レファレンスプロセスとは 3. レファレンスインタビューと情報要求 4. 情報源の種類 5. 情報源の評価: インターネット情報源の信頼性評価 6. レファレンスコレクションの形成とレファレンス資料の実際(1): 3次資料・言語・事項 7. レファレンスコレクションの形成とレファレンス資料の実際(2): 歴史・地理・人物 8. レファレンスコレクションの形成とレファレンス資料の実際(3): 図書・雑誌・雑誌記事(学術論文) 9. レファレンス質問の種類とその処理 10. レファレンス事例の分析 11. 情報検索論(1)検索語の選定と検索式の作成 12. 情報検索論(2)文献集合と検索結果の評価 13. 各種の情報サービス 14. 発信型情報サービス 15. 今後の情報サービスの展望
授業の方法	講義・ディスカッション
成績評価方法	期末テスト(60%)、毎回の小課題(30%)、授業での発表(10%)
教科書	毎回、授業資料 t としてワークシートを配布する。
参考書	齋藤泰則著. 図書館とレファレンスサービス: 論考. 樹村房&comma; 2017&comma; 284p. 齋藤泰則著. 利用者志向のレファレンスサービス: その原理と方法. 勉誠出版, 2009, 184p. 小田光宏編著. 情報サービス論. 日本図書館協会, 2012, 254p. (JLA 図書館情報学テキストシリーズ
履修上の注意・備考	情報サービス論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242417	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2.0	学期	A1	時限	月 5&comma; 木 5
講義題目	図書館情報経営論 Library and Information Center Management				

授業の目的・概要	図書館は非営利組織であるが、様々な職員が運営に関わっているため、その組織を維持し、発展させていくためには適切な経営が必要である。本講義では、こうした組織体としての図書館を適切に経営していくために不可欠である経営組織にかかわる、関連する法制度、業務体制、人材育成、各種計画の立案と評価等についての知識を学ぶ。
授業計画	1 オリエンテーション   2 図書館に関わる法制度  3 職員体制・図書館を支える人々   4 業務体制   5 組織デザイン(1)  6 組織デザイン(2)  7 キャリア  8 人材育成・動機付け   9 計画立案  10 図書館予算  11 図書館評価  12 運営形態  13 まとめ
授業の方法	レジュメを配布しつつ講義形式で進める。
成績評価方法	試験、中間レポート、リアクションペーパーへの返答など講義への参加度
教科書	特に指定しない。
参考書	講義中に指示する。
履修上の注意・備考	図書館情報経営論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242418	担当教員	三浦 太郎		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 2
講義題目	図書館文化史 Library and Cultural History				

授業の目的・概要	<p>図書の保存・利用の場として、図書館は歴史的にどのように発展してきたのだろうか。本講義では、欧米や日本の図書館の歴史を中心に論じる。  本を手にしたとき、ふと「これって、なんでこんな形なんだろう」と思ったり、近所の公立図書館や大学図書館で勉強していて、なんとなく「図書館って、いつ頃からあるのか」と疑問に感じたことがあるかもしれない。この授業では、図書や図書館にまつわるいくつかのトピックを拾いながら、その成り立ちや移り変わりについて理解を深めることをねらいとする。なかでも「近代公立図書館」という考え方が誕生した背景や、そうした考え方が日本に入ってきた経緯に焦点を合わせたい。</p>
授業計画	<p>第1回文字の誕生と古代アレクサンドリア図書館 第2回中世修道院図書室と黙読文化 第3回ゲーテンベルクの印刷革命 第4回ドイツ図書館学思想の誕生 第5回米国ソーシャル・ライブラリーの成立 第6回米国パブリック・ライブラリーの成立 第7回米国パブリック・ライブラリーの展開 第8回イギリスのパブリック・ライブラリーの成立・展開 第9回日本の公家文庫・僧侶文庫 第10回江戸時代の文庫 第11回明治時代の書籍館・通俗図書館 第12回大正～昭和戦前期の図書館 第13回戦後占領期の図書館改革 第14回戦後の図書館発展の歩み 第15回図書館史研究の手法</p>
授業の方法	講義(日本語)による。
成績評価方法	試験(75%)および授業時の確認小テスト(25%)による。
教科書	三浦太郎編著『図書・図書館史』講座・図書館情報学 12&comma; ミネルヴァ書房&comma; 2019年。
参考書	<p>相関図書館学方法論研究会編『社会的媒体としての図書・図書館』シリーズ&lt;図書館・文化・社会&gt;7&amp;comma; 松籟社&amp;comma; 2023年。 岩猿敏生著『日本図書館史概説』新版&amp;comma; 日外アソシエーツ&amp;comma; 2023年。 相関図書館学方法論研究会編『公立図書館の思想・実践・歴史』シリーズ&lt;図書館・文化・社会&gt;6&amp;comma; 松籟社&amp;comma; 2022年。 小黒浩司編著『図書及び図書館史』JLAテキストシリーズ 3-11&amp;comma; 日本図書館協会&amp;comma; 2013年。 小川徹ほか著『公共図書館サービス・運動の歴史』(1)(2) 日本図書館協会&amp;comma; 2006年。 その他、適宜、授業時間中に指示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>図書館文化史 特になし</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242419	担当教員	未定
単位数	2.0	学期	A1A2
講義題目	読書教育論 Reading Education	時限	火 6

授業の目的・概要	<p>子どもにとって読書とは、基礎学力だけでなく、豊かな感性や心などを育む上で重要である。そのために公共図書館では、学校図書館や保健センターなどの関係機関や団体などと連携・協力しながら、子どもの読書活動を支援している。 そこで、本講義では、まず、図書館における児童サービスや子どものためのメディアについて基本的な知識を身につける。それらの知識に基づき、演習活動(フィールドワーク)や話し合いを通して、子どもの視点に寄り添った適切な読書活動を提供することができるようになることを目的とする。  Reading is important for children to develop not only their basic academic skills but also their sensibilities and minds. For this reason&amp;comma; public libraries support children's reading activities in cooperation and collaboration with school libraries&amp;comma; health centers&amp;comma; and other related institutions and organizations.  Therefore&amp;comma; first&amp;comma; this lecture will provide a basic knowledge of children's services and media for children in libraries. Based on this knowledge&amp;comma; the objective of this course is to enable students to provide appropriate reading activities that are close to children's perspectives through exercise activities (fieldwork) and discussions.  </p>
授業計画	<p>第 1 回 児童児童サービスの意義と子どもと読書をめぐる状況 第 2 回 子どもの発達段階と読書の役割 第 3 回 子どものためのメディアと児童サービスの歴史 第 4 回 子どものためのメディアの種類と特徴(1) 絵本・フィクション 第 5 回 子どものためのメディアの種類と特徴(2) ノンフィクション(知識の本、レファレンスブック、図書以外の資料) 第 6 回 児童サービスのための環境づくり 第 7 回 児童サービスの評価 第 8 回 児童サービスの種類と方法(読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク、科学遊び) 第 9 回 乳幼児サービス 第 10 回 ヤングアダルトサービス 第 11 回 読書のアニメーションに挑戦【演習課題】 第 12 回 子どもに対するブックトーク【演習課題】 第 13 回 子どもの読書活動の推進をめぐる学校図書館との協力・連携</p>
授業の方法	講義だけでなく、演習活動やフィールドワーク、受講生間で話し合いを行う機会を設ける。
成績評価方法	リアクションペーパー10%、ミニクイズ 20%、演習課題への取組や発表 40%、最終課題 30%により総合的に評価する。
教科書	特になし。適宜、資料を配布する。なお、オンラインで配布することもある。
参考書	<p>・金沢みどり・柳 勝文『児童サービス論 第 3 版』(ライブラリー図書館情報学 第 7 巻)学文社、2022 年 ・堀川照代『児童サービス論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3) 日本図書館協会、2020 年 ・『児童文学の教科書』2013 川端有子 玉川大学出版部 ・「子供の読書活動の推進に関する法律」(文部科学省)   <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/001.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/001.htm</a> ・「第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」について」(文部科学省) <a href="https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/mext_00072.html">https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/mext_00072.html</a> ・「第 6 次「学校図書館図書整備等 5 か年計画」」(文部科学省)   <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/mext_01751.html">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/mext_01751.html</a> ・「子どもの読書活動にかかる法律」   <a href="https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/children/post_225">https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/children/post_225</a> ・「子供の読書に関わる方のページ」(東京都立中央図書館)(URL:  <a href="https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/junior/">https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/junior/</a>) ・「5. 2. 子どもの読書活動推進」(国立国会図書館カレントウェアネス・ポータルサイト「図書館調査研究レポート NO.10「子どもの情報行動に関する調査研究」)   <a href="https://current.ndl.go.jp/node/8478">https://current.ndl.go.jp/node/8478</a> ・国際子ども図書館(国立国会図書館) <a href="https://www.kodomo.go.jp/">https://www.kodomo.go.jp/</a> ・「ブックリストを掲載する読み聞かせについての本」(国立国会図書館) <a href="https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/children/post_205">https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/children/post_205</a> ・「子どもの読書」(国立国会図書館) <a href="https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-203.php">https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-203.php</a> ・「子どもへの図書館サービスの状況(日本)」 <a href="https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/children/post_206">https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/children/post_206</a> ・「子どもの本のブックリスト(テーマ別)」(国立国会図書館) <a href="https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/children/booklist_theme">https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/children/booklist_theme</a> ・「子どもの本のブックリスト(児童書全般)」(国立国会図書館) <a href="https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/children/booklist">https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/children/booklist</a> ・日本アニメーション協会 </p>

hideko.net/animacion/dokusyo.html|「知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト」|https://www.bibliobattle.jp/home

履修上の注意・備考

読書教育論

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09242420	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2.0	学期	A2	時限	月 5&comma; 木 5
講義題目	読書と豊かな人間性 Reading and Human Development				

授業の目的・概要	近年、活字離れや電子書籍の流通などが叫ばれる中で、子どもたちの読書を巡る状況が大きく変化している。そこで、日本の読書行政、子どもの発達段階、読書の歴史、学校、海外の状況、出版流通、地域社会を総合的に把握し、日本の学校図書館が今後どのように読書やその教育と関わっていくべきかについて学ぶ。
授業計画	第1回: イントロダクション 第2回: 子どもの読書の現場 第3回: 日本の読書推進行政 第4回: 発達段階と読書 第5回: 近現代の日本における読書教育の歴史 第6回: 中間まとめ 第7回: 読書教育の手法 第8回: 読書教育の実践 第9回: 学校教育と読書教育 第10回: 図書資料の種類とその選択 第11回: 読書と新しいメディア 第12回: 地域社会との連携 第13回: まとめ
授業の方法	主に講義にて行う。
成績評価方法	授業参加度と試験
教科書	特になし
参考書	授業中に適宜指示する
履修上の注意・備考	読書と豊かな人間性
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09242421	担当教員	星加 良司、能智 正博、野崎 大地、熊谷 晋一郎、近藤 武夫、額賀 美紗子、小国 喜弘、東郷 史治、飯野 由里子、大塚 類		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	ダイバーシティ・インクルージョン概論 Introduction to the Theories of Diversity and Inclusion				

授業の目的・概要	<p>障害者・女性・性的マイノリティ・外国にルーツを持つ人々等、多様な背景や特性を持つ人々の包摂(ダイバーシティ・インクルージョン)の必要性が社会的な関心事となっている。一方で、現実を目を向ければ、多様性の包摂は道半ばであるばかりでなく、ヘイトやバックラッシュ等、差異や多様性をめぐる分断や格差が先鋭化する状況すら顕在化している。こうした「理念」と「現実」とのギャップを的確に分析し、それを架橋するための方略を探究する知性が、多様性を包摂する社会に生きる私たちには求められている。本授業では、マジョリティ中心に形成された環境・制度・規範等がマイノリティを周縁化するメカニズムに着目しつつ、様々な専門性を有する教員の講義を通じて、多様性が生きる社会を実現するための視点や実践的知見を提供する。</p>
授業計画	<p>第1回(4/5) ガイダンス 第2回(4/19) インクルーシブ教育とは(小国) 第3回(4/26) インクルーシブ教育とICT(近藤) 第4回(5/10) 多様性社会実現のためのパラリンピックの意義(河合(野崎)) 第5回(5/24) 身体機能の障害に立ち向かう科学技術(野崎) 第6回(5/31) 思春期の多様な自己実現を可能にする心の健康とメンタルヘルスリテラシー(東郷) 第7回(6/7) ナラティブと障害(能智) 第8回(6/14) 解釈的正義と当事者研究(熊谷) 第9回(6/21) 移民の子どもから考える日本社会の多様性(額賀) 第10回(6/28) DIと障害学(星加) 第11回(7/5) DIとクイア・アクティヴィズム(飯野) 第12回(7/12) クイア理論と障害学を架橋する(飯野) 第13回(7/19) 「多様性理解」とは何か(星加)</p>
授業の方法	<p>この授業は、ガイダンスも含めてオンラインで行います。初回から、時間までに zoom にアクセスするようにしてください。 zoom には氏名を記入して入室してください。途中で接続できなくなったときなどは再度接続するようにしてください。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行います。リアクションペーパーについては、オンライン講義の最後の10分に、ITC-LMSを用いて入力して貰う予定です。あまりに短い文章(例えば30字以内)は、0点とすることがあります。およそ200字前後を目安として、自らの考えをしっかりとまとめる機会として用いてください。提出は、当日内に御願います。</p>
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	ダイバーシティ・インクルージョン概論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09243101	担当教員	中村 高康		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 3
講義題目	教育社会学概論 Introduction to the Sociology of Education				

授業の目的・概要	教育現象を社会的に捉えるとは、どういうことか。なぜそれが必要なのか。現在の教育はいかなる状況にあるのか。この概論では、教育を対象とする社会学の基本的な理論や概念、実証的知見を学ぶことを通じて、教育をめぐる我々が直面している課題を理解することを目的とする。
授業計画	さしあたり以下の内容を予定している(若干の変更の可能性あり。初回講義時に説明する)。  ①イントロダクション・教育社会学とは何か ②教育社会学のパラダイム1 ③教育社会学のパラダイム2 ④社会の中で生まれる一属性・社会化・言語一 ⑤家庭の中で育つ一家族と教育一 ⑥ 学校に入る一近代化と教育投資一 ⑦学校の中で育つ1一学校の社会的機能一 ⑧学校の中で育つ2一教育内容・教育方法と社会一 ⑨学校の中で育つ3一学校安全・学校問題一 ⑩学校から労働へ一就職とキャリア一 ⑪次の世代へ一社会階層と教育一 ⑫ジェンダーと教育 ⑬まとめ:現代の教育を見る視点
授業の方法	リアクションペーパーやコメントメモを提出してもらい、それを前提にして、授業は議論と講義を組み合わせた形で行う。授業では挙手ないし指名によりできるだけ学生からの意見を募る。
成績評価方法	通常のリアクションペーパーおよびコメントメモ(随時)のほかに、学期末に期末レポートの提出を求める。成績は、リアクションペーパー他:期末レポート=40:60の比で評価する。授業への参加度も若干加味することがある。
教科書	特定の教科書は使用しない。必要な文献は授業時に適宜紹介する。
参考書	各回の授業に関連する参考文献を毎回の授業で提示する。 基礎的参考書としては、以下をあげておく。 中村高康・松岡亮二編(2021)『現場で使える教育社会学』ミネルヴァ書房 酒井朗・多賀太・中村高康編(2012)『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房 相澤真一ほか(2023)『これからの教育社会学』有斐閣 片山悠樹ほか(2017)『半径5メートルからの教育社会学』大月書店
履修上の注意・備考	教育社会学概論
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※4 参照※C 参照

時間割コード	09243102	担当教員	多喜 弘文		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 3
講義題目	高等教育概論 Introduction to Higher Education Studies				

授業の目的・概要	本講義は、高等教育の構造と機能についての理解を深めることを目標とする。基本的な概念・考え方の習得と、具体的な歴史と現状の検討を通じ、今ある高等教育を他でもあり得たものとして批判的に捉える視野を提供する。高等教育のあり方とそれを要請する教育外部の社会構造との相互作用に目を向けるため、異なる時代や異なる社会を取り上げて比較をおこなう。
授業計画	1. イントロダクション 2. 大学の歴史(1) 3. 大学の歴史(2) 4. 戦前日本の高等教育 5. 戦後日本の高等教育(1) 6. 戦後日本の高等教育(2) 7. 欧米における高等教育(1) 8. 欧米における高等教育(2) 9. 高等教育の段階移行論 10. 高等教育の選抜と配分機能 11. 高等教育と機会の不平等 12. 日本の高等教育システムの特徴と課題 13. 総括
授業の方法	主に講義形式でおこなうが、授業時には発言や議論への参加を求められることがある。受講者には、指定された内容についてのリアクションペーパー等を課す。
成績評価方法	平常点(40%)、期末レポート(60%)
教科書	文献は授業時に指示する。
参考書	教科書としてそのまま用いるわけではないが、以下の書籍を持っておくと受講にあたって便利である。 橋本鉦市・阿曾沼明裕編, 2021, 『よくわかる高等教育論』ミネルヴァ書房。 その他の文献は授業時に指示する。
履修上の注意・備考	高等教育概論
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09243103	担当教員	額賀 美紗子、萩巣 崇世、北村 友人		
単位数	2.0	学期	S1	時限	木 3&comma; 木 4
講義題目	比較教育学概論 Introduction to Comparative Education				

授業の目的・概要	<p>本講義の目的は、比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法、テーマについて理解し、比較教育学のテーマに関わる学校のフィールドワークや国際データの検討、ゲストスピーカーの講義と授業内討論を通じて学生が比較教育学の知識と方法論を習得することである。  講義は教育社会学を専攻する三名の教員が担当し、それぞれが専門とする研究領域(異文化間教育/教育開発)、地域(アメリカ/アジア諸国)、教育段階(幼児・初等教育/高等教育)、焦点(政策/実践)を紹介する。グローバリゼーションの進展の中で、比較教育学における研究テーマや分析視角の多様化が進んでいることについて理解を深めてもらいたい。  具体的には、比較教育学に含まれる以下の研究領域を取り上げる。①教育制度、学校文化、子育てといった具体的テーマに関する国際比較、②主に途上国における教育発展を扱う国際教育開発の理論と実践、③21世紀に向けた教育の新たなアプローチ、グローバル化と教育の関係、④人の国際移動に伴う教育の多文化化と移民生徒の学力保障、である。  なお、この授業科目は、教職課程の「教科に関する科目((社)地理学、(公)社会学)」に該当する。 </p>
授業計画	<p>第1週(4/11)担当:額賀 比較教育学とは何か  比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法について概観する。具体的なテーマに関するデータを検討しながら、国際比較研究の方法と意義について学ぶ。海外のゲストスピーカーを予定している。  第2週(4/18)担当:萩巣 比較教育学の中の国際教育開発 ①理論編 国際教育開発論について、比較教育学における意義と位置付け、課題と展望について概観する。特にカンボジアを事例として、国際教育開発が扱う研究課題や方法について理解を深めるとともに、価値観の押し付け論などの倫理的な問題についても考える。  第3週(4/25)担当:萩巣 比較教育学の中の国際教育開発 ②実践編 カンボジアで活動する日本のNGO「SALASUSU」より、代表の青木氏ほか2名をゲストスピーカーとし、国際教育開発の実践に携わることへの思いや葛藤、今後の展望などについてお話を伺う。SALASUSUは「かものはしプロジェクト」から派生した団体で、カンボジアにおいて人身売買の危険に晒されている女性や子どもに対して独自のライフスキル教育プログラムを提供している。こうした具体的な活動について知り、実践者と対話することで、翻って比較教育学や国際教育開発論を学ぶことの意味を考える機会としたい。  第4週(5/2 1コマのみ)担当:額賀 国際移動と教育 日本社会の多民族化・多文化化の状況について学び、異文化間教育学・比較教育学の視点から移民背景をもつ子どもたちの教育機会について考える。特にこうした子どもたちの「差異」が日本の教育現場においてどのようにまなざされ、政策的・実践的に対応されているかについて、国際比較の視点を交えながら批判的に考察する。  第5週(5/9)担当:額賀 外国籍の子どもの教育を受ける権利(横浜中華学校訪問) 日本には多くの外国人学校が存在し、外国籍だけではなく日本国籍の子どもがさまざまな理由から外国人学校を選択し、在籍している。しかし、その多くは学校教育法で定められた一条校ではないため持続的な運営に困難が生じやすく、地域社会や日本の一条校との間の関係構築が難しい場合がみられる。また、日本では外国籍の子どもに就学義務がないため、外国人学校に通う子どもの学ぶ権利は看過されがちである。この授業では横浜にある中華学校を訪問し、授業見学や生徒との交流を通じて外国人学校の存在意義や直面する困難について理解を深める。  第6週(5/16)担当:北村 比較教育学の国際的な視点からの捉え直し「比較教育学を国際的な視点から考える」というテーマのもと、比較教育学の可能性と課題について、グローバル化の影響を踏まえながら検討を加える。持続可能な社会の実現へ向けて、教育が果たすべき役割はどのようなものであるか、変容する「学び」のあり方という観点から検討を加える。「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連を中心に据えながら、多様な教育のあり方について論じる。  第7週(5/23)担当:北村 比較教育学の課題と展望 今学期のまとめとして、現在の比較教育学が直面している課題を整理し、今後の比較教育学のあり方を展望する。 </p>
授業の方法	講義とディスカッションを組み合わせる
成績評価方法	出席10%、毎回の授業におけるミニレポート課題(北村30%、額賀30%、萩巣30%)

<b>教科書</b>	<p>本講義は、3人の教員で担当しますが、北村が担当する回では、下記の書籍を教科書として使用します。『『教育グローバル化のダイナミズムーなぜ教育は国境を越えるのか』(ジョエル・スプリング著、北村友人監訳) <a href="https://www.toshindo-pub.com/book/91705/">https://www.toshindo-pub.com/book/91705/</a>   生協の書店に入荷されると思いますので、確認してください。</p>
<b>参考書</b>	<p>恒吉僚子・額賀美紗子 2022 『新グローバル時代に挑む日本の教育ー多文化社会を考える比較教育学の視   座』東京大学出版会。  額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子 2019 『移民から教育を考えるー子どもたちをとりまくグローバル時   代の課題』ナカニシヤ出版。  荻巣崇世・橋本憲之・川口純編 2021 『国際教育開発の挑戦ーこれからの教育・社会・理論』東信堂。 </p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>比較教育学概論 北村友人 : yuto.kitamura@gmail.com   額賀美紗子 : nukaga@p.u-tokyo.ac.jp   荻巣崇世 : ogisutak@p.u-tokyo.ac.jp</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	<p>教育職員免許法上の認定科目 (社)地理学(地誌を含む)(公)社会学</p>

時間割コード	09243201	担当教員	仁平 典宏、多喜 弘文、寺澤 さやか、百瀬 由璃絵		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 1
講義題目	<b>教育社会学調査実習 I</b> Training in Research Methods for the Sociology of Education I				

<b>授業の目的・概要</b>	この演習では、「教育社会学調査実習 II~IV」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習 I」では、「教育社会学調査実習 III、IV」で行う調査実習で必要とされる知識として、社会調査に関する基本的な考え方、量的調査や質的調査などの社会調査の方法、資料やデータの蒐集から分析までの諸過程、質問文の作り方などについて、テキストを用いて学習する。この実習を通じて、社会学的な認識のしかた、問題構成の方法、社会的現実の記述と分析の方法について学んで欲しい。
<b>授業計画</b>	1 ガイダンス。研究の進め方、文献の探し方、調査倫理について。 2 文献講読。社会調査の歴史。社会調査の目的、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法。 3 文献講読。調査の目的に応じた調査方法の選び方。標本調査の特徴。 4 文献講読。先行研究・先行調査などの探し方。 5 文献講読。社会学の理論と検証。理論仮説—作業仮説—検証。 6 文献講読。社会調査の目的。仮説—質問項目。 7 文献講読。変数のしくみ。データのしくみ。変数の合成のしかた。 8 文献講読。質問紙のしくみ。 9 文献講読。ワーディングの注意点。 10 調査対象に関する既存資料・官庁統計などについての報告。 11 文献講読。昨年度の調査実習報告書の批判的検討。 12 研究トピック別に3班に分かれて討議(「社会調査とプライバシー」等) 13 文献講読。今後の調査の流れについて留意点、課題、作業について説明。
<b>授業の方法</b>	演習
<b>成績評価方法</b>	平常点
<b>教科書</b>	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法〔第4版〕』(2021年、法律文化社)
<b>参考書</b>	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』(2014年、オーム社)
<b>履修上の注意・備考</b>	教育社会学調査実習 I 初回の授業は2限に行います。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09243202	担当教員	仁平 典宏、多喜 弘文、寺澤 さやか、百瀬 由璃絵		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 2
講義題目	<b>教育社会学調査実習Ⅲ</b> Training in Research Methods for the Sociology of Education III				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習Ⅲ」では、「教育社会学調査実習Ⅳ」で行う質問紙調査の準備段階として、調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・質問紙の作成などの作業を行う。
授業計画	4～5月：文献講読（実証研究、社会学の考え方、質問紙の作り方・ワーディング・変数のしくみ）、調査の企画、見本となる研究例や先行研究の検討。 6月～7月：仮説構成、調査票の作成（質問項目づくり、ワーディングの検討）。
授業の方法	1.調査のテーマ/領域:中学校の生活と学習に関する調査 2.調査の内容/概要:東京では国・私立中学や公立中高一貫校を目指す動きが目立ち、その一方で公立中学校にも学校選択制が導入されるなど従来とはまったく違った状況の中で、公立中学校のあり方自体が問われる時代となっている。この調査実習では、学校自身が本来実施予定であった学校評価調査を一部代行する形で、公立中学校の学校評価と大学の調査実習のコラボレートを意図したアンケート調査を実施することで、こうした実態を学生自らがとらえることを目標とする。 3.調査の範囲/対象:東京都 X 区立中学校生徒 4.主な調査項目:友人関係、家庭での過ごし方、学校観、授業に対する姿勢、遊び、生活意識、通塾、受験、地域交流など 5.データ収集の方法:質問紙調査 6.調査の実施時期・調査地:9～11月・東京都 X 区・区立中学校生徒を対象とする、学校通しの質問紙調査 7.調査における学生のかかわり/役割:受講学生一人ひとりが社会学的な仮説を立て、その検証に必要な質問をつくり、データ収集後は、コーディング作業、集計表の作成、分析、考察、レポートの作成まで行う。
成績評価方法	平常点
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法〔第4版〕』（2021年、法律文化社）
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』（2014年、オーム社） その他は、授業中に指示する。
履修上の注意・備考	教育社会学調査実習Ⅲ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（社）社会学（公）社会学

時間割コード	09243203	担当教員	仁平 典宏、多喜 弘文、寺澤 さやか、百瀬 由璃絵		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 1
講義題目	教育社会学調査実習 II Training in Research Methods for the Sociology of Education II				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習 I、III、IV」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習 II」では、「教育社会学調査実習 IV」で行う質問紙調査の分析に必要とされる知識として、サンプリングの方法、調査の実施方法、調査データの整理、統計の基礎知識や諸分析方法、統計ソフトの使用法などについて、テキスト等を用いて学習する。この実習を通して、社会学的な調査の方法と考え方を体得することをめざす。この実習を通じて、社会学的な認識のしかた、問題構成の方法、社会的現実の記述と分析の方法について学んで欲しい。
授業計画	1 文献講読。全数調査と標本調査、サンプリングの諸方法。本調査サンプルの特徴と留意点。 2 調査の実施方法に関する説明。調査対象への質問紙の発送・回収作業、質問紙に添付する、説明や依頼や調査実施方法に関する書類の書き方。 3 調査票の構成と、質問文を作成する上での方法と留意点に関する講義。 4 分析で主として用いる統計に関する確認の講義。(基礎統計量、クロス分析。エラボレーションなどの研究モデル。) 5 分析で用いる統計ソフト SPSS に関する講義。(データファイルのしくみ。基礎的な記述統計分析。変数の加工方法。) 6 調査データの整理方法に関する講義。(エディティング、コーディング、変数リストのしくみ、コーディングマニュアルの作り方。) 7 エディティング、コーディング作業。同上  8 調査データの整理方法に関する講義(1)。(回答状況に基づく新変数の作成。自由記述の処理。) 9 調査データの整理方法に関する講義(2)。(データクリーニングについて。) 10 調査データの整理方法に関する講義(3)。(基礎集計表の作成方法)  11 受講者全員で、基礎集計表に基づく、データの特徴に関する検討。 12 報告書を作成する際の留意点について。  13 担当教員、TA からデータ分析に関する個別指導。
授業の方法	演習
成績評価方法	平常点
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法[第4版]』(2021年、法律文化社)
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』(2014年、オーム社) その他は、授業中に指示する。
履修上の注意・備考	教育社会学調査実習 II
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09243204	担当教員	仁平 典宏、多喜 弘文、寺澤 さやか、百瀬 由璃絵		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 2
講義題目	教育社会学調査実習Ⅳ Training in Research Methods for the Sociology of Education IV				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習Ⅰ～Ⅲ」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習Ⅳ」では、「教育社会学調査実習Ⅲ」を受けて、質問文・質問紙の画定、サンプリング、質問紙調査の実施、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成を行う。この実習を通して、社会学的な調査の方法と考え方を体得することをめざす。
授業計画	10月：質問紙原案の確定作業、調査対象の責任者のチェックとそれをふまえての修正、質問紙最終稿の確定とレイアウトを含めた質問紙作成作業、質問紙発送作業。 11～12月：統計ソフト操作実習。変数リスト、コーディングマニュアル作成作業、エディティング、コーディング作業、データクリーニング作業、集計表作成作業。 1～2月：データクリーニング作業、集計表作成作業、データ分析作業と中間報告と検討、レポート作成、成果報告会。
授業の方法	1.調査のテーマ/領域:中学校の生活と学習に関する調査 2.調査の内容/概要:東京では国・私立中学や公立中高一貫校を目指す動きが目立ち、その一方で公立中学校にも学校選択制が導入されるなど従来とはまったく違った状況の中で、公立中学校のあり方自体が問われる時代となっている。この調査実習では、学校自身が本来実施予定であった学校評価調査を一部代行する形で、公立中学校の学校評価と大学の調査実習のコラボレートを意図したアンケート調査を実施することで、こうした実態を学生自らがとらえることを目標とする。 3.調査の範囲/対象:東京都 X 区立中学校生徒 4.主な調査項目:家庭での過ごし方、学校観、授業に対する姿勢、遊び、生活意識、通塾、受験、地域交流など 5.データ収集(現地調査)の方法:質問紙調査 6.調査の実施時期・調査地:9～11月・東京都 X 区・区立中学校生徒を対象とする、学校通しの調査 7.調査における学生のかかわり/役割:受講学生一人ひとりが社会学的な仮説を立て、その検証に必要な質問をつくり、データ収集後は、コーディング作業、集計表の作成、分析、考察、レポートの作成まで行う。
成績評価方法	平常点 最終レポート
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法〔第4版〕』(2021年、法律文化社)
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』(2014年、オーム社) その他は、授業中に指示する。
履修上の注意・備考	教育社会学調査実習Ⅳ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09243205	担当教員	中村 高康、荻巣 崇世、多喜 弘文、本田 由紀、額賀 美紗子、仁平 典宏		
単位数	2.0	学期	通年	時限	水 6
講義題目	比較教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education&comma; Comparative Education and Higher Education				

授業の目的・概要	各教員が第一回ゼミに説明する。
授業計画	各教員が第一回ゼミに説明する。
授業の方法	各教員が第一回ゼミに説明する。
成績評価方法	各教員が第一回ゼミに説明する。
教科書	各教員が第一回ゼミに説明する。
参考書	各教員が第一回ゼミに説明する。
履修上の注意・備考	比較教育社会学論文指導
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09243501	担当教員	中村 高康、荻巣 崇世、多喜 弘文、本田 由紀、額賀 美紗子、仁平 典宏		
単位数	2.0	学期	通年	時限	月 1
講義題目	比較教育社会学研究指導 Tutorial in Sociology of Education&comma; Comparative Education and Higher Education				

授業の目的・概要	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する。
授業計画	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
授業の方法	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
成績評価方法	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
教科書	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
参考書	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
履修上の注意・備考	比較教育社会学研究指導
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09244101	担当教員	牧野 篤
単位数	2.0	学期	S1
		時限	月 5&comma; 月 6
講義題目	社会教育論Ⅱ Theories of Adult Education II		

授業の目的・概要	<p>少子高齢化・人口減少、グローバル化などによる社会構造の大きな変容にともなって、人々の学びのあり方も変わることが迫られている。さらにコロナ禍にあって、この社会の底抜けが明らかとなっている。それは端的に、人々の孤立という現象として表面化している。改めて、人々が孤立しない社会のあり方を構想することが求められている。学校制度の基本的な原理と社会教育の特質を原理的に概観した上で、今日の社会変動の背景をとらえ、それらと生涯学習が課題化されることとの関係を把握する。さらに教育を可能とする「発達」概念のあり方について、それを近代産業社会の資本増殖のアナロジーからとらえ、新たな社会における自己のあり方を検討する。また、制度が構築されればされるほど、その網の目から抜け落ちる人々をどう「社会」につなぎ止めておくのか、「福祉」のあり方ともかかわらせて、議論したい。  本講義は、概ね以下の内容から構成される。Ⅰ. 近代産業社会と学校・社会教育・生涯学習、Ⅱ. 社会の構造的変動と教育システムの改編、Ⅲ. 揺らぐ自己と自我の形、Ⅳ. 〈いま〉の継起としての自己、Ⅴ. 発達する自己の一般理論生成し続ける、Ⅵ. 〈あいだ〉に生成する運動としての自己。  生涯学習時代における「学び」のあり方を考えるための基礎的な視点を養うとともに、受講者各個人が、自らの人生を主体的に考え、選択するとともに、この社会で学び続けることの意味を考え、自らの社会的な役割をとらえ課すことができるようになることを目的とする。  オンラインでの開講とする。オンラインで〈つながる〉ことのあり方についても、受講者とともに考えたい。  なお、授業途中であっても、新たな知見を得られた場合には、内容を組み換えることがありえる。</p>
授業計画	<p>概ね、以下のような内容から構成される。  1. 日本社会の変容と生涯学習  2. 学校の原理・選抜の原理  3. 〈いま〉の継起としての自己・再帰的ならざる人々から考える  4. 〈いま〉の継起としての自己・再帰的ならざる人々から考える  5. 〈いま〉の継起としての自己・再帰性のほころびと〈主体〉  6. 〈いま〉の継起としての自己・再帰性のほころびと〈主体〉  7. 〈いま〉の継起としての自己・再帰性のほころびと〈主体〉  8. 発達する自己の一般理論・資本増殖のアナロジーとして  9. 発達する自己の一般理論・資本増殖のアナロジーとして  10. 発達する自己の一般理論・資本増殖のアナロジーとして  11. 発達する自己の一般理論・事後性と過剰性  12. 〈あいだ〉に生成する運動としての自己  13. 〈あいだ〉に生成する運動としての自己  14. 〈わたし〉と〈わたしたち〉・〈ことば〉が生み出す自己  15. 〈学び〉を再定位する  なお、授業内容は授業の進捗および担当者の議論の進展によって組み換える。</p>
授業の方法	オンライン開講とする。UTAS および ITC-LMS 上でリンク URL を受講者に伝える。
成績評価方法	適宜レポートを課す。
教科書	牧野篤『発達する自己の虚構—教育を可能とする概念をとらえ返す』(東京大学出版会、2021 年)
参考書	以下のものを参照する。  牧野篤『認められたい欲望と過剰な自分語り—そして居合わせた他者・過去とともにある私へ』(東京大学出版会、2011 年)  牧野篤『生きることとしての学び—自生する地域コミュニティと共変化する人々』(東京大学出版会、2014 年)  牧野篤『社会づくりとしての学び—信頼を贈りあい、当事者性を復活する運動』(東京大学出版会、2018 年)  牧野篤(編著)『人生 100 年時代の多世代共生—「学び」によるコミュニティの設計と実装』(東京大学出版会、2020 年)  なお、参考書は本来であれば購入し、熟読して欲しいが、いずれも高価なので図書館などで読んでおくとよい。
履修上の注意・備考	社会教育論Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09244102	担当教員	北村 友人、荻巣 崇世、額賀 美紗子		
単位数	2.0	学期	S1	時限	木 3&comma; 木 4
講義題目	比較教育学概論 Introduction to Comparative Education				

授業の目的・概要	<p>本講義の目的は、比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法、テーマについて理解し、比較教育学のテーマに関わる学校のフィールドワークや国際データの検討、ゲストスピーカーの講義と授業内討論を通じて学生が比較教育学の知識と方法論を習得することである。  講義は教育社会学を専攻する三名の教員が担当し、それぞれが専門とする研究領域(異文化間教育/教育開発)、地域(アメリカ/アジア諸国)、教育段階(幼児・初等教育/高等教育)、焦点(政策/実践)を紹介する。グローバリゼーションの進展の中で、比較教育学における研究テーマや分析視角の多様化が進んでいることについて理解を深めてもらいたい。  具体的には、比較教育学に含まれる以下の研究領域を取り上げる。①教育制度、学校文化、子育てといった具体的テーマに関する国際比較、②主に途上国における教育発展を扱う国際教育開発の理論と実践、③21世紀に向けた教育の新たなアプローチ、グローバル化と教育の関係、④人の国際移動に伴う教育の多文化化と移民生徒の学力保障、である。  なお、この授業科目は、教職課程の「教科に関する科目((社)地理学、(公)社会学)」に該当する。 </p>
授業計画	<p>第1週(4/11)担当:額賀 比較教育学とは何か  比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法について概観する。具体的なテーマに関するデータを検討しながら、国際比較研究の方法と意義について学ぶ。海外のゲストスピーカーを予定している。  第2週(4/18)担当:荻巣 比較教育学の中の国際教育開発 ①理論編 国際教育開発論について、比較教育学における意義と位置付け、課題と展望について概観する。特にカンボジアを事例として、国際教育開発が扱う研究課題や方法について理解を深めるとともに、価値観の押し付け論などの倫理的な問題についても考える。  第3週(4/25)担当:荻巣 比較教育学の中の国際教育開発 ②実践編 カンボジアで活動する日本のNGO「SALASUSU」より、代表の青木氏ほか2名をゲストスピーカーとし、国際教育開発の実践に携わることへの思いや葛藤、今後の展望などについてお話を伺う。SALASUSUは「かものはしプロジェクト」から派生した団体で、カンボジアにおいて人身売買の危険に晒されている女性や子どもに対して独自のライフスキル教育プログラムを提供している。こうした具体的な活動について知り、実践者と対話することで、翻って比較教育学や国際教育開発論を学ぶことの意味を考える機会としたい。  第4週(5/2 1コマのみ)担当:額賀 国際移動と教育 日本社会の多民族化・多文化化の状況について学び、異文化間教育学・比較教育学の視点から移民背景をもつ子どもたちの教育機会について考える。特にこうした子どもたちの「差異」が日本の教育現場においてどのようにまなざされ、政策的・実践的に対応されているかについて、国際比較の視点を交えながら批判的に考察する。  第5週(5/9)担当:額賀 外国籍の子どもの教育を受ける権利(横浜中華学校訪問) 日本には多くの外国人学校が存在し、外国籍だけではなく日本国籍の子どもがさまざまな理由から外国人学校を選択し、在籍している。しかし、その多くは学校教育法で定められた一条校ではないため持続的な運営に困難が生じやすく、地域社会や日本の一条校との間の関係構築が難しい場合がみられる。また、日本では外国籍の子どもに就学義務がないため、外国人学校に通う子どもの学ぶ権利は看過されがちである。この授業では横浜にある中華学校を訪問し、授業見学や生徒との交流を通じて外国人学校の存在意義や直面する困難について理解を深める。  第6週(5/16)担当:北村 比較教育学の国際的な視点からの捉え直し 「比較教育学を国際的な視点から考える」というテーマのもと、比較教育学の可能性と課題について、グローバル化の影響を踏まえながら検討を加える。持続可能な社会の実現へ向けて、教育が果たすべき役割はどのようなものであるか、変容する「学び」のあり方という観点から検討を加える。「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連を中心に据えながら、多様な教育のあり方について論じる。  第7週(5/23)担当:北村 比較教育学の課題と展望 今学期のまとめとして、現在の比較教育学が直面している課題を整理し、今後の比較教育学のあり方を展望する。 </p>
授業の方法	講義とディスカッションを組み合わせる
成績評価方法	出席10%、毎回の授業におけるミニレポート課題(北村30%、額賀30%、荻巣30%)

<b>教科書</b>	<p>本講義は、3 人の教員で担当しますが、北村が担当する回では、下記の書籍を教科書として使用します。『『教育グローバル化のダイナミズムーなぜ教育は国境を越えるのか』(ジョエル・スプリング著、北村友人監訳) <a href="https://www.toshindo-pub.com/book/91705/">https://www.toshindo-pub.com/book/91705/</a>生協の書店に入荷されると思いますので、確認してください。</p>
<b>参考書</b>	<p>恒吉僚子・額賀美紗子 2022 『新グローバル時代に挑む日本の教育ー多文化社会を考える比較教育学の視   座』東京大学出版会。 額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子 2019 『移民から教育を考えるー子どもたちをとりまくグローバル時   代の課題』ナカニシヤ出版。 荻巣崇世・橋本憲之・川口純編 2021 『国際教育開発の挑戦ーこれからの教育・社会・理論』東信堂。 </p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>比較教育学概論 北村友人 : yuto.kitamura@gmail.com   額賀美紗子 : nukaga@p.u-tokyo.ac.jp   荻巣崇世 : ogisutak@p.u-tokyo.ac.jp</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	<p>教育職員免許法上の認定科目 (社)地理学(地誌を含む)(公)社会学</p>

時間割コード	09244103	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2.0	学期	S1	時限	火 5&comma; 金 5
講義題目	情報資料論 Information Media				

授業の目的・概要	図書館が扱う情報資源の範囲は年々広がっている。本講義では、そういった幅広い情報資源をまず概観し、それらがどのような性質を持っており、図書館においてどのような意義を持つのかを明らかにする。その上で、図書館はどのように情報資源を収集、蓄積、維持、発展させていくべきであり、また実際の現場において情報資源はどのように扱われているのかという図書館におけるコレクション形成の理論と実際を見ていく。
授業計画	第1回 インTRODakション、情報の性質  第2回 情報資源の歴史  第3回 情報資源の出版と流通  第4回 印刷資料  第5回 非印刷資料  第6回 電子資料、ネットワーク資料  第7回 中間まとめ  第8回 地域資料、行政資料、灰色文献  第9回 人文科学、社会科学分野の情報資源  第10回 科学技術分野の情報資源  第11回 コレクション形成の理論  第12回 コレクション形成の実際  第13回 まとめ
授業の方法	講義による。
成績評価方法	試験（40%×2）  リアクションペーパーの提出（20%）
教科書	特になし。
参考書	講義中に指示する。
履修上の注意・備考	情報資料論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09244104	担当教員	浅井 幸子		
単位数	2.0	学期	S2	時限	火 3&comma; 火 4
講義題目	<b>教職論</b> Introduction to Research on Teacher Development				

<b>授業の目的・概要</b>	教師の仕事に多様な側面からアプローチし、その複雑な構造を理解する。とりわけ教師の仕事の中心である授業の経験に焦点をあてる。教員免許の取得を目指す履修者には、進路選択を考えるための知識と情報を提供する。
<b>授業計画</b>	授業の流れは以下のように予定している。各回のトピックは授業の進行の状況に従って変更することもある。 1回 ガイダンス 2回 変容する社会の教師(1) 転換期の学校 3回 変容する社会の教師(2) 知識社会の学校と教師 4回 教師の知識(1) 資質と知識 5回 教師の知識(2) 教師の実践的思考様式 6回 教師の同僚性と共同体(1) 教師の同僚性 7回 教師の同僚性と共同体(2) 専門家共同体 8回 教師と学校の責任(1) 教師のヴァルネラビリティ 9回 教師と学校の責任(2) 教師と学校の責任 10回 日本の授業研究の歴史(1) 授業研究の視点 11回 日本の授業研究の歴史(2) 授業研究の歴史 12回 専門性と専門職性(1) 教師の専門職性 13回 専門性と専門職性(2) 反省的实践家としての教師 14回 カリキュラムのデザイン(1) カリキュラムの概念 15回 カリキュラムのデザイン(2) カリキュラムの変化   15回 まとめ
<b>授業の方法</b>	講義を中心に、具体的な課題に即したグループディスカッションを行う。
<b>成績評価方法</b>	出席と課題レポートで評価する。
<b>教科書</b>	特になし。
<b>参考書</b>	秋田喜代美、佐藤学編著『新しい時代の教職入門(改訂版)』有斐閣、2015年。 そのほか、授業中に適宜紹介する。
<b>履修上の注意・備考</b>	教職論 特になし。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照※B 参照

時間割コード	09244105	担当教員	渡辺 貴裕		
単位数	2.0	学期	A1	時限	月 5&comma; 月 6
講義題目	教育方法論 Teaching Methods				

授業の目的・概要	具体的な方法論なしに教育目標を実現することはできない。本講義では、教育方法に関する理論的基盤への理解を深めるとともに、自らが教師として授業を行い専門的発達を遂げるための実践的力の土台を形成することを目指す。 次の3つの内容が柱となる。 ・学ぶとはどういうことか。 ・学習を促す授業のあり方はどういうものか。 ・教師は実践からどのように学び成長していくのか。
授業計画	1. 実践記録から学ぶ 2. 教育実践の法則性と固有性 3. 海外の実践事例から学ぶ 4. 学習観の転換 5. 子どもの「間違い」をどう捉えるか 6. 教科内容と教材 7. 教師が発する言葉 8. 協同学習の意義と技法 9. 自律的な学習 10. ファシリテーターとしての教師 11. 授業をめぐる対話と省察 12. ミニ模擬授業の実施 13. ミニ模擬授業の検討会 14. 省察を通じた教師の成長 15. 教師による実践研究
授業の方法	グループワークを多用する。積極的な参加が不可欠である。
成績評価方法	定期試験は行わず、授業中に出题する課題をもって評価を行う。 出席が授業回数の3分の2に満たない場合、原則として評価の対象外とする。
教科書	指定しない。
参考書	渡辺貴裕『授業づくりの考え方 ―小学校の模擬授業とリフレクションで学ぶ―』くろしお出版、2019年 フレット・コルトハーヘン『教師教育学 ―理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ―』学文社、2010年 その他、授業中に適宜指示する。
履修上の注意・備考	教育方法論
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照※J 参照

時間割コード	09244106	担当教員	上野 正道		
単位数	2.0	学期	A2	時限	集中
講義題目	教育課程論 Curriculum Studies				

授業の目的・概要	現代のグローバル時代において、学校教育は大きな転換点を迎えている。この科目では、教育課程の理論とその実践的課題を整理して検討し、教育課程の過去・現在・未来について吟味し探究することを目的にする。特に、民主主義と公共性を基盤にした学校改革の観点から、教育課程を構成する授業や学力、教師といった主題にアプローチするとともに、想像的なアートと学びを中心とする教育課程についても取り上げることとする。また、アメリカ、ヨーロッパ、アジア諸国の教育についても紹介する。それによって、教育課程とは何か、授業と学びをどのように創造するか、学校をどのように改革するか、といったテーマに迫ることとする。
授業計画	この授業は、Zoom のリアルタイムとオンデマンドの動画配信の両方を使ったオンライン授業を予定しています。集中講義の日程は後日、連絡いたします。  第1回 ガイダンス 教育課程とは何か 第2回 学校と教育課程の現代史 第3回 グローバル時代の学校と教育課程 第4回 フィードバックとディスカッション 第5回 近代日本の学校と教育課程 第6回 西洋近代の学校と教育課程 第7回 新教育から現代の教育課程へ 第8回 フィードバックとディスカッション 第9回 アート教育とカリキュラム 第10回 シティズンシップ教育とカリキュラム 第11回 シティズンシップ教育とカリキュラム 第12回 教職の専門性と教育課程 第13回 まとめ
授業の方法	講義形式
成績評価方法	平常点とレポートによる
教科書	上野正道『民主主義への教育——民主主義への教育』東京大学出版会、2013年 (教科書は、東大生協本郷書籍部で販売しています。授業で使用しますので、初回までに購入し準備してください。)
参考書	上野正道他『東アジアの未来をひらく学校改革』北大路書房、2014年 上野正道『ジョン・デューイ——民主主義と教育の哲学』岩波新書、2022年
履修上の注意・備考	教育課程論
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照※F 参照

時間割コード	09244201	担当教員	牧野 篤
単位数	2.0	学期	S1
		時限	火 3&comma; 火 4
講義題目	社会教育学演習 I Seminar in Adult and Lifelong Education I		

授業の目的・概要	<p>社会教育・生涯学習を専門的に学ぼうとする受講者に、教育や学びが広く人が社会の中で生きようすることに深く関わるものであることを理解してもらうために、社会的な課題に関わるトピックスや議論を取り上げて、文献を検討するとともに、地域の住民アクターとのかかわりを通して、地域社会で人が生きることとその課題を体験的に考察することを目的とする。 とくに、近年、人生 100 年時代を迎え、学校のみならず、社会教育・生涯学習を含めた教育体系の総合行政への組み換えが進められており、その焦点はコミュニティである。新たな教育改革の方向として「地域学校協働活動」が提示され、法律の改正などを経て、コミュニティスクールの設置が努力義務化されており、教員にとっても地域社会との連携及び自らの教育実践を地域社会に開くことが求められる。また、社会教育施設の一般行政への移管が特例的に認められるなど、従来の教育行政と一般行政の区分が、社会教育・生涯学習の領域から組み換えられ、融合へと向かっている。 本演習では、このような変化が求められるに至った政策的な経緯、とくに 1980 年代半ばの臨時教育審議会以降の教育政策の生涯学習への転回と「社会に開かれた教育課程」・コミュニティスクールの政策化、さらにコミュニティが政策的な焦点となる事態を、その社会的な背景を含めて理解し、受講者が自分なりの教育観・学習観を持つことを目標とする。 </p>
授業計画	<p>本演習は文献講読を通して、住民の学びと社会活動との関係の基礎を学ぶとともに、住民アクターとのかかわりを通して、人々の活動に関与しつつ、住民が地域社会で活動することの意味を考察する。 本演習では、地域社会への関与に先立って、今日の日本の地域社会が抱える諸課題をとらえるために、関連文献の講読を進める。取り扱う文献は、グローバル化の進展にともなう雇用構造の変化、少子高齢化がもたらす社会構造の変化、過疎化・高齢化に悩む地域社会のありよう、「無縁社会」と呼ばれる社会の出現、さらにこれらの社会にあって進められる「定常型社会」など新たな社会のあり方の模索など関するものであり、それらを教育と学習という実践の場においてどう受け止めるのかを考える。 その後、近年の教育改革の方向として示された地域学校協働をとらえるために、1980 年代半ばの臨時教育審議会における議論、その後の教育政策の動向、そしてコミュニティスクール・地域学校協働活動の提起と実施にいたる議論を、関係の文献にあたることでとらえるとともに、その社会的な背景を理解し、教育政策の展開と社会の要請、さらにその個人への影響をとらえ、受講者自らの教育観・学習観を形成することを目的とする。 授業期間中にエクスカージョンなどの実習を予定している。 コロナ禍の状況によっては、オンラインに切り換えることがあり得る。</p>
授業の方法	<p>演習形式とし、とくにワークショップなどの手法を取り入れる。受講者の積極的な発言を期待する。 エクスカージョンなど実習の後には、報告書の作成を進めるため、自覚的な探求的態度で臨むことが求められる。ただし、コロナ禍の状況下、エクスカージョンなどの実習は困難となる可能性も高いため、その場合には、文献研究を中心に授業を構成する。 基本的に対面とし、オンラインでの聴講も可とする。オンラインの場合には、リンク URL を UTAS 上で連絡する。 なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、オンライン開講に切り換える可能性もある。また、対面による参加に不安を覚える場合には、オンラインでの参加を認めるので、事前に連絡をすること。 </p>
成績評価方法	<p>授業への参加とときどきのレポートにもとづき評価する。</p>
教科書	<p>牧野篤編著『公民館を再発明するー小さな社会をたくさんつくる・3ー』、東京大学出版会、2024 年</p>
参考書	<p>牧野篤『生きることとしての学びー2010 年代・自生する地域コミュニティと共変化する人々ー』(東京大学出版会、2017 年) 牧野篤『社会づくりとしての学びー信頼を贈りあい、当事者性を復活する運動』(東京大学出版会、2018 年) 牧野篤『公民館はどう語られてきたのかー小さな社会をたくさんつくる・1』(東京大学出版会、2018 年) 牧野篤『公民館をどう実践してゆくのかー小さな社会をたくさんつくる・2』(東京大学出版会、2019 年) 牧野篤『人生 100 年時代の多世代共生ー「学び」によるコミュニティの設計と実装』(東京大学出版会、2020 年) など、適宜紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>社会教育学演習 I</p>



時間割コード	09244202	担当教員	村上 祐介		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 3
講義題目	教育行政・学校経営演習Ⅳ Seminar in Educational Administration and School Management Ⅳ				

授業の目的・概要	この授業では、教育行政、教育政策、学校経営に関する基本的な知識や概念について、教科書等の文献講読を通じて理解を深めることを目的とする。2 年次開講の概論科目「教育行財政学」の教育行財政分野の内容をより深める、もしくは概論では十分に扱えなかったが重要なトピックを取り上げる。
授業計画	1. 授業に関するガイダンス  第 I 部 国と自治体の教育行財政 2. 国の教育行政組織 3. 自治体の教育行政組織 4. 教育行政の政府間関係 5. 公教育財政支出の現状と課題 6. 教育費の私費負担問題  第 II 部 学校と教職員に関する行政・制度 7. 教育課程行政と教科書 8. 学校の人材マネジメント 9. 教職員の働き方改革  第 III 部 学校の組織と運営 10. 「令和の日本型学校教育」と学校経営 11. 学校の組織・運営と文化 12. 学校のガバナンス改革  13. 授業のまとめ
授業の方法	・授業は基本的に対面とオンライン併用(ハイフレックス)で行うが、オンラインのみの場合もありうる。 ・指定された文献(1 回につき 40~50 頁程度)と、回によって追加文献を指定する。  上記の文献をあらかじめ読み、授業開始時までに A4 で半分から 1 枚程度のコメントを LMS(学習管理システム)にアップロードする。 ・また、報告者を設け、報告者は 4000 字以上のコメントを執筆し、それに基づいて授業内で報告を行う。ただし受講者数によっては報告者を設けないことがある。 ・授業では報告や参加者のコメントをもとに討論を進める。
成績評価方法	・毎回のコメント、報告または期末レポート、授業への参加度により評価を行う。 ・授業回数の 3 分の 2 以上でコメントを提出し、かつ、(報告を課す場合は)報告を 1 回以上行うことを単位取得の要件とする。 ・報告を課さない場合は、期末レポート課題の提出を行う。 ・欠席した分については、2 週間以内に 2000 字以上のコメントペーパーを提出すれば、3 回までは出席とみなす。
教科書	初回の授業で指示する。
参考書	村上祐介・勝野正章編著(2024)『教育行政と学校経営(改訂新版)』放送大学教育振興会 青木栄一・川上泰彦編著(2019)『教育の行政・政治・経営(改訂版)』放送大学教育振興会 村上祐介・橋野晶寛(2020)『教育政策・行政の考え方』有斐閣
履修上の注意・備考	教育行政・学校経営演習Ⅳ
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09244203	担当教員	藤江 康彦、浅井 幸子		
単位数	2.0	学期	A1	時限	火 1&comma; 火 2
講義題目	教育方法学演習Ⅱ Seminar of Research on Teaching and Curriculum Ⅱ				

授業の目的・概要	[授業の目標]この授業では、保育・幼児教育施設や小学校、中学校、高等学校などの教育の現場におけるフィールドワークを通して、教育実践を観察することの基礎を身につける。具体的には下記の通りである。Ⅰ1. 課題を探究する過程で、記録の採取の仕方、フィールドワークの仕方を身につける。Ⅱ2. 採取した記録のまとめ方やプレゼンテーションの仕方を身につける。Ⅲ[授業の概要]教育方法学は、特定の親学問をもたず、教育事象に対する臨床性やアプローチの学際性を特徴とする。教育実践に関するあらゆる事柄が研究対象となっているが、主として研究が進められてきたのは、授業研究、カリキュラム研究、教育内容研究、教育評価研究、教師研究、である。この授業では学校において授業観察を中心としたフィールドワークを行う。教育実践への課題意識や興味関心を基盤としたグループに分かれて探究し、報告会を行う。
授業計画	第1回 教育実践の課題 ガイダンス 第2回 教育実践の研究(1)フィールドワーク① 第3回 教育実践の研究(2)報告会① 第4回 教育実践の研究(3)フィールドワーク② 第5回 教育実践の研究(4)報告会② 第6回 教育実践の研究(5)フィールドワーク③ 第7回 教育実践の研究(6)報告会③
授業の方法	主として学校におけるフィールドワークの方法を学び、調査とその報告を行う。
成績評価方法	授業への参加状況とレポートの提出状況によって総合的に評価する。 用意された活動のすべてに参加した者のみを成績評価の対象とする。
教科書	指定しない。
参考書	秋田喜代美・藤江康彦(編)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』東京図書 秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの質的研究法:15の事例にみる学校教育実践研究』東京図書 秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの教師研究:20の事例にみる教師研究方法論』東京図書 浅井幸子ほか(編)『教師の声を聴く:教職のジェンダー研究からフェミニズム教育学へ』学文社  稲垣忠彦・佐藤学(著)『授業研究入門』岩波書店 佐藤学『教育方法学』岩波書店 秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会  このほか、授業中に紹介する。
履修上の注意・備考	教育方法学演習Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09244501	担当教員	北村 友人、橋野 晶寛、河村 俊太郎、宮田 玲、影浦 峽、勝野 正章、牧野 篤、李 正連、村上 祐介、藤江 康彦、浅井 幸子、新藤 浩伸		
単位数	2.0	学期	通年	時限	木 6
講義題目	<b>教育実践・政策学研究指導</b> Tutorial in Educational Administration and Adult Education				

授業の目的・概要	教育実践・政策学コース所属学生のために、教育実践・政策学(教育行政学・社会教育学・図書館情報学・学校教育学)に関する卒業論文の執筆指導を行なう。
授業計画	以下の点について、報告・指導を行う。 1) 卒業論文の趣旨・書き方 2) テーマ選択 3) 研究方法 4) 研究成果のまとめ方 夏学期に1度、全体検討会を持つ。
授業の方法	各自が卒業論文に向けた研究に取り組み、それに基づいて議論を行なう。
成績評価方法	平常点による。
教科書	特になし。
参考書	テーマに応じて文献紹介を行う。
履修上の注意・備考	教育実践・政策学研究指導
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245301	担当教員	能智 正博
単位数	2.0	学期	S1S2
講義題目	質的心理学研究法 I Research Methods for Qualitative Psychology I		

授業の目的・概要	質的研究のデータ収集には、大きく分けて、自由度の高いインタビューを用いる方法と自然場面での観察を用いる方法が区別される。この授業( I )では前者、特に、インタビューを通じた対象者の自己語り(self -narrative)の収集およびその整理・分析の方法に注目し、実習形式で授業を進める。インタビューは、一見誰にでもできる簡単なデータ収集法と思われがちであるが、実証研究として質の高いインタビューとなると話は別であるし、そこで得られた質的データをうまく分析することはさらに難しい作業とも言える。本授業では、講義とエクササイズを通じてインタビューとその結果の分析の技能を高める機会を提供する。
授業計画	1)イントロダクション 2)質的研究とはどういうものか 3)質的研究の背景(1):現象学的視点 4)質的研究の背景(2):社会構築主義的視点 5)質的研究の背景(3):ナラティブの概念 6)インタビュー意味と質  7)インタビューの計画 8)インタビューの実施と倫理  9)質的データの分析とは 10)カテゴリー分析1 11)カテゴリー分析2 12)カテゴリー分析3  13)質的研究の展開 14)成果発表
授業の方法	学期の前半では、質的研究の基盤となるものの見方・考え方に簡単に触れつつ、インタビューを中心にテキスト(データ)収集の手続と整理の方法について、教室内でのエクササイズも交えながら授業を進めていく。質の高い語りのデータを収集するための手続きについて、理解を深めることが主な目標である。  それと並行して、ライフストーリーに関するグループプロジェクトを進める。目標は個人のライフストーリーとその背景を分析することである。  学期の後半では、収集してきた質的なデータを読解したり分析したりする手続きの概要を学ぶ。収集したデータについてグループで議論する時間を、授業のなかでもなるべくもちたいと思っている。
成績評価方法	出席と授業への参加(50%):毎回授業の終わりにリアクションシートに記入してもらい、それを出席点とする。  最終レポート(50%):インタビューをもとに、グループで1つ提出する。形式その他の詳細は、後日授業のなかでお知らせする。
教科書	特に使用しないが、参考書の最初にあげている能智(2011)とクヴァール(2016/2007)は準教科書的な位置づけである。
参考書	能智正博『臨床心理学をまなぶ6 質的研究法』(東京大学出版会, 2011) クヴァール&comma; S. (能智・徳田訳)『質的研究のための「インター・ビュー」』(新曜社, 2016) 日本質的心理学会『質的心理学研究』(新曜社, 2002~) レヴィット&comma; H. M. (能智他訳)『心理学における質的研究の論文作法』(新曜社, 2023)
履修上の注意・備考	質的心理学研究法 I この授業は、「バリアフリー教育プログラム」の一般科目の1つでもある。 本授業は、教職課程の科目内容に関わる科目(公民)となっている。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学

時間割コード	09245302	担当教員	針生 悦子		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 1
講義題目	発達心理学演習 Seminar in Developmental Psychology				

授業の目的・概要	研究論文・専門書を読み、批判的に検討する作業を通じて、発達心理学の基本的な問題やその研究手法について学ぶ。
授業計画	初回授業義に授業で取り上げる文献を指示し、割り当てを決め、そのあとは担当者が割り当てられた文献について紹介し、その内容について討論するかたちで進める。
授業の方法	演習形式
成績評価方法	授業での発表、出席、討論への参加、最終レポート
教科書	初回授業時に指示する
参考書	初回授業時に指示する
履修上の注意・備考	発達心理学演習
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245303	担当教員	藤村 宣之		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 2
講義題目	教授・学習心理学演習 I Seminar on Psychology of Learning and Instruction I				

授業の目的・概要	教授・学習心理学やそれに関連する認知発達心理学の研究手法と最近の知見について理解を深めることを目標とする。先行研究の文献検討や、授業時の映像やワークシートの心理学的分析などを通じて、教授・学習心理学や認知発達心理学の知見と方法論(実験研究, 実践研究, 調査研究, 面接研究など)について学ぶ。
授業計画	第 1 回: イントロダクション: 教授・学習心理学に関する諸概念 第 2 回: 教授・学習心理学, 認知発達心理学の研究手法 第 3~7 回: 教授・学習心理学, 認知発達心理学に関する先行研究の文献検討 第 8~10 回: 授業時の映像視聴, 心理学的視点による映像分析・ワークシート分析 第 11~13 回: 分析にもとづく心理学的考察および関連する文献の検討
授業の方法	教授・学習心理学や認知発達心理学に関する文献検討では、『教育心理学研究』、『発達心理学研究』、『教授学習心理学研究』などの学術誌に掲載されている, 教授・学習心理学分野や児童期・青年期の認知発達心理学分野の最近の論文を対象とし, 各論文の担当者を決めて担当者がレポートを行い, 参加者全員で検討・討論を行う。また, 授業時の映像分析・ワークシート分析では, 授業時の映像を視聴して発話等の心理学的分析を行うと同時に, 児童・生徒のワークシートの記述内容について心理学の視点から分析を行う。さらに分析にもとづいた心理学的考察を行うと同時に先行研究との関連性などについて検討する。
成績評価方法	授業への参加・発表状況, および最終レポートにより行う。
教科書	『協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために』(藤村宣之・橋春菜・ 名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著, ミネルヴァ書房, 2018 年)
参考書	『数学的・科学的リテラシーの心理学—子どもの学力はどう高まるか—』(藤村宣之著, 有斐閣, 2012 年) 『発達心理学—周りの世界と関わりながら人はいかに育つか—(第 2 版)』(藤村宣之編著, ミネルヴァ書房, 2019 年)
履修上の注意・備考	教授・学習心理学演習 I 第1回の授業は対面で行う。以降の予定については, 後日, 連絡する。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245304	担当教員	清水 大地、岡田 猛		
単位数	2.0	学期	A1	時限	集中
講義題目	身体性と創造性 Creativity and Embodiment				

授業の目的・概要	この授業では、心理学論文のレビュー・ペアワークと芸術表現の実践体験を通し、我々の身体、思考、創造との関連に関する知識・理解を獲得する。心理学論文のレビュー・ペアワークに関しては、身体と思考・創造との関連を検討した心理学論文を学生がレビューし、ペアとなりその内容を全体に発表・共有し、上記の関連に関する概念的な理解を深める。芸術表現の実践体験に関しては、例えば、ダンスや音楽制作を通してある特定の記号表象のイメージや環境に存在する音の理解を深める体験に取り組み、我々の身体がいかに思考・創造に影響を与え、また思考・創造が身体に影響を与えうるか、その関連の理解を経験的に深めていく。以上の概念的・経験的活動双方から身体、思考、創造の理解を深め、その理解を最後に発表・共有することが求められる。以上の異なる体験の活動を通し、身体、思考、創造に関する包括的理解を深めると共に、芸術表現に関する心理学的知見を得ることを目指す。
授業計画	全3回の授業 第1回:11/25(月)3~5限:オリエンテーション、ダンスによる表現実践体験 第2回:11/26(火)1~5限:論文レビュー・発表、音楽制作による表現実践体験 第3回:11/27(水)1~5限:グループ発表/パフォーマンス
授業の方法	身体と思考・創造との関連を取り上げた心理学論文のレビュー・発表・ディスカッションを通して上記の関連についての概念的な理解を深める。加えて、身体と思考・創造とが深く結びついた芸術表現体験への主体的な参加・共有・ディスカッションを通して上記の関連についての経験的・演習的理解を深める。受講生は上記の発表やディスカッションへの活発な参加が求められる。
成績評価方法	最終発表ならびに通常授業の出席・積極的な参加・発表とディスカッションを重視して評価を付ける。
教科書	資料は逐次配布する。
参考書	「創造的認知」ロナルド・A.フィンケ、トーマス・B.ウード、森北出版 「知の創生—身体性認知科学への招待」ロルフ・ファイファー、クリスチャン・シャイアー、共立出版
履修上の注意・備考	身体性と創造性 心理学論文を読んだことがある人・ない人、表現(ダンス・音楽制作等)を行ったことがある人・ない人といった経験の有無は全く問いません。論文を読んだ経験や表現の経験がある人は本授業を含む今までの体験が、無い人は本授業で初めて経験する体験がいかなるものであるのか、それ自体を深く考え、周囲の方と共有してみましょう。それらを通して理解・解釈が深まっていく豊かな過程を体験して欲しいと考えています。  持参物: 仔細は授業回ごとに指示。論文を読む・発表する等の作業が可能なPC等の個人端末、動きやすい服装
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245305	担当教員	高木 紀久子、岡田 猛		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 4
講義題目	芸術創造性の実践演習 Art and creativity seminar				

授業の目的・概要	ここでは STEAM 授業として、芸術の実践的な演習を行うと同時に身体レベルと思考レベルの創造プロセスの心理学的理解を涵養する。身体レベルの創造に関しては、外界とのインタラクションを中心としたワークを行い、自己の記録および他者と共有することでその可能性を探る。思考レベルの創造に関しては、既存の思考の枠を外して新しいアイデアを発想することの理解を、関連する心理学論文のレビューとワークの双方を通じて深めていく。身体レベルと思考レベルの双方の活動からアイデアを統合させ作品創作を行い、最後の授業で発表することが求められる。この二つのタイプの活動を通して、芸術の創作プロセスに関する体験的理解を深めると共に、身体と思考を融合した創造活動についての心理学的知見を得ることを目指す。
授業計画	1. 講義:オリエンテーション(全体概要とフロッターージュなど身体を通じた表現の解説) 2. 演習:フロッターージュ演習  3. 論文レビュー1: 芸術創作に関する論文 4. 演習:フロッターージュ演習(描画材の応用)タクティルラインの演習 5. 論文レビュー2: 芸術創作に関する論文 6. 講義: 芸術創作のプロセス(参考スライド)  演習:フロッターージュの展開(多様な支持体による効果, 空間への展開) 7. 講義: 芸術創作のプロセス(現代美術家の作品創作のモデル)  演習:ポートフォリオへのまとめ 8. 美術館見学(この時期開かれている展覧会に行き、実際の作品の鑑賞体験を得る) 9. 講義:最終作品に向けての解説(参考スライド: 諸領域との関係性)  演習:グループディスカッション、作品企画  10. 作品制作(個別指導) 11. 作品制作(個別指導) 12. 作品制作(個別指導)プレゼンテーション計画(個別指導) 13. 作品発表・講評  なお、授業計画は履修者数、教室状況などにより変更が生じることがある。
授業の方法	実際に身体を動かして作品を作るという演習形式で、アートの創造性について学ぶ。加えて、心理学論文のレビューとディスカッション、ワークを通じて理解を深める。受講生は毎回の実際の制作活動への参加が求められる。
成績評価方法	最終発表ならびに通常授業の出席と授業への積極的な参加を重視して評価を付ける。
教科書	資料は逐次配布する。
参考書	「創造的認知」ロナルド・A.フィンケ&comma; トーマス・B.ウード&comma; 森北出版 「ART SINCE 1900: 図鑑 1900年以後の芸術」 ハル フォスター&comma; ロザリンド・E. クラウス&comma; イヴ-アラン ポワ&comma; ベンジャミン・H.D. ブークロー&comma; デイヴィッド ジョーズリット&comma; 東京書籍 「Arts-Based Methods i Education Research in Japan」Kayoko Komatsu&comma; Kikuko Takagi&comma; Hiroaki Ishiguro and Takeshi Okada (Eds)&comma; Brill.
履修上の注意・備考	芸術創造性の実践演習 初回オリエンテーションから対面で行います。 教室は、教育学部棟地下1階の第 1 実験室(055&comma;056 室)で行います。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245306	担当教員	中島 由宇、能智 正博、高橋 美保、滝沢 龍		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	火 4
講義題目	心理演習 Seminar in Psychology				

授業の目的・概要	<p>心理療法やカウンセリングの実践的な基礎となる臨床的態度、人とかかわり人のこころを理解しようとするありかたについて、こころをつかって(体感的、内省的、対話的に)学びます。そうした学びを土台として、 ・心理的支援を要する人への心理療法などに関する知識や技能の修得を目指します。 ・心理的支援を要する人の理解やニーズの把握、支援計画の作成を行うためのアセスメント能力を養います。 ・心理的支援を要する人の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携や地域連携に必要な、対話し協働する力を養います。 ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務の意義を理解します。  </p>
授業計画	<p>授業前半では、臨床心理学の社会的、心理学的、生物学的基盤、臨床心理学の研究、心理的支援技法などについて講義する予定です。 授業後半では、心理療法やカウンセリングの実践的な基礎となる臨床的態度について、ロールプレイとディスカッションを通して学ぶ予定です。 </p>
授業の方法	<p>授業の前半は、臨床心理学実践の基本的な知識や姿勢について学ぶ講義を主とします。後半はロールプレイの演習を主とします。</p>
成績評価方法	<p>レポートを中心に、授業内のディスカッションも含めて評価します。</p>
教科書	<p>特に指定しません。</p>
参考書	<p>必要に応じて授業内で提示します。</p>
履修上の注意・備考	<p>心理演習</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245307	担当教員	稲吉 玲美、能智 正博		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 1
講義題目	心理実習 Practical Training in Psychology				

授業の目的・概要	公認心理師の活躍する各領域の施設において見学等による実習を行い、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受けながら、以下の点についての理解を深める。 ・心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ ・多職種連携及び地域連携 ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
授業計画	① オリエンテーション ② 保健医療分野の概観 ③ 福祉・教育分野の概観 ④ 産業・司法犯罪分野の概観  11月～1月 先方と都合を合わせて実習に出る  ⑫⑬ 振り返り
授業の方法	まず座学において、保健医療、福祉、教育領域における公認心理師の活動について学んだ上で、以下の実習機関すべてを回ることになる。 ・東京大学医学部附属病院(5日間、20時間) ・社会福祉法人 三井記念病院(1日間、8時間) ・社会福祉法人 泉会 岡本福祉作業ホーム玉堤分場(2日間、16時間) ・東京少年鑑別所(1日間、2時間半) ・キューブ・インテグレーション株式会社(1日間、3時間) ・跡見学園中学校高等学校(1日間、1時間) ※ 実習先についてはあくまで予定であり、情勢等によって中止や内容変更等の可能性がある。
成績評価方法	平常点 70%(現地実習指導者による評価も含む)、 レポート 30%(施設毎に、A4で1～2枚程度) レポートの締め切り・提出方法は授業内で提示する。
教科書	津川律子・江口昌克(編)公認心理師分野別テキスト1「保健医療分野」(創元社, 2019) =1章、2章を読む 片岡玲子・米田弘枝(編)公認心理師分野別テキスト2「福祉分野」(創元社, 2019) =1章、2章を読む 増田健太郎(編)公認心理師分野別テキスト3「教育分野」(創元社, 2019) =1章、2章を読む 生島 浩(編)公認心理師分野別テキスト4「司法・犯罪分野」(創元社, 2019) =1章、2章を読む 平木典子(編)公認心理師分野別テキスト5「産業・労働分野」(創元社, 2019) =1章、2章を読む
参考書	必要に応じて指示する。
履修上の注意・備考	心理実習
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245308	担当教員	植阪 友理
単位数	2.0	学期	A1A2
		時限	月 3
講義題目	教育認知科学実践演習 II Practical Training in Educational Cognitive Science II		

授業の目的・概要	<p>心理学を生かした実践的研究活動である、「認知カウンセリング」や、その応用について学ぶ授業である。認知カウンセリングとは、一言でいえば人間の知的な問題(例、「～が覚えられない」「時間をかけていても、問題が解けるようにならない」「やる気がでない」)を抱えたクライアントに対して、心理学を生かしながら自立支援を行う活動である。自己調整学習などの知見も活用しながら学習者の自立を促している。  こうした活動を通じて、心理学の有用性を知るとともに、心理学の限界にも気づくことになり、新たな研究の立ち上げにもつながることが期待できる。こうした認知カウンセリングは、貧困家庭の子どもの支援や文京区教育センターと連携した事業などで活用されている。  本授業では、実際に文京区教育センターや貧困家庭支援の施設と連携し、実際に相談にくる小中学生に対して認知カウンセリングを行う。参加者は、基本的には事前に S セメスターで「認知カウンセリングの技法と応用」を受講することが望ましいが、受講していない学生についても授業を取れるように配慮する。  おお、診断初期、中期にその様子を報告し、参加者同士で議論する機会を設ける。最終的には、文京区教育センターや貧困家庭支援施設での最終発表を行い、その指導をめぐって議論する場を設ける。  実践の性質上、15~20 名程度を上限とする。</p>
授業計画	<p>S セメスターで学んだことを活かして、文京区教育センターもしくは生活保護受給者家庭の施設において、実習を行う。8~10 回にわたる指導を行ってもらい、そこでの様子をそれぞれが持ち寄って議論する。これらの実習の時間については授業以外の時間帯に行われるため、それについて問題がない学生のみを受講を受け付ける。  終了後にロングレポートを作成してもらい、実践した施設において、発表を行う。  実習の進行状況や、実践を行う施設との調整の結果、当該の授業時間以外にも発表等が行われる場合がある。これについては受講者と相談しながら進める。  なお、相談開始までの期間はこれまでに提出されているケースレポートなどを読んで議論し、研修する時間に当てる。認知カウンセリングの発想を生かした一斉授業の検討になる場合もある。</p>
授業の方法	<p>対面を基本とする。  </p>
成績評価方法	<p>授業に関連する活動およびレポートによって総合的に判断する。授業に関連する活動としては、授業中の議論への参加および授業後に提出を求める「振り返りシート」、「最終レポート」への記入状況などを総合して判断する。</p>
教科書	<p>適宜指示する。</p>
参考書	<p>認知カウンセリングに関連する資料を以下にアップする： <a href="https://www.dropbox.com/sh/2ju9yxizhwn2jfu/AAAx3fs6XQcnpf8rGRqk2EJpa?dl=0">https://www.dropbox.com/sh/2ju9yxizhwn2jfu/AAAx3fs6XQcnpf8rGRqk2EJpa?dl=0</a></p>
履修上の注意・備考	<p>教育認知科学実践演習 II 授業に関する連絡は、Slack を通じて行う。このため、初回の授業で手続きを行うこと。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245309	担当教員	岡田 猛		
単位数	2.0	学期	W	時限	集中
講義題目	STEAM 授業を作る Designing STEAM workshops				

授業の目的・概要	<p>近年、諸学問を教える際にアートの手法を用いる試みが行われている。例えば、医学生の教育に演劇の手法を取り入れてコミュニケーション能力の育成を目指したり、歴史の授業の中で身体表現を取り入れて歴史の事象を自分事として捉える能力を育むといった試みである。これらは、その形態によって arts-based education や STEAM 教育などと呼ばれている。本授業では、アートの手法を取り入れた STEAM のワークショップ案を作ることを目的とする。そのために、受講生はまず STEAM 授業の理論や実践研究を学ぶ。その際、アートについての理解を深めるために、ダンスなどのアート・ワークショップの実施も予定している。次に数人のグループに分かれ、何らかの学術的トピックを選び、何らかのアートの手法を取り入れ、そのトピックを教えるための授業を作る。受講生の中には、多様な専攻の学生がいることが想定されるため、学際的なトピックを選ぶことが推奨される。最後に、各グループがデザインしたワークショップを他の受講生を対象に実施する。 このゼミナールは、頭や身体や情動を動かしながら、自分で授業を作ることによって STEAM 授業について学ぶ授業である。 クラブ活動等で演劇やダンスや音楽や美術などの芸術活動に携わっている人だけでなく、芸術はまだやったことがないけれど興味がある人など、どなたでも歓迎します。 </p>
授業計画	<p>1 日目 講義, STEAM 文献のグループ分けと論文の割り当て 2 日目 WS 3 日目 STEAM 論文講読(各文献グループの発表と議論) 4 日目 STEAM の WS デザイン, project のグループ分けとグループ作業, テーマ決定と文献探し 5 日目 project のグループ作業 6 日目 project のグループ作業, 中間発表 7 日目 最終発表会 </p>
授業の方法	<p>論文講読やディスカッション, アートのワークショップ参加, STEAM ワorkshop作成のグループワークなど, 授業に実際に参加することで体験的に学習する授業である。</p>
成績評価方法	<p>授業への積極的参加と, ワorkshopの作成と発表, レポート</p>
教科書	<p>特に無し</p>
参考書	<p>特に無し</p>
履修上の注意・備考	<p>STEAM 授業を作る</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245310	担当教員	上岡 洋晴		
単位数	2.0	学期	S1	時限	火 1&comma; 火 2
講義題目	身体教育方法論 Methodology of Physical and Health Education				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>この授業では、発育過程にある子どもが、運動嫌いにならず、自分のからだを上手に動かすことができること、生涯スポーツ(身体活動・運動)に繋がるようにすることについての教育方法論を学ぶ。具体的には、学校体育、部活動、生涯スポーツなどがその範疇となる。年齢や学年に応じた指導方法の具体例を踏まえての講義と学生自身の調査報告を中心に授業を進める。親子一緒に運動体験、幼児教育(体育)、学校体育、大学体育(学生)、あるいはスポーツ少年団・部活動・自主サークルの実状とその問題点を明らかにすることが議論の出発点となる。例えば、身体活動・運動の質と量が多い子どもと、そうでない子どもの二極化の対策方法が挙げられる。何らかの原因で一度運動嫌いになると、以後の参加がかなり困難になることが知られており、これを防ぐ手立て考えることも現在の体育に求められる大きな課題である。  授業は、講義に加えて、事前に設定したテーマに基づき、担当する受講者が、図書・論文・各種統計資料などをまとめてプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションする形式で進める。  体育の教職の単位取得を希望している学生はもちろんのこと、体育のあり方について興味のある学生には適した授業内容である。なお、この科目は教科に関する科目「(体)保健体育科の指導方法」「(保)保健科の指導方法」に該当する。  In this class&amp;comma; you learn educational methodologies for children who are in the process of developing so  that they can move their bodies well without being averse to exercise&amp;comma; and that they are able to play lifelong sports (physical activity and exercise). Specifically&amp;comma; students learn about school physical education&amp;comma; athletic club activities&amp;comma; and lifelong sports. Classes will focus on lectures based on specific examples of teaching  methods according to age and grade level&amp;comma; and survey reports by students.   The starting point of discussion is to clarify the actual situation and problems of exercise experiences  with parents and children&amp;comma; early childhood education (physical education)&amp;comma; school physical education&amp;comma;  university physical education (students)&amp;comma; youth sports clubs&amp;comma; club activities&amp;comma; and voluntary circles. For  example&amp;comma; there are measures to deal with the polarization of children who have a high quality and quantity of physical activity and exercise and those who do not. It is known that once a person dislikes exercise for  some reason&amp;comma; it becomes quite difficult to participate in the future&amp;comma; and thinking about ways to prevent this is also a major issue required of current physical education.   In addition to regular lectures&amp;comma; classes are conducted in a format in which the students in charge  summarize books&amp;comma; papers&amp;comma; various statistical materials&amp;comma; etc. based on a predetermined theme&amp;comma; present  them&amp;comma; and discuss them with all students.   The course content is suitable not only for students who wish to earn credits for a physical education  teaching license&amp;comma; but also for students who are interested in the state of physical education. This subject  corresponds to the subjects &amp;quot;Teaching Methods for (Body) Health and Physical Education&amp;quot; and &amp;quot;Teaching Methods for (Insurance) Health Departments&amp;quot;.  </p>
<b>授業計画</b>	<p>4月9日: イントロダクション、4月16日: 学習指導要領、4月23日: 子どもの体力問題、4月30日: 運動部活動、5月7日: 生涯スポーツ、5月14日: プレゼンテーション(1回目)、5月21日: プレゼンテーション(2回目)と総括。  April 9: Introduction&amp;comma; April 16: Course of Study&amp;comma; April 23: Children's physical fitness problems&amp;comma; April 30: Sports club activities&amp;comma; May 7: Lifelong sports&amp;comma; May 14: Presentation (1st)&amp;comma; May 21: Presentation (2nd) and summary.  </p>
<b>授業の方法</b>	<p>学習指導要領・資料・新聞記事・パワポイントなどを用いた講義、ディスカッションを行う。各自に当該方法論に関するプレゼンテーション(20分程度)を実施してもらう。  Lectures and discussions using the Course of Study&amp;comma; materials&amp;comma; newspaper articles&amp;comma; power points&amp;comma; etc. are conducted. Students give a presentation on the methodology (about 20 minutes).</p>

成績評価方法	毎回の授業におけるミニレポートと、プレゼンテーションの質を総合して評価する。テストは実施しない。 The quality of the small report and presentation in each class is evaluated comprehensively. No testing is conducted.
教科書	指定図書はない。 There are no designated books.
参考書	文部科学省：小学校学習指導要領（体育編）、中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編）  Japan Ministry of Education&comma; Culture&comma; Sports&comma; Science and Technology: Course of Study for Elementary Schools (Physical Education)&comma; Course of Study for Junior High and High Schools (Health and Physical Education)
履修上の注意・備考	<p>身体教育方法論</p> <p>緊急の場合、下のメールアドレスまたは電話に連絡すること。 In case of emergency&amp;comma; please contact me at the email address below or by phone. 授業で用いるすべての資料(9種類のPDF)は下からダウンロードできる。 ただし、授業専用の資料なので、転送やネットへのアップなどを固く禁じる。</p> <p> <a href="https://drive.google.com/drive/folders/1t2q0Enpxg4YGOylqb6VCxxnsqfyM">https://drive.google.com/drive/folders/1t2q0Enpxg4YGOylqb6VCxxnsqfyM</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（体）保健体育科の指導法

時間割コード	09245311	担当教員	佐々木 司		
単位数	2.0	学 期	S1S2	時 限	月 5
講義題目	<b>教育の疫学入門</b> Studying Epidemiology in the Field of Education				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>健康教育に関連する疫学の概念・方法論(疫学研究の様々なスタイル、統計の基本的知識を含む)の理解を目的とする。これらの理解は、今後教育学の分野でも evidence-based の科学的実証性が次第に要求されるに従って不可欠のものになると考えられ、また将来社会人や研究者となったときの業務・政策等の立案・理解にも極めて重要である。またこの理解を通じて、世の中にあふれる「科学情報」の中で、信頼できる情報とそうでない情報を区別するポイントについて習得することも目標の1つである。これらの力は、学問の世界のみでなく行政、マスコミ、実業界等で活躍する上でも今後必要不可欠になると考えられる。</p>
<b>授業計画</b>	疫学とその研究の方法論に関する基礎知識について講義する。
<b>授業の方法</b>	基本的に講義形式で行う。
<b>成績評価方法</b>	基本的に期末試験で評価する。
<b>教科書</b>	中村好一著「基礎から学ぶ、楽しい疫学(第4版)」医学書院
<b>参考書</b>	S.B.Hulley et al. Designing Clinical Research&comma; 4th Edition&comma; Lippincott&comma; Williams & Wilkins. (木原雅子、木原雅博訳)「医学的研究のデザイン: 研究の質を高める疫学的アプローチ(第3版)」メディカル・サイエンス・インターナショナル Kenneth J. Rothman. Epidemiology: An Introduction (2nd Ed). Oxford University Press 2012. (日本語翻訳もあり、授業の最初に紹介する)
<b>履修上の注意・備考</b>	教育の疫学入門
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目 (体)衛生学及び公衆衛生学

時間割コード	09245312	担当教員	山本 義春、内匠 透		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 2
講義題目	教育の生理学 Educational Physiology				

授業の目的・概要	<p>教育生理学は、教育対象の精神的・身体的機能のうち、教育の受け容れを可能にする諸機能と、それらに対する教育内容・方法・環境等の影響を生理学的に解明することを目的とする。本講義では特に、神経系の構造と機能を学び、運動や学習と記憶等の教育の神経生理学的基盤および睡眠や精神機能の成り立ちとその破綻について理解を深めることを目指す。 Educational physiology aims to physiologically elucidate the various mental and physical functions of educational subjects that make them receptive to education&amp;comma; and the effects of educational content&amp;comma; methods&amp;comma; and environment on these functions. In this course&amp;comma; students will learn the structure and function of the nervous system&amp;comma; and deepen their understanding of the neurophysiological basis of education&amp;comma; such as movement&amp;comma; learning and memory&amp;comma; and the origins of sleep and mental functions and their disruption.</p>
授業計画	以下のトピックスに関連する文献を読み、その生理学的背景を検討する。 ・神経系の構造と機能(細胞、神経系、薬理) ・運動の制御 ・睡眠と生体リズム ・情動 ・学習と記憶 ・統合失調症と感情障害 ・不安障害と発達障害
授業の方法	文献講読および下記 URL での教材を用いた解説
成績評価方法	平常点(出席)およびレポート・小試験による総合評価
教科書	Physiology of Behavior&comma; Neil R. Carlson&comma; 13th edition&comma; Pearson.
参考書	カールソン、神経科学テキスト 脳と行動、原書 13 版、丸善。
履修上の注意・備考	教育の生理学
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09245313	担当教員	多賀 厳太郎		
単位数	2.0	学期	S1	時限	月 2&comma; 木 2
講義題目	心と脳の発達 Development of Mind and Brain				

授業の目的・概要	人間の発達は、胚の形態形成にはじまり、胎児や新生児に与えられた遺伝的要因と生得的な能力、自らを変化・発展させる内在的な機構、物理的環境や他者との相互作用により適応・学習していく機構などが複雑にからみあう現象である。本演習では、講義及び受講者による演習、原著論文講読、レポート作成、プレゼンテーションを行い、発達脳科学に関わる基本的概念を学ぶ。
授業計画	講義内容  自発活動の生成 リズム 代謝 水  身体のかたち 胚発生と形態形成  脳のかたち ネットワーク形成  自発行動の出現とU字型発達 サブプレートと皮質  脳のはたらき 機能分化と機能的ネットワーク形成  運動と意図  睡眠と意識  物理的世界の経験と記憶  細菌との共生  他者との共生と言語  人間形成の基礎としての心と脳の発達  演習課題  授業時間内のミニレポート  指定英語論文の要約提出とプレゼンテーション
授業の方法	講義、受講者によるプレゼンテーションとディスカッション。
成績評価方法	授業時間内のミニレポート、レポート課題、プレゼンテーション、ディスカッションを総合的に評価する。
教科書	なし
参考書	開講時に参考書リストを配布。
履修上の注意・備考	心と脳の発達
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育心理学

時間割コード	09245314	担当教員	東郷 史治		
単位数	2.0	学期	A1	時限	火 1&comma; 金 1
講義題目	安全・安心教育 Safety and Security Education				

授業の目的・概要	近年、国内での交通事故件数や交通事故死者数は減少する一方で、自殺率の増加、地球温暖化、自然災害、SNS など、子どもの生命や心身の健康などを脅かす身近な危険因子は多様化しつつある。これに対し学校では、交通安全のみならず生活安全と災害安全の領域にわたり、児童生徒等の安全確保の取り組みが進められている。そこで本授業では、医学・生物学・理工学を含む学際的視点から、現在の学校と日常生活全般における安全確保のために必要な主要事項を理解し、生涯を通じて安心・安全な生活を送る基礎を培うとともに、安心な社会づくりに貢献できるような資質や能力を養うことを目標とする。
授業計画	各週の予定項目は以下のとおりである。 ガイダンス 学校安全(1):安全安心科学 学校安全(2):体育・スポーツ活動中の事故 学校安全(3):部活動 学校安全(4):ピアサポート 災害安全(1):自然災害 災害安全(2):救命処置 現代生活安全(1):精神保健 現代生活安全(2):インターネット・情報セキュリティ 現代生活安全(3):高齢社会 環境安全(1):熱中症 環境安全(2):化学物質 定期テスト
授業の方法	学生のプレゼンテーションを中心に授業を進める。第1回目のガイダンスはZoomのリアルタイム配信で行う。2回目以降は対面の予定。ただし、状況によっては対面とオンラインの併用(ハイブリッド式)に変更となる可能性がある。
成績評価方法	平常点(出席)、プレゼンテーション、試験による総合評価。
教科書	なし
参考書	初回に紹介する
履修上の注意・備考	安全・安心教育
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目(体)学校保健

時間割コード	09245401	担当教員	登藤 直弥
単位数	2.0	学期	S1S2
講義題目	心理学統計法Ⅱ Psychological Statistics II		
		時限	火 2

授業の目的・概要	<p>本授業では、心理学で用いられる統計手法に共通する考え方と最もよく用いられるごく基本的な統計手法について講義を行い、加えて、より高度な統計手法を学んでいくうえでの基盤となる各種統計手法の数理的な側面についても講義を行います。具体的には、推定と検定の考え方を学んだうえで平均値差と連関に関する推測の方法について学修し、その後、線形モデルの基礎について学修します。したがって、この授業を通して、「心理学で用いられる統計手法」や「統計に関する基礎的な知識」について習得することができるわけですが、これが授業の目標となります。</p>
授業計画	<p>本授業では、以下のような進度で授業を進めていく予定です。   第1回 推定量とその標準誤差(教科書第5章1節)  第2回 検定の考え方(教科書第5章2節)  第3回 検定力とその利用、区間推定の考え方(教科書第5章3-4節)  第4回 独立な2群の平均値差の検定(教科書第6章1節)  第5回 平均値差および効果量の区間推定(教科書第6章2節)  第6回 対応のある2群の平均値差の検定と推定(教科書第6章3節)  第7回 2群の比率の差の検定(教科書第6章4節)  第8回 カテゴリ変数間の連関の分析(教科書第6章5節)  第9回 変数と統計量のベクトルによる表現(教科書第7章1節)  第10回 回帰分析のベクトル表現(教科書第7章2節)  第11回 平方和および分散の分割(教科書第7章3節)  第12回 独立変数の効果の検定と自由度(教科書第7章4節)  第13回 平均値差への回帰分析的アプローチ、線形モデルに基づく統計的方法(教科書第7章5-6節)</p>
授業の方法	<p>授業については、教科書に基づき作成した資料を利用して、初回を含め全ての回を「対面の講義形式」で行います。</p>
成績評価方法	<p>毎回実施する小テストへの解答結果(70%)と期末テストの結果(30%)に基づき成績評価を行います。詳細については、第1回目の授業時に説明します。</p>
教科書	<p>本授業では、以下の書籍を教科書とし授業を行います。なお、授業では教科書の内容をまとめた資料を作成して配布します。  ・南風原朝和(2002). 心理統計学の基礎——統合的理解のために 有斐閣.</p>
参考書	<p>本授業の参考書として、以下の書籍を挙げておきます。  ・南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊(2009). 心理統計学ワークブック——理解の確認と深化のために 有斐閣.  </p>
履修上の注意・備考	<p>心理学統計法Ⅱ</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245402	担当教員	宇佐美 慧		
単位数	2.0	学 期	A1A2	時 限	火 2
講義題目	心理学統計法Ⅲ Psychological Statistics III				

授業の目的・概要	回帰分析・分散分析・因子分析・共分散構造分析の基礎について理解する。
授業計画	下記の事柄を 13 コマで実施する。  1. 部分相関係数と偏相関係数 2. 偏回帰係数とその解釈 3. 重回帰分析のしくみ 4. 平方和の分割と重相関係数の検定 5. 個々の独立変数の寄与の評価 6. 完全無作為 1 要因デザイン 7. 多重比較の考え方 8. 完全無作為 2 要因デザイン 9. 対応のある 1 要因デザイン 10. 共分散分析 11. 因子分析の考え方とモデル 12. 因子分析のしくみと因子の解釈 13. 因子の回転 14. 共分散構造と母数の推定 15. 共分散構造分析による潜在変数間の関係の分析 16. 項目反応理論・階層線形モデルに関する基礎
授業の方法	講義による。
成績評価方法	期末試験による。
教科書	南風原朝和『心理統計学の基礎－統合的理解のために』(有斐閣, 2002 年)
参考書	南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊『心理統計学ワークブック－理解の確認と深化のために』(有斐閣, 2009 年) 南風原朝和『臨床心理学をまなぶ7 量的研究法』(東京大学出版会, 2011 年)
履修上の注意・備考	心理学統計法Ⅲ 【履修上の注意点】2017 年度以前開講「心理統計学Ⅲ」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245403	担当教員	針生 悦子		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 1
講義題目	ことばの発達心理学(学習・言語心理学) Psychology of Language Development				

授業の目的・概要	人の行動が経験を通して変化する過程や、その中での言語の習得のメカニズムについて、概要を理解することを目標とする。授業では特に、子どもの言語獲得の過程とはどのようなものであるか、それを支えている人間の能力とはどのようなものか、言語獲得は人間の認知や思考にどのような影響を及ぼしうるのか、といった問題にアプローチするための研究方法も学びながら、現在得られている知見から、これらの問いに対してどのような答えを考えることができるのかについても検討していく。
授業計画	1, イントロ(授業のすすめ方 etc.) 2, 類人猿に言語を教えるということ 3, 大人の言語学習、子どもの言語学習 4, 単語を聴き取る 5, 言語の音を聞き分ける 6, 「声」から「ことば」へ 7, 単語の学習 8, 文法の獲得 9, 文法能力の生得性をめぐる議論 10, 環境の役割 11, 文字の習得 12, 言語と思考:言語比較 13, 言語と思考:発達
授業の方法	講義形式。毎回の授業において課題の提出を求める。
成績評価方法	毎回の授業での課題提出、期末テスト
教科書	針生悦子「赤ちゃんはことばをどう学ぶのか」中公新書ラクレ このほか授業において適宜指示する。
参考書	針生悦子「ことばの育ちの認知科学」新曜社 今井むつみ・針生悦子「言葉をおぼえるしくみ」ちくま書房
履修上の注意・備考	ことばの発達心理学(学習・言語心理学) 【履修上の注意点】 2022 年度以前開講「ことばの発達心理学」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245404	担当教員	岡田 猛		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 2
講義題目	創造性の心理学 Psychology of Creativity				

授業の目的・概要	創造性の心理学、特に「創造性への認知的アプローチ」を中心とした心理学・認知科学の研究知見について紹介する。この講義では、研究領域をくまなく概観することを目指すのではなく、芸術創作や科学的発見などに関する研究の具体例を詳細に紹介しながら、その背後にある考え方や方法論を理解できるように心がける。 なお、実際に創造活動に携わっている専門家の講演も予定している。
授業計画	・授業案内 ・熟達化 ・創造性の定義 ・創造性の概説 ・科学的発見 ・妥当性境界 ・面白い研究とは ・芸術創作活動 ・芸術的インスピレーション ・表現支援 ・芸術鑑賞 ・伝統と創造 ・創造性評価 等
授業の方法	基本的には、講義形式の授業である。加えて、参加者間のディスカッションやゲストスピーカーの講演等も計画している。受講生は宿題として、文献を読んで授業に臨むことなどが求められる。
成績評価方法	毎回の出席と最終レポートにより評価する。
教科書	教科書は特に定めず、授業中に適宜関連文献を紹介する。
参考書	特になし
履修上の注意・備考	創造性の心理学
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245405	担当教員	植阪 友理
単位数	2.0	学期	S1S2
		時限	月 3
講義題目	認知カウンセリングの技法と応用 II Cognitive Counseling and its Applications II		

授業の目的・概要	心理学を生かした実践的研究活動である。「認知カウンセリング」や、その応用について学ぶ授業である。認知カウンセリングとは、一言でいえば人間の知的な問題(例、「～が覚えられない」「時間をかけていても、問題が解けるようにならない」「やる気がでない」)を抱えたクライアントに対して、心理学を生かしながら自立支援を行う活動である。こうした活動を通じて、心理学の有用性を知るとともに、心理学の限界にも気づくことになり、新たな研究の立ち上げにもつながることが期待できる。こうした認知カウンセリングは、貧困家庭の子どもの支援や文京区教育センターと連携した事業などで活用されている。本授業では、これらの基本的な技法や考え方、実際の支援のあり方について、座学のみならずロールプレイなども通じて体験し、学んでもらう。さらに、こうした個別学習支援の発想を、集団指導に応用していく方法についても学んでいく。  なお、後期に文京区教育センターや貧困家庭支援の施設で実習を行いたい場合には、Aセメスターで本授業と接続する「教育認知科学実践演習」もあわせて受講されたい。
授業計画	初回:ガイダンス(第1回) S1 セメスター(第2回～6回) 認知カウンセリングの基本的技法を座学および体験型ワークショップで学ぶとともに、具体的なケース検討会を行う。 S2セメスター(第7回～12回) 認知カウンセリングの発想をいかした一斉指導のあり方について、座学と体験型ワークショップなどで学ぶとともに、実際の授業のビデオを見ながら議論を行う。 最終回:まとめ(第13回)
授業の方法	対面、毎回の授業で座学およびグループワークを実施。
成績評価方法	授業への出席に関連する評価と、最終レポートを組み合わせる総合的に判断する。授業への出席に関連する評価の中身は、毎回のグループワークの様子や、授業後に提出を求める「振り返りシート」、最終レポートを含む諸課題等の提出状況から、総合的に判断する。
教科書	適宜指示する。
参考書	関係する資料を以下にアップする： <a href="https://www.dropbox.com/sh/2ju9yxizhwn2jfu/AAAx3fs6XQcnpf8rGRqk2EJpa?dl=0">https://www.dropbox.com/sh/2ju9yxizhwn2jfu/AAAx3fs6XQcnpf8rGRqk2EJpa?dl=0</a>
履修上の注意・備考	認知カウンセリングの技法と応用 II 授業に関する連絡は、Slack を通じて行う。このため、初回の授業で手続きを行うこと。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245406	担当教員	加藤 健太郎		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	水 5
講義題目	教育測定 Educational Measurement				

授業の目的・概要	心理学や教育学では、「心理尺度」や「テスト」を通じて、性格・態度・能力・学力といった人間の様々な特性を測定し、研究仮説を実証的に検討することが行われる。また、社会全体を見渡しても、研究に限らず様々な場面でテストが利用されている。本講義では、人間の特性を測定する道具としてのテストに着目し、その作成方法や、その性能を定量的に評価するための基礎を与える「テスト理論」について学ぶ。研究の文脈に限定せず、世の中で用いられている様々なテストに触れ、テストに関する新しい技術等についても紹介する予定である。
授業計画	以下に大まかな講義トピックを示す。複数回の授業にまたがるトピックを含む。 1. 教育・心理測定の概要と歴史 2. 様々な教育・心理テスト 3. テストの妥当性 4. テスト作成の手順と考え方 5. 中間プレゼンテーション 6. 古典的テスト理論 7. テストデータの分析 8. 項目反応理論 9. 新しいテスト技術 10. 期末プレゼンテーション
授業の方法	講義を中心に進める。パワーポイントによるプレゼンテーションおよび板書を主な講義方法とする。履修者によるプレゼンテーションおよびディスカッションも行う。
成績評価方法	平常点(授業への協力・貢献;授業時間中に簡単な作業やアンケートを求めることがある)30%+期末プレゼンテーション 35%+期末レポート 35%
教科書	加藤健太郎(編著)『教育測定入門(仮)』東京大学出版会。(執筆中、初回授業時に詳細を伝える)
参考書	南風原朝和『心理統計学の基礎』有斐閣アルマ 2002 野口裕之・大隅敦子『テストングの基礎理論』研究社 2014 日本テスト学会(編)『見直そう、テストを支える基本の技術と教育』金子書房 2010 繁榎算男(編著)『心理・教育・人事のためのテスト学入門』誠信書房 2023
履修上の注意・備考	教育測定
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245407	担当教員	原田 悦子		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 2
講義題目	認知的加齢とデザインのための心理学 Cognitive Ageing and Psychology for Good Designs				

授業の目的・概要	<p>認知心理学・認知科学の視点を中心として、 1)人の加齢変化、特に高齢化によってどのような変化が生じるのか、それはなぜなのかを理解し、 2)同時に、人工物(モノ)のデザインにおいて、認知心理学が大きな役割を果たすことを理解した上で 3)情報社会、超高齢社会におけるモノ(システム、サービス、制度を含む)のデザインがいかにあるべきか、そこに心理学・認知科学がどのように貢献できるのか、自分の視点から考えることができるようになる ことを目的とする。</p>
授業計画	<p>以下の内容をカバーする予定である。 1)高齢社会とは何か、加齢による変化の全体像 2)人の認知的加齢とは何か、その規程因はなにか 3)人-モノ相互作用と人工物デザイン 4)加齢変化と人工物デザイン:ユニバーサルデザイン 5)会話をするという高次認知機能と加齢、社会の高齢化 6)超高齢社会で考える良いデザイン、悪いデザインとは(課題と発表)</p>
授業の方法	<p>座学による講義を中心とするが、一部においてグループでのワークショップ、各受講生による成果発表とディスカッションの場を持つ。</p>
成績評価方法	<p>期末テストならびに成果発表、通常の授業内での授業参加を総合的に判断する。</p>
教科書	<p>授業内で指定する</p>
参考書	<p>授業内で指定する</p>
履修上の注意・備考	<p>認知的加齢とデザインのための心理学</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245408	担当教員	小堀 彩子		
単位数	2.0	学期	S2	時限	集中
講義題目	心理的アセスメント Psychological Assessment				

授業の目的・概要	臨床心理査定の中核的技法である心理検査法について、その基礎理論から実施法、解釈法を学ぶ。
授業計画	第1回 オリエンテーション(授業の説明・心理アセスメントの概要について) 第2回 心理アセスメントの目的と倫理 第3回 心理アセスメントをめぐる諸概念 第4回 心理アセスメントの方法①(行動観察) 第5回 心理アセスメントの方法②(面接法) 第6回 心理アセスメントの方法③(質問紙法1) 第7回 心理アセスメントの方法④(質問紙法2) 第8回 心理アセスメントの方法⑤(投映法1) 第9回 心理アセスメントの方法⑥(投映法2) 第10回 心理アセスメントの方法⑦(知能検査) 第11回 心理アセスメントの方法⑧(発達検査・神経心理学的検査) 第12回 発達障害の理解の方法 第13回 心理アセスメントの観点および展開①(テストバッテリーとアセスメントの計画) 第14回 心理アセスメントの観点および展開②(アセスメントの記録と報告) 第15回 まとめと試験
授業の方法	基本的に講義形式だが、回によってはディスカッションを交え、ミニ・レポートを課す場合もある。
成績評価方法	授業の内容についての筆記試験を通じて成績評価を行う。
教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない
履修上の注意・備考	心理的アセスメント
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245409	担当教員	高田 治
単位数	2.0	学 期	W
講義題目	福祉心理学 Psychology for Social Welfare		
		時 限	集中

授業の目的・概要	福祉領域における心理援助について学ぶ。特に、どのような援助対象者であり、どのようなニーズがあるのかについて、現場の感覚に触れ、考える。
授業計画	社会福祉とは何かというところから始め、様々な福祉領域を概観し、福祉現場において生じる問題及びその背景、そして、心理社会的課題及び必要な支援について考える。 福祉政策についてから始め、障害福祉、高齢福祉、児童福祉など各領域を紹介し、福祉サービスを受ける人への心理支援の特徴を概観する。障害を抱える人の様子など映像で紹介する。 その後、児童虐待問題で注目される児童福祉施設における心理援助を例に具体的に実践について考える。児童虐待の現状、子どもに与える影響、家族の問題などを概観し、児童心理治療施設における被虐待児の支援の実際を紹介する。適宜グループ討議を入れ、支援者としてどういう心構えが必要かを討議してもらう。
授業の方法	講義、映像資料の視聴、質疑応答
成績評価方法	平常点及びレポート
教科書	小畑文也編「福祉心理学」北大路書房 高田 治「施設心理士から伝えたいこと」世織書房
参考書	滝川一廣他編「心を育む生活」東京大学出版会 滝川一廣、内海新祐編「子ども虐待を考えるために知っておくべきこと」日本評論社
履修上の注意・備考	福祉心理学 【履修上の注意】 本科目は開講時期(1-3 月集中講義)の都合上、2024 年度卒業・修了予定者については卒業・修了要件に含めることはできないので注意すること。 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)  <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245410	担当教員	武見 ゆかり		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 1
講義題目	栄養学概論 Introduction to Human Nutrition				

授業の目的・概要	<p>栄養とは、人間が食物として外界から必要な物質(栄養素)を取り入れ代謝して生命活動を続ける営みをいう。人間の健康の維持, 増進のためには適切な栄養が必要である。人間は, 食物として外界から必要な物質(栄養素)を取り入れながら, こうした栄養の営みを行っている。栄養の営みは個人の生活だが, その営みには, 職業, 収入, ジェンダーなど社会的決定要因の影響が大きい。本講では, 人間の栄養の営み及び食生活を, 地域社会や環境との関わりも含めてとらえる基礎的知識とその活用方法を学習する。自分を事例として, 健康状態やライフスタイルに合わせて, 学んだことを実生活で活用する力の修得も目的とする。  </p>
授業計画	<p>1. 自分の食生活を振り返ってみよう:食生活のセルフチェック 2. 何をどのくらい食べたらよいか:食事バランスガイドの理解と活用 3. 何をどのくらい, いつ食べたらよいか(時間栄養学の知見から) 4. 栄養素の機能と代謝① 炭水化物(糖質, 食物繊維) 5. 栄養素の機能と代謝② たんぱく質 6. 栄養素の機能と代謝③ 脂質 7. 栄養素の機能と代謝④ ビタミン, ミネラル, 水分 8. どの栄養素をどのくらい摂取したらよいか:食事摂取基準 9. スポーツと栄養 10. 社会的決定要因と生活習慣病・食生活:国民健康・栄養調査結果を中心に 11. 農業政策と栄養政策, 「健康な食事」実現のための食環境整備 12. 世界の健康・栄養対策の動向:健康を超えて, 地球環境を考慮した持続可能性の重視 13. 健康・栄養情報の読み解き方:ヘルスリテラシーを高めよう 14. 総合レポート</p>
授業の方法	<p>1 回目, 2回目, 13 回目は対面授業。 その他はオンライン講義形式とし, Zoom を用いて同時配信の授業を行う。 一部自分で演習(ワーク)を実施してもらい, その提出物を求める。   </p>
成績評価方法	<p>最終回の総合レポート(50%)、および提出物の内容(50%)を合わせて総合的に評価</p>
教科書	<p>必要資料は随時配布。参考図書を紹介。</p>
参考書	<p>香川靖雄「やさしい栄養学」(女子栄養大学出版社) 上西一弘「食品成分最新ガイド 栄養素の通になる」(女子栄養大学出版社) 武見ゆかり・吉池信男編「食事バランスガイドを活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版」(第一出版)</p>
履修上の注意・備考	<p>栄養学概論</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245411	担当教員	佐々木 司、山本 義春、東郷 史治		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 5
講義題目	ストレス・マネジメント概論(健康・医療心理学) Introduction to Stress-Management				

授業の目的・概要	<p>この授業は、急速に変化する現代社会を生きていく上で、またそのような社会の中で相互扶助による貢献を第一義とする市民的エリートとして成長するために不可欠な心身の実践科学とその知識について、理論と実践両面から学ぶことを目的とします。インターネットや SNS の急速な普及(四半世紀前にはこの世に存在しなかった)と情報氾濫、生活の 24 時間化・国際化、産業構造の変化、これらに伴う対人関係の変化など、現代のわれわれを取り巻く環境と状況は加速度的に変化し続けています。このような変化は、当然ながら、心身の健康、ストレス、学習に大きな影響を及ぼし、人間関係、将来設計、社会での適応のあり方、精神疾患などにも影響を及ぼしています。これらは学生の皆さんの現在の生活のみでなく将来の社会人としての活躍にも当然ながら深く関係する問題です。この授業では、教育学部身体教育学コースでの研究内容を紹介しつつ、生活習慣、学習、脳、精神医学、社会など様々な観点からこれらの問題について考えていきます。この中には、相談支援研究開発センターの教員が担当して行う、学生支援の実際した講義も多数含まれます。この講義での学習を通じ、学生生活における健康の維持・向上とともに、将来の社会での活躍のあり方について考えを深める上でも必要な知識とスキルを習得してもらえればと思います。</p>
授業計画	<p>2023 年度は以下のように行ったが、2024 年度もそれに準ずる 1 10 月 3 日 授業オリエンテーション／睡眠の基礎知識等 佐々木司 2 10 月 10 日 大学生の学生生活サイクル 高野明 3 10 月 17 日 ストレスと付き合い 伊藤理紗 7 10 月 24 日 不安と付き合い 大塚 尚 4 10 月 31 日 メンタルヘルス概論 西村文親 5 11 月 7 日 生活リズムと心身の健康 山本義春 6 11 月 14 日 身体運動とメンタルヘルス 東郷史治 11 月 21 日 授業なし  11 月 28 日 授業なし  8 12 月 5 日 文化的・社会的少数派とストレス 大西晶子 9 12 月 12 日 ハラスメントについて考える 佃未音 12 12 月 19 日 対人スキル(ソーシャルスキル)について 川瀬英理 11 12 月 26 日 認知行動療法と、その実践 若杉美樹 10 1 月 9 日 ピアサポートについて 横山孝行 13 1 月 16 日 キャリアについて考える 榎本真理子</p>
授業の方法	基本的に講義形式で行う。内容に応じた課題や討論などが適宜加わることがあり得る。
成績評価方法	毎回レポートを授業時間内に課す。 (成績はその評価によって行う。期末試験は行わない)
教科書	使用しない
参考書	使用しない
履修上の注意・備考	ストレス・マネジメント概論(健康・医療心理学)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

時間割コード	09245412	担当教員	森田 賢治、Arvind Kumar、加藤 郁佳		
単位数	2.0	学期	W	時限	集中
講義題目	脳科学特論 Functions and Dysfunctions of the Brain				

授業の目的・概要	This lecture gives an introduction to modern systems&comma; cognitive&comma; and computational neuroscience on the brain functions and dysfunctions. Planned contents include: activity dynamics of neurons and neural circuits&comma; computational and physiological mechanisms for learning&comma; memory&comma; and decision making (especially focusing on value learning and value-based decision making)&comma; and computational approaches to neuropsychiatric disorders.
授業計画	The currently planned order is as follows&comma; though this can be changed: - activity dynamics of neurons and neural circuits - computational and physiological mechanisms for learning&comma; memory&comma; and decision making - computational approaches to neuropsychiatric disorders
授業の方法	lecture
成績評価方法	attendance and report
教科書	none
参考書	will be announced in the lecture
履修上の注意・備考	脳科学特論 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)   <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09245413	担当教員	星加 良司、能智 正博、野崎 大地、熊谷 晋一郎、近藤 武夫、額賀 美紗子、小国 喜弘、東郷 史治、飯野 由里子、大塚 類		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	ダイバーシティ・インクルージョン概論 Introduction to the Theories of Diversity and Inclusion				

授業の目的・概要	<p>障害者・女性・性的マイノリティ・外国にルーツを持つ人々等、多様な背景や特性を持つ人々の包摂(ダイバーシティ・インクルージョン)の必要性が社会的な関心事となっている。一方で、現実を目を向ければ、多様性の包摂は道半ばであるばかりでなく、ヘイトやバックラッシュ等、差異や多様性をめぐる分断や格差が先鋭化する状況すら顕在化している。こうした「理念」と「現実」とのギャップを的確に分析し、それを架橋するための方略を探究する知性が、多様性を包摂する社会に生きる私たちには求められている。本授業では、マジョリティ中心に形成された環境・制度・規範等がマイノリティを周縁化するメカニズムに着目しつつ、様々な専門性を有する教員の講義を通じて、多様性が生きる社会を実現するための視点や実践的知見を提供する。</p>
授業計画	<p>第1回(4/5) ガイダンス 第2回(4/19) インクルーシブ教育とは(小国) 第3回(4/26) インクルーシブ教育とICT(近藤) 第4回(5/10) 多様性社会実現のためのパラリンピックの意義(河合(野崎)) 第5回(5/24) 身体機能の障害に立ち向かう科学技術(野崎) 第6回(5/31) 思春期の多様な自己実現を可能にする心の健康とメンタルヘルスリテラシー(東郷) 第7回(6/7) ナラティブと障害(能智) 第8回(6/14) 解釈的正義と当事者研究(熊谷) 第9回(6/21) 移民の子どもから考える日本社会の多様性(額賀) 第10回(6/28) DIと障害学(星加) 第11回(7/5) DIとクイア・アクティヴィズム(飯野) 第12回(7/12) クイア理論と障害学を架橋する(飯野) 第13回(7/19) 「多様性理解」とは何か(星加)</p>
授業の方法	<p>この授業は、ガイダンスも含めてオンラインで行います。初回から、時間までに zoom にアクセスするようにしてください。 zoom には氏名を記入して入室してください。途中で接続できなくなったときなどは再度接続するようにしてください。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行います。リアクションペーパーについては、オンライン講義の最後の10分に、ITC-LMSを用いて入力して貰う予定です。あまりに短い文章(例えば30字以内)は、0点とすることがあります。およそ200字前後を目安として、自らの考えをしっかりとまとめる機会として用いてください。提出は、当日内に御願います。</p>
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	ダイバーシティ・インクルージョン概論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09246101	担当教員	一柳 智紀		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	月 2
講義題目	教授・学習心理学概論(教育・学校心理学) Psychology of Learning and Instruction				

授業の目的・概要	教育現場において生じる問題及びその背景, 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援に関して理解することを目標とする。本授業では, 特に, 教授・学習に関して扱う。具体的には学習が成立するメカニズムや学習を支える要因, 効果的な教授法についての基礎知識を獲得するとともに, 受講者自身にとっての「教授・学習」の経験について振り返り, 改善することを目標とする。
授業計画	1.「学習」とは?  2.「できる」としての学習 3.動機づけ1・2 4.記憶・知識 5.知識と思考、素朴概念、ピアジェ 6.読みの学習: 文章理解 7.メタ認知 8.社会的な相互作用における学び 9.教室におけるコミュニケーション、沈黙 10.小グループでの学習 11.協同による学習 12.「話し合い」を通じた学びとデザインする教師 13.まとめ
授業の方法	講義形式を中心に進めていくが, 適宜, 小グループでの演習や討論を行う。
成績評価方法	毎回の振り返り(50%)および最終レポート(50%)により評価する。
教科書	指定しない。
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	教授・学習心理学概論(教育・学校心理学)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学

時間割コード	09246102	担当教員	遠藤 利彦		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 2
講義題目	発達心理学 Developmental Psychology				

授業の目的・概要	<p>授業の目標: 現代発達心理学の成果に基づき、子どもの発達のプロセスとメカニズムおよび人の一生涯に亘る連続性と変化について基本的理解を得るとともに、心身の発達に資する養育・教育環境の役割について考究する力を身につける。  授業の概要: 近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果に依拠しながら、主に乳幼児期から児童期くらいにかけての子どもの知情意全般の発達の様相と機序について概説し、それらに養育環境、とりわけ母子、父子といった種々の関係性および社会文化の諸特質がいかなる影響を及ぼし得るかについて考察を行う。また、早期段階における個人差が何に起因して生じるかを遺伝と環境に関する最新の諸議論を踏まえながら解説した上で、それがその後の生涯発達過程においてどのような連続性あるいは不連続性を呈するか、加えて、人生後半、とりわけ中高齢期にどのような心理的課題があるかなどについても論考することにした。さらに、そうした標準的な発達プロセスおよびメカニズムとの対比において、ADHD や自閉症あるいは広汎性発達障害等におけるそれらがいかなる特異性を有しているかを解説し、そうした発達障害に対してどのような支援が必要であるかについて考える。</p>
授業計画	<p>第1回: 私的発達心理学序論: 錯覚と発達①  第2回: 私的発達心理学序論: 錯覚と発達② 第3回: 生涯発達心理学の展開と課題 第4回: 遺伝と環境①: 進化発達心理学 第5回: 遺伝と環境②: 行動遺伝学 第6回: 発達における時間の意味: 個体発生 第7回: 発達の素地としてのアタッチメント 第8回: アタッチメントの起源と発達 第9回: アタッチメントの個人差とその規定因および発達の帰結 第10回: 子どもの対人関係の広がりおよび自己の発達 第11回: 「心の理論」の起源と発達 第12回: 感情および感情知性の発達とその機序 第13回: 人生後半(中高年期)における心理的課題 第14回: 発達障害とその支援 第15回: 総括と展望 定期試験 </p>
授業の方法	基本的に講義形式で行う。
成績評価方法	基本的に試験成績に基づいて行う(小レポートを適宜、課す場合もある)。
教科書	特に用いない。
参考書	<p>数井みゆき・遠藤利彦(編著)『アタッチメント: 生涯にわたる絆』ミネルヴァ書房 2005年 遠藤利彦(編著)『発達心理学の新しいかたち』誠信書房 2005年 遠藤利彦(編著)『読む目・読まれる目: 視線理解の進化と発達の心理学』東京大学出版会 2005年 数井みゆき・遠藤利彦(編著)『アタッチメントと臨床領域』ミネルヴァ書房 2007年 遠藤利彦・他(著)『乳幼児のこころ: 子育て・子育ての発達心理学』有斐閣 2011年 小西行郎・遠藤利彦(編著)『赤ちゃん学を学ぶ人のために』世界思想社 2012年 氏家達夫・遠藤利彦(編著)『発達科学ハンドブック5: 社会・文化に生きる人間』新曜社 2012年 小林隆児・遠藤利彦(編著)『甘えとアタッチメント』遠見書房 2012年 遠藤利彦(著)『「情の理」論: 情動の合理性をめぐる心理学的考究』東京大学出版会 2013年 遠藤利彦・他(編著)『よくわかる情動発達』ミネルヴァ書房 2014年 箱田裕司・遠藤利彦(編著)『本当のかしこさとは何か: 感情知性を育む心理学』有斐閣 2015年 秋田喜代美(監修)・遠藤利彦・他(編著)『乳幼児の発達と保育』朝倉書店 2019年 遠藤利彦(編著)『情動発達の理論と支援』金子書房 2021年 遠藤利彦(編著)『入門: アタッチメント理論—臨床・実践への架け橋』日本評論社 2021年</p>
履修上の注意・備考	発達心理学
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目(公)心理学

時間割コード	09246103	担当教員	花嶋 裕久
単位数	2.0	学期	W
講義題目	臨床心理学概論 Introduction to Clinical Psychology		
		時限	集中

授業の目的・概要	<p>【授業の概要】臨床心理学は実際に心理学的支援を行うための基幹の学問である。本講義では、臨床心理学を構成する代表的な理論の学習を通して、臨床心理学の成り立ちとその全体像を把握し、関連する学問領域や心理学の各分野における臨床心理学の位置づけを理解する。心の病についても学び、臨床心理学におけるアセスメント(見立て)の重要性を理解する。また、人生の各時期に見られることが多い個人の心理・発達の課題や不適応状態を通観すると共に、こうした諸問題に対する代表的な介入(アプローチ)の実際について、事例報告を交えながら理解を深めていく。 </p> <p>【到達目標】 ① 臨床心理学の成り立ちと代表的な理論について概説することができる。 ② 心理に関する支援を要する者を見立てるうえで、生物・心理・社会モデルとケースフォーミュレーションの重要性を理解している。 ③ ライフサイクルの各段階で直面する心理的課題や不適応について理解し、それらに対する代表的なアプローチについて概説できる。  </p>
授業計画	<p>第 1 回 ガイダンス(授業スケジュールと評価方法、臨床心理学とは) 第 2 回 臨床心理学の成り立ち① 精神分析学と力動的心理療法の成り立ち 第 3 回 臨床心理学の成り立ち② 行動理論と行動療法の成り立ち 第 4 回 臨床心理学の成り立ち③ 人間性心理学と人間中心アプローチの成り立ち 第 5 回 臨床心理学の成り立ち④ 認知理論と認知行動療法の成り立ち 第 6 回 心理的アセスメントの理論と技法① 面接法 第 7 回 心理的アセスメントの理論と技法② 心理検査法 第 8 回 臨床心理学の基本的概念① 生物・心理・社会モデル、チームアプローチ、多職種連携 第 9 回 臨床心理学の基本的概念② ケースフォーミュレーションと異常心理学 第 10 回 臨床心理学における介入① 乳幼児期・児童期を対象としたアプローチ 第 11 回 臨床心理学における介入② 思春期・青年期を対象としたアプローチ 第 12 回 臨床心理学における介入③ 成人期・老年期を対象としたアプローチ 第 13 回 臨床心理学における介入④ 家族・集団を対象としたアプローチ 第 14 回 臨床心理学における介入⑤ 折衷的なアプローチと支援効果のエビデンス </p>
授業の方法	<p>基本は講義形式の授業を行う。概論レベルの授業であるが適宜事例を取り入れながら理論と臨床現場とのつながりを学んでいく。事例や介入技法についてディスカッションしたりグループワークを行いながら、臨床実践について理解を深めます。授業ごとにリアクションペーパーの提出を求めます。 </p>
成績評価方法	<p>平常点 30% (毎回のリアクションペーパー、授業内の活動の参加度)、期末レポート 70%</p>
教科書	<p>テキストは使用しない。授業内に適宜プリントを配布する。</p>
参考書	<p>1. 下山晴彦・石丸径一郎(編著) 臨床心理学概論(公認心理師スタンダードテキストシリーズ 3) ミネルヴァ書房 2020 年 2. 丹野義彦・石垣琢磨・毛利伊吹・佐々木淳・杉山 明子 臨床心理学 有斐閣 2015 年 3. 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学[改訂新版] ミネルヴァ書房 2009 年 4. 伊藤良子 臨床心理学 ミネルヴァ書房 2009 年</p>
履修上の注意・備考	<p>臨床心理学概論</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目(公)心理学</p>

時間割コード	09246201	担当教員	清河 幸子、一柳 智紀、藤村 宣之、岡田 謙介、能智 正博、針生 悦子、高橋 美保、岡田 猛、滝沢 龍、遠藤 利彦、植阪 友理、宇佐美 慧		
単位数	4.0	学期	S1S2	時限	木 3&comma; 木 4
講義題目	教育心理学実験演習Ⅱ(心理学実験) Experiments in Educational Psychology II				

授業の目的・概要	実習や見学を通じて、教育心理学の研究や実践をおこなうための基礎を養う。
授業計画	確定したスケジュールは、初回授業で提示するが、面接法、性格検査、発達検査、知能検査、調査(質問紙)データの解析、認知心理学実験などの実習のほか、必要に応じて、心理学の生かされている現場(学校、老人ホーム)の見学も行っていく。
授業の方法	実習、見学
成績評価方法	レポート
教科書	必要に応じて授業中に指示する
参考書	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)「心理学研究法入門」東京大学出版会
履修上の注意・備考	教育心理学実験演習Ⅱ(心理学実験) 公認心理師カリキュラムにおける学部科目の1つである。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09246202	担当教員	清河 幸子、一柳 智紀、藤村 宣之、岡田 謙介、能智 正博、針生 悦子、高橋 美保、岡田 猛、滝沢 龍、遠藤 利彦、植阪 友理、宇佐美 慧		
単位数	4.0	学期	A1A2	時限	木 3&comma; 木 4
講義題目	教育心理学実験演習Ⅲ(心理学実験) Experiments in Educational Psychology III				

授業の目的・概要	具体的な研究テーマのもと、研究の計画からデータの収集と解析、考察、報告書の作成にいたる、一連の研究活動にかかわり、心理学研究の実際を理解する。
授業計画	1学期を、前半と後半、2つのタームに分け、それぞれのタームにおいて1つずつ、研究活動をおこなう。テーマは、教員や大学院生の提案する研究テーマの中から、各自の興味関心にしたがって選択する。
授業の方法	グループ実習
成績評価方法	研究活動、レポート
教科書	必要に応じて授業中に指示する
参考書	必要に応じて授業中に指示する
履修上の注意・備考	教育心理学実験演習Ⅲ(心理学実験) 初回授業では希望テーマ調査へ回答いただくため、スマートフォン、PC等の Google フォームに回答できる端末を持参してください。  2 回目以降の授業は、配属されたグループごとに異なる教室になります。初回授業での指示にしたがってください。  【履修上の注意点】 2018 年度以前開講「教育心理学実験演習Ⅲ」と同一科目のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修不可。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09246501	担当教員	清河 幸子、一柳 智紀、藤村 宣之、岡田 謙介、能智 正博、針生 悦子、高橋 美保、岡田 猛、滝沢 龍、遠藤 利彦、植阪 友理、宇佐美 慧		
単位数	2.0	学期	通年	時限	火 5
講義題目	教育心理学研究指導 Guided Research in Educational Psychology				

授業の目的・概要	学位論文作成の指導を行います
授業計画	個別指導と、コース教員参加の発表会。
授業の方法	個別あるいは集団で行います
成績評価方法	参加を持って行います
教科書	「心理学の実践的研究法を学ぶ」2008 下山晴彦・能智正博(編)新曜社
参考書	「心理学の実践的研究法を学ぶ」2008 下山晴彦・能智正博(編)新曜社
履修上の注意・備考	教育心理学研究指導
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09247201	担当教員	野崎 大地、林 拓志、東郷 史治		
単位数	3.0	学期	S1	時限	木 3&comma; 木 4&comma; 木 5
講義題目	身体教育学演習 I Laboratory in Physical and Health Education I				

授業の目的・概要	本実験演習の目的は、身体教育学における実験や測定に必要な方法論・技術を習得することである。具体的には、実際に研究室で進行している研究テーマにスポットを当てながら、問題設定の方法、様々な実験装置の使い方やデータ処理の方法などについて幅広く学んでいく。
授業計画	予定項目は以下のとおりである。 1. ガイダンス 2. Excel&comma; JASP による簡単なデータ処理・統計処理 3&comma; 4. Matlab の使い方 5. 動作分析 6. 運動学習課題
授業の方法	・実験および分析の内容について講義形式のイントロダクション。 ・実験機器の使い方、データ処理の仕方を実習。 ・グループ毎に取得したデータを分析し、提出期限までにレポートを提出。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポートによる総合評価。
教科書	演習中に指定する。
参考書	演習中に指定する
履修上の注意・備考	身体教育学演習 I
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

時間割コード	09247202	担当教員	野崎 大地、林 拓志、東郷 史治		
単位数	3.0	学期	S2	時限	木 3&comma; 木 4&comma; 木 5
講義題目	<b>身体教育学演習Ⅱ</b> Laboratory in Physical and Health Education II				

<b>授業の目的・概要</b>	本実験演習の目的は、身体教育学における実験や測定に必要な方法論・技術を習得することである。具体的には、実際に研究室で進行している研究テーマにスポットを当てながら、問題設定の方法、様々な実験装置の使い方やデータ処理の方法などについて幅広く学んでいく(身体教育学実験演習Ⅰに準じて行う)。
<b>授業計画</b>	各週の予定項目は以下のとおりである。 経頭蓋磁気刺激による脳機能の測定 脊髄反射の測定 歩行運動の測定 心拍と血圧の測定 日常生活下での気分と体調の記録・分析 アンケート調査
<b>授業の方法</b>	・実験および分析の内容について講義形式のイントロダクション。 ・実験機器の使い方、データ処理の仕方を実習。 ・グループ毎に取得したデータを分析し、提出期限までにレポートを提出。
<b>成績評価方法</b>	平常点(出席)、レポートによる総合評価。
<b>教科書</b>	演習中に指定する。
<b>参考書</b>	演習中に指定する。
<b>履修上の注意・備考</b>	身体教育学演習Ⅱ
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目(体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09247203	担当教員	野崎 大地、林 拓志、東郷 史治		
単位数	2.0	学期	A1	時限	木 3&comma; 木 4&comma; 木 5
講義題目	<b>身体教育学演習Ⅲ</b> Laboratory in Physical and Health Education III				

授業の目的・概要	身体教育学演習 I&comma; II で得た知識をもとに、研究計画、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションまでの一連の流れを体験する「プロジェクト研究」を行い、一連の研究遂行の流れをつかんでもらう。
授業計画	2&comma;3 人のグループで、研究計画を立て、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションまで行う「プロジェクト研究」を実施する。
授業の方法	・2&comma;3 人のグループで、研究計画を立て、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションを行ってもらう。 ・毎週、進捗状況を報告する。 ・最終週に、コース教員、大学院生も出席する発表会で研究内容のプレゼンテーションを行う。
成績評価方法	平常点(出席)、プロジェクト研究による総合評価。
教科書	教科書は指定しない。
参考書	参考書は指定しない。
履修上の注意・備考	身体教育学演習Ⅲ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09247204	担当教員	野崎 大地、東郷 史治		
単位数	2.0	学期	S2	時限	集中
講義題目	運動指導方法(夏季野外種目) Seminar in Teaching Methodology of Human Movement (Outdoor Activity in Summer)				

授業の目的・概要	野外生活を経験することにより、自然環境の理解を促し、共生の方法を学ぶ一方で、安全かつ効果的な野外活動の指導方法を学ぶ。これと並行して球技、水泳、登山の実習を行い、体育実技指導において必要な指導方法の習得を目指す。
授業計画	2024年度は7月23日-26日に実施予定(費用は個人負担)。  ガイダンスを6月中旬、事前打ち合わせを7月中旬に行う。 日程は決まり次第掲示する。
授業の方法	集中講義の形式で、夏季キャンプ実習を行う。
成績評価方法	出席および平常点。
教科書	使用しない。
参考書	使用しない。
履修上の注意・備考	運動指導方法(夏季野外種目)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育実技

時間割コード	09247501	担当教員	東郷 史治、林 拓志、森田 賢治、多賀 厳太郎、山本 義春、野崎 大地、佐々木 司		
単位数	2.0	学期	通年	時限	火 5
講義題目	身体教育学研究指導 Tutorial in Physical and Health Education				

授業の目的・概要	卒業論文作成のためのテーマ設定、研究計画の立て方、先行研究の探索、研究手法、論文執筆の方法、卒論発表会でのプレゼンテーションの方法と内容について、本コース各研究分野(身体教育科学、教育生理学、発達脳科学、健康教育学)の全教員による助言・指導の機会と場を持つ。
授業計画	卒業論文の計画書を作成し、本コースの全教員からその内容に対する助言・指導を受ける。
授業の方法	随時検討会を開催する。
成績評価方法	平常点(出席・発表)による評価。
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	身体教育学研究指導
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09248001	担当教員	山辺 恵理子		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 2
講義題目	Philosophical Issues in Education Philosophical Issues in Education				

授業の目的・概要	<p>COURSE OBJECTIVES The aim of this course is to deepen students’ understandings on education through philosophical dialogues on ethical and controversial issues in education. Abilities 1) to pose philosophical questions&amp;comma; 2) to think logically and critically&amp;comma; 3) to listen to counterarguments and to take them into serious account&amp;comma; 4) to reflect on one’s own conceptions&amp;comma; perceptions&amp;comma; and assumptions and at times reshape or even abandon them&amp;comma; and 5) to read and write philosophical papers&amp;comma; are essential to philosophical dialogues&amp;comma; and thus will be developed and assessed in this course.</p>
授業計画	<p>COURSE OUTLINE (TENTATIVE) 1.Introduction: What is philosophy&amp;comma; ethics&amp;comma; and education? 2.What defines a “child”? Inquiry with Philippe Ariès 3.What defines a “man”? Inquiry with Immanuel Kant 4.What makes a “child” an “adult”? Multiple purposes of education 5.What happens in between childhood and adulthood?: Redefining education 6.What are the co-relations between education&amp;comma; teaching&amp;comma; and learning?  7.What makes a good teacher?: Inquiry with Jacques Rancière 8.What makes a good teacher?: Inquiry with Paulo Freire 9.Rethinking children’s rights and abilities for political participation 10.Does education build or burn bridges between different groups? 11.Students’ Presentation and Facilitation #1: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject&amp;comma; then facilitate the class’ philosophical dialogue to deepen the argument. 12.Students’ Presentation and Facilitation #2: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject&amp;comma; then facilitate the class’ philosophical dialogue to deepen the argument. 13.Students’ Presentation and Facilitation #3: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject&amp;comma; then facilitate the class’ philosophical dialogue to deepen the argument. 14.Students’ Presentation and Facilitation #4: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject&amp;comma; then facilitate the class’ philosophical dialogue to deepen the argument. 15.Reflection and Final Discussions</p>
授業の方法	<p>COURSE REQUIREMENTS AND POLICIES All classes will be conducted in English. Students are required to read assigned papers before class&amp;comma; and be well prepared to participate in class discussions. Active participation is essential throughout the course.</p>
成績評価方法	<p>GRADING CRITERIA Class participation 30% Mid-term essay and in-class discussions 30% Final essay 40%</p>
教科書	<p>None. Reading assignments will be announced or handed out in class.</p>
参考書	<p>Ariès&amp;comma; P. (1965). Centuries of Childhood: A Social History of Family Life. Oxford&amp;comma; England: Vintage Books. Biesta&amp;comma; J. J. G. (2010). Good Education in an Age of Measurement: Ethics&amp;comma; Politics&amp;comma; Democracy. Paradigm Publishers. Freire&amp;comma; P. (1996). Pedagogy of the Oppressed. Penguin. [Originally published in Portuguese in 1968] Kant&amp;comma; I. (1803) Lectures on Pedagogy. IN (2011). Anthropology&amp;comma; History&amp;comma; and Education (The Cambridge Edition of the Works of Immanuel Kant). Cambridge University Press. Rancière&amp;comma; J. (1991). The Ignorant Schoolmaster: five lessons in intellectual emancipation. Stanford University Press. Stanford&amp;comma; J. A. (1996). Responding to Literature (2nd. Ed.)&amp;comma; Mayfield Publishing Company. and other papers will be mentioned and/or handed out in class.</p>
履修上の注意・備考	<p>Philosophical Issues in Education</p> <p>The first class mayl be held online&amp;comma; following the university instructions. If that is the case in the academic year of 2024&amp;comma; please log in to Zoom using the following ID and password: Meeting ID: 929 2211 2575 password:</p>

philosophy

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09248002	担当教員	山下 絢		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	水 4
講義題目	学校はデータでどう描けるか How to Describe Schools: Research Methodology on Schooling				

授業の目的・概要	<p>このクラスでは、定量的なデータを用いて学校をどのように分析するか、その理論と方法の基礎を学びます。講義で取り上げる具体的な事例は、教育社会学のトピックです。この講義を通じて、学校や教育問題を定量的に明らかにする際に、どのようなデータを用いれば良いのか、またどのような研究デザインや解析方法を用いれば良いのかを学びます。また、データ分析の近年のトレンドについても紹介し、受講後に各自がより発展的に学ぶ際のヒントも提示していきます。</p>
授業計画	<p>1. 概要 2. リサーチデザイン:学校をデータでどう描くのか? 3. 統計資料の整理:どこに、どのような調査データがあるのか? 4. アンケート調査の構成と特徴 5. 変数の種類:どのようにデータで示すのか? 6. 1 つの変数の特徴の記述:代表値、散布度、標準化 7. 2 つの変数の関係の記述(1):散布図、共分散、相関係数 8. 2 つの変数の関係の記述(2):クロス表集計、オッズ、オッズ比 9. 因果関係と相関関係 10. データ分析の落とし穴:偶然(Chance)、偏り(Bias)交絡(Confounder) 11. 調整変数と媒介変数 12. 学校に関するデータ分析をめぐる最近のトピック 13. 総括</p>
授業の方法	・担当者による解説 統計ソフトウェアRを用いた演習
成績評価方法	授業への参加度(80%)及び最終レポート(20%)
教科書	指定しない
参考書	<p>・Bohnstedt&amp;comma; George. and Knoke&amp;comma; David. 1998. Statistics for Social Data Analysis&amp;comma; F E Peacock ; 2nd (=1998&amp;comma;海野道郎・中村隆監訳『社会統計学-社会調査のためのデータ分析入門-』ハーベスト社)  ・本田由紀.2021.『「日本」ってどんな国?: 国際比較データで社会が見えてくる』筑摩書房  ・King&amp;comma; G.&amp;comma; Keohane&amp;comma; R. O.&amp;comma; &amp; Verba&amp;comma; S. 2021. Designing social inquiry: Scientific inference in qualitative research. Princeton university press.(真淵勝[監訳].2005.『社会科学のリサーチ・デザイン』勁草書房) ・中村高康・松岡亮二・編.2021.『現場で使える教育社会学:教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房  ・Schleicher&amp;comma; A. (2018)&amp;comma; World Class: How to Build a 21st-Century School System&amp;comma; Strong Performers and Successful Reformers in Education&amp;comma; OECD Publishing.(=2019.ベネッセコーポレーション企画・制作『教育のワールドクラス:21世紀の学校システムをつくる』明石書店)</p>
履修上の注意・備考	<p>学校はデータでどう描けるか</p> <p>本講義は社会調査士資格認定科目(C:基本的な資料とデータの分析に関する科目)に該当します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09248003	担当教員	北村 友人、藤江 康彦、浅井 幸子		
単位数	2.0	学期	A2	時限	月 3&comma; 月 4
講義題目	学校教育学概論 An Introduction to Study on School Education				

授業の目的・概要	<p>私たちが「教育」を考える際、まず真っ先に思い浮かべるのは「学校」である。しかしながら、「学校教育」は、国や社会の中での一つの制度にすぎない。その制度はいかなる力によって動いているのか、そのなかでどのような教育実践がなされているのかを多様な側面から外観し、考察をしていきたい。この授業においては、とくに学校教育の歴史、世界やグローバル社会との関係における学校、教職と教員育成、教科教育という4つの柱を立て、それぞれの視点から「学校」を分析する。</p>
授業計画	第1回～第4回（藤江）学校における教師と子どもの学習と発達 第5回～第8回（浅井）授業の研究を通じた教師の学習 第9回～第12回（北村）持続可能な社会を実現するための教育のあり方 第13回 まとめ
授業の方法	授業の方法:第1回は全体でガイダンスを行う。第2回以降は、3名の担当者がオムニバス形式で、それぞれの専門の立場から学校教育について概論的な講義を行う。さらに映像や画像、文献、資料などを用い、個々の事例や実践例に即して学校教育の問題を具体的に議論する。  本講義は、対面方式で実施する。
成績評価方法	成績評価方法:授業への参加状況とレポートによって総合的に評価する。
教科書	必要に応じて授業中に指示する。
参考書	必要に応じて授業中に指示する。
履修上の注意・備考	学校教育学概論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09248004	担当教員	勝野 正章、橋野 晶寛、村上 祐介		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 2
講義題目	<b>教育行財政学</b> Educational Administration and Educational Finance				

<b>授業の目的・概要</b>	教育行財政学並びに教育(学校)経営学の基本事項について、現代の改革や国際比較の視点を交えながら学び理解を深めることを目標とする。村上が教育行政分野、勝野が教育(学校)経営分野、橋野が教育財政分野をそれぞれ担当する。この科目は教職課程における「教科に関する科目」(社)経済学(公)経済学(国際経済を含む)である。
<b>授業計画</b>	以下のような事項・内容を扱う。※変更することがある  教育行政分野(村上担当)  国の教育行政制度、自治体の教育行政制度、教育行政における国と自治体の関係、教育課程・教科書に関する制度  教育経営・学校経営分野(勝野担当)  教育における平等(アファーマティブアクション)、「効果のある学校」研究、教員の研修と評価、子どもの権利と学校  教育財政分野(橋野担当)  教育費と教育財政、教員の人材確保と労働環境、教育分野における「新公共経営」、教育政策におけるデータフィクションと「エビデンスに基づく政策立案」
<b>授業の方法</b>	教員による講義、質問に対する回答・解説を中心にしながら、適宜、グループでの意見交換や議論を交えて行う。
<b>成績評価方法</b>	期末試験による
<b>教科書</b>	特になし
<b>参考書</b>	村上祐介・勝野正章編著(2024)『教育行政と学校経営(改訂新版)』(放送大学教育振興会) 村上祐介・橋野晶寛(2020)『教育政策・行政の考え方』(有斐閣) 勝野正章・藤本典裕編著(2015)『教育行政学(改訂新版)』(学文社) 青木栄一・川上泰彦編著(2023)『改訂版 教育の政治・行政・経営』(放送大学教育振興会)
<b>履修上の注意・備考</b>	教育行財政学
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目 (社)経済学(公)経済学(国際経済を含む)

時間割コード	09248005	担当教員	李 正連		
単位数	2.0	学 期	A1	時 限	月 3&comma; 月 4
講義題目	社会教育論 I Theories of Adult Education I				

授業の目的・概要	近年、科学技術の発達や情報化、グローバル化、少子高齢化等の急激な社会の変容が進む中、学校教育万能の時代は過ぎ去り、生涯学習の必要性が世界的な高まりを見せつつある。そこで、この講義では、社会教育・生涯学習の概念及び原理を概観して、理解するとともに、日本及び世界諸国における社会教育・生涯学習の動向を検討することによって、社会教育・生涯学習の意義、さらに今後の社会・生涯教育のあり方について考えることを目的とする。
授業計画	1. 社会教育・生涯学習とは何か   2. 社会教育の歴史的な理解   3. 生涯学習理念の登場背景及び主要な生涯学習論   4. 生涯学習の国際的動向①: 欧米の動向を中心に   5. 生涯学習の国際的動向②: アジアの動向を中心に   6. 社会教育・生涯学習の法制及び主要政策   7. 社会教育施設・職員   8. 学校教育と社会教育・生涯学習   9. 社会的弱者と社会教育・生涯学習①   10. 社会的弱者と社会教育・生涯学習②   11. まちづくりと社会教育・生涯学習   12. 参画型社会と市民の学び   13. 期末試験
授業の方法	基本的に講義形式とするが、授業中ワーキングペーパーを書いてもらう。
成績評価方法	授業中のワーキングペーパー30%、期末レポート 70%
教科書	なし
参考書	授業中随時提示する。
履修上の注意・備考	社会教育論 I
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教科又は教職に関する科目(旧)大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09248006	担当教員	宮田 玲		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 3
講義題目	情報・資料分析論演習 Seminar in the Analysis of Information and Documents				

授業の目的・概要	標準的な統計学や調査法演習の一步手前(といっても内容的に手前なのではなく認識の問題を扱うという意味で)として、データのかたちと形式化、図示、データの背後に世界を想定するとはどういうことか、それに対してどのようなデータをどのように捉えることができるか、を学びます。標準的な統計の用語では、記述統計・探索的データ解析・推測統計の基本的枠組みを理解するところまでをカバーします。実習には、フリーの統計解析・データ解析ソフトであるR(アール)を用います。データのかたちを把握し、そこから解釈の枠組みへと思考実験的に遡ること、その解釈の枠組みに従ってデータを取扱い処理すること、の2方向へと話を展開します。量的な分析としては、統計分析の基本をデータのかたちを中心に考えることになります。
授業計画	1 導入 2 R の基本: 値のタイプとデータのかたち 3 R の基本: 関数の利用とグラフの基本 4 量的データの分類とデータの整理、位置の尺度とちらばりの尺度 5~7 探索的なデータの解析と可視化 8~10 推測統計(区間推定と検定の考え方) 11 相関と回帰 12~13: 総合演習
授業の方法	説明と議論・実習・課題を組み合わせを進めます。
成績評価方法	授業参加度(質問等)20%、演習課題(宿題含む)40%、授業内小テスト 40%
教科書	使いません。
参考書	関連する参考図書として南風原朝和『心理統計学の基礎』(有斐閣)、ホーエル『初等統計学』培風館、柳井晴夫他『やさしい統計入門』(講談社ブルーバックス)などがあります。
履修上の注意・備考	情報・資料分析論演習
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09248007	担当教員	影浦 峯
単位数	2.0	学期	A1A2
		時限	木 4
講義題目	教育研究調査法演習 Seminar on the Basics of Educational Research		

授業の目的・概要	近代以降において「思う」ではなく「考える」ことを可能にしてきた外的な条件と形式的な条件に意識を向け、アカデミックな議論に参加し「考える」基本的な手続きを学ぶ。授業は、参照すること、表現すること、構成すること、知識を参照することの4モジュールからなる。いわゆる「社会調査」などを扱う授業ではない。この程度のことをスキルとして身に付けておかないと、公共圏において独立した個人として社会的、経済的、政治的意思決定に参加することは割と難しいかもしれないという、本当に基本的な思考のスキルを扱う。したがって、扱うことのほとんどは、義務教育段階で、そうでない場合でもせいぜいが高等学校までで扱われていることであり、基本この授業はその意識化と復習である。
授業計画	1. 序論:考えていることと考えていると考えること、などおよび診断 2. 近代以降:ガリレオ・ガリレイ偽金鑑識官、デカルトと記号の問題、「べきだ」の普遍へ向けた解放 3. 参照すること(1) 4. 参照すること(2) 5. 表現すること(1) 6. 表現すること(2) 7. 構成すること(1) 8. 構成すること(2) 9. 構成すること(3) 10. 構成すること(4) 11. 知識を参照すること 12. 文書のテクノロジー 13. およそ考えることを可能にする条件をめぐって
授業の方法	講義・課題遂行・ディスカッションを繰り返します。
成績評価方法	授業への参加度と授業時の課題、最終的な課題を、4:3:3の割合で評価する予定です。
教科書	使いません。
参考書	岩波文庫の主に青版のいくつか、ちくま学芸文庫の青背版に随時言及します。またそれ以外の個別タイトルは授業中に示します。
履修上の注意・備考	教育研究調査法演習 オンラインで行います。そもそも、本授業で扱うことは、空間的・時間的に離れたところでも、「理解」できるような言語表現の構成とそれに伴うテクノロジーに関わるものであり、対面で何らかの「ね、わかるでしょ」というチャンネルに甘えるのは不適切だからです。もちろん、オンラインのほうが短期的な学習効果があがるという保証も研究もありませんが。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09248008	担当教員	野崎 大地、森田 賢治		
単位数	2.0	学期	A2	時限	火 2&comma; 金 2
講義題目	バイオダイナミクス Biodynamics				

授業の目的・概要	腕を伸ばす、立つ、歩くといった動作の制御から、動作遂行や環境変化に際して呼吸・循環系が生体恒常性を維持するように働く機構にいたるまで、身体運動には多くの生体調節システムの働きが関与している。身体運動を本質的に理解するには、生体調節システムの構成要素の知識だけでは不十分であり、各要素がどのように相互に組み合わせられ、全体としてうまく機能しているのかという視点が不可欠である。本講義では、生体システムの調節に関して、具体的な例を紹介しつつ、その背後にある仕組みについて、理論・数理的視点も交えて解説する。
授業計画	下記の内容について、一回または二回ずつ講義を行っていく予定である。 1. イントロダクション 2. 運動とリズム ～歩行や鼓動の背後にある仕組み～ 3. 神経活動のダイナミクス ～神経活動の生成の仕組み～ 4. 筋収縮のメカニクス～筋はどうやって力を産み出すか～ 5. 筋骨格系のモデル ～筋により駆動される身体運動～ 6. 身体運動のダイナミクス～身体運動の運動方程式～ 7. 身体運動のエナジエティクス～エネルギー変換機としての身体～ 8. 身体運動の制御～脳が身体運動を制御する仕組み～ 9. 記憶のダイナミクス～神経回路の働きから認知・行動へ～ 10. 意思決定のダイナミクス
授業の方法	使用教材等を下記 URL に置く予定である。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポートによる総合評価。
教科書	講義中に指定する。
参考書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	バイオダイナミクス 使用教材等を、以下の URL に置く予定である。パスワード等は講義中に知らせる。  <a href="http://researchmap.jp/dnozaki/">http://researchmap.jp/dnozaki/</a> 資料公開/ ITC-LMS「教材」(森田担当分)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)運動学(運動方法学を含む)

時間割コード	09248009	担当教員	佐々木 司、川内 基裕		
単位数	2.0	学 期	A1A2	時 限	月 5
講義題目	機能解剖学(人体の構造と機能及び疾病) Functional Anatomy				

授業の目的・概要	身体(脳・神経を含む)の構造と機能、それと関連した癌、生活習慣病、精神疾患などの疾病の病態・メカニズムの基本的知識を学習する。健康の維持・増進とその教育に役立つ視点からの講義を行う。
授業計画	最終回は期末試験とし、残りを、呼吸器、循環器、血液、消化器、筋・骨格系、神経・感覚器、生殖・発生に分けて講義を行う。
授業の方法	PPTと板書を用いた講義形式で行う。ノートは必ずとること。
成績評価方法	期末試験での評価を主とする。
教科書	佐々木司(編)公認心理師ベーシック講座 人体の構造と機能及び疾病 (KS心理学専門書). 講談社
参考書	必要な場合は授業中に示す
履修上の注意・備考	機能解剖学(人体の構造と機能及び疾病)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09248010	担当教員	登藤 直弥		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 2
講義題目	心理学統計法 I Psychological Statistics I				

授業の目的・概要	本授業では、心理学の研究においてよく利用される各種統計手法を学修するうえで必要となってくる基礎的な事項について講義を行います。具体的には、心理学研究と統計の関係について解説したうえで分布の記述的指標とその性質について学修し、その後、相関関係の把握と回帰分析、確率モデルと標本分布について学修します。したがって、本授業の目標は、これらの内容を理解し修得することとなります。
授業計画	本授業では、以下のような進度で授業を進めていく予定です。   第 1 回 オリエンテーション、心理学研究と統計(教科書第 1 章)  第 2 回 分布の代表値(教科書第 2 章 1 節)  第 3 回 分布の散布度(教科書第 2 章 2 節)  第 4 回 変数の線形変換と標準化(教科書第 2 章 3 節)  第 5 回 共分散と相関係数(教科書第 3 章 1 節)  第 6 回 回帰分析に関する解説 1(教科書第 3 章 2-4 節)  第 7 回 回帰分析に関する解説 2(教科書第 3 章 2-4 節)  第 8 回 相関と共変と因果、測定の妥当性と信頼性(教科書第 3 章 5-6 節)  第 9 回 確率モデルと標本分布の基本的な考え方(教科書第 4 章 1 節)  第 10 回 比率の標本分布の導出(教科書第 4 章 2 節)  第 11 回 正規分布モデルと平均の標本分布(教科書第 4 章 3 節)  第 12 回 2 変数正規分布モデルと相関係数・回帰係数の標本分布(教科書第 4 章 4 節)  第 13 回 確率モデルの適用に関する諸問題(教科書第 4 章 5 節)
授業の方法	授業については、教科書に基づき作成した資料を利用して、初回を含め全ての回を「対面の講義形式」で行います。
成績評価方法	毎回実施する小テストへの解答結果(70%)と期末テストの結果(30%)に基づき成績評価を行います。詳細については、第 1 回目の授業時に説明します。
教科書	本授業では、以下の書籍を教科書として授業を行います。なお、授業では教科書の内容をまとめた資料を作成し配布します。  ・南風原朝和(2002). 心理統計学の基礎——統合的理解のために 有斐閣.
参考書	本授業の参考書として、以下の書籍を挙げておきます。  ・南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊(2009). 心理統計学ワークブックー理解の確認と深化のために 有斐閣.
履修上の注意・備考	心理学統計法 I
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09248011	担当教員	能智 正博、稲吉 玲美		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 1
講義題目	公認心理師の職責 Professionalism of Licensed Psychologists				

授業の目的・概要	公認心理師法の施行に伴い、国家資格である「公認心理師」が誕生した。本資格は心理学の知識に基づいて、医療・教育・福祉・産業・司法の主に 5 領域での業務を行うため、その職責の基本についての理解と各領域での実践や連携の在り方の基礎的理解を本講義を通して身に着けることが求められる。 公認心理師の資格を得るためには学部課程で 25 の必修科目を履修することが必須となる。本科目「公認心理師の職責」は公認心理師の必須科目であり、かつ公認心理師という資格の説明会も兼ねている。資格取得に関心を持っているものは幅広く履修することが望まれる。
授業計画	第 1 回:イントロダクション・公認心理師の役割 第 2 回:公認心理師の法的義務及び倫理 第 3 回:リスクマネジメント(利用者の安全確保と情報管理) 第 4 回:各領域の具体的業務:医療領域① 第 5 回:各領域の具体的業務:医療領域② 第 6 回:各領域の具体的業務:教育領域① 第 7 回:各領域の具体的業務:教育領域② 第 8 回:各領域の具体的業務:福祉領域① 第 9 回:各領域の具体的業務:福祉領域② 第 10 回:各領域の具体的業務:産業領域① 第 11 回:各領域の具体的業務:司法領域① 第 12 回:支援者としての自己課題発見・解決能力 第 13 回:生涯学習への準備
授業の方法	オンラインと対面での実施とする。具体的なスケジュールは初回に配布するスケジュールを確認すること。
成績評価方法	出席点 30%, レポート 70%
教科書	特に指定しない
参考書	講義内で適宜紹介する
履修上の注意・備考	公認心理師の職責 授業計画の順番は変更となることがある。初回にて、スケジュールを説明するので確認すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09248012	担当教員	清河 幸子、一柳 智紀、藤村 宣之、岡田 謙介、能智 正博、針生 悦子、高橋 美保、岡田 猛、滝沢 龍、遠藤 利彦、植阪 友理、宇佐美 慧		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 3&comma; 木 4
講義題目	教育心理学実験演習 I Experiments in Educational Psychology I				

授業の目的・概要	実習や見学を通じて、教育心理学の研究や実践をおこなうための基礎を養う。
授業計画	確定したスケジュールは、初回授業で提示するが、性格検査、発達検査、知能検査、などの実習のほか、必要に応じて、心理学の生かされている現場(養護学校、家庭裁判所)の見学も行っていく。なお、本授業は木曜日3、4限に隔週で実施する。また、本郷キャンパスやその他の場所で実施することもあるので十分に注意すること。
授業の方法	実習、見学
成績評価方法	レポート
教科書	必要な場合には授業中に指示を出す。
参考書	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)「心理学研究法入門」東京大学出版会
履修上の注意・備考	教育心理学実験演習 I
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09248013	担当教員	山本 義春、森田 賢治、野崎 大地		
単位数	2.0	学期	A1	時限	月 1&comma; 木 1
講義題目	身体教育学概論 I Introduction to Physical and Health Education I				

授業の目的・概要	からだの理(教育生理学)及び、からだを育むこと(身体教育科学)に関わる基本的な事象と現代的な課題について幅広く学ぶ機会とする。
授業計画	主要な設定課題は以下の通りである(2023年度)。 ・ICT/IoTとヘルスケア ・日常生活のモバイル行動医学 ・生体のゆらぎとその役割 ・睡眠のしくみ ・やる気・モチベーション・努力の脳身体機構 ・価値の学習の脳身体機構 ・価値に基づく意思決定の脳身体機構 ・疾患の機序(依存症などに焦点を当てて) ・身体運動の制御・学習の潜在性 ・身体運動の制御 1: 動作の普遍的パターン ・身体運動の制御 2: 制御を支える脳神経機構 ・身体運動の学習過程の科学
授業の方法	教員の研究を中心に、行動、情動、運動の研究法や脳身体機構等について解説する。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポート・小テストによる総合評価。
教科書	授業内で提示する。
参考書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	身体教育学概論 I
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育原理

時間割コード	09248014	担当教員	多賀 巖太郎、佐々木 司、東郷 史治		
単位数	2.0	学期	A2	時限	月 1&comma; 木 1
講義題目	<b>身体教育学概論Ⅱ</b> Introduction to Physical and Health Education II				

<b>授業の目的・概要</b>	脳とこころの発達(発達脳科学)及び、心身の健康と安全(健康教育学)に関わる基本的な事象と現代的な課題について幅広く学ぶ機会とする。主要な設定課題は以下の通りである。  発達とは何か・健康とは何か?保健で何を学ぶか? 心身の発達・心身の健康・発達と遺伝・環境 脳の発達・免疫・アレルギーと感染症予防 睡眠・運動・代謝・セーフティ・プロモーション 認知・言語・学習・中枢神経発達・精神発達とその障害の疫学 動的システム・小児発達障害とはどのようなものか
<b>授業計画</b>	発達脳科学の基本概念や生体を動的システムとして理解するための基礎を学ぶ 健康教育の介入ポイントを明らかにするための疫学研究の基本的な方法論と行動変容の基礎的理論を学ぶ
<b>授業の方法</b>	教員による講義、課題の演習とレポート作成を組み合わせ授業を進める。
<b>成績評価方法</b>	出席、レポート、試験の総合評価とする。
<b>教科書</b>	指定はしない。
<b>参考書</b>	ストロガッツ: 非線形ダイナミクスとカオス、田中久陽、中尾裕也、千葉逸人(訳)丸善出版 2015 木原雅子、木原正博 訳: 医学的研究のデザイン(第4版)メディカル・サイエンス・インターナショナル社
<b>履修上の注意・備考</b>	身体教育学概論Ⅱ
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

教職課程科目（I）本郷キャンパス

時間割コード	09249101	担当教員	中村 ともえ		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 2
講義題目	国語科教育法(基礎) Basic Studies on Japanese Language				

授業の目的・概要	中・高等学校の国語教科書に採録されている(されたことのある)近現代の文学作品を取り上げ、読解する。作品の読解の上でポイントとなる箇所や表現について、受講者が段階的な発問を設定できるようになることが目標である。
授業計画	導入として、小・中・高等学校の国語教科書に採録されている文学教材を各1作品取り上げ、物語を読むとはどのような経験かを、本文に何が書かれていないかに着目して考える。続いて、教科書には作品の一部のみが採録されている作品、中島敦『山月記』、正岡子規「瓶にさす」歌、坂口安吾「日本文化私観」を取り上げ、作品全体を踏まえて改めて解釈する。同様に、夏目漱石の小説『こころ』・『坊つちやん』・『夢十夜』についても、採録されていない範囲を参照した上で、限られた範囲での読解を試みる。最後に、安部公房『鞆』などいくつかの作品に関して、読解のポイントとなる箇所や表現について、段階的な発問を立てる練習をする。
授業の方法	講義形式で行い、グループワークを取り入れる。
成績評価方法	授業内の課題と、期末レポートによって総合的に判断する。
教科書	『名指導書で読む 筑摩書房 なつかしの国語教科書』(2011年、ちくま学芸文庫、4480093788)。その他はプリント配布。
参考書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	国語科教育法(基礎)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

時間割コード	09249102	担当教員	未定
単位数	2.0	学期	S2
講義題目	国語科教育法(実践)A Practical Studies on Japanese Language A		

授業の目的・概要	<p>【vision】 1.『どうせなら、やってよかったなあ…』と思える教育実習にしよう 2.教育実習は〈あなた〉の意味と関係の編み直しです。 3.次の3つの、気づき直し、問い直し、編み直しが生まれます。 (1)国語を学んでどうということだろう?【国語観】 (2)今までの〈わたし〉と(ひと)との関係って何だったんだろう?【人間関係観】 (3)今まで〈わたし〉はどんな生き方をしてきたんだろう?【自己観】 【やってよかった…と思える教育実習にするために】 1.テキストとつながる  ①惚れ込んだテキストを選出する。ほとんどの実習校ではテキスト指定だと思いますが、どうか、そのテキストを惚れ込んでください。 ②そのテキストから生徒と一緒に考えたい叙述を決め出してください。 ③その叙述には「論理」と「倫理」が内包されています。 2.生徒とつながる  ①授業の終わりには「振り返りカード」を生徒に記入させてください。その「振り返りカード」から、その子の考えや思いが見えてきます。 ②生徒の「読み」の相には、『頭』(論理)で読む生徒、『肌』(五感)で読む生徒『経験』で読む生徒が見受けられます。 3.授業では…  ①【第1時】テキストとの出会いと対話です。〈あなた〉の聲で音読してみてください。そして、生徒に心に残った叙述とその理由をワークシートに記入させてください。⇒生徒の叙述への needs が掴めるはず。 ②【第2時】叙述の意味と関係の編み直し⇒生徒が考えてみ た 来叙述の意味と関係を明らかにしていきます。同じ叙述でも、頭で考える生徒もいれば、五感で感受する生徒もいる、さらに自分の経験で考える生徒もいます。同じことばであっても意味や関係性から差異が生まれるのです。その差異がことばの思考を深めます。 ③【授業で大事なこと】詳細は講義でお話します。 ・scaffolding(スキャフォールディング) ・4人グループ編成 教師の転回⇒学ぶ教師、聴く教師、つなぐ教師 4.〈わたし〉とつながる  ①なるべく実習生同士で実習授業を見合ひましょう。 ②授業をみる point⇒生徒の具体的な学びの姿を見て、授業者に伝える。 ③その子がどんなときに学びが深まったか? ④逆にどんなときに学びが低迷したか? ⑤生徒にとって必要感のある学習課題だったか? ⑥Scaffolding(スキャフォールディング)は適切だったか?  本講座の大きな特徴【『探究の課題』の設定】 本講座の大きな特徴は、授業での「学習課題の設定」にあります。国語の授業で教師がどのような学習課題を子どもに提示するかによって、言葉を受容する子どもに育つか、言葉を信じない子どもに育てるか、大きく変わってきます。そこで、本講座では以下の3つを学習課題の不問としています。 ①「主題」を問わない ②「心情」(登場人物の気持ち)を問わない ③「理由」(なぜ?)を問わない です。主題中心主義の国語の授業から、作品(テキスト)中心主義の授業への転回です。たぶん、みなさんが中学校・高等学校で受けてきた国語の授業とは全く異なる授業スタイルだと思います。 本講座で、みなさんと一緒に共有したいことは「教える」(作品論・作家論・文章読解)国語の授業ではありません。テキストのことばを通して読み味わう、読み描く、文脈を読む授業にしたいのです。詳細については実際の講義でお話しします。 【3つの問い直し】 そのために本講座では、以下の三つの「聴く」について問い直していきます。 ①【ことばを聴く】 事前提出物(模擬授業で選んだテキスト)を読み合い、突き詰めた叙述を問い直します。 ②【ひとを聴く】 受講者が選んだテキストについて『心に残った叙述&amp;その理由』を互いにシェアし合います。受講生が自分の選んだテキストの、どの叙述に着目したか、その受講生の読みの向き合いから学びます。 ③【からだを聴く】 教育現場で実践を重ねている先輩のお話から、子どもを感受していく教師のからだや実際の授業での教師の居方について問い直します。 【模擬授業の試み】 そして、講義後半は受講生全員に模擬授業(20~30分:受講者数によって時間帯に変更あり)をしていただきます。「教える」授業ではありません。ことばを「読み味わう/読み描く」授業です。受講生(学生)が生徒役になって学習課題を追究します。授業デザインには受講生全員が理解できる『共有の課題』(平等性)と、グループで追究し合う『探究の課題』(質の向上)の2つを設定します。 このような授業デザインづくりや学習課題づくりを受講生の仲間と共有することで、今後の教育実習に生かしていただければ幸いです。 </p>
授業計画	<p>1 日目『〈あなた〉を感受していく』 1 回【演習】 「正解」(radwimps)の歌詞をテキストに中高生に授業をしたら、あなたはどんな学習課題を設定しますか? ★どのような学習課題がことばを読み味わうことにつながるのか? 2 回【演</p>

習ペア)|5・6 分間で交代します。互いの「テキスト」について問い合ってみてください。|★「ひと」を読むことが教育実習では求められる。|★テキストメッセージには「ことば」で書いてもらいましたが、声で〈あなた〉を感受することが教育実習でも大事になります。|★授業が分かりやすい、面白い…だけではだめ。生徒という(あなた)を感受していくことが大事。|(1)「読み」の相…「頭」で読む、「肌」で読む、「経験」で読む|(2)「思考」の相…「主題(テーマ)」を読む、「心情(気持ち)」を読む、「表現」を読む|★探究の課題の決め出し|①どの叙述に焦点を当てるか?(意味と関係の編み直し)(多様性)(差異性)|②どのように問うか?|3回【グループ】探究の課題設定の相談など(30分くらい)|【個別】ミニ授業の学習課題を設定しよう(60分)|(1)学習課題の3つの不問⇒①テーマ(主題)は問わない ②理由を問わない(どうして?なぜ?) ③気持ち(心情)を問わない||2 日目『子どものくらしに身を置くということ』～教育現場で実践を重ねている先輩から学ぶ(予定)～|4 回【講話・演習】〈わたし〉の国語授業づくり～ことばと向き合う・子どもと向き合う・自分と向き合う～(先輩のお話)|【ビデオカンファレンス】教育現場の先輩の授業から学ぶ「子どもの声を聴く、友だちとつなぎ、テキスト(叙述)に戻す」|5 回【講話・演習】教育現場からみえてくる国語授業の課題、今後の国語教育のゆくえ(先輩のお話) 予定|6 回【reflection・演習】先輩のお話を聴いて全体で share⇒レポート作成、模擬授業デザイン作成|3 日目『模擬授業「1人20分間」』～〈わたし〉が構想した学習課題は受講生を夢中にさせたか?工夫させたか?もがかせたか?～|7回【模擬授業に向けての授業計画】聴く・つなぐ・もどす(導入計画・指名計画・板書計画など)|8回【模擬授業】|①1人20分間×4人 \* 授業者の順番は講義当日お知らせします。|9回【模擬授業】|②1人20分間×4人|4 日目 模擬授業「1人20分間」教師の居方(聴く・つなぐ・もどす)を授業に取り入れる|10 回【模擬授業】|③1人20分間×4人|11 回【模擬授業】|④1人20分間×4人 \* 受講生の人数によって内容に変更もあります。|12 回【カンファレンス】|模擬授業からの学び(省察)/教育実習で生かしたいこと|13 回 本講座の振り返り|\* 上記の講義内容は受講者が16人の場合を想定して計画しました。受講者全員に模擬授業をしていただきますが、人数によって講義内容が変わることを予めご承知おきください。|

授業の方法	講義 グループ学習(男女混合) 演習 ビデオカンファレンス 模擬授業(20分間の模擬授業)
成績評価方法	①事前提出物(模擬授業テキスト・メッセージカード等)状況 ②講義中の提出物(先輩のお話感想・模擬授業ワークシート)状況 ③講義の出席状況 ④最終レポート提出状況(講義を受講して学んだこと。4,000字以上。〆切 受講後2週間以内)
教科書	「学びの光源」 頓所本一著 明治図書 2,500円  * Amazon にて購入いただけます。
参考書	「授業研究入門」稲垣忠彦・佐藤学 岩波書店 「学びのゆくえ」牛山榮世 岩波書店 「教師花伝書」佐藤学 小学館 「教師の身体技法」佐藤学 太郎次郎社
履修上の注意・備考	国語科教育法(実践)A
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

時間割コード	09249103	担当教員	浅香 真弓		
単位数	2.0	学期	S2	時限	集中
講義題目	国語科教育法(実践)B Practical Studies on Japanese Language B				

授業の目的・概要	教育実習において円滑に授業を実施するのに必要な資質・実践力について考察し、認識を深める。 1.国語科教育の現状と課題に関する認識を深める 2.国語科教育の根底となる教育目標について理解する 3.授業改善に繋がる観察の要点を理解し、適切に見学ならびに省察を行えるようにする 4.適切な問題意識に即した授業を構想し実践できるようにする
授業計画	1 教育・教師論と教科教育論(協働・探究学習と授業者) 2 国語科教育の歴史 3 中学校・高等学校国語科学習指導要領の目標・内容 4 発問と指示 5 板書・ノート指導・ワークシート 6 ICT の活用 7 協働的な学習を取り入れた授業の例・協働的な学習のメリット・デメリット 8 指導計画・学習指導案の書き方 9 模擬授業準備・学習指導案作成 1 10 模擬授業準備・学習指導案作成 2 11 模擬授業・授業検討 1 12 模擬授業・授業検討 2 13 模擬授業・授業検討 3
授業の方法	原則として、授業者より材料を提示し、それをグループで検討・議論する形をとる。 1~8 授業者による講義ならびに受講生による議論 9, 10 受講生による議論 11~13 模擬授業と授業検討
成績評価方法	出席状況・受講態度・提出物(学習指導案・レポート等)により、総合的に評価する。
教科書	『中学校学習指導要領解説 国語編(平成 29 年 7 月)』東洋館出版社 『高等学校学習指導要領解説 国語編(平成 30 年 7 月)』東洋館出版社
参考書	『中学校学習指導要領解説 総則編』 『高等学校学習指導要領解説 総則編』
履修上の注意・備考	国語科教育法(実践)B
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

時間割コード	09249104	担当教員	田中 暁龍		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 2
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(基礎) Basic Studies on Social Studies&comma; Geography and History				

授業の目的・概要	<テーマ> 中学校社会科(地理・歴史的分野)及び高校地歴科の指導内容や方法の理解 <到達目標> 1. 中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の各分野の目標・内容及び指導上の留意点を理解している。  2. 中学生(及び高校生)の認識や学力を踏まえた授業設計を行い、評価の考え方の基本を理解している。
授業計画	* 第1回目の授業をオンライン授業とする(5/15 もオンライン授業の可能性があり、追って連絡する) 第1回:オリエンテーションー社会科との出会いー、第2回:社会科の成立ー「問題解決学習と系統学習」ー、第3回:社会科の変遷と新しい学力観ー『『覚える』から『考える』社会科へ』ー、第4回:中学校学習指導要領における社会科(地理的分野)の目標・内容・指導上の留意点、地理歴史科の成立と学習指導要領における地理歴史科の目標と構成、第5回:中学校学習指導要領における社会科と歴史的分野の目標・内容・指導上の留意点、高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容と指導上の留意点ー「歴史総合」「地理総合」ー、第6回:社会科授業論1(地理的分野)ー「地理的技能、地図の活用と読図・作図」ー、第7回:社会科授業論2(歴史的分野)ー「資料の活用と歴史的思考力」ー、第8回:社会科学習指導案の作成1ー「学習指導案の骨子をつくる」ー、第9回:社会科学習指導案の作成2ー「学習評価と問い、教材の効果的な活用」ー、第10回:社会科学習指導案と模擬授業1ー導入を中心にー、第11回:社会科学習指導案と模擬授業2ー「語り」を中心にー、第12回:社会科学習指導案と模擬授業3ー「板書」を中心にー、第13回:社会科地理歴史科教育法のまとめ、模擬授業の振り返りと学習指導案の修正(模擬授業の回数や方法については受講者の人数により変更あり)
授業の方法	講義と演習(グループワークまたは模擬授業)を組み合わせる。グループワークは、小グループによる討議を行う予定である。
成績評価方法	課題レポートなどの提出物を60%、発表活動など授業への取り組みを40%として、その結果を総合して評価を行う。ただし、最終レポートとなる「学習指導案」が提出されない場合や、その内容が不良の場合は、不可となる。
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(東洋館出版社、平成30年) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史科編』(東洋館出版社、平成31年)
参考書	荒井正剛編『中等教育社会科教師の専門性育成』(学文社、2022年) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版、平成20年) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史科編』(教育出版、平成22年) このほか授業中に適宜資料を配布する。
履修上の注意・備考	社会科・地理歴史科教育法(基礎)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法

時間割コード	09249105	担当教員	田中 暁龍
単位数	2.0	学期	A1A2
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(実践)A Practical Studies on Social Studies&comma; Geography and History A		

授業の目的・概要	<p>&lt;テーマ&gt; 中学校社会科(地理・歴史的分野)及び高校地歴科の指導内容や方法の理解と指導の実践 &lt;到達目標&gt; 1. 高校学習指導要領における地理歴史科の各分野の目標・内容及び指導上の留意点を深く理解している。 2. 高校生の認識や学力を踏まえた授業設計を行い、学習評価の考え方を理解している。 3. 地理歴史科にかかわる専門領域や探究的な実践研究の動向を知り、様々な指導理論を理解している。 4. 高等学校地理歴史科の学習指導案の構成を理解して、具体的に作成するとともに、模擬授業とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 </p> <p>&lt;授業の概要&gt; 本授業は、①高校学習指導要領における地理歴史科の目標・内容の理解を進め、②教科と背景となる学問領域との関係、実践研究の動向を把握し、③情報機器及び教材の効果的な活用法について理解を深め、④学習指導案の作成と模擬授業の実践を深め、授業の振り返りを通して授業改善に取り組んでいく。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーションー地歴科における講義型と探究型の授業 &lt;オンライン授業&gt;、 第2回:歴史教育と教科書ー日本の教科書と世界の教科書、共通教科書ー、 第3回:探究型で学ぶ地理歴史科教育の実践と評価ー「思考・判断・表現力等」の育成ー、 第4回:高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容と指導上の留意点1ー「地理総合」「地理探究」ー、 第5回:高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容と指導上の留意点2ー「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」ー、 第6回:モノ教材の効果的な活用と博学連携、地理情報システム&lt;GIS&gt; 第7回:地域調査ー伝統・文化の理解と持続可能な社会の形成ー 赤門出発で本郷の地域調査を実施し、教材研究を行います 第8回:資料(文字史料・絵画資料等)の効果的な活用と「問い」 第9回:現代的な諸課題と新科目「歴史総合」、学習指導案の作成、 第10回:模擬授業1ー導入「効果的な導入とは」、 第11回:模擬授業2ー展開「資料の活用」「単元の基軸となる問い」、 第12回:模擬授業3ーまとめ「現代的な諸課題とのかかわり」、 第13回:社会科・地理歴史科教育法のまとめ、模擬授業の振り返り * 学習指導要領の分析結果報告と模擬授業に関しては、履修者の人数により予定を変更します。</p>
授業の方法	<p>本授業は、①中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の目標・内容の理解を進め、②教科と背景となる学問領域との関係、実践研究の動向を把握し、③情報機器及び教材の効果的な活用法について理解を深め、④学習指導案の作成と模擬授業の実践を深め、授業の振り返りを通して授業改善に取り組んでいく。その際、小グループによる討議を組み込みながら、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点に立った授業運営を進めていく。</p>
成績評価方法	<p>課題レポートなどの提出物を 60%、発表活動など授業への取り組みを 40%として、その結果を総合して評価を行う。ただし、最終レポートとなる「学習指導案」が提出されない場合や、その内容が不良の場合は、不可となる。</p>
教科書	<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(東洋館出版社、平成 30 年) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史科編』(東洋館出版社、平成 31 年)</p>
参考書	<p>荒井正剛編『中等教育社会科教師の専門性育成』(学文社、2022 年) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版、平成 20 年) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(教育出版、平成 22 年) このほか授業中に適宜資料を配布する。</p>
履修上の注意・備考	<p>社会科・地理歴史科教育法(実践)A</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法</p>

時間割コード	09249106	担当教員	野崎 雅秀		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(実践)A Practical Studies on Social Studies&comma; Geography and History A				

授業の目的・概要	この講義では、社会科(地理・歴史)の分野の指導法をバランスよく、参加者の声を聴きながら進めていきたい。担当は、日本史・歴史教育が専門なので、そこに重きがいくが、東アジアの視点から、日本社会をみていきたい。近年の私の関心である「幸せに生きるとは」という考えも、参加者のみなさんと共に深めていきたい。模擬授業を多数行い、授業実践力を育成していきたい。
授業計画	1 はじめに 教師とは何か 2 授業のデザイン1 授業とは 3 授業のデザイン2 歴史教育 4 授業のデザイン3 教材の見つけ方・作り方 5 対話のある授業 6 学習指導案の作成(地理・歴史) 7 模擬授業と検討1(地理1) 8 模擬授業と検討2(地理2) 9 模擬授業と検討3(歴史1) 10 模擬授業と検討4(歴史2) 11 模擬授業と検討5(歴史3) 12 市民性を育む授業・シティズンシップ教育 13 今日の社会科教育の課題1 14 試験(講義は13~15の予定) 15(予備)
授業の方法	出席重視。事前配付の資料・文章を輪番にレポートしていく。レポーターが議論を進行していくようなスタイルを考えている。そこで、議論をしていきたい。
成績評価方法	1 通常の出席 2 毎回の講義の最後に提出するレスポンスシート 3 最終試験
教科書	野崎雅秀『これからの「歴史教育法」』山川出版社 2017年
参考書	適宜、紹介していきます。
履修上の注意・備考	社会科・地理歴史科教育法(実践)A 参加者のみなさんと、いろいろなことを議論していきたい。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法

時間割コード	09249107	担当教員	村野 光則		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	水 5
講義題目	社会科・公民科教育法(実践) Practical Studies on Social Studies and Citizenship				

授業の目的・概要	中高公民科の授業に対応できる基礎的な授業技術を習得する。前半で授業づくりの基礎的な知識やテクニックを学び、後半は模擬授業を通じて実践的な授業技術の習得をめざす。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 教育実習の基礎知識 第3回 学習指導案の作り方 第4回 学習科学の知見を授業に生かす 第5回 考えさせる授業を創る①思考実験・読解力問題 第6回 考えさせる授業を創る②ジグソー法・質問づくり 第7回 考えさせる授業を創る③サイレントダイアログ・哲学対話 第8回 すぐれた授業実践に学ぶ 第9回 模擬授業A①(各20分+ふりかえり) 第10回 模擬授業A②(各20分+ふりかえり) 第11回 模擬授業B①(各45分+ふりかえり) 第12回 模擬授業B②(各45分+ふりかえり) 第13回 模擬授業B③(各45分+ふりかえり)
授業の方法	講義, アクティブラーニング, ビデオ視聴, 模擬授業
成績評価方法	模擬授業とふりかえりレポート, 出席数
教科書	『公共』(実教出版)公共 704
参考書	市川伸一『考えることの科学』(中公新書) 汐見稔幸『教えから学びへ』(河出新書) 本田由紀『「日本」ってどんな国?』(ちくまプリマー新書) 宮本太郎『生活保障』(岩波新書) ダン・ロススタイン『たった一つを変えるだけ』(新評論)
履修上の注意・備考	社会科・公民科教育法(実践)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(公民)及び公民科の指導法

時間割コード	09249108	担当教員	村野 光則		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	水 5
講義題目	社会科・公民科教育法(実践) Practical Studies on Social Studies and Citizenship				

授業の目的・概要	中高公民科の授業に対応できる基礎的な授業技術を習得する。前半で授業づくりの基礎的な知識やテクニックを学び、後半は模擬授業を通じて実践的な授業技術の習得をめざす。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 教育実習の基礎知識 第3回 学習指導案の作り方 第4回 学習科学の知見を授業に生かす 第5回 考えさせる授業を創る①思考実験・読解力問題 第6回 考えさせる授業を創る②ジグソー法・質問づくり 第7回 考えさせる授業を創る③サイレントダイアログ・哲学対話 第8回 すぐれた授業実践に学ぶ 第9回 模擬授業A①(各20分+ふりかえり) 第10回 模擬授業A②(各20分+ふりかえり) 第11回 模擬授業B①(各45分+ふりかえり) 第12回 模擬授業B②(各45分+ふりかえり) 第13回 模擬授業B③(各45分+ふりかえり)
授業の方法	講義, アクティブラーニング, ビデオ視聴, 模擬授業
成績評価方法	模擬授業およびふりかえりレポート, 出席数
教科書	『公共』(実教出版)公共 704
参考書	市川伸一『考えることの科学』(中公新書) 汐見稔幸『教えから学びへ』(河出新書) 本田由紀『「日本」ってどんな国?』(ちくまプリマー新書) 宮本太郎『生活保障』(岩波新書) ダン・ロススタイン『たった一つを変えるだけ』(新評論)
履修上の注意・備考	社会科・公民科教育法(実践)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(公民)及び公民科の指導法

時間割コード	09249109	担当教員	加々美 勝久		
単位数	2.0	学期	S2	時限	集中
講義題目	数学科教育法(基礎) Basic Studies on Mathematics				

授業の目的・概要	<p>中学校・高等学校における数学科の授業を行うために必要な指導力を培う。特に中等教育前期(中学校)の教材研究に重点を置く。戦後における学習指導要領の変遷を学び、現行学習指導要領を理解し、具体的な学習内容を理解できることを目標とする。「良い授業とは」を問うことで、望ましい授業観・指導観を育成し、「日本一の授業名人の先生」になることを目標とする。そのために、各領域で指導されている内容を把握し、学習指導案の作成を行い、評価についても講義する。教材研究のあり方や問題解決型授業の実践例を与え、グループ活動などを行いながら講義を進める。数学体験館での体験も行う予定である。授業・教材における ICT の利活用についても講義する。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション 第2回:学習指導要領の変遷 第3回:教材研究(数量領域「数と式①」) 第4回:教材研究(数量領域「数と式②」) 第5回:教材研究(図形領域①図形の見方) 第6回:教材研究(図形領域②ユークリッド空間) 第7回:教材研究(図形領域③) 第8回:教材研究(関数・解析領域 数学的な見方・考え方) 第9回:教材研究(データの活用・確率) 第10回:学習指導案について 第11回:数学体験館見学(予定) 第12回:デジタル教科書の実際 第13回:ICTの活用 第14回:到達度確認課題  詳細はオリエンテーションで伝えます。</p>
授業の方法	<p>講義とグループ活動・作業的活動を行う。 アクティブラーニングを基本とする。</p>
成績評価方法	<p>平常点および小論文課題と筆記テストを行い、評価する。 学習指導案の作成・提出は必須である。</p>
教科書	<p>中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編(平成29年7月) ※授業開始時まで各自購入しておいてください。</p>
参考書	<p>若い先生に伝える仲田紀夫の算数／数学授業術 仲田紀夫著 黎明書房 ”疑問”に即座に答える算数・数学学習小事(辞典) 仲田紀夫著 黎明書房 小学校学習指導要領(平成29年3月告示)解説算数編(平成29年7月) 中学校学習指導要領(平成29年3月告示) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学・理数編(平成30年7月)  その他は授業中に紹介します。</p>
履修上の注意・備考	<p>数学科教育法(基礎) 【履修上の注意】 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義) <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法</p>

時間割コード	09249110	担当教員	未定		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	火 2
講義題目	数学科教育法(実践)A Practical Studies on Mathematics A				

授業の目的・概要	<p>中学校・高等学校における数学科の授業を行うために必要な指導力を培う。そのためには、授業技術に加え、関連する幅広い知識が必要である。本講義では、数学教育の目的と現在直面している課題を理解し、これからの数学教育を担う教師として必要な知識と方法をアクティブ・ラーニング(双方向授業・模擬授業など)を取り入れた講義を通して学んでゆく。具体的には、中学校数学の検定教科書を用いた教材研究、指導案作成および模擬授業とその評価を中心に講義を進める。また、時間が許す範囲で教員採用試験対策に取り組む。 到達目標は以下の通りとする。 (1)これからの数学教育のあり方、課題点について学ぶ。 (2)中学・高校数学の指導内容を深く理解し、よりよい授業の指導法(デジタル教材およびICT機器の活用を含む)を習得する。 (3)生徒の数学に対する意識をふまえ、興味・関心をひきだす授業展開の考察 以上の内容をもとに、現在の数学教育における問題や課題点に対し、主体的に解決できる能力を身につけることを到達目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション。中学・高等学校の学習指導要領の確認および授業分担について 第2回:教材研究の重要性と学習指導案の作成について 第3回:模擬授業1(1年:文字式)、「導入」の仕方 第4回:模擬授業2(1年:方程式)、発問と声かけ 第5回:模擬授業3(1年:比例と反比例)、板書指導Ⅱ 第6回:模擬授業4(1年:平面図形と空間図形)、プリント教材の作成 第7回:模擬授業5(2年:連立方程式)、デジタル機器の利用 第8回:模擬授業6(2年:1次関数)、模擬授業の評価 第9回:模擬授業7(2年:平行と合同/三角形と四角形)、板書指導Ⅲ 第10回:模擬授業8(2年:確率)、教材研究 第11回:模擬授業9(3年:平方根)、教員採用試験にむけてⅡ 第12回:模擬授業10(3年:二次方程式/関数<math>y=ax^2</math>)、教員採用試験にむけてⅢ 第13回:模擬授業11(3年:円/三平方の定理)、教員採用試験にむけてⅣ 第14回:振り返りおよび到達度確認</p>
授業の方法	<p>中学校数学の検定教科書を用いた教材研究、指導案作成および模擬授業とその評価、および受講生としての授業参加を必須として行う。</p>
成績評価方法	<p>模擬授業、模擬授業の学習指導案、授業参加、課題を総合的に判断し評価する。</p>
教科書	<p>中学校学習指導要領(平成29年告示) 高等学校学習指導要領(平成30年告示) 中学校学習指導要領解説・数学編(平成29年7月、文部科学省) 中学校数学の検定済教科書</p>
参考書	<p>数学教育、模擬授業、教員採用試験を扱うテキストであれば、どれを参考にしてもよい。</p>
履修上の注意・備考	<p>数学科教育法(実践)A 講義資料の提供については授業内で連絡する。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法</p>

時間割コード	09249111	担当教員	今野 雅典、清野 堯明		
単位数	2.0	学期	S2	時限	集中
講義題目	数学科教育法(実践)B Practical Studies on Mathematics B				

授業の目的・概要	中等教育段階での数学科の授業を行うときに、事前に教材研究ができ、学習指導案が作成できるようになることを目標とする。単なる問題提示、その解説、演習という授業の流れにとどまらないためにはどのような点に注意すべきなのかを具体的な指導事例を中心に考察する。自分の受けてきた授業を振り返り、数学科の授業者に必要な知識・技術について考察する。中学校・高等学校の学校現場で指導している立場から、具体的な教材・資料・実践例を通して、数学教育に関するテーマを与える。
授業計画	第1回:「数学」と「学校数学」との違い 第2回:現行の学習指導要領と中学校・高等学校の数学科カリキュラム  第3回:学習指導要領の歴史 第4回:学習指導法 第5回:評価 第6回:教材研究(空間図形の模型作りを例にして) 第7回:教材研究(単元のつながりを意識した題材を例にして)  第8回:教材開発(教科書の問題を生かす) 第9回:教材開発(生徒の反応・誤答を生かす)  第10回:数学的な考え方 第11回:ICTの活用 第12回:数学的モデル化 第13回:学習指導案の書き方 第14回:模擬授業(学習指導案の進め方) 第15回:模擬授業(授業を評価する)
授業の方法	講義またはテーマごとに課題を提示して、その課題について問題解決し、その解決過程を振り返る。
成績評価方法	テストは行わず、レポート等で評価する。そのレポートや講義中の活動を見て、講義の内容を理解し、自らの問題解決過程を振り返り、考察をしているかどうかを確認する。
教科書	中学校学習指導要領解説数学編、高等学校学習指導要領解説書理数編数学編
参考書	中学校学習指導要領解説数学編、高等学校学習指導要領解説書理数編数学編
履修上の注意・備考	数学科教育法(実践)B 【履修上の注意】 ※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)を参照  <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.html">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.html</a>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法

時間割コード	09249112	担当教員	對比地 覚		
単位数	2.0	学期	S2	時限	集中
講義題目	理科教育法(実践)A Practical Studies on Natural Science A				

授業の目的・概要	教育学部附属中等教育学校の理科専任教員が担当する。理科教育を中心に、学生が教育実習をする際に、授業や学校現場で注意すべきこと・工夫できることなどを解説し、演習や模擬授業で実践する。 具体的には「教員の仕事」、「理科教育では何をするのか」、「指導案の作成」、「実験・観察を含む授業運営」などの事項を扱う。 この科目は教職課程における「教職に関する科目」の「各教科の指導法」に該当する。
授業計画	1. 理科教育の目的・学習指導要領 2. 授業の方法 3. 評価の方法 4. 評価の演習 I 5. 実験・観察の意義 6. 授業における安全管理 7. 学習指導案の書き方 8. 学習指導案の作成／検討 9. 模擬授業の準備 10. 模擬授業I① 11. 模擬授業I② 12. 探究活動の指導 13. 模擬授業II① 14. 模擬授業II② 15. 模擬授業II③
授業の方法	実技演習や解説を中心に、グループワークや模擬授業を通して互いに理解を深める。
成績評価方法	出席状況、レポート(指導案を含む)、授業に対する取り組み
教科書	なし
参考書	中学校学習指導要領解説 理科編 高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編
履修上の注意・備考	理科教育法(実践)A 模擬授業に参加する生徒を募集する関係で、担当したい科目(物理、化学、生物、地学)を事前に知らせてもらいたいと考えています。※履修者全員の希望状況により、必ずしも第一希望になるとは限りません。 そのため、履修すること(登録ではなく本当に受講するのかどうか)が決まったら、 ①中学生がいいのか、高校生がいいのか、こだわりはないのか。 ②担当したい科目が決まっているのか。特にこだわりはないのか(例:化学または生物ならどちらでもいい等) ③担当できない科目(中学生の化学なら何とかなるが、高校生の化学は不可など)があ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 理科の指導法

時間割コード	09249113	担当教員	田邊 康夫		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	火 4
講義題目	理科教育法(実践)C Practical Studies on Natural Science C				

授業の目的・概要	教育学部附属中等教育学校の理科専任教員が担当する。理科教育を中心に、学生が教育実習をする際に、授業や学校現場で注意すべきこと・工夫できることなどを解説し、模擬授業で実践する。具体的には「学校とはどんなところか」、「教員の仕事」、「理科教育では何をするのか」、「様々な授業形態」などの事項を扱う。この科目は教職課程における「教職に関する科目」の「各教科の指導法」に該当する。
授業計画	1. 教員という職業について 2. 理科教育の目的・学習指導要領 3. 授業の方法と評価 4. 授業の教材の具体例 5. 授業でのメディア・機器の利用 6. 学習指導案の作成 7. 学習指導案の検討・模擬授業の準備 8. 模擬授業I① 9. 模擬授業I② 10. 実験・観察の意義・授業における安全管理 11. 模擬授業Ⅱ① 12. 模擬授業Ⅱ② 13. 模擬授業Ⅱ③
授業の方法	・講義や解説 ・グループワークによる検討、模擬授業の実践
成績評価方法	出席状況、レポート(指導案を含む)、模擬授業、授業に対する取り組み
教科書	なし
参考書	中学校学習指導要領解説 理科編 高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編
履修上の注意・備考	理科教育法(実践)C
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 理科の指導法

時間割コード	09249114	担当教員	青木 秀憲、上岡 洋晴		
単位数	2.0	学期	S2	時限	火 1&comma; 火 2
講義題目	保健体育科教育法(実践)B Practical Studies on Health and Physical Education B				

授業の目的・概要	<p>保健体育の授業設計を実際に行うに当たっての技法、注意点を主に実習を通じて体得する。保健体育の授業運営においては、これまでに得た技術、知識、経験などをもとに構成することが基本であるが、未成年の集団を授業対象としている以上、理論・理屈、経験だけでその集団に対処することは不可能である。授業時には不測の問題が常に発生する危険を帯びている。また、授業の運営にはきわめて些末な準備作業が無数にあり、これを疎かにすると限られた授業時間内で効果的、効率的な授業を実施することは困難となる。本来教師として持つべき技術、知識、経験以外に、現場で生じる諸問題への対応力、事前の綿密な準備作業への想像力、現場での遂行力は、あらゆる社会人にとって必要であり、教師を志す学生以外にも有益であると思われる。本授業はこうした対応力、想像力、遂行力を養成する第一歩と位置付けている。  保健体育科教育法(実践)には A、B、C の 3 科目の授業があるが、どの科目からでも受講することが可能である。また、中学校の教員免許取得を希望する場合を除き、A、B、C の3つすべてを履修する必要はなく、どれかを単独で履修し、単位を取得することも可能である。なお、教員免許取得を希望する者は下記の「その他」の欄を参照のこと。  本授業は、2023 年度 S2 で「実践 C」が、A2 で「実践 A」が既に開講されており、今回の「実践 B」では過去に「実践」を履修している者(既修者)と今回初めて履修する者(初修者)とが混在する可能性がある。従って、既修者と初修者とでは授業内容や課題に若干の違いが生ずる場合がある。例えば、既修者は模擬授業およびその振り返り等の実習を中心とし、初修者は授業運営に関する基本的な技法、考え方を踏まえてから模擬授業に臨むなど、既修者と初修者を分けて別々の課題や実習に臨むことも予定している。  The purpose of this class is to understand how to teach a physical education class.  The main things to do in this class are followings: ・Understanding physical education curriculum guidelines ・Creating physical education lesson plans ・Having a mock physical education class </p>
授業計画	<p>主に以下の内容を全 7 回で学習するが、既修者と初修者では授業内容に若干の違いが生じる場合もある。 1. イントロダクション 体育教師が求められる役割、競技主体思考と学校体育思考の違い、東京大学で体育を学ぶ意義 2. 学習指導案の考え方・理念 3. 未熟練者の動作の分析 4. 学習指導案・授業時案の作成および発表・質疑 5. 指導実践見学(東京大学教育学部附属中等教育学校等での授業見学) 6. 体育実技模擬授業を一人 2 回程度(既修者は初修者よりも長時間の模擬授業を実施) 7. 体育実技模擬授業振り返り 8. ニュースポーツの理解および実践 ※1 回の授業は原則 2 時限分連続で実施する。</p>
授業の方法	<p>本授業はすべて対面で実施する。履修希望者は第 1 回の授業日に直接教室に集合すること。授業期間の前半は講義、ディスカッション、作業が中心。後半は履修者が「教師役」、「生徒役」に分かれて行う体育実技の模擬授業や、学校現場に出向いて行う授業見学など、実習が中心となる。</p>
成績評価方法	<p>実習が主体となる授業のためペーパーテストによる定期試験は実施しない。講義で実施する諸作業の提出状況や内容、ディスカッションにおける発言内容、模擬授業の出来ばえを評価の対象とする。</p>
教科書	<p>文部科学省 . 中学校 : 学習指導要領 (平成 29 年度告示)「第 7 節 保健体育」. <a href="https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf">https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf</a> その他、随時、授業時に紹介する。</p>
参考書	<p>必要があれば、随時授業時に紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>保健体育科教育法(実践)B  &lt;注意:教員免許状取得を考えている学生へ&gt;   平成 31 年度より施行されている新教職課程が適用となる学生は、教免法上の要件科目「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」について、中学校免許状取得には「身体教育方法論」2 単位及び「実践」6 単位の合計 8 単位の修得が必要となる(実践 A、B、C をそれぞれ 1 回ずつ履修)。また高等学校免許状を取得する場合は、「身体教育方法論」2 単位及び「実践」2 単位の合計 4 単位の修得を要する</p>

(実践 A、B、C のいずれか 1 科目を履修)。| 教員免許状の取得を希望する場合、自身に

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 保健体育科の指導法

時間割コード	09249115	担当教員	青木 秀憲
単位数	2.0	学期	A2
講義題目	保健体育科教育法(実践)C Practical Studies on Health and Physical Education C		
時限	火 1&comma; 火 2		

授業の目的・概要	<p>保健体育の授業設計を実際に行うに当たっての技法、注意点を主に実習を通じて体得する。保健体育の授業運営においては、これまでに得た技術、知識、経験などをもとに構成することが基本であるが、未成年の集団を授業対象としている以上、理論・理屈、経験だけでその集団に対処することは不可能である。授業時には不測の問題が常に発生する危険を帯びている。また、授業の運営にはきわめて些末な準備作業が無数にあり、これを疎かにすると限られた授業時間内で効果的、効率的な授業を実施することは困難となる。本来教師として持つべき技術、知識、経験以外に、現場で生じる諸問題への対応力、事前の綿密な準備作業への想像力、現場での遂行力は、あらゆる社会人にとって必要であり、教師を志す学生以外にも有益であると思われる。本授業はこうした対応力、想像力、遂行力を養成する第一歩と位置付けている。  保健体育科教育法(実践)には A、B、C の 3 科目の授業があるが、どの科目からでも受講することが可能である。また、中学校の教員免許取得を希望する場合を除き、A、B、C の3つすべてを履修する必要はなく、どれかを単独で履修し、単位を取得することも可能である。教員免許取得を希望する者は、下記の「その他」の欄を参照のこと。  本授業は、2023 年度 S2 で「実践 C」、A2 で「実践 A」が既に開講され、2024 年度 S2 では「実践 B」が開講される。従って今回の「実践 C」では過去に「実践」を履修している者(既修者)と今回初めて履修する者(初修者)とが混在する可能性がある。そのため既修者と初修者とでは授業内容や課題に若干の違いが生ずる場合がある。例えば、既修者は模擬授業およびその振り返り等の実習を中心とし、初修者は授業運営に関する基本的な技法、考え方を踏まえてから模擬授業に臨むなど、既修者と初修者を分けて別々の課題や実習に臨むことも予定している。</p> <p>  The purpose of this class is to understand how to teach a physical education class.  The main things to do in this class are followings: ・Understanding physical education curriculum guidelines ・Creating physical education lesson plans ・Having a mock physical education class </p>
授業計画	<p>本授業の主な内容は以下の通り(火曜日 1, 2 限で計 7 週授業を実施する)。  1. イントロダクション(体育教師に求められる役割、東京大学で体育を学ぶ意義等) 2. 学習指導要領、学習指導案の理解および指導時案(授業案)の作成実習 3. 教育学部附属中等教育学校授業見学 4. 運動指導実践例学習 5. 体育実技模擬授業 6. 保健模擬授業 7. 体育・スポーツでの安全管理  ※「運動指導実践例学習」は様々な運動指導現場で活動する方をゲストスピーカーとしてお招きし、その活動の様子を伺い、質疑を実施するもの。  ※履修者の人数や既修者、初修者の人数比率によっては上記スケジュールの一部を調整、変更する場合がある。 </p>
授業の方法	<p>体育や保健の授業を想定し、履修者が「教師役」、「生徒役」に分かれて行う「模擬授業」と、実際の学校現場に出向いて行う「授業見学」など、実践的な実習が授業の中心となるが、初めて「保健体育科教育法(実践)」を履修する者が多い場合は、基本事項(学習指導案の解説、動作分析等)の比率を高める場合もある。本授業はすべて対面で実施する予定。履修希望者は第 1 回の授業日に、直接教室へ集合すること。 </p>
成績評価方法	<p>実習が主体となる授業のためペーパーテストによる定期試験は実施しない。講義で実施する諸作業の提出状況や内容、ディスカッションにおける発言内容、模擬授業の出来ばえを評価の対象とする。</p>
教科書	<p>文部科学省 . 中学校 : 学習指導要領 (平成 29 年度告示)「第 7 節 保健体育」. <a href="https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf">https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf</a> その他、随時、授業時に紹介する。 </p>
参考書	<p>必要があれば、随時授業時に紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>保健体育科教育法(実践)C</p> <p>&lt;注意:教員免許状取得を考えている学生へ&gt;  平成 31 年度より施行されている新教職課程が適用となる学生は、教免法上の要件科目「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」について、中学校免許状取得には「身体教育方法論」2 単位及び「実践」6 単位の合計 8 単位の修得が必要となる(実践 A、B、C をそれぞれ 1 回ずつ履修)。</p>

また高等学校免許状を取得する場合は、「身体教育方法論」2 単位及び「実践」2 単位の合計 4 単位の修得を要する（実践 A、B、C のいずれか 1 科目を履修）。| 教員免許状の取得を希望する場合、自身に

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 保健体育科の指導法

時間割コード	09249116	担当教員	奥 聡一郎
単位数	2.0	学期	S1
		時限	火 3&comma; 火 4
講義題目	英語科教育法(実践)A Practical Studies on English Language A		

授業の目的・概要	<p>授業の到達目標及びテーマ 1. 学校教育で外国語、英語を学ぶ意義を見直し、歴史的変遷と現状分析を通して、英語教師に必要な知識、指導技術を身につける。 2. 学習の対象となる英語そのものの理解を深め、授業における運用能力を高める。 3. 外国語教育の理論的知識と教授法に関する実践的知識について学ぶことにより、教育実習に対する準備を行う。 4. 指導法や教授法をマイクロティーチングの形式で実践したうえで、受講者各自が模擬授業を行い、講評や議論を通して、自らの授業改善につなげることができるようにする。</p>
授業計画	<p>第1回:イントロダクション、評価方法の説明、英語の学び方を振り返り、学校教育と教員の役割について意見をまとめる。【キーワード 英語の学び方、学校教育】 第2回:英語学習について諸外国での授業と教授法、教材の比較・検討を発表する。【キーワード 言語政策、world Englishes 教授法】 第3回:学習指導要領の変遷日本の英語教育の特徴を学習指導要領の歴史的変遷から学び、コミュニケーション能力を身につけさせるための方法について理解を深める。【キーワード 学習指導要領 コミュニケーション能力】 第4回:英語教師の資質と能力。【キーワード 英語力、グループ・ワークによるマイクロティーチング】 第5回:4 技能の指導法「読む・書く」指導の実例を学ぶ。【キーワード 文法・語彙指導、辞書指導】 第6回:4 技能の指導法「聞く・話す」指導の実例を学ぶ。【キーワード 発音記号、フォニックス】 第7回:新しい学習方法【キーワード アクティブラーニング、反転授業、協働学習】 第8回:ICT 活用と教育工学【キーワード 板書、LL、CALL、フラッシュカード、電子黒板】 第9回:授業構成 導入、展開、評価などの技法を確認し、使えるようにする。【キーワード 学習指導案】 第10回:学習評価と言語活動のまとめ【キーワード 評価、キャンドゥーリスト】 第11回:録音と録画を使った授業分析と授業研究【キーワード 模擬授業、】 第12回:新しい教授法と模擬授業(1)【キーワード 授業評価、アクティブラーニング】 第13回:ICT 活用と模擬授業(2)【キーワード 4 技能、ICT 活用】 第14回:学習者要因に配慮した模擬授業(3)【キーワード 教室外学習、動機づけ】 第15回:授業のまとめ【キーワード 教員研修、授業研究】</p>
授業の方法	<p>まず、教える対象となる英語についての基本的な理解を深め、運用能力の向上を図る。英語の特質を理論的に理解したうえで教材開発や言語活動の設定に応用できるようにする。学習指導要領の概要や言語政策、教授法の変遷など歴史的流れと教材論の展開を理解し、教育実習の準備をする。毎時の指導案及び年間授業計画の立て方、授業の構成、教科書の扱い方をアクティブラーニングの形式で学び、それぞれが学習指導案を作成し、模擬授業を行う。受講者による互いの講評や議論を通じて、教壇に立つ心構えを身につけることを目標とする。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義内容に関するリアクションペーパー(10%)、模擬授業の学習指導案(10%)、模擬授業への講評と議論(40%)、グループ・ワークによるマイクロティーチング(10%)英語教育に関する最終レポート(30%)を総合的に評価する。</p>
教科書	<p>小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)文部科学省編 東洋館出版社 ISBN978-4-491-03460-7 小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)解説 外国語活動・外国語編 文部科学省編 開隆堂 ISBN978-4-304-05168-5 中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)文部科学省編 東山書房 ISBN978-4-8278-1558-50 中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)解説外国語編 文部科学省編 開隆堂 ISBN978-4-304-05169-2 高等学校学習指導要領(平成 30 年 3 月告示)文部科学省編 東山書房 ISBN978-4-8278-1567-2 高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編 文部科学省編 開隆堂 ISBN978-4-304-05178-4 </p>
参考書	<p>JACET SLA 研究会編『第二言語習得と英語科教育法』東京:開拓社 金谷憲他編『大修館 英語授業ハンドブック 中学校編』東京:大修館書店 金谷憲他編『大修館 英語授業ハンドブック 高等学校編』東京:大修館書店 Jim Scrivener. (2011) Learning Teaching. The Essential Guide to English Language Teaching. Third Edition. Oxford: Macmillan Books. </p>

**履修上の注意・備考**

英語科教育法(実践)A

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法

時間割コード	09249117	担当教員	高橋 和子
単位数	2.0	学期	S2
講義題目	英語科教育法(実践)B Practical Studies on English Language B		

授業の目的・概要	<p>小学校・中学校・高等学校の英語教材に焦点を置いて、これらの構造と特色を踏まえた授業実践を目指します。【目標】1) コミュニケーション能力育成を目指す日本の英語教育のあり方を、英語教材の変遷を通して理解することができる 2) 英語教材(会話文、説明文、物語文等)の構造と特色を理解することができる 3) 小学校・中学校・高等学校における、英語教材のあり方を理解することができる 4) 英語で書かれたテキストをもとに、自ら英語教材を作成することができる【概要】 ・コミュニケーション能力重視の英語教育と、英語教材の変遷について ・英語教材(会話文、説明文、物語文等)の構造と特色について ・各校種における英語教材の特色について ・英語教材と問いの立て方について ・デジタル時代における英語教材のあり方について </p>
授業計画	<p>第1回: イントロダクション 第2回: コミュニケーション能力重視の英語教育と英語教材: 1980年代以降を中心に 第3回: 英語教材の見かた: 本文・質問/発問・学習活動/言語活動 第4回: 小学校英語教材(1) 会話文 第5回: 小学校英語教材(2) 絵本・物語文 第6回: 中学校英語教材(1) 会話文 第7回: 中学校英語教材(2) 説明文 第8回: 中学校英語教材(3) 物語文 第9回: 高等学校英語教材(1) 会話文 第10回: 高等学校英語教材(2) 説明文 第11回: 高等学校英語教材(3) 物語文 第12回: これからの英語教材 第13回: 最終レポート ※注意: 上記計画は、受講者の状況等に伴って、変更の可能性があります。変更等の連絡は、必要に応じてLMSで行います。</p>
授業の方法	<p>・検定教科書等に掲載されている教材分析の他、これらと関連する資料を使用しながら授業を行います。 ・講義と演習を組み合わせた授業形態です。 ・受講者同士のグループワークを随時取り入れます。  </p>
成績評価方法	<p>・課題(教材作成を含む)50%、最終レポート 50% ・上記にグループワークの成果等も踏まえて、総合的に評価します。</p>
教科書	<p>・LMSで教材を配布します。 ・小学校・中学校・高等学校『学習指導要領』、および『学習指導要領解説』を使用します。 以下の文部科学省ホームページより入手可能です(2024年1月6日現在):  <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm</a>  </p>
参考書	<p>・田中武夫・田中知聡(2018)『英語授業の発問づくり』明治図書 ・Berger&amp;comma; Warren. &amp; Foster&amp;comma; Elise. (2020). Beautiful questions in the classroom. Corwin. ・McKee&amp;comma; Robert. (2014). Story: Substance&amp;comma; structure&amp;comma; style&amp;comma; and the principles of screenwriting.  Methuen ・Nuttall&amp;comma; Christine. (2005). Teaching reading skills in a foreign language. Macmillan. ・Olson&amp;comma; Randy. (2015). Houston&amp;comma; we have a narrative. University of Chicago Press. ・Raphael&amp;comma; T.E.&amp;comma; Highfield&amp;comma; K. &amp; Au&amp;comma; K.H. (2006). QAR now: Question answer relationships. Scholastic. ・Wolf&amp;comma; Maryanne. (2018). Reader&amp;comma; come home: The reading brain in a digital world. Harper. その他は授業中に紹介します</p>
履修上の注意・備考	<p>英語科教育法(実践)B ・本講義は集中講義で行います。日程および実施形態等は、関連部署が発信する情報をご覧ください。 ・配布教材に基づいて学習し、問題意識を持って授業に臨んでください。 ・授業に関する情報は、LMSのお知らせ欄で周知します。定期的にお知らせを見るようにして下さい。   </p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法

時間割コード	09249118	担当教員	戸上 和正
単位数	2.0	学期	S2
講義題目	英語科教育法(実践)C Practical Studies on English Language C		

授業の目的・概要	学校教育(中等教育)における英語の授業について、基本的な事項や指導理論などの知識を踏まえて、学校現場の状況を参照しながら対話と実技を行うことで、英語科の教員としての実践力を身につけることを目標とします。この目標達成のためにどのような手立てで進んでいくのか、この授業でどのような活動のゴールを設け、また、学習の過程でどのようなことを思考して欲しいのかを「授業の方法」に記します。
授業計画	第1回:英語の授業の目的、教員が身につけるべき力とは? 第2回:指導技術、授業形態、学習者の年齢や習熟度、学習活動の種類等を考慮に入れた探究課題を設定して、活動のゴールと思考のゴールをデザインする。 第3回:指導技術を議論できる場面を考え、実践する。(指導技術) 第4回:中学校・高等学校での授業についてその類似点相違点を押さえる。(授業計画、授業形態) 第5回:中学校・高等学校での授業について同一の素材から教材にする。(素材の扱い) 第6回:中学校・高等学校での授業についてペアやグループでの活動をどう選択するか。英語授業でのグループダイナミクスをどう捉えるか。(学びの形) 第7回:学習指導案と実際の授業との関わり(計画と実際) 第8回:附属学校の授業(生徒の声) 第9回:授業作りをする1 第10回:授業作りをする2 第11回:模擬授業の実践1 第12回:模擬授業の実践2 第13回:模擬授業のフィードバック
授業の方法	上記の授業の目標に照らして、目標達成のための受講者の手立てを以下の3つに定めます。 (1)英語で授業を行うことについて、アプローチやスタイルの面から考察する。 (2)学習者の年齢や学年、習熟度、学びの目的に応じた授業の場面を考察する。 (3)附属学校をモデルとして学校現場の情報をもとに指導の工夫を講じた実践的課題を行う。  上の2つの手立てに対して、「実際の活動(活動のゴール)」を以下に記します。 (1)具体的な意味を持った英語での指導場面を体験する。 (2)状況の違う中で学びの実践を学習者として、また授業者として行う。 (3)附属学校の授業を見て生徒の声を聞き、学習者と指導者の関わりを持った実践を行う。  次に皆さんが「学習の過程で思考して欲しいこと(思考のゴール)」を記します。 (1)指導の具体は様々なメソッドの織物であること。 (2)学習者がどう受け取るのか。授業者の役割にはどのようなものがあるのか。 (3)学習者同士の学びに起こっていることはなにか。AccuracyとFluencyの関係性はどうか。 (4)評価と学びの関係(評価と指導の一体化になぞって)また、学びのための評価にするには。  以上のように、本授業では、首尾一貫して探究型の学びを取り入れた授業を行います。
成績評価方法	授業内での活動の成果と講義後のレポート課題により評価します。 授業内での活動は、単元の区切りでGoogleフォームなどを利用してフィードバックとして提出していただくものを中心に評価します。レポート課題は、本講座で知り得たことを使って後日提示する素材を用いた授業案を作るというものです。それ以外に何問かの質問に答えていただきます。また、授業案作りは指導案ではありません。あくまでレポートのひとつです。レポートの一部は英文での回答になります。多少の変更をするかもしれませんが、大筋としてはこの形で行きます。評価の観
教科書	特定のものはありません。
参考書	特に指定しませんが、指導法や指導理論に関する本、学びの(授業の)スタイルに関する本、第2言語習得の本、学習の評価に関する本、英語学入門や英語の文法、音声、作文、スピーチ、プレゼンテーションなどに関する本など、さまざまな本を読んでください。
履修上の注意・備考	英語科教育法(実践)C
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法

時間割コード	09249119	担当教員	波多野 名奈		
単位数	2.0	学期	S2	時限	集中
講義題目	教育原理Ⅱ Educational Principles II				

授業の目的・概要	<p>本授業は、教職課程の「教育の基礎的理解に関する科目」のうち、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に該当する科目である。教育とはどのような営みなのか、何をもって教育と定義するのか、そして教育とはどのような歴史的経緯を辿って今の在り方になったのか、といった原理的な問いに対峙しつつ、これから教職に就き未来の教育を創りあげる者としての自覚と課題意識を身につけるための、準備作業として位置づける。この授業では、簡単には答えの出ない問いに粘り強く取り組み、輻湊する問題を自分なりに解きほぐすことを試みてもらいたい。  到達目標は以下の三点である。 (1) 社会の変化と教育に関する出来事を結びつけ、社会・歴史的構成物として教育を捉える視点を持つ。 (2) 教育実践の背後の理念を捉え、理念から具体的な教育実践へとつなげる道筋を描くことができる。 (3) 現代の教育を巡る諸課題に対し、多様かつ幅広い視点からアプローチすることができる。</p>
授業計画	<p>1. 教育を捉える枠組み   (1)「人間は教育によってのみ人間となることができる」  (2)「子ども」の発見と子ども観の変遷   (3)日本の教育の歴史(1)  (4)日本の教育の歴史(2)  2. 発達を巡る理論と実践   (1)発達という物語   (2)甘えと依存 ~日本の子育ての原理~   (3)脱・発達論とその行く末  3. 学校教育の輪郭   (1)オルタナティブ・スクール   (2)教えない教育は可能か ~わざの習得と伝達~   (3)学校教育の外へ  4. 教育を巡る諸議論   (1)教育と経済原理   (2)愛と欲望の教育   (3)3.11 が教育に問いかけるもの</p>
授業の方法	<p>講義形式を基本とするが、可能な限りディスカッションの時間も設ける。 振り返りシートを用い、双方向的な授業を試みる。</p>
成績評価方法	<p>期末レポート(60%)、振り返りシート(40%)</p>
教科書	<p>特に指定しない</p>
参考書	<p>授業内で指示する</p>
履修上の注意・備考	<p>教育原理Ⅱ</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照※A 参照</p>

時間割コード	09249120	担当教員	伊藤 貴昭		
単位数	2.0	学期	S1	時限	金 1&comma; 金 2
講義題目	教育心理Ⅱ Educational Psychology II				

授業の目的・概要	<p>【目標】 学習および発達の過程について理解を深め、発達段階に即した子どもの心理的特性を理解し、教育実践場面へつなげるための基礎となる考え方を身につける。 1. 教育心理学で扱われてきた学習の原理、発達、思考の特徴などについて理解を深める。 2. 発達段階に即して子どもの心的メカニズムを理解し、教育実践へつなげるための能力を育む。 3. 教員になったときに直面する問題に対して、心理学的な観点から考えることができる。  【概要】 教育心理学とは、心理学で明らかにされてきた知見を教育実践に活かすことを目的とした学問である。本講義では、教育心理学が対象とするテーマの中でも特に「学習の原理」「発達」を中心に子どもの発達状況に応じてどのような心理メカニズムが働いているかについて理解を深めていく。 </p>
授業計画	<p>第1回:学習の原理 第2回:記憶のメカニズム 第3回:乳児期から児童期の発達の過程  第4回:青年期以降の発達の過程 第5回:ことばや概念の発達 第6回:問題解決と推論のプロセス 第7回:協同で取り組むことの効果 第8回:学習方略の有効性 第10回:動機づけのメカニズム(1)欲求に基づく動機づけ 第11回:動機づけのメカニズム(2)認知に基づく動機づけ 第12回:子どもの発達に応じた教育の在り方とは 第13回:活動性を高める授業づくり 第14回:教育実践に対する教育心理学の貢献 第15回:まとめ </p>
授業の方法	<p>2024 年度授業実施方針に基づいて実施します。 一部オンライン授業を取り入れます。オンライン+対面となるので、具体的な方法については初回の授業で案内します。</p>
成績評価方法	<p>授業への貢献度(10%)各回の課題提出 レポート(30%) 学期末試験(60%) ただし、出席状況(各回の課題提出の状況)が悪い場合には試験の結果によらず不可とします。  ※授業実施方針によりオンライン授業となった場合には、学期末試験をレポートに置き換えます。</p>
教科書	<p>特に指定しない。</p>
参考書	<p>『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編 ミネルヴァ書房</p>
履修上の注意・備考	<p>教育心理Ⅱ</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※3 参照※D 参照</p>

時間割コード	09249121	担当教員	堤 英俊		
単位数	1.0	学期	S2	時限	集中
講義題目	特別支援教育総論 I An Introduction to Special Needs Education I				

授業の目的・概要	<p>本授業では、特別な教育的ニーズを示す子どもを多角的・包括的に理解する力量を高めるとともに、日本におけるインクルーシブ教育の実現に向けた、通常の小・中学校や高等学校における具体的方策について検討する。到達目標は以下のとおりである。 1. 特別支援教育の制度と構造、およびインクルーシブ教育との関係性について説明できる。 2. 特別な教育的ニーズを示す子どもを理解するにあたっての基本的な知識・観点・態度を身につけるとともに、支援・配慮の原理と方法について理解する。 3. インクルーシブな学級・学校・地域づくりの具体的方策について考察し、言語化することができる。 </p>
授業計画	<p>次のようなテーマを検討する。 1. 特別支援教育の制度と構造、特別支援教育とインクルーシブ教育 2. 特別な教育的ニーズを示す子どもの理解と合理的配慮 3. 障害の個人モデルと社会モデル 4. 発達障害の理解(ASD・ADHD・LD)、神経回路の多様性 5. さまざまな障害の理解(知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害等) 6. 人種、国籍、性、母国語、貧困等の理解 7. インクルーシブな学校づくり:オルタナティブな学校の取り組みに学ぶ 8. 通常学級におけるインクルーシブな学級づくり:学びとケアの共同体 9. 通常学級におけるインクルーシブな授業づくり①:授業のユニバーサルデザイン、ICT等の支援技術の活用 10. 通常学級におけるインクルーシブな授業づくり②:ペア学習・協同学習 11. 特別支援教育コーディネーター・特別支援教育支援員等の役割と連携 12. 個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と活用、通級による指導、自立活動 13. 交流及び共同学習、障害理解教育、多文化教育 14. インクルーシブな地域づくり:学校という制度的枠組みをこえて 15. これからの特別支援教育/インクルーシブ教育の課題 </p>
授業の方法	講義を中心に、適宜、動画視聴やグループ・ディスカッションを行う。
成績評価方法	各回のリアクションペーパー(40%)、課題レポート(60%)にもとづき、総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。
参考書	堤英俊(2019)『知的障害教育の場とグレーゾーンの子どもたち—インクルーシブ社会への教育学—』東京大学出版会。 木村泰子・小国喜弘 編(2019)『「みんなの学校」をつくるために—特別支援教育を問い直す—』小学館。 湯浅恭正・新井英靖・吉田茂孝 編(2019)『よくわかるインクルーシブ教育』ミネルヴァ書房。 原田琢也・伊藤駿 編(2024)『インクルーシブな教育と社会—はじめて学ぶ人のための 15 章—』ミネルヴァ書房。 その他、授業の中で関係する文献を紹介する。
履修上の注意・備考	<p>特別支援教育総論 I</p> <p>【履修上の注意】※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義) <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※E 参照

時間割コード	09249122	担当教員	富士原 紀絵		
単位数	2.0	学期	S2	時限	集中
講義題目	教育課程Ⅱ Curriculum Studies II				

授業の目的・概要	テーマ「教育課程の編成を理論的、実践的に学ぶ」 日本の教育課程の歴史の変遷を踏まえつつ、学校主体のカリキュラム編成法とマネジメントの意義とその方法について理解する。教育課程の全体構造との関係において各教科、領域の存在意義をとらえ、学校の全体教育課程を編成しマネジメントする能力を養う。
授業計画	第1回:教育課程・カリキュラム・学習指導要領の関係性 第2回:現代日本の子どもの諸問題(学習面、生活面)と教育課程 第3回:教育課程における教科の分化と総合、選択履修と共通履修の関係 第4回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(1)戦後初期 第5回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(2)1958年~1977年 第6回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(3)1989年~1998年 第7回:2017年改訂学習指導要領の全体構造と特徴-2008年学習指導要領との比較を通して 第8回:カリキュラム・マネジメントの意義 第9回:カリキュラム・マネジメントと授業評価と学校評価 第10回:カリキュラム・マネジメントの方法 第11回:教科横断的な教育課程編成の実践例から学ぶ-小学校 第12回:総合的な学習の時間を中心とした教育課程編成とマネジメントを実践例から学ぶ-中学校 第13回:教育課程の試作-学校教育目標を検討する 第14回:試作した教育目標と教科の関係を検討する 第15回:試作した教育目標と教科外領域の関係を検討する
授業の方法	全面对面授業 1)授業形式は講義。 2)毎回、講義への感想の提出を求める(当日の授業時間内に提出)。 3)感想ではなく、アンケートや特定のテーマについての意見を求めることもある。
成績評価方法	感想の提出(50%)、テスト(50%)の合算による。
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領解説 総則編』。いずれも文部科学省ホームページからダウンロード可能。
参考書	根津朋実編著『教育課程』ミネルヴァ書房、2019
履修上の注意・備考	教育課程Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照※F 参照

時間割コード	09249123	担当教員	藤井 佳世		
単位数	2.0	学期	S2	時限	集中
講義題目	道徳教育法 Methods of Moral Education				

授業の目的・概要	<p>本授業の目的は、教職を志す学生にとって必要な道徳教育の基礎的知識・理解と道徳の指導法を養うことにある。おもに、道徳をめぐるさまざまな議論の考察を通して、道徳教育の哲学的・倫理的基盤、学校における道徳教育の目標と内容について学び、学習指導過程の構想などのこれからの道徳教育の可能性について考えることができるようになることを目的とする。</p>
授業計画	<p>道徳教育の課題や理論、授業の位置付けなどを学び、学習指導構想を作成する。</p>
授業の方法	<p>講義、授業中の課題提出、グループワーク、ディスカッション、報告をおこなう。</p>
成績評価方法	<p>成績は、授業時間内に行うコメント、小レポート、課題提出で判断する。成績評価対象者は、全授業の3分の2以上の出席が必要となる。</p>
教科書	<p>教科書は使用しない。 </p>
参考書	<p>参考書は使用しないが、次のものを使用する。 1文部科学省『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』 2文部科学省『中学校学習指導要領解説(平成 29 年告示) 総則編』 3文部科学省『中学校学習指導要領解説(平成 29 年告示) 特別の教科 道徳編』3は、可能であれば持参すること。  その他、関連する資料・文献等は授業中に適宜紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>道徳教育法</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照※G 参照教科又は教職に関する科目(旧)大学が独自に設定する科目(新)</p>

時間割コード	09249124	担当教員	浅川 俊彦		
単位数	1.0	学期	S1	時限	水 5
講義題目	総合的な学習の時間の指導法 Pedagogical Studies on the Period for Integrated Studies				

授業の目的・概要	<p>中等教育段階における「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」について実践的課題を学び、 実際の授業を構想する作業を通して、創造的な学習の場をつくる力量を形成する。 -- 現在の学校教育では、教科学習においても「探究的な学び」が求められている。 かつては一定の知識や解法を身につけることが、諸課題にアプローチする際の基礎と考えられてきた。 しかしスマホひとつ取り出せば膨大なデータにいつでも容易くアクセスできるいま、 それを頭の中に詰め込む努力は虚しいものと言わざるを得ない。  中高の教室で行われる授業も、黒板を背にした教員が整理した知識をいかに合理的に生徒に受け渡し、ドリルや演習で歩留まりを上げていか そんなスタイルが通用しないものとなりつつある。  では一体何が求められているのか。 そのヒントの一つが教科の枠を超えた「総合的な学習(探究)」にある。  いま社会に満ちている諸課題の中から、何を自分ごととして選び取るのか。 その分野でこれまで何が明らかにされており、何がホットなトピックなのか。 自分の身の丈に合ったアプローチにはどんなものがあるのか。  あふれる情報の海から、信頼にたるものを手繰り寄せ 先人の到達に学びながらも自分の頭で思考・分析し 客観と主観を行き来させながらまとめ上げ それをわかりやすい形で、届けたい相手に向けて発信していく。  そうした一連の「探究的な学び」は、果たして 数十名の生徒が一斉に時間に縛られながら学習する 学校教育で本当に成り立つのだろうか?  履修学生自身の経験と先進的事例に学びながら、その問いに迫りたい。</p>
授業計画	<p>授業計画  第1回 総合的な学習とは何か(受講者の経験を対象化する) 第2回 「探究」にカリキュラムは成立するのか 第3回 総合的な学習の具体例(魅力的な事例にまなぶ) 第4回 総合的な学習をデザインする(グループワーク) 第5回 総合的な学習の指導案をつくる 第6回 授業案作成とその検討 ① 第7回 授業案発表  </p>
授業の方法	<p>総合的な学習の時間について、先進的事例のいくつかと受講者自身の経験を踏まえ、 その特徴を吟味し、問題点および改善点を考える。 個人または小グループで実際の授業を構想し、 その相互評価を元に練り上げて学習指導案に結実させる。 </p>
成績評価方法	<p>毎回のリフレクションペーパー(15点×7回)、学習指導案(95点)の200点満点で評価。 </p>
教科書	なし
参考書	授業中に必要に応じて資料を配布する。
履修上の注意・備考	総合的な学習の時間の指導法
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※H 参照

時間割コード	09249125	担当教員	浅川 俊彦		
単位数	1.0	学期	S2	時限	水 5
講義題目	総合的な学習の時間の指導法 Pedagogical Studies on the Period for Integrated Studies				

授業の目的・概要	<p>中等教育段階における「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」について実践的課題を学び、 実際の授業を構想する作業を通して、創造的な学習の場をつくる力量を形成する。 -- 現在の学校教育では、教科学習においても「探究的な学び」が求められている。 かつては一定の知識や解法を身につけることが、諸課題にアプローチする際の基礎と考えられてきた。 しかしスマホひとつ取り出せば膨大なデータにいつでも容易くアクセスできるいま、 それを頭の中に詰め込む努力は虚しいものと言わざるを得ない。  中高の教室で行われる授業も、黒板を背にした教員が整理した知識をいかに合理的に生徒に受け渡し、ドリルや演習で歩留まりを上げていか そんなスタイルが通用しないものとなりつつある。  では一体何が求められているのか。 そのヒントの一つが教科の枠を超えた「総合的な学習(探究)」にある。  いま社会に満ちている諸課題の中から、何を自分ごととして選び取るのか。 その分野でこれまで何が明らかにされており、何がホットなトピックなのか。 自分の身の丈に合ったアプローチにはどんなものがあるのか。  あふれる情報の海から、信頼にたるものを手繰り寄せ 先人の到達に学びながらも自分の頭で思考・分析し 客観と主観を行き来させながらまとめ上げ それをわかりやすい形で、届けたい相手に向けて発信していく。  そうした一連の「探究的な学び」は、果たして 数十名の生徒が一斉に時間に縛られながら学習する 学校教育で本当に成り立つのだろうか?  履修学生自身の経験と先進的事例に学びながら、その問いに迫りたい。</p>
授業計画	<p>授業計画  第1回 総合的な学習とは何か(受講者の経験を対象化する) 第2回 「探究」にカリキュラムは成立するのか 第3回 総合的な学習の具体例(魅力的な事例にまなぶ) 第4回 総合的な学習をデザインする(グループワーク) 第5回 総合的な学習の指導案をつくる 第6回 授業案作成とその検討 ① 第7回 授業案発表  </p>
授業の方法	<p>総合的な学習の時間について、先進的事例のいくつかと受講者自身の経験を踏まえ、 その特徴を吟味し、問題点および改善点を考える。 個人または小グループで実際の授業を構想し、 その相互評価を元に練り上げて学習指導案に結実させる。 </p>
成績評価方法	<p>毎回のリフレクションペーパー(15点×7回)、学習指導案(95点)の200点満点で評価。 </p>
教科書	なし
参考書	授業中に必要に応じて資料を配布する。
履修上の注意・備考	総合的な学習の時間の指導法
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※H 参照

時間割コード	09249126	担当教員	浅川 俊彦		
単位数	1.0	学期	A1	時限	水 5
講義題目	総合的な学習の時間の指導法 Pedagogical Studies on the Period for Integrated Studies				

授業の目的・概要	<p>中等教育段階における「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」について実践的課題を学び、 実際の授業を構想する作業を通して、創造的な学習の場をつくる力量を形成する。 -- 現在の学校教育では、教科学習においても「探究的な学び」が求められている。 かつては一定の知識や解法を身につけることが、諸課題にアプローチする際の基礎と考えられてきた。 しかしスマホひとつ取り出せば膨大なデータにいつでも容易くアクセスできるいま、 それを頭の中に詰め込む努力は虚しいものと言わざるを得ない。  中高の教室で行われる授業も、黒板を背にした教員が整理した知識をいかに合理的に生徒に受け渡し、ドリルや演習で歩留まりを上げていか そんなスタイルが通用しないものとなりつつある。  では一体何が求められているのか。 そのヒントの一つが教科の枠を超えた「総合的な学習(探究)」にある。  いま社会に満ちている諸課題の中から、何を自分ごととして選び取るのか。 その分野でこれまで何が明らかにされており、何がホットなトピックなのか。 自分の身の丈に合ったアプローチにはどんなものがあるのか。  あふれる情報の海から、信頼にたるものを手繰り寄せ 先人の到達に学びながらも自分の頭で思考・分析し 客観と主観を行き来させながらまとめ上げ それをわかりやすい形で、届けたい相手に向けて発信していく。  そうした一連の「探究的な学び」は、果たして 数十名の生徒が一斉に時間に縛られながら学習する 学校教育で本当に成り立つのだろうか?  履修学生自身の経験と先進的事例に学びながら、その問いに迫りたい。</p>
授業計画	<p>授業計画  第1回 総合的な学習とは何か(受講者の経験を対象化する) 第2回 「探究」にカリキュラムは成立するのか 第3回 総合的な学習の具体例(魅力的な事例にまなぶ) 第4回 総合的な学習をデザインする(グループワーク) 第5回 総合的な学習の指導案をつくる 第6回 授業案作成とその検討 ① 第7回 授業案発表  </p>
授業の方法	<p>総合的な学習の時間について、先進的事例のいくつかと受講者自身の経験を踏まえ、 その特徴を吟味し、問題点および改善点を考える。 個人または小グループで実際の授業を構想し、 その相互評価を元に練り上げて学習指導案に結実させる。 </p>
成績評価方法	<p>毎回のリフレクションペーパー(15点×7回)、学習指導案(95点)の200点満点で評価。 </p>
教科書	なし
参考書	授業中に必要に応じて資料を配布する。
履修上の注意・備考	総合的な学習の時間の指導法
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※H 参照

時間割コード	09249127	担当教員	森 俊二
単位数	2.0	学 期	S2
講義題目	特別活動の指導法 A Way of Instruction of Extracurricular Activities		
		時 限	集中

授業の目的・概要	<p>学習指導要領に基づいた特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)は集団を通して生徒に自主的・自治的な能力を育成するものです。特別活動は生活指導の領域です。生活指導は子ども自身が今ある生活現実をつくりかえようとするように援助することです。そして子どもを社会的実践主体に育てることを重視します。ここではHRや集団を子どもの自発性や創造性を依拠してつくりかえていく中で、民主的な関係や集団のあり方を教えていく「子ども集団づくり」をその指導方法として基本に学びます。事例を実践的に学び、子どもを生活の主体・実践の主体ととらえ、子どもとつながり、地域・保護者とつながる特別活動の指導の道筋と課題をグループワーク・討論等を通して共に学びます。</p>
授業計画	<p>1. 学習指導要領、部活動問題 2. 学級びらき、学級通信、 3. 生活指導と生徒指導、子ども集団づくりへ 4. ゼロレと子どもの権利条約 5. HR 実践分析① 6. HR 実践分析② 7. 三者協議会と生徒会の指導  8. 生徒会実践分析  9. 指導と管理 ケーススタディ  10. 学級における子どもの関係性の指導①班・討議・リーダーをどうつくるか 11. ②HRにおける行事の指導 12. 学級における子どもの関係性の課題 いじめ問題の指導  13. 実践事例分析  14. 特別なニーズのある子ども支援と生活指導 15. 実践事例分析 まとめ  </p>
授業の方法	<p>講義だけでなく討論・グループワークを行います。積極的に参加して下さい。</p>
成績評価方法	<p>レポート55%、平常点45%(授業で指示された課題、コメントカード、授業・討論等の参加状況等)</p>
教科書	<p>『市民性を育てる生徒指導・進路指導』望月一枝・森俊二他編 大学図書出版 2020 年  ISBN 978-4-909655-43-1 ¥1980 </p>
参考書	<p>中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200 円+税 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200 円+税 『新しい時代の生活指導』山本敏郎他著、有斐閣アルマ、2014 年、1800 円+税 『必ず盛り上がる文化祭ガイド』森俊二編 学事出版 2014 年 1800 円+税 『新・生活指導の理論』竹内常一 高文研 2016 年 2500 円+税 『高校生活指導』210号 高生研編 教育実務センター 2020 年 1200 円+税 『高校生活指導』208号 高生研編 教育実務センター 2018 年 1200 円+税 『高校生活指導』204号 高生研編 教育実務センター 2017 年 1200 円+税 『子ども集団づくり入門』全生研常任委員会編 明治図書 2005 年 2100 円+税 『18 歳を市民にする高校教育実践』白石陽一他編 大学図書出版 2400 円+税 </p>
履修上の注意・備考	<p>特別活動の指導法</p> <p>【履修上の注意】 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義) <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a> </p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照※I 参照</p>

時間割コード	09249128	担当教員	森 俊二
単位数	2.0	学 期	A1A2
		時 限	火 4
講義題目	特別活動の指導法 A Way of Instruction of Extracurricular Activities		

授業の目的・概要	<p>学習指導要領に基づいた特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)は集団を通して生徒に自主的・自治的な能力を育成するものです。特別活動は教科外活動、生活指導の領域です。生活指導は子ども自身が今ある生活現実をつくりかえようとするように援助することです。そして子どもを社会的実践主体に育てることを重視します。ここではHRや集団を子どもの自発性や創造性を依拠してつくりかえていく中で、民主的な関係や集団のあり方を教えていく「子ども集団づくり」をその指導方法として基本に学びます。事例を実践的に学び、子どもを生活の主体・実践の主体ととらえ、子どもとつながり、地域・保護者とつながる特別活動の指導の道筋と課題をグループワーク・討論等を通して共に学びます。</p>
授業計画	<p>1. 学習指導要領、部活動問題 2. 学級びらき、学級通信、 3. 生活指導と生徒指導、子ども集団づくりへ 4. ゼロレと子どもの権利条約 5. HR 実践分析① 6. HR 実践分析② 7. 三者協議会と生徒会の指導  8. 生徒会実践分析  9. 指導と管理 ケーススタディ  10. 学級における子どもの関係性の指導①班・討議・リーダーをどうつくるか 11. ②HRにおける行事の指導 12. 学級における子どもの関係性の課題 いじめ問題の指導  13. 実践事例分析  14. 特別なニーズのある子ども支援と生活指導 15. 実践事例分析 まとめ  </p>
授業の方法	<p>講義だけでなく討論・グループワークを行います。積極的に参加して下さい。</p>
成績評価方法	<p>レポート55%、平常点45%(授業で指示された課題、コメントカード、授業・討論等の参加状況等)</p>
教科書	<p>『市民性を育てる生徒指導・進路指導』望月一枝・森俊二他編 大学図書出版 2020 年  ISBN 978-4-909655-43-1 ¥1980 </p>
参考書	<p>中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200 円+税 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200 円+税 『新しい時代の生活指導』山本敏郎他著、有斐閣アルマ、2014 年、1800 円+税 『新・生活指導の理論』竹内常一 高文研 2016 年 2500 円+税 『必ず盛り上がる文化祭ガイド』森俊二編 学事出版 2014 年 1800 円+税 『高校生活指導』210号 高生研編 教育実務センター 2020 年 1200 円+税 『高校生活指導』208号 高生研編 教育実務センター 2018 年 1200 円+税 『高校生活指導』204号 高生研編 教育実務センター 2017 年 1200 円+税 『子ども集団づくり入門』全生研常任委員会編 明治図書 2005 年 2100 円+税 『18 歳を市民にする高校教育実践』白石陽一他編 大学図書出版 2400 円+税 </p>
履修上の注意・備考	<p>特別活動の指導法</p> <p>【履修上の注意】 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義) <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a> </p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照※I 参照</p>

時間割コード	09249129	担当教員	黒田 友紀		
単位数	2.0	学期	W	時限	集中
講義題目	教育の方法Ⅱ Teaching Methods II				

授業の目的・概要	<p>【概要】本授業では、教育方法の理論や、学びや授業、教育評価に関する基本的な考え方について理解し、さまざまな学習形態や ICT・教材教具を活用した授業を具体的にデザインできることをねらいとする。また、実際の授業映像の分析から平等で質の高い学びについて検討し、「学びの専門家」としての教師の技(アート)についてともに考察を行いたい。 【目標】 教育方法の理論と歴史、子どもの学びや授業、教育評価などの基礎的事項について理解する。 ・授業の目的に応じ、学習形態・教材教具や ICT を活用して、具体的に授業をデザインすることができる ・教材研究の方法や授業の構成を考え、学習指導案の作成を含む基本的な指導技術を習得する。 </p>
授業計画	<p>1. 教育方法とは何か、授業について振り返る  2. 授業とは何か、教えると学ぶ、授業という場  3. 教育方法の理論と歴史(1)一斉授業の成立  4. 教育方法の理論と歴史(2)子ども中心主義・進歩主義の教育  5. カリキュラムと授業デザイン  6. 教育方法の実践例(1)多様な学習形態  7. 教育方法の実践例(2)ICT の活用  8. 教育方法の実践例(3)課題の設定、教材・教具 9. 協同(働)的学び、アクティブ・ラーニングを考える 10. 授業のデザイン(1)学習指導案の作成方法、教材研究 11. 授業のデザイン(2)教育評価の理論と方法  12. 授業デザインと評価:何を評価するか、どんな資質能力を測定するか 13. 授業の省察:子どもの学びの様子から考える 14. 授業の省察:授業研究と協議会 15. 教師の学びと成長 </p>
授業の方法	<p>・主として、授業のテーマに沿って共有した資料に基づいて、講義+小グループによるディスカッションと質疑+補足説明によって授業をすすめる。 ・授業ビデオの視聴を行う場合、小グループおよび全体でのディスカッションを行い、その後リフレクションとして小レポートを作成してもらう。</p>
成績評価方法	<p>授業のリアクションペーパー・小レポート(50%)、授業・議論への貢献度(20%)、最終レポート(30%)で総合的に評価する。</p>
教科書	<p>特に指定せず、必要な資料は適宜共有する。 </p>
参考書	<p>佐藤学『教育の方法』左右社、2010年  小室弘毅・齋藤智哉編著『ワークで学ぶ教育の方法と技術』ナカニシヤ出版、2019年  その他、講義の中で、適宜資料を配付する。</p>
履修上の注意・備考	<p>教育の方法Ⅱ</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照※J 参照</p>

時間割コード	09249130	担当教員	山本 宏樹		
単位数	2.0	学期	A1	時限	金 2&comma; 金 3
講義題目	生徒指導・進路指導 Student Guidance and Career Guidance				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>■授業の概要  もし授業中に生徒が寝ていたら、教師はどう振る舞えばよいのでしょうか。「高校に進学したくない」という中学生を前に、どのような言葉かけをすればよいでしょうか。「クラスで無視されている」という相談に対しては、具体的にどのように対応をすべきでしょうか?  教師の日常は、悩ましく切実な判断の連続です。生徒指導と進路指導は、子どもの人格・尊厳の奥深くに立ち至る困難な教育活動であり、子どもから「生涯の恩師」として慕われる可能性がある一方、子どもを深く傷つける可能性もはらみます。  受講生の皆さんも、これまでの学校生活において、多かれ少なかれ生徒の立場で生徒指導・進路指導を経験してきたはずです。この授業では、その時の記憶や想いを足がかりにしながら、今度は教師の立場になって理解を深めていきましょう。  ■授業の目標  本授業の目的は、生徒指導と進路指導・キャリア教育の理論と方法の理解です。生徒指導では「他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けること」を、進路指導では「進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付けること」を全体の目標とします。  ■授業の到達目標 1) 生徒指導の意義や原理を理解し、それらを説明できること。 2) すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解し、それらを説明できること。 3) 児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解し、それらを説明できること。 4) 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解し、それらを説明できること。 5) 全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解し、それらを説明できること。 6) 児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解し、それらを説明できること。  ■Course overview If a student falls asleep in class&amp;comma; how should the teacher respond? In the presence of a middle school student who expresses reluctance to attend high school&amp;comma; what manner of discourse would be appropriate? In response to a consultation about being ignored by classmates&amp;comma; what specific steps should be taken? A teacher's daily existence is a series of difficult decisions. Student guidance and career counseling are both arduous educational activities that reach into the deepest&amp;comma; most profound depths of a child's personality and dignity&amp;comma; and while it is possible for children to hold their teachers in awe as &amp;quot;lifelong mentors&amp;comma;&amp;quot; there is also the potential for deep harm.  All of you students have probably experienced student guidance and career counseling in your previous school lives. In this lecture&amp;comma; using those memories as a foundation&amp;comma; let us deepen our understanding while assuming the standpoint of a teacher.</p>
<b>授業計画</b>	<p>第1回: 生徒指導・進路指導の意義と目的 第2回: 生徒指導の現状(1) 学校の抱える問題(体罰) 第3回: 生徒指導の現状(2) 学校の抱える問題(行き過ぎた指導) 第4回: 生徒指導の現状(3) 学校の抱える問題(校則問題) 第5回: 生徒指導の理論(1) 生徒指導の原理と学校教育裁判 第6回: 生徒指導の理論(2) 教師の生徒指導上の諸問題の背景要因 第7回: 生徒指導の方法(1) 特別指導・懲戒処分・有形力の行使・機関連携 第8回: 生徒指導の方法(2) 対話的指導・修復的実践・子ども集団づくり・SST 第9回: 生徒指導の方法(3) 暴力行為・いじめ・不登校・非行逸脱・インターネット使用等の現状と対応 第10回: 進路指導の理論と方法(1) 進路指導・キャリア教育の原理 第11回: 進路指導の理論と方法(2) 進路指導の科学(職業選択編) 第12回: 進路指導の理論と方法(3) 進路指導の科学(進学指導編) 第13回: 進路指導の理論と方法(4) 進路指導のケーススタディ 第14回: 総括</p>
<b>授業の方法</b>	<p>・2 週目以降に班分けを行い、毎週グループディスカッションを実施します。 ・毎授業後にコメントペーパー等の提出を求め、内容を履修者に匿名で共有します。 ・配付資料はすべて ITC-LMS 上で配付します。 ・授業は基本的にすべて撮影し、復習や補講に供する予定です。 ・授業内で扱いきれない内容(分野別の職業指導等)について、オンデマンド</p>

	動画を提供します(受講は任意です)。
<b>成績評価方法</b>	・対面授業への7割以上の出席を成績評価の前提条件として、授業内評価 60%(発言・グループワーク・コメントペーパー、ピアレビュー等)、期末レポート 40%で評価します。 ・対面授業について遅刻欠席早退した場合は、次週授業までにビデオ補講を実施することを求めます。 ・期末レポートの評価方法には、履修者相互の匿名ピアレビューを含みません。
<b>教科書</b>	特定の教科書は使用せず、毎回資料を電子媒体で配付します。
<b>参考書</b>	・文部科学省『学習指導要領』および『学習指導要領解説 総則編』( <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm</a> )   ・文部科学省『生徒指導提要』2022年版( <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm</a> )。 ・内田良・山本宏樹[編著]『だれが校則を決めるのか:民主主義と学校』岩波書店、2022年。 ・山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志『新しい時代の生活指導』有斐閣アルマ、2014年。 ・教育科学研究会[編]『いじめと向きあう』旬報社、2013年。 ・高原史朗『中学生を担任するということ―「ゆめのたね」をあなたに』高文研、2017年。 ・山下英三郎『いじめ・損なわれた関係を築きなおす―修復的対話というアプローチ』学苑社、2010年。 ・山本宏樹『なぜ学校で体罰や指導死が起こるのか?―社会に蔓延する“ダークペダゴジー”』2017年( <a href="http://synodos.jp/education/19720/">http://synodos.jp/education/19720/</a> )。 ・山本宏樹『“ダークペダゴジー”が、危険タックルを引き起こした。教育学者が指摘』2018年( <a href="https://www.huffingtonpost.jp/2018/05/29/darkpedagogy_a_23446448/">https://www.huffingtonpost.jp/2018/05/29/darkpedagogy_a_23446448/</a> )。 ・山本宏樹『これからの校則の話しよう』2019年( <a href="https://synodos.jp/opinion/education/22616/">https://synodos.jp/opinion/education/22616/</a> )。 ・山本宏樹『繰り返されてきた校則問題を終わらせるには』( <a href="https://synodos.jp/opinion/education/28585/">https://synodos.jp/opinion/education/28585/</a> )
<b>履修上の注意・備考</b>	生徒指導・進路指導 学生からの質問・相談には随時お答えしていますので、お気軽にご連絡ください。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目 ※9 参照※K 参照

時間割コード	09249131	担当教員	北原 祐理		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 3
講義題目	教育相談Ⅱ School Counseling II				

授業の目的・概要	<p>【目的】教育相談とは、児童・生徒一人ひとりの心理社会的発達や教育上の問題を理解し、人格的な成長を促進する活動です。その過程では、個人が各々の発達に即して自己理解を深め、集団の中で他者との関係性を育むことを援助することが求められます。学校現場における教育相談は、教員や心理職の個別の活動に限らず、両者の連携や組織風土を通して実践されます。本講義では、児童・生徒を理解するための心理学的知識や対応例を学び、受講者自身の専門性や立場を交えて教育相談の実践について考えることをめざします。  【到達目標】 ① 学校における教育相談の理念について説明することができる。 ② 児童・生徒の課題や不適応の意味を多角的な視点から説明することができる。 ③ カウンセリングの理論や技法に関する基礎知識を身につける。 ④ 教育相談における組織的な取り組み(支援計画の作成、学内外の連携など)の必要性を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション:なぜ教育相談を学ぶのか 第2回 子どもを理解するためのまなざし:児童期 第3回 子どもを理解するためのまなざし:思春期 第4回 教育相談におけるアセスメント 第5回 心理検査の実際と活用 第6回 子どもと関わる:カウンセリングの理論 第7回 子どもと関わる:カウンセリングの実践 第8回 子どもと関わる:メンタライジングの理論と実践 第9回 チームとしての学校:組織的な支援体制 第10回 生徒指導上の諸課題:不登校、いじめ 第11回 特性を踏まえた援助:発達障害 第12回 集団を育てる:心の健康教育 第13回 教師のメンタルヘルスと自己理解</p>
授業の方法	<p>講義形式を基本として、適宜ペアワークやグループワークを取り入れる。受講者は毎授業後に自身の考えや気づきをまとめたリアクションペーパーを提出し、これが出席点として換算される。必要に応じて、授業の冒頭でリアクションへのフィードバックを行う。 </p>
成績評価方法	<p>・出席状況(リアクションペーパー):40%・課題(グループ討議・小レポート):20%・期末レポート:40% ※ 積極的な参加を求めるとともに、教職科目のために参加状況が芳しくない者は不可とすることがある。</p>
教科書	<p>指定しない。授業中に資料を配布する。</p>
参考書	<p>「絶対役立つ教育相談:学校現場の今に向き合う」藤田哲也(監修) ミネルヴァ書房(2017年) 「やさしく学ぶ教職課程 教育相談」角南なおみ(編著) 学文社(2020年) 「子どもを支援する教育の心理学」村上香奈・山崎浩一(編) ミネルヴァ書房(2021年) 「深掘り! 関係行政論 教育分野」高坂康雅 北大路書房(2021年) 「実践・子どもと親へのメンタライジング臨床:取り組みの第一歩」西村馨(編著) 岩崎学術出版社(2022年)  </p>
履修上の注意・備考	<p>教育相談Ⅱ ※本科目は持ち出し科目に該当します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※10 参照※L 参照</p>

時間割コード	09249132	担当教員	鈴木 悠太
単位数	2.0	学期	S1S2
講義題目	教師論Ⅱ Teaching and Teacher Education II		
		時限	木 2

授業の目的・概要	<p>本授業の主題は、授業改革・学校改革と教師をめぐる理論と実践である。すなわち、受講者のこれまでの学校教育における体験(被教育体験)を基盤とし、学びとは何か、授業とは何か、教職とは何か、学校とは何かについての原理的な検討を経て、より良い学校とより良い授業を構想するための理論的な基礎を独自に形成することである。  これらを通して、より良い教育の担い手(生涯において学び続ける教師)となるための基盤を確立する。  本授業の到達目標は、①学校改革・授業改革の基本となる概念や理論を活用し、②受講者自身のこれまでの教育体験(被教育体験)を深く省察し自己に相応しい教育観を形成し、③より良い学校とより良い授業を構想するための理論的な基盤について独自の見解を客観的・具体的に説明できること、である。</p>
授業計画	<p>1. 「学校改革の現場の声を聴き、現場から学ぶ」とは何か。 2. 授業研究を中心とする学校改革 3. 学校改革の理論 4. 授業改革の理論 5. 学校改革の事例:日本国内の展開 6. 学校改革の事例:国際的な展開 7. 授業改革の事例:日本国内の展開 8. 授業改革の事例:国際的な展開 9. 教師の専門家共同体 10. 教師の専門家としての学び 11. 教職の専門性 12. 協同的な学び 13. 教育政策実施研究の視点 14.授業改革・学校改革研究の方法論 15. 授業改革・学校改革のアクション・リサーチ</p>
授業の方法	<p>本授業の方法は、教科書や配布資料に基づき、学校改革・授業改革の概念や理論についての講義を行い、適宜グループ・ワーク(協同学習)を取り入れる。受講者には、それぞれの被教育体験を基盤としながら、自己に相応しい教育観の形成やより良い学校とより良い授業の構想に関する自己の見解を説明できるようになることが期待される。</p>
成績評価方法	<p>最終レポート:50%(授業改革・学校改革と教師をめぐる理論と実践の理解、教育観の省察と形成)、平常点評価:50%(授業の到達目標の達成のための授業への参加度と授業内の小レポートの作成)。</p>
教科書	<p>鈴木悠太、2022、『学校改革の理論—アメリカ教育学の追究—』、勁草書房。 Yuta Suzuki&amp;comma; 2022&amp;comma; Reforming Lesson Study in Japan: Theories of Action for Schools as Learning Communities&amp;comma; Routledge。 鈴木悠太、2018、『教師の「専門家共同」の形成と展開—アメリカ学校改革研究の系譜—』、勁草書房。 </p>
参考書	<p>鈴木悠太、2019、「学校の教師」、高橋浩・金田健司(編)『教育の本質と教師の学び』、学文社、pp. 123-146。 秋田喜代美・佐藤学(編)、2015、『新しい時代の教職入門【改訂版】』、有斐閣。 佐藤学、2015、『専門家として教師を育てる—教師教育改革のグランドデザイン—』、岩波書店。 佐藤学、1997、『教師というアポリア—反省的实践へ—』、世織書房。</p>
履修上の注意・備考	教師論Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照※B 参照

時間割コード	09249133	担当教員	未定
単位数	3.0	学 期	集中
講義題目	教育実習 I Student Teaching I		

授業の目的・概要	1. 学校の組織及び教育活動の全般について、実地の観察と参加を通じて理解を深める。 2. 授業を実際に担当し、教科指導に関する指導力の基礎を養う。 3. 学級担任を実際に担当し、その職務内容を理解するとともに、学級経営に関する指導力の基礎を養う。 4. 個々の生徒及び生徒集団について理解を深め、生徒指導に関する指導力の基礎を養う。
授業計画	事前指導は、2月に1日、3月に1日の計2日間、東京大学教育学部附属中等教育学校において実施する。カリキュラム、学級経営、生活指導上の諸問題についての講義、学習指導案作成演習を行う。事前指導における学修状況を総合的に判断し、合格者にのみ本実習を行うことを許可する。 本実習の指導計画は、実習校によって異なるため一概には記載できないが、概ね第1週は授業観察を中心に、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、指導教員の指導のもとで実際に体験し、指導力及び職務遂行能力の基礎を養う。第2週は、以上の観察と指導・職務への参加を継続するとともに、実際に授業を行う。また、可能な限り研究授業を実施して、授業実習のまとめを行う。 事後指導は、教育実習終了時期により、7月または11月に東京大学教育学部附属中等教育学校において実施し、教育実習の振り返りを中心に行う。また、教育実習終了後1週間以内に「教育実習レポート」を提出しなければならない。
授業の方法	事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深めるとともに、授業観察や学習指導案作成演習を行う。 本実習では、教育実習生が参加する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などのすべての側面について、教科及び学級担当の両指導教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。 事後指導では、「教育実習レポート」の作成やグループ討議によって、教育実習の振り返りを行う。
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。教育実習担当教員2名が、教育実習生の作成した「教育実習記録簿」及び「教育実習レポート」を精査し、教育実習校からの評価を勘案して、総合的に評価する。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	教育実習 I
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教育実習(2週間)

時間割コード	09249134	担当教員	未定
単位数	5.0	学期	集中
講義題目	教育実習Ⅱ Student Teaching II		

授業の目的・概要	1. 学校の組織及び教育活動の全般について、実地の観察と参加を通じて理解を深める。 2. 授業を実際に担当し、教科指導に関する指導力の基礎を養う。 3. 学級担任を実際に担当し、その職務内容を理解するとともに、学級経営に関する指導力の基礎を養う。 4. 個々の生徒及び生徒集団について理解を深め、生徒指導に関する指導力の基礎を養う。
授業計画	事前指導は、2月に1日、3月に1日の計2日間、東京大学教育学部附属中等教育学校において実施する。カリキュラム、学級経営、生活指導上の諸問題についての講義、学習指導案作成演習を行う。事前指導における学修状況を総合的に判断し、合格者にのみ本実習を行うことを許可する。 本実習の指導計画は、実習校によって異なるため一概には記載できないが、概ね第1週は授業観察を中心に、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、指導教員の指導のもとで実際に体験し、指導力及び職務遂行能力の基礎を養う。第2週は、以上の観察と指導・職務への参加を継続するとともに、実際に授業を行う。また、可能な限り研究授業を実施して、授業実習のまとめを行う。 事後指導は、教育実習終了時期により、7月または11月に東京大学教育学部附属中等教育学校において実施し、教育実習の振り返りを中心に行う。また、教育実習終了後1週間以内に「教育実習レポート」を提出しなければならない。
授業の方法	事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深めるとともに、授業観察や学習指導案作成演習を行う。 本実習では、教育実習生が参加する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などのすべての側面について、教科及び学級担当の両指導教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。 事後指導では、「教育実習レポート」の作成やグループ討議によって、教育実習の振り返りを行う。
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。教育実習担当教員2名が、教育実習生の作成した「教育実習記録簿」及び「教育実習レポート」を精査し、教育実習校からの評価を勘案して、総合的に評価する。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	教育実習Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教育実習(3週間以上)

時間割コード	09249135	担当教員	浅川 俊彦、藤江 康彦		
単位数	1.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	学校体験活動 I Experience in School Activities I				

授業の目的・概要	1. 学校の組織及び教育活動について、観察と参加を通じて理解を深める。 2. 児童及び生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握する。 3. 教師の活動の観察を通して、教師の役割や校務分掌のありかたについて理解する。 4. 授業の観察とその記録を通して、児童及び生徒の学習過程、教師による学習環境デザインのありかたを事例的に理解する。 5. 上記1~4についての省察を通して、教育実習における自己の目標を設定し、教職への関心や意欲を高める。
授業計画	事前指導は、5月中旬の2日間(約7時間)で、本学担当教員による事前講義及び本学教育学部の事務担当から事務上の諸注意についての説明を行う。また、受入校において、学校管理職や担当教諭による講義・指導(学校体験活動の概要説明)、担当教員による実習内容の詳細な説明及び実習の進め方について打合せと指導を行う。 本活動の指導計画は、受入校によって異なるため一概には記載できないが、受入校における教育活動をはじめとする活動全般について、支援や補助業務を行う。大学における科目担当教員が受入校の受入担当教諭と密に連携をとり、指導を進める。その際に、履修者は毎回の活動の自己評価シートを提出し、その内容の確認を受入校の担当教諭と本学担当教員が行い、フィードバックを行う。 事後指導は、活動期間終了時に随時実施され、本学担当教員、受入校の担当教諭、履修者により、活動内容に関する報告や振り返り等を行う。また、今後の教職課程の履修計画と教育実習への参加見通しを確認し目標設定を行う。
授業の方法	事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深める。 本活動では、履修生が参加する活動に関連する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、担当教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。 事後指導では、「活動レポート」の作成や本学担当教員、受入校の担当教諭、履修者によるグループ討議によって、活動の振り返りを行う。
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。本学担当教員が、履修者の作成した自己評価シートを精査し、受入校から提出される報告書の内容を勘案したうえで総合的に評価する。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	学校体験活動 I
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249136	担当教員	浅川 俊彦、藤江 康彦		
単位数	1.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	学校体験活動Ⅱ Experience in School Activities II				

授業の目的・概要	1. 学校の組織及び教育活動について、観察と参加を通じて理解を深める。 2. 児童及び生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握する。 3. 教師の活動の観察を通して、教師の役割や校務分掌のありかたについて理解する。 4. 授業の観察とその記録を通して、児童及び生徒の学習過程、教師による学習環境デザインのありかたを事例的に理解する。 5. 上記1~4についての省察を通して、教育実習における自己の目標を設定し、教職への関心や意欲を高める。
授業計画	事前指導は、5月中旬の2日間(約7時間)で、本学担当教員による事前講義及び本学教育学部の事務担当から事務上の諸注意についての説明を行う。また、受入校において、学校管理職や担当教諭による講義・指導(学校体験活動の概要説明)、担当教員による実習内容の詳細な説明及び実習の進め方について打合せと指導を行う。 本活動の指導計画は、受入校によって異なるため一概には記載できないが、受入校における教育活動をはじめとする活動全般について、支援や補助業務を行う。大学における科目担当教員が受入校の受入担当教諭と密に連携をとり、指導を進める。その際に、履修者は毎回の活動の自己評価シートを提出し、その内容の確認を受入校の担当教諭と本学担当教員が行い、フィードバックを行う。 事後指導は、活動期間終了時に随時実施され、本学担当教員、受入校の担当教諭、履修者により、活動内容に関する報告や振り返り等を行う。また、今後の教職課程の履修計画と教育実習への参加見通しを確認し目標設定を行う。
授業の方法	事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深める。 本活動では、履修生が参加する活動に関連する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、担当教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。 事後指導では、「活動レポート」の作成や本学担当教員、受入校の担当教諭、履修者によるグループ討議によって、活動の振り返りを行う。
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。本学担当教員が、履修者の作成した自己評価シートを精査し、受入校から提出される報告書の内容を勘案したうえで総合的に評価する。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	学校体験活動Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249137	担当教員	未定		
単位数	2.0	学期	A2	時限	金 5&comma; 金 6
講義題目	教職実践演習(中・高) Seminar on Professional Practice in Teaching				

授業の目的・概要	<p>教職課程における「集大成」として位置づけられる演習であり、各履修者の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するために実施する。学校教育、特に中等教育のリーダーとなる教員の育成を目指し、文部科学省が含むべき事項と定める4事項(①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解に関する事項、④教科等の指導力に関する事項)の育成を図り、複雑な問題解決に対応できる判断力を培うための演習とする。  内容は、以下の2つに大別される。 ① 討論をベースにした教職に関する現代的課題の理解:現代的課題やその具体的事例についての講義を受講、あるいはビデオ(DVD)を視聴し、担任のコーディネートによりグループ討論及び全体討論を行う。 ② 授業の計画・実施・研究協議:グループ毎に授業を計画・実施し、クラス全体で研究協議を行う。</p>
授業計画	-
授業の方法	<p>教育学研究科教員と東大付属中等教育学校教員の連携協力のもとで実施される。4クラスに分けて行う。教職に関する現代的課題の理解については、担任がグループ、クラスでの討論をコーディネートして行う。授業の計画・実施・研究協議では、担任の指導のもと、グループ毎に授業を計画・実施し、クラス全体で研究協議を行う。受講者には主体的・積極的な参加が求められる。</p>
成績評価方法	<p>演習に参加しての平常点(振り返りレポートの提出を含む)による。出席が重視される。</p>
教科書	特に指定しない。
参考書	各回担当講師が紹介する情報を参考にされたい。
履修上の注意・備考	教職実践演習(中・高)
教育職員免許法上の認定科目	

教職課程科目（Ⅱ）駒場キャンパス

時間割コード	09249201	担当教員	下地 秀樹		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 5
講義題目	教育原理 I Educational Principles I				

授業の目的・概要	「人間は教育されねばならない存在なのか否か」というテーマをめぐる、参加者各人が自己の(被)教育体験を対象化し、相対化する糸口を探ることを目標とする。このことが「教育を原理的に考える」第一歩である。遠回りのようだが、参加者間の討議により、教育の実践知の基盤となる反省知が獲得されていくはずである。  Objectifying and relativizing each experience of being educated through the exchange of opinions. That is the primary goal of this course.
授業計画	授業の目標に近づくべく、教育学および隣接諸科学の成果を援用しながら、主な柱として次のようなテーマを検討する。 1. 人間のメルクマール 2. 人類化と人間化 3. 近代化の行方: イゾラド 4. 生命倫理を考える: エンハンスメント 5. 正常と異常を考える: 野生児の事例 6. 近代学校の胎動と近代の人間観 7. 臨界期 8. 現代発達環境論 9. 発達と教育の基礎理論 10. 明治初期の教育 11. 戦時下の教育 12. 教育基本法 13. 戦後の中等教育制度 14. 学力観: PISA 等の構想 15. 現代の学校改革
授業の方法	基本的には講義形式であるが、ほぼ毎回、上記問題群に関わる小レポートまたは小テストを課す(LMS に提出)。相互に討議し、批評しあう機会をなるべく多く設けたい。講義は、その結果を反映させながら構成する。  「教職に関する科目」(教員免許取得のための必修科目)であるが、教員免許取得にいたるプロセスのベースとなる問題群について、あまり先を焦らずに考える時間としたい。
成績評価方法	学期末最終授業時には、総括としてのテストを実施するか、または期末レポートを課し、いずれにしても、さらに相互批評を行う。どちらにするかは、授業中に受講者との相談により決定する。成績評価は、前記「授業の方法」欄に示した小レポートや小テストと、この総括テストまたは期末レポートを総合した平常点評価とする。敢えて配分を記すと、小レポートおよび小テスト 80%、総括テストまたは期末レポート 20%とする。
教科書	堀尾輝久他編『新版 地球時代の教育原理』(三恵社)
参考書	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意・備考	教育原理 I ※2023 年度以前開講「教育原理」(担当教員: 下地秀樹)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照※A 参照

時間割コード	09249202	担当教員	町支 大祐		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 6
講義題目	教師論 I Teaching and Teacher Education I				

授業の目的・概要	【授業の目標】1. 教師との関わりに関する自らの経験を相対化し、教職のあり方について考えることができる。 2. 教職の意義や役割並びに職務内容に関する実践的、理論的な理解を深める。 3. 教職に関する教職を将来の進路の一つとして真剣に検討している学生に、その検討のための材料を提供する。【授業の概要】講義や対話を通じて、教員の職務や意義、社会における役割等についての理解を深める。また、教員経験者の話を聞く機会ももうけ、実際の教職の様子に関わる理解を深める。これらの理解を深めるとともに、教職を将来の進路の一つとして真剣に検討している学生に対して、その検討のための材料を提供する。
授業計画	1 イントロダクション 2 教師との関わりを振り返る 3 これからの社会と教師 4 学校に求められる学びと教師 5 教師の専門性(1) 6 教師の専門性(2) 7 教師のライフコース(1) 8 教師に関わるトピック_職務環境 9 教師に関わるトピック_免許制度 10 教師に関わるトピック_指導主事 11 教師のライフコース(2) 12 教師と学校経営 13 教師に関わる政策(1) 14 教師に関わる政策(2) 15 授業のまとめ
授業の方法	・講義による話題提供と、学生間の対話やワークを中心に進める ・授業のうち複数回はオンラインまたはオンデマンドで行う
成績評価方法	・リアクションペーパー等による評価 ・ワークなどに関わる学生間のピア評価 ・レポート等の最終課題(形式については授業の展開によって変更する) これらの方法を組み合わせて評価する
教科書	特に指定しない(必要な資料は適宜配布する)
参考書	山崎準二ら(2020)『新・教職入門(改訂版)』学文社 脇本健弘ら(2015)『教師の学びを科学する』北大路書房
履修上の注意・備考	教師論 I
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照※B 参照

時間割コード	09249203	担当教員	中村 知世		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	水 4
講義題目	教育と社会 Education and Society				

授業の目的・概要	<p>本講義では、「格差」というキーワードから、教育という現象が社会の中にあり、社会的に構築されるという見方を養うことを目的とする。特に近代学校教育は、国民国家の発展や労働者の育成など、「社会」が求めることで生まれ、その形も時代とともに変化してきた。学校教育はいびつで多様な「社会」の中に埋め込まれているがゆえに、機会均等や平等であるという期待とは異なり、様々な「格差」が現れ、「格差」を生み出す装置になってしまっている。  本講義では、こうした教育をめぐる「格差」について、特に今日問題となっているテーマを取り上げ、実際に格差を示すデータを見ながら教育への教育社会学的見方を養っていきたい。具体的には子どもの出身階層間、公立学校間、学校階層間、ジェンダー、エスニシティなど、格差を生み出す境界線・分断線への理解を深める。また、本講義が教職課程であることにかんがみ、こうした格差に対する教師の存在への理解を促す内容を各講義のテーマとしていく。社会の中に教育が現れることを知ることで、例えば「問題児」といったレッテルを貼られ、自己責任化されていた子どもの「問題」が、実は大きな社会問題に埋め込まれた事からであったことが分かるようになるだろう。 </p>
授業計画	<p>第 1 回 イントロダクション 第 2 回 教育は社会の中で行われている 第 3 回 教育と社会階層 第 4 回 学校間格差 第 5 回 高校階層構造 第 6 回 社会的存在としての教師 第 7 回 教師-生徒関係 第 8 回 子育てと格差 第 9 回 非行と学校教育、 第 10 回 進路選択と大学進学 第 11 回 ジェンダー・セクシュアリティと格差 第 12 回 移民の子どもたち 第 13 回 部活動の諸問題、不登校・いじめ問題</p>
授業の方法	<p>各回の授業のテーマに基づき、教科書の指定部分をあらかじめ読んでくることを前提として進める。授業では初めに、前回授業に対するコメントへのフィードバックを行っていく。その後、各回の授業の主テーマに関して、教科書の補助的な解説や追加的な資料を提示し、より詳しい理解を促す。また、授業中には積極的に履修者同士にディスカッションや意見共有を求める。</p>
成績評価方法	<p>・各回のコメントペーパー:20% ・期末レポート:80% 以上の割合で成績評価する。</p>
教科書	<p>中村高康・松岡亮二編&amp;comma; 2021&amp;comma; 『現場で使える教育社会学:教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房</p>
参考書	<p>ケン・ブラマー(赤川学監訳)&amp;comma;2021&amp;comma;『21 世紀に生きるための社会学の教科書』筑摩書房</p>
履修上の注意・備考	<p>教育と社会</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※4 参照※C 参照</p>

時間割コード	09249204	担当教員	清河 幸子
単位数	2.0	学期	S1S2
講義題目	教育心理 I Educational Psychology I		

授業の目的・概要	【目標】「学ぶこと」や「教えること」に関連した心理学的知見を学び、それらに関連した諸問題に対する関心を高め、問題解決に資する体系的な知識と技能を習得することを目標とする。 【概要】教育心理学の中でも「教授・学習」「認知」を中心とした講義を行う。各テーマについて心理学的知見を紹介する。また、それらの知見を踏まえて、受講者自身にとっての「教授・学習」経験についての振り返る。
授業計画	第 1 回: ガイダンス・「学習」とは？  第 2 回: 行動主義からみた学習(1): 古典的条件づけ  第 3 回: 行動主義からみた学習(2): オペラント条件づけ  第 4 回: 行動主義からみた学習(3): 観察学習・学習の原理  第 5 回: 認知主義からみた学習(1): 二重貯蔵モデル・作業記憶モデル  第 6 回: 認知主義からみた学習(2): 処理水準アプローチ  第 7 回: 認知主義からみた学習(3): 記憶の種類  第 8 回: 状況主義からみた学習  第 9 回: 学習を支える要因(1): 動機づけ・マインドセット  第 10 回: 学習を支える要因(2): 学習方略・メタ認知  第 11 回: 学習を支える要因(3): 教育評価  第 12 回: 学習を支える要因(4): 他者との相互作用  第 13 回: 理解確認テスト  ※講義内容および順序は変更になることがある。
授業の方法	講義形式を中心に進めていくが、適宜、小グループでの討論を行う。また、トピックに関連した実験や質問紙調査を実施し、体験的に学ぶ機会を提供する。
成績評価方法	課題(50%)および理解確認テスト(50%)により評価する。
教科書	指定しない。
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	教育心理 I
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※3 参照※D 参照

時間割コード	09249205	担当教員	岩田 一正		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	水 5
講義題目	教育課程 I Curriculum Studies I				

授業の目的・概要	<p>教育課程やカリキュラムは、学習指導要領や教科書と同一視され、固定化されたものと認識される傾向があるが、本授業はこの認識の妥当性を考察していくことを課題とする。  この課題に迫るために、カリキュラムという用語の歴史、学習指導要領の内容・歴史の変遷・役割・意義・改訂の背景、教科横断的総合的学習、カリキュラムを改善するための学力調査の方法、ヒドゥン・カリキュラム、他国のカリキュラムなどを概観していく。そしてこの作業を通じて、カリキュラムの具体的内容の選択基準やカリキュラム編成の方法・類型を批判的に検討できる力を獲得するとともに、学校や子ども、また地域に即してカリキュラムを編成する意義を理解していくことを目指す。 </p>
授業計画	<p>1. オリエンテーション 2. カリキュラムの構成要素 3. 戦前・戦時期のカリキュラム、学習指導要領の変遷 1【1947 年、1951 年、1958 年学習指導要領の内容、社会的背景】 4. 学習指導要領の変遷 2【1968 年、1977 年、1989 年学習指導要領の内容、社会的背景】 5. 学習指導要領の変遷 3【1998 年、2008 年、2017 年学習指導要領の内容、社会的背景】 6. カリキュラム評価の方法【PDCA サイクルの確立、全国学力・学習状況調査、PISA、TIMSS、ランダム化比較実験】 7. 教科領域横断的総合的な学習の編成 1【総合的な学習の時間の意義、総合学習の映像資料の視聴】 8. 教科領域横断的総合的な学習の編成 2【地域、学校、子どもに即した総合学習のテーマ設定、学びの蓄積、総合学習で生じ得る困難】 9. カリキュラム編成の背後にある教育観、カリキュラム編成の原理・方法・類型、教育内容・カリキュラムの具体的内容の選択基準、各カリキュラム編成方法の差異 10. ヒドゥン・カリキュラム 1【ヒドゥン・カリキュラムとは、研究の展開】 11. ヒドゥン・カリキュラム 2【ヒドゥン・カリキュラムの事例、ジェンダー】 12. 他国のカリキュラム①【各国の学力調査・統計から見える姿、映像資料の視聴】 13. 他国のカリキュラム②【アメリカと韓国のカリキュラム】 14. 他国のカリキュラム③【イギリスとフィンランドのカリキュラム】 15. まとめ 以上のように計画しているが、状況に応じて変更することがある。</p>
授業の方法	<p>本授業はプレゼンテーション・ソフトを用いた講義形式として実施する。また、学生の教育課程に関する具体的な理解を促進するために、映像資料を視聴する機会を設ける。なお、テーマによってはグループ・ワークに取り組み、それを踏まえてレポートを記述してもらおう。  講義で用いるスライドを PDF ファイルとしたものを ITC-LMS を通じて配布するので、事前に読んでもらいたい。</p>
成績評価方法	<p>筆記試験(60%:前記した「授業の目標」達成しているかどうかを評価する)、小レポート(40%:授業の際に提示する課題について簡単なレポートを何回か執筆してもらうこととなる)。</p>
教科書	<p>金井香里・佐藤英二・岩田一正・高井良健一『子どもと教師のためのカリキュラム論』成文堂、2019 年。</p>
参考書	<p>文部科学省(文部省)『学習指導要領』(各年度版) Philip Jackson&amp;comma; Life in Classrooms&amp;comma; Holt&amp;comma; Rinehart and Winston&amp;comma;1968. 国立教育政策研究所編『生きるための知識と技能』1・2・3、ぎょうせい。 同前『生きるための知識と技能』4・5・6・7、明石書店。 ブルデュー、パスロン『再生産』藤原書店、1991 年。 天野正子編『新編 日本のフェミニズム 8 ジェンダーと教育』岩波書店、2009 年。 直井道子・村松泰子編『学校教育の中のジェンダー』日本評論社、2009 年。 生田久美子編著『男女共学・別学を問いなおす』東洋館出版社、2011 年。 教育科学研究会編『学力と学校を問直す』かもがわ出版、2014 年。 丹羽美之・吉見俊哉編『記録映画アーカイブ 2 戦後復興から高度成長へ』東京大学出版会、2014 年。 鈴木大裕『崩壊するアメリカの公教育』岩波書店、2016 年。 北川達夫他編『フィンランドの教育』フォーラム・A、2016 年。 エステル・デュフロ『貧困と闘う知』みすず書房、2017 年。 日英教育学会編『英国の教育』東信堂、2017 年。 岩田一正『教育メディア空間の言説実践』世織書房、2018 年。 デイヴィッド・ラバリー『教育依存社会アメリカ』岩波書店、2018 年。 樋田敦子『東大を出たあの子は幸せになったのか』大和書房、2018 年。 ジャック・ジェニングズ『アメリカ教育改革のポリティクス』東京大学出版会、2018 年。 マイケル・サンデル『実力も運のうち』早川書房、2021 年。 OECD『図表でみる教育 OECD インディケーター』2023 年版、明石書店、2023 年。 文部科学省『諸外</p>

国の教育動向』2022 年度版、明石書店、2023 年。|中田麗子他『北欧の教育再発見』明石書店、2023 年。|その他の参考文献は、授業の際に提示する。

**履修上の注意・備考**

教育課程 I

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照※F 参照

時間割コード	09249206	担当教員	西野 真由美		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 5
講義題目	道徳教育の理論と実践 Theory and Practice of Moral Education				

授業の目的・概要	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の理論と実践についての理解を深め、道徳教育の視点で学校カリキュラムの全体を捉え、教科等横断的な視点や地域社会のリソースを活用した道徳教育のカリキュラムを開発し、道徳授業を構想する力を育てることを目標にしています。
授業計画	以下のテーマに沿って、進めます。 (1)学校における道徳教育の意義 学校で「道徳」を「教える」なんて不可能、もしできるとしても、危険。そんな道徳教育への疑問や疑念を出し合って検討したうえで、学校における道徳教育が何を指すのかを批判的に検討しましょう。 (2)日本における道徳教育の歴史 明治以降の学校教育が国民意識形成に与えた影響を道徳教育の視点で見直します。 (3)道徳教育の理論 代表的な道徳教育理論を理解して教育実践に生かす方法を検討します。 また、道徳の教科化に向け、「考え、議論する道徳」授業の実現に求められる指導法や評価に関する考え方を明らかにします。 (4)現代的な諸課題に応える道徳教育 キャリア教育、科学技術教育、情報教育など現代的な諸課題に道徳教育でどう取り組むかを具体的に考え、カリキュラムと授業を構想します。
授業の方法	対面で実施予定です。授業では、ほぼ毎回、グループワークを実施し、ディスカッションや共同作業に取り組んでいただきます。授業で使用する資料や課題は、ITC-LMS で配布していきます。授業前後に確認するようにしましょう。
成績評価方法	毎時間の授業で提出していただくアクションペーパーと授業で指定する参考文献へのレポートで評価します。
教科書	講義テーマごとにレジュメを配布します。
参考書	参考文献はテーマ別に指示します。授業で配布するレジュメに提示した参考文献のなかから、一冊を選んでレポートを提出して下さい。
履修上の注意・備考	道徳教育の理論と実践
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照※G 参照教科又は教職に関する科目(旧)大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09249207	担当教員	草薨 佳奈子		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 5
講義題目	特別活動論 Extra-Curriculum Activity				

授業の目的・概要	<p>社会が変わる中、特別活動の内容や指導法も変化している。特別活動は教科外活動を通じて多岐にわたる資質・能力の育成が期待されているが、教科書がなく教員の創造性や指導力が試される領域であるともいえる。本コースでは、特別活動の目標、内容、実践、課題を学ぶとともに、人間形成、他者との共存、社会との関わり方など、将来の社会生活につながる能力・資質能力の育成、時代とともに変わる学校教育のあり方についても検討していく。</p>
授業計画	<p>第1回 教科外活動としての特別活動 第2回 特別活動の目標と意義 第3回 学級活動・ホームルーム活動 第4回 学校行事の意義と実践 第5回 生徒会活動の意義と実践 第6回 特別活動と生徒指導 第7回 特別活動における体験活動 第8回 特別活動における人間形成と市民性教育 第9回 グループ発表 第10回 グループ発表 第11回 グループ発表 第12回 グループ発表 第13回 海外の特別活動とその実践 第14回 特別活動の指導と評価 第15回 特別活動の今日的役割、まとめ</p>
授業の方法	<p>特別活動は日々の学校生活で重要な役割を果たしているが、教科の活動と比較すると教育的意義が必ずしも理解されていないことが多い。本講義では批判的に特別活動の目的や教育活動の内容を検討し、これからの社会を担う次世代の育成に、必要な資質・能力について考えていく。また批判的思考力や協働する体験をつけるため、グループディスカッションを行う他、グループ発表、レポートにも取り組む。</p>
成績評価方法	<p>本授業の評価は、以下の規準によって行う。授業への参加度・リアクションペーパー(30%)、グループ発表(30%)、期末レポートの内容(40%)により、総合的に判断する。</p>
教科書	<p>『特別活動の理論と実践(アクティベート教育学 11)』単行本(ソフトカバー) 汐見稔幸(監修)&amp;comma; 奈須正裕(監修)&amp;comma; 上岡 学(編集)&amp;comma; 林 尚示(編集)   『特別活動論 / (新・教職課程シリーズ)』犬塚文雄編著、一藝社</p>
参考書	<p>国立教育政策研究所教育課程研究センター(2016)学級・学校文化を創る特別活動(中学校編) 中学校学習指導要領解説 特別活動編(文部科学省ホームページ) 高等学校学習指導要領 解説 特別活動編(文部科学省ホームページ)(同前) 中学校学習指導要領 解説 総合的な学習の時間編(文部科学省ホームページ) 高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編(文部科学省ホームページ) 日本特別活動学会(2010)『新訂 キーワードで拓く新しい特別活動』   『特別活動』折出健二・和井田清司他、学文社   『特別活動』(新しい教職教育講座 教職教育編) 中村豊、原 清治(編著)</p>
履修上の注意・備考	特別活動論
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照※1 参照

時間割コード	09249208	担当教員	藤江 康彦		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	月 2
講義題目	教育の方法 I Teaching Methods I				

授業の目的・概要	<p>[授業の目標]学校教育における「授業」について様々な視点から検討することを通して、学校教育や教室といった制度的な学習の場の特質、社会文化的な状況における子どもの学習のありようと支援の方法、子どもの学習・発達を支援する専門家としての教師の実践を理解することをめざす。具体的には以下の通りである。 1. 学校教育における授業の特質について理解する。 2. 授業という営みの特徴、授業の構成要素、授業のデザイン、について理解する。 3. 授業における子どもの学習の特徴や支援の方法について理解する。 4. 専門家としての教師の知識の特徴、専門的発達について理解する。 5. 学校や教室とはどのような学習環境であるのか、教師はそこで何をすべきかについて考察する。 [授業の概要]学校における教師の仕事の中心は授業の構想、実践、省察を通して子どもの学習を支援することである。この授業では、学校における授業の目的、授業の歴史や形態、授業のコミュニケーション、授業のデザインと評価、教師の実践的知識と成長などについて、実践事例や研究事例を検討しながら探究していく。社会的、文化的、制度的な場である教室において、教師や子どもがどう生きているのか、教師の立場からその生をどのように看取することができるのか、ということを追究していく。</p>
授業計画	<p>①ガイダンス ②教室という時空間 ③教室における学習の特徴 ④ディスカッション1 ⑤学習者とは ⑥学習者の声を聴く ⑦ディスカッション2 ⑧授業の成り立ち ⑨授業を準備する ⑩授業をおこなう ⑪授業を評価する ⑫ディスカッション3 ⑬まとめ</p>
授業の方法	<p>講義を中心に、適宜、受講者間のディスカッションを取り入れる。 </p>
成績評価方法	<p>定期試験を行わず、平常試験(課題・レポート等)で総合評価する。 「毎回の小課題」(60%)、「最終論述課題」(40%)によって総合的に評価する。ただし、毎回の小課題の提出が全体の3分の2に満たない場合、および最終論述課題が未提出の場合は、原則として評価の対象外とする。 </p>
教科書	<p>指定せず、授業中に資料を配付する。</p>
参考書	<p>秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』(放送大学教育振興会) 秋田喜代美・佐藤学(編著)『新しい時代の教職入門』(有斐閣) 稲垣忠彦・佐藤学『授業研究入門』(岩波書店) 佐藤学『教育方法学』(岩波書店)</p>
履修上の注意・備考	<p>教育の方法 I ※2018 年度以前開講「教育の方法」(担当教員:藤江康彦)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照※J 参照</p>

時間割コード	09249209	担当教員	未定
単位数	1.0	学期	S2
		時限	集中
講義題目	ICTを活用した効果的な授業づくり Creating effective your course using ICT		

授業の目的・概要	本授業は、教育現場におけるICT(情報通信技術)の活用について、その歴史、現状、展望の理解に加えて、実践力を養うことを目的とする。現代社会におけるICTの役割を理解し、ICTを授業や校務において活用できるようになることを目指す。また、講義に加えて、ICTを活用した能動的で対話的な学習の機会を多く設けることで、体験を通じたICT活用の理解を促す。  【到達目標】 ・ICTの活用の意義と理論を説明できる ・ICTを効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について説明できる ・情報活用能力を育成するための基礎的な指導法を身に付ける
授業計画	第1回 現代社会におけるICTの役割と導入 第2回 情報活用能力の育成 第3回 ICTを活用した授業デザイン 第4回 個別最適化された学びを実現するICT活用 第5回 主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用 第6回 特別支援教育におけるICT活用 第7回 遠隔・オンライン教育 第8回 校務におけるICT活用 この科目は集中講義形式として行い、1単位に相当する内容を含む。
授業の方法	下記日程の集中講義形式で行う。  8月5日(月)2&comma; 3&comma; 4時限 8月6日(火)2&comma; 3&comma; 4時限   (6時限で8回分の内容を含む)
成績評価方法	授業で実施するワークへの参加(50%)と終了後のレポート課題(50%)で評価を行う
教科書	稲垣忠・佐藤和紀 編(2021)「ICT活用の理論と実践」北大路書房 (ただし購入の必要はない)
参考書	各回の授業で必要に応じて提示する
履修上の注意・備考	ICTを活用した効果的な授業づくり
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※M参照

時間割コード	09249210	担当教員	鈴木 雅博
単位数	2.0	学期	S1S2
講義題目	進路指導・生徒指導 Career Guidance and Pupil Guidance		

授業の目的・概要	<p>◆授業の概要  生徒指導とは「児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のこと」である(生徒指導提要[令和4年版])。ここに、「自分らしく生きる」という個人の生き方の問題を「社会」との関係のなかで、どう折り合いをつけるのかという難しい課題を見てとることができる。進路指導も「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく」キャリア発達をめざすものとされるが(2011年1月中央教育審議会答申)、ここにも同種の緊張関係を見出せる。教師は、時に葛藤を孕む「自分らしさ」と「社会」の関係について、どのように生徒指導・進路指導を行うことを求められ、それを行っているのか。その理念と実際を法制度・文化・社会情勢との関連において理解することが本講座の課題となる。  ◆授業の到達目標 (1)生徒指導の意義および原理を理解する。 (2)すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 (3)児童生徒が抱える生徒指導上の課題と、養護教諭等の教職員、外部の専門家および関係機関等との連携も含めた対応の在り方を理解する。 (4)進路指導・キャリア教育の意義および原理を理解する。 (5)すべての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。 (6)児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。 </p>
授業計画	<p>1 生徒指導の意義とチーム学校  2 生徒指導と子どもの権利  3 校則問題を考える①  4 校則問題を考える② 5 生徒指導における懲戒・体罰・不適切な指導 6 いじめ問題① 7 いじめ問題② 8 不登校の現状・教育機会確保法 9 進路指導の歴史 10 フリーター・ニートとキャリア教育① 11 フリーター・ニートとキャリア教育② 12 高卒就職の進路指導① 13 高卒就職の進路指導②  </p>
授業の方法	講義形式を基本としつつ、適宜ディスカッションを行う。
成績評価方法	授業後の小レポート 30%、期末レポート 70%。なお、欠席は4回までとする。
教科書	特に指定しない。 レジュメ・資料を配布する。
参考書	『生徒指導提要』(令和4年版) 文部科学省  『中学校学習指導要領(平成29年告示)』文部科学省 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』文部科学省 いずれも Web で入手可能。
履修上の注意・備考	進路指導・生徒指導
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※9 参照※K 参照

時間割コード	09249211	担当教員	大瀧 玲子		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	火 2
講義題目	教育相談 I School Counseling I				

授業の目的・概要	教育相談の意義と必要性について理解すること、幼児、児童および生徒の心理社会的発達と教育的課題について理解し、支援に必要な基礎的知識を身につけることを目標とする。 ①学校における教育相談の意義と理論について理解する ②カウンセリングの理論や技法に関する基礎的知識を身につける ③教育相談の具体的な進め方と対応の要点、学内外の連携について理解を深める
授業計画	第 1 回:オリエンテーション／教育相談とは 第 2 回:子どもの発達 第 3 回:児童・思春期の精神疾患の理解と対応 第 4 回:カウンセリングの基本とその考え方 第 5 回:カウンセリングの基本的な技法 第 6 回:学校におけるカウンセリング、教育相談の進め方 第 7 回:不登校の理解と対応 第 8 回:いじめ・非行の理解と対応 第 9 回:発達障害の理解 第 10 回:発達障害への対応 第 11 回:保護者の相談、学校内外の連携 第 12 回:様々な不適応を示す子どもたちへの理解と対応、総括 定期試験
授業の方法	講義形式を基本として、教育現場における教育相談の重要性、教育現場において幼児・児童・生徒が直面しやすいメンタルヘルス上の問題およびそれに対応するために必要なカウンセリングの基礎知識について概説する。毎回の講義内で、教員が提示する教育相談上の諸問題について考察し、リアクションペーパーにまとめる。また講義内で小グループの話し合いを行うことがある。
成績評価方法	定期試験(60%) 授業参加およびリアクションペーパー等(40%)
教科書	持参が必要な教科書等は特になし
参考書	「よくわかる臨床心理学」下山晴彦(編) ミネルヴァ書房 その他、授業内で適宜紹介する。
履修上の注意・備考	教育相談 I
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※10 参照※L 参照

時間割コード	09249212	担当教員	星加 良司、大内 紀彦、崔 栄繁、池野 絵美、小国 喜弘、飯野 由里子		
単位数	1.0	学期	A1	時限	金 5
講義題目	特別支援教育総論Ⅱ An Introduction to Special Needs Education II				

授業の目的・概要	本授業では、特別な教育的ニーズを示す子どもを多角的・包括的に理解する力量を高めるとともに、日本におけるインクルーシブ教育の実現に向けた、通常の小・中学校や高等学校における具体的方策について検討する。到達目標は以下のとおりである。 1. 特別支援教育の制度と構造、およびインクルーシブ教育との関係性について説明できる。 2. 特別な教育的ニーズを示す子どもを理解するにあたっての基本的な知識・観点・態度を身につけるとともに、支援・配慮の原理と方法について理解する。 3. インクルーシブな学級・学校・地域づくりの具体的方策について考察し、言語化することができる。
授業計画	第 1 回(10/4) ガイダンス&ゲスト講義 第 2 回(10/11) 学校の中の「社会的障壁」をどう失くすのか:合理的配慮と環境の整備 第 3 回(10/18) 「共に学ぶ」学校・授業をどのようにつくればいいのか:個別指導計画、ユニバーサルデザインの問題 第 4 回(10/25) インクルーシブ教育の理念を再考する 第 5 回(11/1) カナダの経験から学ぶインクルーシブ教育の可能性 第 6 回(11/8) イタリアの経験から学ぶインクルーシブ教育の可能性 第 7 回(11/15) 「障害の社会モデル」と特別支援教育の課題
授業の方法	オンラインで行う。 講義を中心に、適宜、動画視聴やグループ・ディスカッションを行う。
成績評価方法	各回のリアクション・ペーパー(計 50 点)、期末レポート(50 点)にもとづき、総合的に評価する。
教科書	適宜配布する
参考書	木村泰子・小国喜弘(2019)『「みんなの学校」をつくるためにー特別支援教育を問い直すー』小学館  この他、各回の授業の中で関係する文献を紹介する。
履修上の注意・備考	特別支援教育総論Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※E 参照

特設科目

時間割コード	09249903	担当教員	星加 良司		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	ディスアビリティ・スタディーズ Disability Studies				

授業の目的・概要	<p>&lt;目的・目標&gt;  ディスアビリティ(障害=「できなさ」)について考えるとは、どのような営みだろうか？それは、「できなさ」を抱える個体の性質について知ることと同時に、いやむしろそれ以上に、「できること」を条件付け、意味付け、価値付けている社会のあり方について考察することである。  この授業では、(1)近年の新しい障害研究のパラダイムと、それに基づく基礎的な理論枠組みについて理解するとともに、(2)社会システムを支える様々な制度や規範と障害問題との連関について、多角的に分析する視点を獲得することを目的とする。  &lt;授業概要&gt;  前半でディスアビリティ・スタディーズの基礎的な概念や視点について解説し、後半では関連する日本語文献の講読等を通じてその理解を深化させる。 ※なお、この授業は、学部横断型「バリアフリー教育プログラム」のコア科目 A 群(選択必修)として開講されている。</p>
授業計画	<p>1. ガイダンス 2. ディスアビリティとは何か I:近代のカテゴリーとしての障害 3. ディスアビリティとは何か II:無力化のメカニズム 4. ディスアビリティとは何か III:リスク社会と排除される身体 5. ディスアビリティとは何か IV:「障害の社会モデル」という視点 6. ディスアビリティとは何か V:「障害平等」はいかにして可能か 7. 文献講読 II 8. 文献講読 III 9. 文献講読 III 10. 文献講読 IV 11. 文献講読 V 12. ゲストスピーカーとの対話 13. まとめ</p>
授業の方法	<p>教員による講義、受講生による文献報告、ゲストスピーカーを迎えての対話等を組み合わせて授業を進める。いずれの形式においても、受講生の主体的・積極的な参加により、インタラクティブにディスカッションを展開することが期待されている。</p>
成績評価方法	<p>平常点50%、レポート50%の比率で評価を行う。平常点は、授業時の報告内容や討論への参加状況について、的確性・論理性・積極性等を考慮して評価する。レポートは、授業の終了時に提出を求め、授業目標への到達度の観点から評価する。</p>
教科書	<p>特に指定しない。</p>
参考書	<p>授業内で適宜指示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>ディスアビリティ・スタディーズ                  授業に関する問い合わせ先 hoshika@p.u-tokyo.ac.jp</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249904	担当教員	熊谷 晋一郎、高橋 麻衣子、綾屋 紗月、並木 重宏、近藤 武夫、星加 良司		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	水 4
講義題目	バリアフリー総論 Introduction to Barrier-free Studies				

授業の目的・概要	<p>歩道にひいてある黄色い点字ブロックのデコボコが不便だと感じたことはありませんか？満員の通勤電車で電動車いす利用者が乗って来たら少し迷惑だと感じますか？  近年、わたしたちの周りでは、「バリアフリー化」と呼ばれる環境整備が様々な場面で進められており、多くの場合、それは障害者にとって「やさしい」ことだと肯定的に受け止められています。ところが、ある障害者にとって「やさしい」環境を整備しようとしたところ、それが別の障害者や障害をもたない人たちにとって「やさしくない」環境を生み出してしまふ、という事態も起きています。このように考えると、バリアフリーとは、一方で問題を解決しつつも、他方で別の問題を新たに生み出してしまふという二重性を内在した営みだと言うことができます。  本講義では、バリアフリー化によって生み出される新たな問題と、その問題をめぐって人びとの間に引き起こされる衝突・対立を「バリアフリー・コンフリクト」というキーワードで捉えます。本講義を通じて、多様化、複雑化が進む現代社会において生じている様々なコンフリクトと向き合い、解決していくための技法について一緒に考えていきましょう。</p>
授業計画	<p>以下に示したテーマでの講義を行います。 ・バリアフリーコンフリクトとは何か ・「回復」と「代償」のあいだ ・読み書きできない子どもの難関大学進学は可能か？ ・障害者への割引サービスをずるいと感じるあなたへ ・裁かれぬ人がいるのはなぜか？ ・実験室におけるコンフリクト ・障害についてのスティグマとマイクロアグレッション ・全体の振り返りとまとめ  10月 4日(水) 14:55-16:40 熊谷 11日(水) 14:55-16:40 熊谷 18日(水) 14:55-16:40 高橋 25日(水) 14:55-16:40 高橋 11月 1日(水) 14:55-16:40 綾屋 8日(水) 14:55-16:40 綾屋 15日(水) 14:55-16:40 並木 22日(水) 14:55-16:40 並木 29日(水) 14:55-16:40 星加 12月 6日(水) 14:55-16:40 星加 13日(水) 14:55-16:40 近藤 20日(水) 14:55-16:40 近藤 1月 10日(水) 14:55-16:40 熊谷</p>
授業の方法	<p>本授業は、東京大学先端科学技術研究センターに所属する教員(近藤武夫、熊谷晋一郎、高橋麻衣子、並木重宏、綾屋紗月)および東京大学学院教育学研究科付属バリアフリー教育開発研究センター(星加良司)に所属する教員がオムニバス形式で行う講義です。</p>
成績評価方法	<p>期間終了後に提出を求めるレポートによって評価を行います。</p>
教科書	<p>なし</p>
参考書	<p>『バリアフリー・コンフリクト 争われる身体と共生のゆくえ』中邑賢龍, 福島 智(編), 東京大学出版会, 2012年9月</p>
履修上の注意・備考	<p>バリアフリー総論 講義はオンラインで開講します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249905	担当教員	星加 良司、飯野 由里子		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 3
講義題目	ダイバーシティと社会 Diversity and Society				

授業の目的・概要	近年「ダイバーシティ(多様性)」という言葉が、社会や組織の目指すべき目標と関連づけられて語られるようになっていきました。そこでは性別や年齢、性的指向や性自認、障害等にもとづく差異が、社会全体の「活力」や企業の「生産性」向上に直結するものであるかのように捉えられがちです。しかし、私たちの間にある差異は平板なものとしてではなく、権力関係を含んだものとして存在しています。それゆえ、さまざまな摩擦や衝突を生み出すものでもあります。  この授業の目的は、私たちの間の差異の編成のされ方やそこに働く権力関係に目を向けることで、ダイバーシティを社会的公正の観点から捉え直すことにあります。その際、フェミニズム研究やクィア研究、ディスアビリティ研究等の知見を参照することで、ダイバーシティについて学際的かつ多領域的に学んでいきます。
授業計画	第 1 回 ガイダンス&イントロダクション 第 2 回 社会モデルの考え方——この社会はマジョリティ中心にできあがっている 第 3 回 バリアとは何か? 第 4 回 バリアとしての「男らしさを競う文化」(1) 第 5 回 バリアとしての「男らしさを競う文化」(2) 第 6 回 バリアとしての強制的異性愛・強制的健全性 第 7 回 中間まとめ 第 8 回 抑圧と特権——特権がもたらすもの 第 9 回 カミングアウトを通して考える特権 第 10 回 社会モデルとインターセクショナルリティ 第 11 回 性の権利とインターセクショナルリティ 第 12 回 「誰もが活躍できる社会」の落とし穴 第 13 回 まとめと振り返り
授業の方法	対面で実施します。 授業内容は、担当教員による講義と指定文献についてのディスカッションが中心です。
成績評価方法	1)平常点:40点 2)中間レポート:25点 3)期末レポート:35点
教科書	* 指定文献および追加の教材は ITC-LMS で共有します
参考書	飯野由里子・西倉実季・星加良司(2022)『「社会」を扱う新たなモード—「障害の社会モデル」の使い方』生活書院 グッドマン、ダイアン(2015)『真のダイバーシティをめざして—特権に無自覚なマジョリティのための社会的公正教育』上智大学出版(出口真紀子監訳、田辺希久子訳)
履修上の注意・備考	ダイバーシティと社会
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249906	担当教員	星加 良司、飯野 由里子		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 3
講義題目	フェミニズム理論 Feminist Theory				

授業の目的・概要	<p>フェミニズム理論は、1960年代後半に登場した第二波フェミニズム(女性解放運動)の運動と思想を受け、発展してきた知の枠組です。当初は、女性学(Women's Studies)と呼ばれる学問領域の中で、主に男女間の不平等や格差の検証に焦点をあて、伝統的な学問分野の男性中心性が明らかとするための道具立てとして用いられてきました。その後1980年代になると、男性や男性性の経験に焦点をあてた研究も行われるようになり、男性学(Men's Studies)という専門領域の登場にも寄与します。ところが、女性学とそれに続く男性学がアカデミックな探求の専門領域として確立された1980年代後半、ポストモダニズムやポスト構造主義などの理論が進行した結果、「女性」や「男性」をそれぞれ別々の一元的なカテゴリーとして捉える考え方に疑問が突きつけられることとなります。これにより、「女性学」や「男性学」という用語は論争的となり、それらの存在理由が大きく揺さぶられることになりました。「女性学」や「男性学」に代わるものとして、「ジェンダー論」という名称が好まれるようになった理由の一端はここにあります。こうした経緯を経て、現在フェミニズム理論は、男女間だけではなく多様な女性・多様な男性の間に存在するさまざまな不平等や格差を捉える知の枠組みとして展開されています。この授業では、フェミニズム理論が登場・発展した歴史的背景に加え、フェミニズム理論の基礎的な概念や考え方を紹介します。</p>
授業計画	<p>第1回ガイダンス&amp;イントロダクション 第2回フェミニズムの「波」：女性参政権運動から女性解放運動へ 第3回フェミニズムと人種差別 第4回ジェンダー「平等」：三つの視点 第5回ジェンダー「平等」とポジティブ・アクション 第6回公私二元論とジェンダー分離 第7回アンペイド・ワーク 第8回中間まとめ 第9回リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 第10回セクシュアリティとポルノ論争 第11回フェミニズムとトランス差別 第12回ポストフェミニズム批判(1) 第13回ポストフェミニズム批判(2)</p>
授業の方法	<p>対面で実施します。 90分程度の講義の後、LMSに講義の要旨(ポイント)やコメントを書き込む時間をとります。 状況に応じて、グループ・ディスカッションをすることがあるかもしれません。</p>
成績評価方法	<p>1)平常点 40点 2)読書レポート 10点 3)期末レポート 50点 </p>
教科書	<p>指定文献および追加の教材はITC-LMSで共有します。</p>
参考書	<p>シヨン・フェイ(高井ゆと里訳)『トランスジェンダー問題——議論は正義のために』明石書店、2022年 カイヤ・シュラー(川副智子訳・飯野由里子監訳)『ホワイト・フェミニズムを解体する——インターセクショナル・フェミニズムによる対抗史』明石書店、2023年 池田喬・堀田義太郎『差別の哲学入門』アルパカ合同会社、2021年 菊地夏野『日本のポストフェミニズム——「女子力」とネオリベラリズム』大月出版、2019年 </p>
履修上の注意・備考	<p>フェミニズム理論</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249907	担当教員	星加 良司、飯野 由里子		
単位数	1.0	学期	A2	時限	火 3
講義題目	インクルーシブ社会のための実践知 Practical Knowledge for an Inclusive Society				

授業の目的・概要	多様な差異を持つ人々が包摂される社会を実現することは、現代の重要な社会的課題となっている。また近年では、多様性=ダイバーシティ(性別、年齢、言語、身体特性等)の尊重のみならず、包摂性=インクルージョン(所属感覚、差異の尊重、民主的な意思決定等)の向上が重要であることが注目されるようになった。ただし、多様性の向上は必ずしも包摂性の向上を伴うとは限らず、また、多様な属性の差異によって包摂性の度合いにギャップが生じていることも指摘されている。こうした乖離を埋めるための実践として、ジェンダーやエスニシティに関わる意識的・無意識的な偏見の解消、障害のある人の参加機会を保障する「合理的配慮」や「バリアフリー」等、学校、企業、行政機関等様々な現場で、様々な取り組みが施行/試行されている。この授業では、集団や組織の「インクルーシブネス」を可視化する方法や「インクルーシビティ」を高める実践手法等を紹介し、その実施過程に潜む課題や問題点について議論する。
授業計画	第1回 12/5 ガイダンス&イントロダクション  第2回 12/12 学校・地域におけるインクルージョン(1)  第3回 12/19 学校・地域におけるインクルージョン(2)  第4回 12/26 中間まとめ 第5回 1/9 企業組織におけるインクルージョン(1) 第6回 1/16 企業組織におけるインクルージョン(2) 第7回 1/23 まとめと振り返り 星加・飯野
授業の方法	本授業は、講義およびディスカッションによって構成されます。受講生には積極的に発言することが期待されます。
成績評価方法	1)平常点 2)期末レポート
教科書	なし。
参考書	飯野由里子、星加良司、西倉実季 2022『「社会」を扱う新たなモードー「障害の社会モデル」の使い方』生活書院
履修上の注意・備考	インクルーシブ社会のための実践知
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249908	担当教員	福島 智
単位数	2.0	学期	W
		時限	集中
講義題目	障害の意味を考える Considering the Meaning of Disability		

授業の目的・概要	現代の社会で「障害」と呼ばれる状態・現象について考える。指導教員は、「盲ろう者」(視覚と聴覚に障害を併せ持つ障害者)であり、教員自身の体験に立脚しつつ、受講者の体験や想像力との相互作用により、「思想的化学反応」を生み出すことを目指す。
授業計画	1. イントロダクション。 2. 障害、障害者をめぐる言説の概要。 3. 障害学(ディスアビリティ・スタディーズ)の国内外の研究・実践動向。 4. 「障害」を体験する(盲ろうシミュレーション体験の実施)。 5. 「体験」を振り返る。 6. 「体験」からなにを見だし、なにを考えるか。→「点字」、および「指点字」の基礎的実技に挑戦する。 7. 障害の多様性:当事者の生の声を聞くⅠ(視覚障害) 8. 障害の多様性:当事者の生の声を聞くⅡ(重度身体障害) 9. 障害の多様性:当事者の生の声を聞くⅢ(その他の障害者) 10. 社会に蔓延する障害差別→「相模原障害者殺傷事件」を考える。 11. なにが差別をもたらすのか→能力差別の本質。 12. 障害と苦悩。 13. 障害の有無を超えた、苦悩と生の関係。 14. まとめ。
授業の方法	本講義は4日間の集中講義形態をとる。少人数(10~20人程度の受講者を想定)の受講者と指導教員とのディスカッション、受講者同士のディスカッションの他、「障害(盲ろう)のシミュレーション体験」や点字等の基礎的実技にもチャレンジしてもらう予定であり、こうした参加型の授業に積極的に取り組んでもらえる受講者を期待している。
成績評価方法	平常点
教科書	なし。
参考書	以下、いずれも必須ではない。可能なら事前に入手、通読すると望ましいもの。『盲ろう者として生きて』福島智、明石書店(2011)『ぼくの命は言葉とともにある』福島智、致知出版社(2015)『夜と霧』ヴィクトール・フランクル、みすず書房(2002)
履修上の注意・備考	障害の意味を考える 開講教室:駒場Ⅱキャンパス 先端科学技術研究センター 3号館207号室  集中講義日程を確認する際は、 以下、教育学部学生支援チーム HP を参照のこと。   <a href="https://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">https://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249909	担当教員	星加 良司、藤原 加代、飯野 由里子		
単位数	2.0	学期	W	時限	集中
講義題目	障害者の就労体験学習ーバリアフリー社会の可能性 Experiential learning of disabilityand employment: Potential for a Barrier-Free Society				

授業の目的・概要	<p>今日では、多様な特性や背景を持つ人々が互いに尊重しあい、十全に能力を発揮できる状態(ダイバーシティ・インクルージョン)の価値は広く知られるようになった。一方で、歴史的に労働市場から阻害されてきた障害者については、いまだ包摂(インクルージョン)は道半ばであると言わざるをえない。その背景には、「障害」という概念自体が「働けない身体」をカテゴリー化するためのラベルとして「発明」されたという社会構造的な問題があるが、そうであるからこそ、「労働市場における障害者の包摂」という課題は、理論的にも実践的にもクリティカルな課題である。  この授業は、座学と体験実習によって構成され、障害者の就労現場における体験学習とその振り返りを通して、社会のバリアフリー化に向けた実践的・具体的な可能性を探究することを目的とする。なお、本講座は富士電気株式会社、及び株式会社富士電気フロンティアのご協力(寄付を含む)を得て運営されている。</p>
授業計画	<p>■第 1 回 日程未確定 @本郷キャンパス  ・労働市場における「障害者」の位置づけについて  ・障害者雇用をめぐる諸制度について  ・実習先についての情報提供・留意事項  ■第 2 回 日程未確定@富士電気フロンティア川崎工場  ・障害者の就労原場体験  ・障害のある従業員からの聞き取り  ■第 3 回 日程未確定@富士電気フロンティア 川崎工場  ・障害者の就労現場体験  ・就労インストラクターからの聞き取り  ■第 4 回 日程未確定 @本郷キャンパス  ・体験実習の振り返り  ・実習レポートの作成</p>
授業の方法	講義と実習を組み合わせ、体験やディスカッションを中心にインタラクティブな授業を展開する。
成績評価方法	実習及びディスカッションへの参加状況と、最終授業時に作成するレポートの内容について、積極性・的確性等を考慮して総合的に評価する。
教科書	無し
参考書	講義中で指示する
履修上の注意・備考	障害者の就労体験学習ーバリアフリー社会の可能性
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249910	担当教員	遠藤 利彦、多賀 徹太郎、浅井 幸子、野澤 祥子		
単位数	2.0	学期	A2	時限	集中
講義題目	<b>発達保育実践政策学概論</b> Introduction to early childhood development&comma; education&comma; and policy research				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>発達保育実践政策学は、子どもの育ちを中心に置き、子育て・保育の実践や政策のあり方について、学術的に解明検討を行う学際的学問領域である。本授業では、発達保育実践政策学に関わる多様なトピック、すなわち、乳幼児の発達、保育の理論・歴史・実践・制度・政策についての基礎的事項ならびに国内外の最新研究動向を学ぶ。さらに、学んだことや自身の経験に基づき、これからの子育て・保育の実践や政策、それを支える研究のあり方について他者と議論し、考える。</p>
<b>授業計画</b>	<p>下記の内容について講義とグループワークによって学ぶ。  ①発達保育実践政策学の考え方と研究例 ②胎児・新生児・乳児の発達 ③乳幼児の認知的発達と子育て・保育(1) ④乳幼児の認知的発達と子育て・保育(2) ⑤乳幼児の社会情動的発達と子育て・保育(1) ⑥乳幼児の社会情動的発達と子育て・保育(2) ⑦保育の思想と歴史 ⑧保育の制度・政策 ⑨特別なニーズをもつ子どもと保育(1) ⑩特別なニーズをもつ子どもと保育(2) ⑪小学校への移行 ⑫父親の子育て ⑬これからの子育て・保育について考える:ディスカッション </p>
<b>授業の方法</b>	<p>講義とグループワークを適宜交えながら授業を進める。  </p>
<b>成績評価方法</b>	<p>レポート</p>
<b>教科書</b>	<p>『あらゆる学問は保育につながる 発達保育実践政策学の挑戦』秋田喜代美(監修) 山邊昭則・多賀徹太郎(編) 東京大学出版会 </p>
<b>参考書</b>	<p>『乳幼児の発達と保育 食べる・眠る・遊ぶ・繋がる』秋田喜代美(監修) 遠藤利彦・渡辺はま・多賀徹太郎(編著) 朝倉書店 『園庭を豊かな育ちの場に: 実践につながる質の向上のヒントと事例』秋田喜代美・石田佳織・辻谷真知子・宮田まり子・宮本雄太(著) ひかりのくに 『園づくりのことば 保育をつなぐミドルリーダーの秘訣』井庭崇・秋田喜代美(編著) 野澤祥子・天野美和子・宮田まり子(著) 丸善出版 『保育学用語辞典』秋田喜代美(監修) 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(編著)中央法規出版 </p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>発達保育実践政策学概論          開催日程  1月24日(水)1~5限 1月25日(木)2~5限 1月30日(火)2~5限  </p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09249911	担当教員	中西 正康、岡田 猛		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 6
講義題目	演技実践 Acting Lesson				

授業の目的・概要	プロの俳優が行う演技練習を通し自分自身と向き合い、感性を磨き、共感力、コミュニケーション能力を高め豊かな人間になる。
授業計画	相手の言葉を聞いてそれを繰り返すレペティション練習を中心に学びます。ただ言葉を繰り返すだけではなく、相手の様子、心の態度から気持ちや感情を受け取り、それを自分がどう感じているのかを相手に伝えます。この練習を行うことにより楽器(自分自身)が繊細になり、相手と共鳴し、交流ができ、思考を使わずに衝動に従い自由になれ、想像の世界で真に生きることができるようになります。 レペティションを使い、最終的にはシーンを実際に演じてみます。
授業の方法	少しでも多く体験をして欲しいので実技が中心になります。
成績評価方法	日常点 演技的に上手い下手ではなく、解放されていて相手とコミュニケーションがとれているかをポイントに評価をします。
教科書	「リアリズム演技」著・ボビー中西（而立書房）
参考書	「サンフォード・マイズナー・オン・アクティング」―ネイバーフッド・プレイハウス演劇学校の1年間(而立書房)
履修上の注意・備考	演技実践 1 自己紹介 ムーブメント トラスト練習 シアターゲーム 演技の定義   2 モノローグ(自分のモノローグ)を読む 3 モノローグ(自分以外の人のモノローグ)を読む  4 一語 一行 レペティション  5 レペティション   6 レペティション 7 レペ ティション    8 シーンスタディ①   9 シーンスタディ①   10 シーンスタディ②    11 シーンスタディ②   12 シーンスタ ディ③   13 シーンスタディ③
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249912	担当教員	近藤 良平、岡田 猛		
単位数	2.0	学期	A1	時限	火 3&comma; 火 4
講義題目	身体表現の実践 Practice of Physical Expression				

授業の目的・概要	本授業は、第一線で活躍する振付家・ダンサーの近藤良平による身体表現の授業である。 本授業では「身体で表現を創出していくとはどういうことなのか」を、講師の経験に基づいた様々なアプローチを実際に身体を動かして体験しながら探索していくことを大きな目的としている。
授業計画	感染状況に応じてやむを得ない変更はあるかもしれないが、対面で行うことを前提とする。授業進行の詳細については、受講者とのやり取りの上で随時変更していくが、今のところ、以下のような大枠で行う予定である。  1. 出会い 2. 身体表現のワーク① 3. 身体表現のワーク② 4. 身体表現のワーク③ 5. 身体表現のワーク④ 6. 創作 7. 発表
授業の方法	対面で、講師と共に身体を動かして体験する方法をとる。
成績評価方法	以下の4点を踏まえて総合的に判断する。 1. 出席状況、2. 授業に対する積極性、3. 毎回の授業での課題やコメントシートの提出状況、4. 最終レポート
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	身体表現の実践 ダンスやその他の表現活動の経験の有無は問いません。また、実技で行う身体表現も専門的な技術は必要としません。初めて表現やダンスを行う方も歓迎します。また、どの学部の学生も歓迎します。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249913	担当教員	Steven Fischer		
単位数	2.0	学期	A1	時限	水 3&comma; 水 4
講義題目	Cartoon Storytelling Cartoon Storytelling				

授業の目的・概要	<p>This course is for anyone who has an interest in expressing themselves through cartoons and those interested in cartoons as an art form. This class is about realizing the potential of becoming a cartoonist no matter your skill level. This course is intended to introduce students to the possibilities cartooning offers as a vehicle to express and communicate effectively. Students should realize that while commercial cartooning may require certain skills and abilities&amp;comma; the only limitation in the art of cartoon storytelling are those self-imposed. Anyone willing to express him or herself honestly can create a legitimate comic. Our objective is to create and complete an original story with original characters.  Participants will use cartooning to make a deep connection with self in ways that lead us to create original stories with purpose and impact. This experience helps a participant more clearly understand ourself and the world around us. </p>
授業計画	two 105 min. sessions each Thursday 13.00-16.40
授業の方法	lecture&comma; exercises&comma; projects
成績評価方法	class participation 25% attendance 25% writing assignments 25% final project 25%
教科書	n/a
参考書	n/a
履修上の注意・備考	Cartoon Storytelling
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249914	担当教員	Michael Spencer、岡田 猛		
単位数	2.0	学期	W	時限	集中
講義題目	Sound Sense: Reevaluating our relationship with music				
	Sound Sense: Reevaluating our relationship with music				

授業の目的・概要	The objectives for this course are  to expand your knowledge of musical practice  to be able to apply analytically the concepts introduced within the course&comma; across a wide range of musical genres&comma; but without the need for any formal training in musical theory. To understand the value of music and its deeper role in society
授業計画	1. Thinking differently: music&comma; memory&comma; patterns and the management of expectation&comma; educational practice in schools&comma; societal change and the influence of the record industry on listening habits. 2. The building blocks of music&comma; an introduction: rhythm&comma; melody&comma; harmony&comma; texture&comma; dynamic&comma; silence 3. Rhythm: physiology and movement 4. Melody: prosody and respiration 5. Harmony: Pythagorus&comma; the harmonic series&comma; horizontal motion and vertical structures&comma; Rameau (the Isaac Newton of music)&comma; the invention of music notation&comma; and the problem with keyboards 6. Texture: aural colours and the blending of sounds 7. Dynamics: instrument design&comma; noise&comma; technological enhancement 8. Silence: the forgotten element 9. Architecture: the transition from simple to complex musical structures 10. Active listening: refining one's listening practice 11. Review
授業の方法	The course will be comprised of information giving&comma; interactive challenges&comma; and facilitated exchanges between participants
成績評価方法	Class participation (presentations and in-class discussions)
教科書	Not applicable
参考書	A wide variety of music examples will be referred to throughout the course. In addition&comma; recommended lists for further listening will be provided at the end of each session
履修上の注意・備考	Sound Sense: Reevaluating our relationship with music
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249915	担当教員	王 冀中、岡田 猛		
単位数	2.0	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	油画材料与表現技法 Oil Painting Materials and Expression Techniques				

授業の目的・概要	<p>中国電媒大学教授で美術創作研究院院長でもある王冀中教授による油画材料与表現技法の実技の集中授業である。油画の経験者のみならず、初心者も対象として、油画の基礎から教える。なお、授業は中国語で行われるが、日本語の通訳が付く。  授業目的: 1.受講生の美的感覚と芸術センスの向上 2.油画の基礎材料や技法の習得 3.自画像創作を通して自己と外部の世界との繋がりを探る  授業概要: 理論講義と絵画実践を通して、西洋油画の画材・技法の基礎知識と体系および画材や技法が油画の言語や表現に与える影響を理解し、色彩関係や人体構成の比例などの基礎知識を身につけ、素材表現への関心を養う。 </p>
授業計画	<p>これは、S2 の集中授業です。 授業内容: 一日目: 油画の画材・技法の発展歴史の紹介 1.基礎画材の使用法 2.油絵具と画用液の調合方法 3.事前準備(キャンバスの張り方など) 二日目: 油画の関連知識 1.色彩の基本知識 2.油画の基礎技法 3.人体デッサンの基礎 4.自画像のデッサン制作 三日目: 自画像創作(過程) 1.下図の転写 2.構図の設定 3.下塗り 4.人物像の描写 四日目: 自画像創作(完成) 1.着色 2.細部の描写 3.背景の処理 4.仕上げ </p>
授業の方法	<p>4 日間の夏期集中授業として実施する。実技授業につき、対面のみの実施で、絵画理論と実践を教える。 スペースや授業内容の制約上、受講者数は 10 名を上限とする。希望者が多い場合は、抽選等で決定する。</p>
成績評価方法	<p>油画技法を用いたスケッチや模写の最終課題作品によって成績を決める。 授業内容は講義中に適宜変更することがある。 </p>
教科書	なし
参考書	なし
履修上の注意・備考	<p>油画材料与表現技法</p> <p>授業外の準備と学習内容 絵画の学習実践のための各種画材を必要に応じて準備し、提供するので、材料費として 2000 円を初日に持参のこと。  </p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249916	担当教員	王 冀中、岡田 猛		
単位数	2.0	学期	W	時 限	集中
講義題目	油画材料与表現技法 Oil Painting Materials and Expression Techniques				

授業の目的・概要	<p>中国電媒大学教授で美術創作研究院院長でもある王冀中教授による油画材料与表現技法の実技の集中授業である。油画の経験者のみならず、初心者も対象として、油画の基礎から教える。なお、授業は中国語で行われるが、日本語の通訳が付く。  授業目的: 1.受講生の美的感覚と芸術センスの向上 2.油画の基礎材料や技法の習得 3.自画像創作を通して自己と外部の世界との繋がりを探る  授業概要: 理論講義と絵画実践を通して、西洋油画の画材・技法の基礎知識と体系および画材や技法が油画の言語や表現に与える影響を理解し、色彩関係や人体構成の比例などの基礎知識を身につけ、素材表現への関心を養う。 </p>
授業計画	<p>これは、春期集中授業です。 授業内容: 一日目:油画の画材・技法の発展歴史の紹介 1.基礎画材の使用法 2.油絵具と画用液の調合方法 3.事前準備(キャンバスの張り方など) 二日目:油画の関連知識 1.色彩の基本知識 2.油画の基礎技法 3.人体デッサンの基礎 4.自画像のデッサン制作 三日目:自画像創作(過程) 1.下図の転写 2.構図の設定 3.下塗り 4.人物像の描写 四日目:自画像創作(完成) 1.着色 2.細部の描写 3.背景の処理 4.仕上げ </p>
授業の方法	<p>4日間の夏期集中授業として実施する。実技授業につき、対面のみの実施で、絵画理論と実践を教える。 スペースや授業内容の制約上、受講者数は10名を上限とする。希望者が多い場合は、抽選等で決定する。</p>
成績評価方法	<p>油画技法を用いたスケッチや模写の最終課題作品によって成績を決める。 授業内容は講義中に適宜変更することがある。 </p>
教科書	なし
参考書	なし
履修上の注意・備考	<p>油画材料与表現技法</p> <p>授業外の準備と学習内容 絵画の学習実践のための各種画材を必要に応じて準備し、提供するので、材料費として2000円を初日に持参のこと。  </p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249917	担当教員	安藤 卓、岡田 猛		
単位数	2.0	学期	S1	時限	木 3&comma; 木 4
講義題目	ムーブメント・スタディーズ Movement Studies				

授業の目的・概要	<p>本講義では、創造行為として身体を動かすとき、そこに現れるムーブメントをどのように言語化し理解するかを体験的に学習する。また、身体の動きにまつわる現象がいかに様々な学術分野で扱われる研究問題へと開かれているかを理解し、ムーブメントを創造するという行為を研究の文脈で実践することの意味と課題を学ぶ。 この講義は一般的な意味合いでのダンスの技術や創作を指導するものではなく、受講に際してダンスの分野での経験や知識を必要としない。講義では、個人またはグループで実際に動いて創作的な課題に取り組むが、その目的は様々なムーブメントを通して運動感覚と意識的につながる事で言語化を促す点にあり、身体能力の向上や作品制作を目的とした振付法の指導を目的とするものではない。 講義を通して、実践と研究という2つの創造的視点を結びつけ、他分野の知と繋がることで、身体の動きに対して新たな視点を得ることを目的とする。</p>
授業計画	<p>本講義には3つの目的がある。 1. ムーブメントの実践と研究を行う際に現れる問いについて創作行為を通して体験的に理解する。 2. 問いを他の学術分野からの概念と方法論を用いて言語化する能力を養う。 3. 自身の専門分野と結びつけて問いを展開する。 その目的を達成するために、講義ではムーブメントの実習とともに、分析と考察、概念化とディスカッションを行う。下に記載した講義内容は、講義全体の進捗を検討した上で必要と判断されれば統合、もしくは順番の変動がある。  ①「動き」から考える、動きを作る【Creating movement material】 ②動くという行為、動きという現象【Movement and embodiment】 ③動きと感覚【Movement and moving body】 ④動きと意図【Movement and intention】 ⑤芸術分野における実践と研究【Practice as research】 ⑥動くときに考えること【Movement improvisation and mental imagery】 ⑦発表【Presentation】 実習ではグループ、ペア、ソロで課題に取り組み、創作したムーブメントを発表する。講義内で創作されたマテリアルの発表は、参加者の理解を確認するための方法であり、個人の身体能力や技術、成果物の芸術性について評価することはしない。</p>
授業の方法	<p>講義は、実践と研究という2つの創造的視点を身につける目的から、前半での体験的な実習、後半での他分野の理論を用いた考察とディスカッションで構成される。7回の講義が終了した後にレポートの提出が求められる。また、講義全体の展開を検討した上で事前課題の配布、小レポート提出の実施を判断する。 実習では実験的な創作を通して動きを経験し、問いを共有する。動きについて考察する際の方法論として、ムーブメントの分析、現象学、認知科学の概念、また他の芸術分野において見られる例を紹介し、考察する。ムーブメントの創作という実践が研究としてどのような形で展開され、他の学術分野に貢献しうるかを議論する。</p>
成績評価方法	<p>以下の内容を中心に総合的に評価をする。 ①講義で行われる実習とディスカッションへの積極的な参加 ②実習での体験を通して得た理解、問いの言語化 ③講義後のレポートを提出 講義内容の理解度は、一般的な意味合いでの「身体表現」のデモンストレーションの完成度から判断することをしない。また「芸術性」や、いわゆる「ひらめき」をもとに評価することをしない。動きの体験がいかに言語化され、ディスカッションとレポートを通して「言葉で」表現されたかを評価のポイントとする。その理由から受講を希望する参加者には前半の実習と後半の分</p>
教科書	<p>関連資料は講義内で紹介する。</p>
参考書	<p>アントニオ・R.ダマシオ(2003)『無意識の脳 自己意識の脳』(田中三彦訳) アントニオ・R.ダマシオ(2010)『デカルトの誤り—情動、理性、人間の脳』(田中三彦 訳)筑摩書房 ショーン・ギャラガー &amp; comma; ダン・ザハヴィ(2011)『現象学的な心: 心の哲学と認知科学入門』(石原孝二訳)勁草書房 ダン・ザハヴィ(2017)『フッサールの現象学』(工藤和男訳)晃洋書房 中島那奈子(2019)『老いと踊り』勁草書房</p>
履修上の注意・備考	<p>ムーブメント・スタディーズ</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249918	担当教員	中野 優子、岡田 猛		
単位数	2.0	学期	S2	時限	木 3&comma; 木 4
講義題目	コンテンポラリーダンス創作の実践 Contemporary Dance Creation and Performance				

授業の目的・概要	<p>本授業の目的は、「コンテンポラリーダンスの創作を実際に体験してみること」である。実際に心と身体を動かしながら、参加者それぞれが自分の心と身体だからこそできるダンスをクラスメイトと協力しながら創作・発表する。それを通して、自分自身やクラスメイトのこれまでに気が付かなかった魅力に気が付いたり、日常を捉えなおしたりすることを目指す。</p>
授業計画	<p>感染等、様々な状況に応じてやむを得ない変更はあるかもしれないが、対面で行うことを前提とする。授業進行の詳細については、参加者とやり取りし、参加者の提案を踏まえて、随時変更する。今のところは、以下のように、コンテンポラリーダンス創作の一つのアプローチを共に体験していこうと考えている。 1 お互いを知る・仲良くなる 2 どんどん出会う(自分の身体、イメージ、感覚、他者の身体、空間、音楽と出会う) 3 リンクさせる(気持ちやイメージと身体をつなげる、他者とつながる) 4 のんびりのる(湧き上がるものを待ったり、音にのったりと動かされる身体を知る) 5 ひらくとひめる(表現を空間に広げる・開くことと、秘めていくことを体験する) 6 みんなで創る(これまでの経験を基に、みんなで協力してシーンを創る) 7 つなげて伝える(創ったことをつなげて、伝え合う)  ※身体表現をベースにしながらもドローイングや写真など、いろいろなメディアを組みあわせて創作しようと考えています。 ※毎日が楽しくなるような宿題を課す回もあるかもしれません。 ※参加者のみなさんと了解をとった上で、コンタクト(背中と背中を預け合う等の接触)を行う可能性があります。1人でも了解を得られない場合はもちろん実施いたしません。みなさんと対話をしながら決めていきたいと思います。 なお、参加者のみなさんの creative dance partner として、ダンサー・振付師の C ユタツヤさんに関わっていただきます。 </p>
授業の方法	対面で、講師と共に身体を動かして体験する方法をとる。
成績評価方法	以下の4点を踏まえて総合的に判断する。 1. 出席状況、2. 授業に対する積極性、3. 毎回の授業での課題やコメントシートの提出状況、4. 最終レポート
教科書	特になし
参考書	必要な場合、授業内で適宜お知らせいたします。
履修上の注意・備考	<p>コンテンポラリーダンス創作の実践</p> <p>ダンスやその他の表現活動の経験の有無は問いません。また、実技で行う身体表現も専門的な技術は必要としません。初めて表現やダンスを行う方も大歓迎します。また、どの学部 of 学生も大歓迎します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249919	担当教員	小国 喜弘、本間 里美		
単位数	2.0	学期	W	時限	集中
講義題目	<b>重度障害者の地域生活から学ぶ障害の社会モデル</b> Learning about the social model of disability through the independent living of people with severe disabilities				

授業の目的・概要	<p>【授業の概要】「障害」とは何か考えたことはあるだろうか？この授業は ALS などの難病により重度の障害がある当事者や彼らを支える人々との講義や体験を通して、障害について考え、自分ができることを考える授業である。【授業の到達目標】目標は重度障害当事者の地域生活や、障害のモデル(考え方)について学び、障害について自分事として考えることである。また、長期的には地域の医療、福祉、教育の充実に貢献できる人材としての態度形成を目指すことが望ましい。</p>
授業計画	<p>本授業は 2 日間の講義と 2 日間の体験により構成されている。 1 日目 重度障害当事者が生きていくこと、暮らし(重度障害当事者や専門職による講義) 2 日目・3 日目 地域で暮らす重度障害当事者の生活の見学・体験(1 日 6 時間程度) 4 日目 見学・体験での経験や学びの共有 ・「障害の医学モデル」「障害の社会モデル」(重度障害当事者による講義) ・自らの経験や、講義及び見学・体験を通しての学びを振り返り「障害とは何か」を考える(学生同士、障害当事者講師、有識者との意見交換) ・インクルーシブ社会の実現についての考察</p>
授業の方法	<p>1 日目:講義・グループワーク 2 日目・3 日目:当事者宅での介助見学・体験 4 日目:講義・グループワーク なお、本講義では実習費用として約5千円を徴収する。</p>
成績評価方法	<p>授業への参加状況</p>
教科書	<p>教科書は授業時に配布する。</p>
参考書	<p>・岡部宏生(2023) 境を越えて Part1 このまま死ぬるか!?. ぶどう社 ISBN-10 :4892402559 ・海老原宏美(2019) わたしが障害者じゃなくなる日 ~難病で動けなくてもふつうに生きられる世の中のつくりかた. 旬報社 ISBN-10 :4845115891</p>
履修上の注意・備考	<p>重度障害者の地域生活から学ぶ障害の社会モデル</p> <p>履修希望者が 20 人を超えた場合、履修者の選考を行う。そのため結果として、履修できない場合があり得ることに注意すること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249920	担当教員	尾上 明代
単位数	2.0	学期	S2
講義題目	ドラマセラピーを通じた表現実践 Practice for Expression through Drama Therapy		

<b>授業の目的・概要</b>	<p>授業の目標  ドラマや劇を通して、「演じる」という芸術表現形態の楽しさを体験することで、創造性や自己表現力、自発性などを高めることを目標とする。 グループダイナミクスやリフレクションを使うドラマセラピーのワークを媒体とすることにより、上記と同時に、コミュニケーション技術、自分自身とさまざまな他者への理解力、受容力を高めることができる。 ドラマセラピーの理論的背景についての基本的理解が得られる。  &lt;「演じること」は身体、感情、知性を統合して行う活動であり、さらにドラマセラピストである講師が自由で楽しい感覚を提供しながら授業を進めることにより、上記のような能力が同時に高まることが可能となる。&gt;  授業の概要  ドラマや劇を演じることを通じて表現力や創造性を高め、かつ対人関係をより豊かにすることを目指すコースである。 「創造的教養人(岡田・縣、2013)*」を育成する一環として、表現を創造的かつ主体的に楽しむ体験を提供し、受講後の研究や職業生活、また人生を豊かにすることの一助になるようなアクティビティーで構成している。 グループワークの中においては自分を客観視できることに加え、ドラマにより自分の人生だけでは体験できない、他者の人生・状況・考え方などについても、より深い新しい理解が可能になる。 ドラマセラピーの多くの手法の中から社会臨床的なアプローチも体験する。  「ドラマで役を生きる」ということが、実はいかに「現実生活」を豊かにし、また問題解決のツールとして使えるかを、知的学習からだけでなく、身体・感情・感覚でホリスティックに理解し、体得できる内容なので、さまざまな学部・研究科の多くの方の履修をお薦めする。 社会において、特に学修においては「ことば」を多用し、頭で考えることが非常に多い。「ことば」がとても重要である一方、「ことば」にならないものや「ことば」を超えたもの、また自他の身体に意識を向けることは、学生にとって大変重要なトレーニングの一つと言える。この授業では、「普段」と違う体験と時間、そして全人的な学びを提供する。  &lt;ドラマセラピーはクリエイティブアーツセラピーの一つで、ドラマ・演劇のプロセスを系統的かつ意図的に用いる体験的アプローチである。この手法により、自己の意識と無意識を含む様々な心的要素がとり扱われ、また、他者や環境との関係、および他者の多様な側面の探索も可能になる。そのため、自己覚知と他者理解が深まり、視点や行動、社会関係の変化を促すので、「セラピー」という狭い枠を超えて、人の創造性・自発性が必要となる多くの分野に汎用できる。&gt;  * 岡田猛・縣拓 (2013)&amp;comma; 芸術の認知科学 展望論文 創造の主体者としての市民を育む:「創造的教養」を育成する意義とその方法&amp;comma; 認知科学&amp;comma; 20(1)&amp;comma; pp27-45.</p>
<b>授業計画</b>	<p>第1回 このクラスの実施方法のオリエンテーションと最初の interaction のためのゲーム 第2回 想像力・創造力・表現力を豊かに 第3回 フィクション(架空)とリアリティー(現実)の間を行き来する 第4回 おとぎ話—象徴・架空の力 第5回 ドラマセラピーの事例 第6回 創造力・即興力・自発性を豊かに 第7回 社会臨床的アプローチ1(被抑圧者の演劇) 第8回 ドラマセラピーの基本的な理論 第9回 社会臨床的アプローチ2—対人関係、及び社会問題の探索(ソシオドラマ)1 第10回 同上2 第11回 同上3 第12回 心の障害物を乗り越えるドラマ 第13回 グループプロセスの終結・まとめ  </p>
<b>授業の方法</b>	<p>夏季集中授業として4日間(2週末)で実施します。この授業形態を活かして、体験・ディスカッション・座学などをバランスよく配置し、わかりやすく、また疲れすぎないプロセスを作り進めていきます。 表現実践としてドラマ的ゲームや演技を行い、個人とグループの変容や発展を体験的に理解してもらいます。「演じる」ことへの不安をとりのぞき、楽しく取り組めるように漸進的に丁寧に進めていきます。このこと自体が、ドラマセラピーを媒体に使う利点の一つであるので、アクティビティーに不安がある人がいたとしても、心配せずに受講してください。 毎回、プロセスの振り返りを行い、クラス全体で自由なコメントを交換してディスカッションをします。 </p>
<b>成績評価方法</b>	<p>表現力や創造性、自他の理解力などの発展・深化を、授業参加の様子やディスカッションの内容(50%)、期末レポート(50%)から総合して評価する。</p>
<b>教科書</b>	<p>資料を配布します</p>

<b>参考書</b>	心ひらくドラマセラピー:自分を表現すればコミュニケーションはもっとうまくいく!  尾上明代著(河出書房新社)  ドラマセラピーのプロセス・技法・上演—演じることから現実へ  ルネ・エムナー 著(北大路書房)
<b>履修上の注意・備考</b>	ドラマセラピーを通じた表現実践 夏季集中として、4日間(2週末)で実施します。  8月3日(土) 2~5限 8月4日(日) 2~4限 8月10日(土) 2~4限 8月11日(日)2~4限
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09249921	担当教員	O JUN		
単位数	2.0	学期	S2	時限	集中
講義題目	超ドローイング演習 Drawing exercise				

授業の目的・概要	絵を描きながら、絵について心的身体的体験を重ねてゆく。  絵を描く上でのさまざまな画材、使い方、効果、知識を深める。  絵を描くことで自分と描くべき(=見るべき)対象物との距離間について考える。  絵を含む様々な表現の歴史の変遷を実践を踏まえながら過去や現在の作品から学ぶ。  絵を描いたり見ることへの興味を深める。
授業計画	夏季休暇中 8/23、26、27、28、全 4 日間 13 コマの授業。  8/23 (3 限続き)ガイダンス。道具、画材の説明。画像などを見ながら古今東西の美術作品、表現形式の変遷の歴史をレクチャーする。 実技演習。  8/26(4 限続き)実技演習、課外授業(美術館、ギャラリー見学ツアー)  8/27(3 限続き)実技演習、アーティストトークを拝聴  8/28(3 限続き)実技演習、展示鑑賞
授業の方法	クロッキー帳やスケッチブックなど紙に様々な描画材でドローイングを行う。 再現描法、印象描写、ブランドローイング、異素材の併用や絵画以外のイメージによるドローイングなど様々な描法を試みる。
成績評価方法	実技の授業なので出席重視。観察力、思考力、集中力、制作物を総合的に見て採点する。
教科書	特に無し  必要なものは講師が事前に用意して学生に画像などで紹介する。
参考書	特に無し
履修上の注意・備考	超ドローイング演習 作家養成を目的とした授業ではなく、体験的に美術に触れることを目的としたエクササイズやレクチャーである。絵を描くことに興味を持っている、試しに描いてみたい、絵を通して様々な体験や印象を持ってもらうことが本意である。外から見るアートと実際に中で見たり行うアートの違いを感じてもらいたい。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249922	担当教員	未定
単位数	2.0	学期	S1S2
		時限	木 2
講義題目	書と字と手と目(書字とデザイン) Calligraphy&comma; typography&comma; hands&comma; and eyes (Japanese calligraphy and character design)		

授業の目的・概要	わたしたちがふだん使っている「書体」や「フォント」などさまざまなデザインの「文字」。これらはもともと手で書かれることによってかたちが成立しました。  この授業の前半では実際に筆を持ち、書くことで、文字(漢字・ひらがな)のかたちはどうできあがっているかを体験し、文字のなりたち、構成と、そこに秘められた身体性を理解します。また同時に文字を見る目を養います。  後半ではそれをふまえ、これから文字はどうなっていくか、またこの「文字」がことばやコミュニケーションとともに今後どのようになっていくのかを想像し、あたらしい文字のありかたを模索します。
授業計画	前半では筆の持ち方からはじめ、文字の基本形(スタンダード)となる楷書『雁塔聖教序』を手本として、文字を成り立たせるための基本的な筆の運び方・構成の原則を学び、文字はどのような姿をしているかを把握します。つづいて「ひらがな」についてもそのかたちを学びます。  後半ではそれをふまえ、これから文字はどうなっていくか、また文字を用いたコミュニケーションはどうなっていくか、あたらしい文字のありかたを模索します。
授業の方法	授業では、実際に墨を磨り筆を用いて半紙に課題となる楷書・ひらがなを書いていきます。 序盤では基本的な筆の扱い方から点画の書き方を学び、授業を追うごとに文字のブロックごとの構成などを学んでいきます。
成績評価方法	出席(50%)と授業への取り組み(25%)、および提出物やその内容(25%)を総合的に評価します。
教科書	『石川九楊の書道入門 石川メソッドで30日基本完全マスター』石川九楊・著(芸術新聞社)定価:2,400円+税
参考書	『もじかけえほん かな?』大日本タイポ組合・著(偕成社)定価:1,200円+税 ほか、適宜授業内で紹介をします
履修上の注意・備考	書と字と手と目(書字とデザイン) 専門的技術は不要です。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09249923	担当教員	星加 良司、藤原 加代、飯野 由里子		
単位数	2.0	学期	S2	時限	集中
講義題目	障害者の就労体験学習ーバリアフリー社会の可能性 Experiential learning of disability and employment: Potential for a Barrier-Free Society				

授業の目的・概要	<p>今日では、多様な特性や背景を持つ人々が互いに尊重しあい、十全に能力を発揮できる状態(ダイバーシティ・インクルージョン)の価値は広く知られるようになった。一方で、歴史的に労働市場から阻害されてきた障害者については、いまだ包摂(インクルージョン)は道半ばであると言わざるをえない。その背景には、「障害」という概念自体が「働けない身体」をカテゴリー化するためのラベルとして「発明」されたという社会構造的な問題があるが、そうであるからこそ、「労働市場における障害者の包摂」という課題は、理論的にも実践的にもクリティカルな課題である。  この授業は、座学と体験実習によって構成され、障害者の就労現場における体験学習とその振り返りを通して、社会のバリアフリー化に向けた実践的・具体的な可能性を探究することを目的とする。なお、本講座は富士電気株式会社、及び株式会社富士電気フロンティアのご協力(寄付を含む)を得て運営されている。</p>
授業計画	<p>■第1回:2024年8月6日(火)2~4限 @本郷キャンパス ・労働市場における「障害者」の位置づけについて ・障害者雇用をめぐる諸制度について ・実習先についての情報提供・留意事項 ■第2回:2024年8月7日(水)2~4限 @富士電気フロンティア川崎工場 ・障害者の就労現場体験 ・障害のある従業員からの聞き取り ■第3回:2024年8月8日(木)2~4限 @富士電気フロンティア川崎工場 ・障害者の就労現場体験 ・就労インストラクターからの聞き取り ■第4回:2024年8月9日(金)2~5限 @本郷キャンパス ・体験実習の振り返り ・実習レポートの作成</p>
授業の方法	講義と実習を組み合わせ、体験やディスカッションを中心にインタラクティブな授業を展開する。
成績評価方法	実習及びディスカッションへの参加状況と、最終授業時に作成するレポートの内容について、積極性・的確性等を考慮して総合的に評価する。
教科書	無し
参考書	講義中で指示する
履修上の注意・備考	障害者の就労体験学習ーバリアフリー社会の可能性
教育職員免許法上の認定科目	